

Dashboard ユーザガイド

Arcserve® バックアップ

19.0

arcserve®

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2022 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication および High Availability

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャーリリースおよびサービスパックについての特定のガイドとリリースノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以下のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup 19.0 リリースノート](#)
- [Arcserve Backup 19.0 マニュアル選択メニュー](#)

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[テクニカルサポートへの問い合わせ](#)

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: Dashboard について	13
Dashboard の機能	14
Dashboard の GUI	15
Dashboard 表示オプション	17
Dashboard レポートのカスタマイズ	21
グローバルオプション	22
電子メールレポートの設定	26
レポート特有のオプション	34
SRM プロンプトの設定	37
第2章: Global Dashboard について	39
概要	40
機能	41
用語および定義	42
Global Dashboard サービス	44
Global Dashboard の仕組み	45
第3章: Global Dashboard の環境設定	47
環境設定に関する考慮事項	48
概要	50
Global Dashboard の環境設定	53
セントラルサイトの環境設定	55
ブランチサイトの環境設定	57
第4章: Dashboard の使用	59
Arcserve Backup Dashboard の使用	60
Dashboard グループ	62
Dashboard グループの追加	65
Dashboard グループの変更	67
Dashboard グループの削除	69
ノード層	70
ノード情報	71
レポートを電子メールで送信	72
エージェントの更新アラート	73
第5章: Global Dashboard の使用	75
Global Dashboard のユーザインターフェース	76
セントラルマネージャについて	77

ブランチ マネージャについて	93
ブランチ グループの管理	97
新しいブランチ グループの追加	98
ブランチ グループの削除	100
ブランチ グループの変更	103
データの同期化	105
自動データ同期の変更	106
手動によるデータの同期	107
手動によるブランチ サイトの環境設定	108
Global Dashboard 情報のエクスポート/インポート	110
Global Dashboard 情報のエクスポート	111
Global Dashboard 情報のインポート	112
第6章: Dashboard レポート	113
Arcserve Backup Dashboard レポートの種類	115
バックアップ環境タイプのレポート	116
SRM タイプのレポート	117
ドリルダウンレポート	118
エージェント分布レポート	119
エージェント分布レポート - レポートの利点	120
エージェント分布レポート - レポート ビュー	121
エージェント分布レポート - ドリルダウンレポート	122
アプリケーション データトレンド レポート	123
アプリケーション データトレンド レポート - レポートの利点	124
アプリケーション データトレンド レポート - レポート ビュー	125
バックアップ データの場所レポート	127
バックアップ データの場所レポート - レポートの利点	128
バックアップ データの場所レポート - レポート ビュー	129
バックアップ データの場所レポート - ドリルダウンレポート	130
バックアップ サーバ負荷分散レポート	131
バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポートの利点	132
バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポート ビュー	133
クライアント ノード ソフトウェアレポート	135
クライアント ノード ソフトウェアレポート - レポートの利点	136
クライアント ノード ソフトウェアレポート - レポート ビュー	137
クライアント ノード ソフトウェアレポート - ドリルダウンレポート	139
CPU レポート	140

CPU レポート - レポートの利点	141
CPU レポート - レポート ビュー	142
CPU レポート - ドリルダウンレポート	143
メディアのデータ分布レポート	144
メディアのデータ分布レポート - レポートの利点	145
メディアのデータ分布レポート - レポート ビュー	146
メディアのデータ分布レポート - ドリルダウンレポート	147
デデュプリケーション効果推定レポート	148
デデュプリケーション効果推定レポート - レポートの利点	149
デデュプリケーション効果推定レポート - レポート ビュー	150
デデュプリケーションステータスレポート	151
デデュプリケーションステータスレポート - レポートの利点	152
デデュプリケーションステータスレポート - レポート ビュー	153
デデュプリケーションステータスレポート - ドリルダウンレポート	154
ディスクレポート	155
ディスクレポート - レポートの利点	156
ディスクレポート - レポート ビュー	157
ディスクレポート - ドリルダウンレポート	158
ジョブアーカイブステータスレポート	159
ジョブアーカイブステータスレポート - レポートの利点	160
ジョブアーカイブステータスレポート - レポート ビュー	161
ジョブアーカイブステータスレポート - ドリルダウンレポート	163
ジョブバックアップステータスレポート	165
ジョブバックアップステータスレポート - レポートの利点	166
ジョブバックアップステータスレポート - レポート ビュー	167
ジョブバックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート	169
ライセンスレポート	171
ライセンスレポート - レポートの利点	172
ライセンスレポート - レポート ビュー	173
メディア検証レポート	174
メディア検証レポート - レポートの利点	175
メディア検証レポート - レポート ビュー	176
メディア検証レポート - ドリルダウンレポート	177
メモリレポート	178
メモリレポート - レポートの利点	179
メモリレポート - レポート ビュー	180

メモリレポート - ドリルダウンレポート	181
ネットワークレポート	182
ネットワークレポート - レポートの利点	183
ネットワークレポート - レポート ビュー	184
ネットワークレポート - ドリルダウンレポート	185
ノード アーカイブ ステータスレポート	186
ノード アーカイブ ステータスレポート - レポートの利点	187
ノード アーカイブ ステータスレポート - レポート ビュー	188
ノード アーカイブ ステータスレポート - ドリルダウンレポート	190
ノード バックアップ ステータスレポート	192
ノード バックアップ ステータスレポート - レポートの利点	193
ノード バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー	194
ノード バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート	196
ノード 惨事復旧ステータスレポート	198
ノード 惨事復旧ステータスレポート - レポートの利点	199
ノード 惨事復旧ステータスレポート - レポート ビュー	200
ノード 惨事復旧ステータスレポート - ドリルダウンレポート	201
ノード 暗号化ステータスレポート	209
ノード 暗号化ステータスレポート - レポートの利点	210
ノード 暗号化ステータスレポート - レポート ビュー	211
ノード 暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート	212
ノード 復旧ポイントレポート	214
ノード 復旧ポイント レポート - レポートの利点	215
ノード 復旧ポイント レポート - レポート ビュー	216
ノード 復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート	217
ノード サマリレポート	218
ノード サマリレポート - レポートの利点	219
ノード サマリレポート - レポート ビュー	220
ノード 層レポート	221
ノード 層レポート - レポートの利点	222
ノード 層レポート - レポート ビュー	223
ノード 層レポート - ドリルダウンレポート	224
最近のバックアップに失敗したノード レポート	225
最近のバックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点	226
最近のバックアップに失敗したノード - レポート ビュー	227
最近のバックアップに失敗したノード - ドリルダウンレポート	229

OS レポート	230
OS レポート - レポートの利点	231
OS レポート - レポート ビュー	232
RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント) レポート	233
RPO レポート - レポートの利点	234
RPO レポート - レポート ビュー	235
RPO レポート - ドリルダウンレポート	236
SCSI/ファイバカード レポート	237
SCSI/ファイバカード レポート - レポートの利点	238
SCSI/ファイバカード レポート - レポート ビュー	239
SCSI/ファイバカード レポート - ドリルダウンレポート	240
SRM PKI 使用率レポート	241
SRM PKI 使用率レポート - レポートの利点	242
CPU 使用率レポート	244
ディスクパフォーマンスレポート	245
メモリ使用率レポート	246
ネットワーク使用率レポート	247
テープ暗号化ステータスレポート	248
テープ暗号化ステータスレポート - レポートの利点	249
テープ暗号化ステータスレポート - レポート ビュー	250
テープ暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート	251
バックアップに失敗したノード レポート	253
バックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点	254
バックアップに失敗したノード レポート - レポート ビュー	255
バックアップに失敗したノード レポート - ドリルダウンレポート	256
バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノード レポート	257
バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノード レポート - レポートの利点	258
バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノード レポート - レポート ビュー	259
未変更ファイル数の多い上位ノード レポート	260
未変更ファイル数の多い上位ノード レポート - レポートの利点	261
未変更ファイル数の多い上位ノード レポート - レポート ビュー	262
アーカイブ サイズ合計レポート	263
アーカイブ サイズ合計レポート - レポートの利点	264
アーカイブ サイズ合計レポート - レポート ビュー	265
保護 サイズ合計レポート	266
保護 サイズ合計レポート - レポートの利点	267

保護サイズ合計レポート - レポート ビュー	268
仮想マシン復旧ポイントレポート	269
仮想マシン復旧ポイントレポート - レポートの利点	270
仮想マシン復旧ポイントレポート - レポート ビュー	271
仮想マシン復旧ポイントレポート - ドリルダウンレポート	272
仮想化 - 最新バックアップステータスレポート	273
仮想化 - 最新バックアップステータスレポートの利点	274
仮想化 - 最新バックアップステータスレポート ビュー	275
仮想化 - 最新バックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート	276
ボリュームレポート	277
ボリュームレポート - レポートの利点	278
ボリュームレポート - レポート ビュー	279
ボリュームレポート - ドリルダウンレポート	281
ボリュームトレンドレポート	282
ボリュームトレンドレポート - レポートの利点	283
ボリュームトレンドレポート - レポート ビュー	284
第7章: Dashboard のトラブルシューティング	285
電子メール通知が送信されない	286
Dashboard にデータが表示されない	287
以前の Arcserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない	288
コマンドラインを使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない	290
Dashboard の起動時に空の画面が表示される	291
Dashboard の起動時に未処理例外の警告が表示される	292
SRM データプローブが発生していない	293
SRM データプローブのパフォーマンスに問題がある	294
SRM プローブの画面に「サービスの準備ができていません」というメッセージが表示される	295
第8章: Global Dashboard のトラブルシューティング	297
「システムのメモリ不足例外」というエラーが発生した	298
「ブランチサイトのデータベーススキーマが壊れています」というエラーが発生した	299
「セントラルプライマリサーバはビジーです」というエラーが発生した	300
フルデータ同期中の一般エラー	301
「データ同期サービスの開始に失敗しました。」エラーが発生しました。	302
「ブランチ名はすでに存在しています」というエラーが発生した	303
「サービス通信失敗」が発生した	304
「セントラルサイト接続失敗」が発生した	305

ASDB 接続失敗	306
十分なディスク空き容量がないために同期が失敗する	307
第9章: 用語集	309
ブランチプライマリサーバ	310
ブランチビュー	310
セントラルプライマリサーバ	310
Dashboard	310
Dashboard グループ	310
データ同期	310
Global Dashboard	310
グローバルビュー	310
ノード層	311
SRM プローブ	311

第1章: Dashboard について

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Dashboard の機能	14
Dashboard の GUI	15
Dashboard 表示オプション	17
Dashboard レポートのカスタマイズ	21

Dashboard の機能

Dashboard には、以下のような機能があります。

- バックアップ インフラストラクチャと SRM (Storage Resource Management) 環境の中央のスナップショット概要を提供します。
- ジョブ、ノード、テープ、暗号化、エージェント マシンのリソースなどに焦点を合わせた 41 種類の個別レポートがあります。
- 個々のニーズと設定に合わせて Arcserve Backup Dashboard の外観をカスタマイズします。
- レポートによっては拡張機能があり、さらに詳細で絞った情報を表示するレポートにドリルダウンできます。
- 指定したパラメータに基づいてレポートに表示するデータを制限するためのフィルタ機能があります。
- カスタマイズされたレポートのコレクション(グループ)があります。この機能を選択すると、個々のニーズや指定に基づいてあらかじめ設定されたグループとして指定されたレポートが表示されます。
- レポートに表示するデータを手動または自動で更新します。
- レポート用に収集したデータを各種の形式(印刷、スプレッドシートで使用するために CSV 形式で保存、または電子メール)でエクスポートします。
- 指定した受信者に電子メールを使用してレポートを送信するためのカスタマイズされたスケジュールを作成します。
- SRM 形式のレポート用の SRM 関係のデータを収集するためのプローブを実行します。
- 複数のプライマリサーバの Dashboard 関連情報を一元表示する Global Dashboard 機能を提供します。

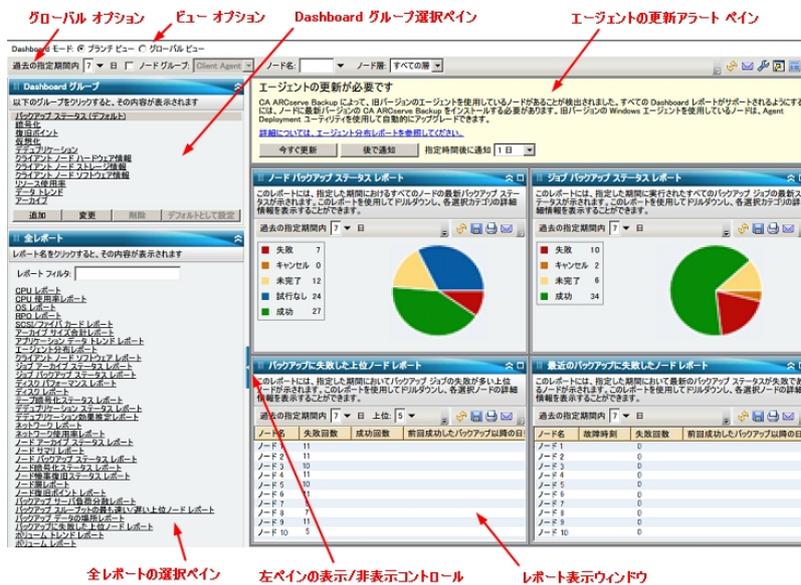
詳細情報:

[Dashboard 表示オプション](#)

[Dashboard レポートのカスタマイズ](#)

Dashboard の GUI

Dashboard の GUI は、左側の 2 つのレポート内容ペインと、右側の 1 つのレポート表示ウィンドウから構成されています。



Dashboard グループ

このペインには、Dashboard グループの一覧が表示されます。Dashboard グループとは、1 つ以上の Dashboard レポートをまとめたものです。(グループに含めることができるレポートの最大数は 4 つです)。デフォルトでは、複数の事前設定されたグループが自動的に含まれています。必要に応じて、グループを作成、変更、または削除できます。詳細については、「[Dashboard グループ](#)」を参照してください。

全レポート

このペインには、利用可能なすべてのレポートの一覧が表示されます(アルファベット順)。

レポート表示ウィンドウ

このウィンドウには、選択したレポートが表示されます。対象のレポートを [全レポート] ペインのリストから個別に選択して表示するか、または事前に定義した Dashboard グループを [Dashboard グループ] ペインのリストから選択して表示します。

グローバルオプション ツールバー

このツールバーから、指定したアクションをすべてのレポートに適用できます。詳細については、「[グローバルオプション](#)」を参照してください。

エージェントの更新アラート

Dashboard の起動時に、バックアップ環境内に r18 より前のバージョンの Arcserve Backup エージェントが含まれていることが検出された場合に、この警告メッセージがポップアップ表示されます。詳細については、「[エージェントの更新アラート](#)」を参照してください。

Dashboard モード

このオプションを選択すると、表示されるダッシュボード モードを指定できます。

- ブランチビューモードでは、ローカルサーバのダッシュボード関連情報のみが表示され、ほかのブランチサイトの詳細やグローバルダッシュボード オプションは表示されません。
- グローバルビューモードでは、ローカルサーバ、および任意またはすべてのブランチサイトのダッシュボード関連情報が表示されます。グローバルビューモードからは、さらにグローバルダッシュボード オプションが使用できます。

Dashboard 表示オプション

Dashboard では、グラフィカル情報を表示する方法を選択できます。これらのグラフィカルコントロールによって、円グラフまたは棒グラフのどちらで情報を表示するかなどのオプションを選択できます。また、表示されているレポートを展開または折りたたむかどうか、表示されているデータを更新するかどうか、および収集されたデータの使用方法も選択できます。

円グラフ表示

円グラフは、連続した扇形に分割された円形のグラフで、各扇形はモニタされているすべてのカテゴリの相対的な割合を表します。扇形を合わせて、モニタされている情報の全体である 100% を表します。円グラフの長所はシンプルなことです。円グラフによって、特定の期間における総計情報を把握できます。一方、短所は、値が似ているときにわずかな違いを見分けることが非常に困難な場合があることです。

棒グラフ表示

棒グラフは個別の量を強調するのに使用されます。棒の長さが長いほど、値も大きくなります。棒グラフはカテゴリ内またはカテゴリ間での比較に有用です。一部のレポートでは、棒グラフによって特定の期間における情報を日単位で把握でき、傾向やパターンを洗い出すのに役立ちます。円グラフからセグメントを比較するのは難しい場合がありますが、棒グラフでは、そのようなセグメントが棒で表されてより簡単に比較することができます。

線グラフ表示

線グラフは、データを表す点を直線で結合していくことにより、長期のトレンドを示すのに使用されます。

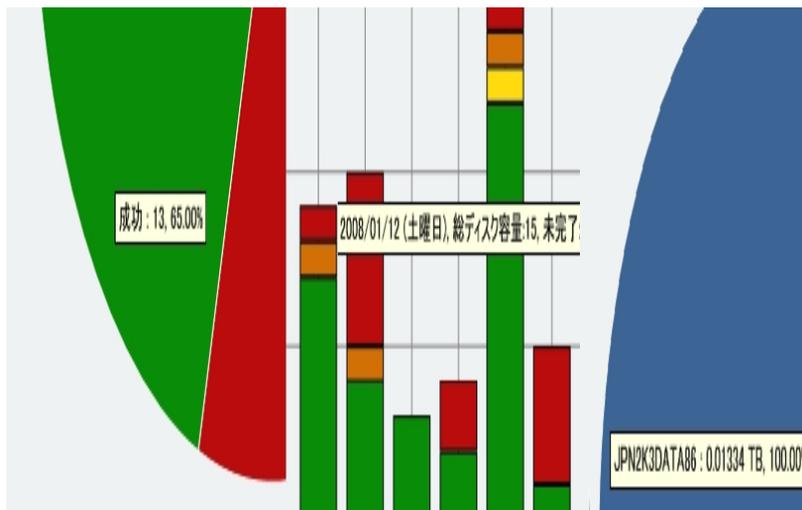
テーブルビュー

表形式のチャートは、レポート情報を表形式で表示するために使用します。列見出しは、レポートによって異なります。また、特定のレポート内でも、選択したレポート カテゴリによって異なります。テーブルビューでは、個々の列見出しに基づいてレポート情報をソートできます。

カーソル操作

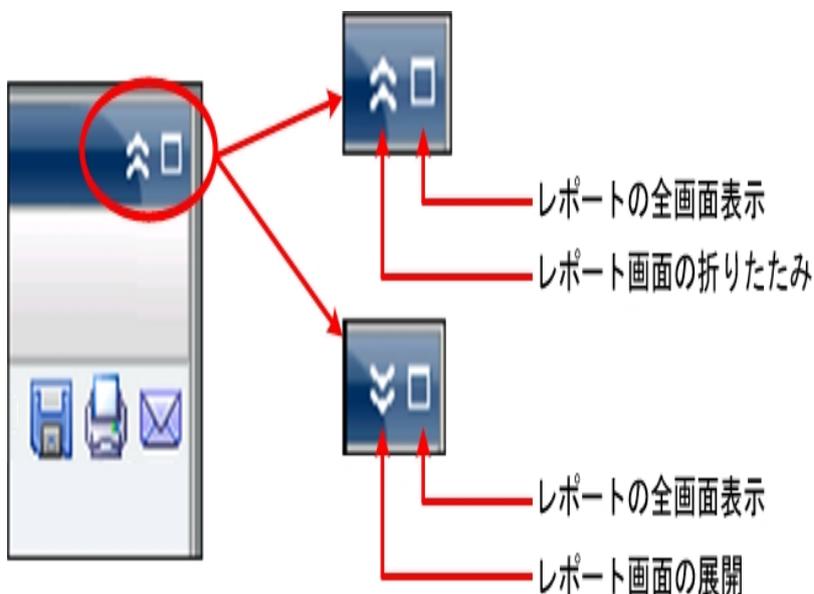
いずれかのグラフィック表示で、マウスをレポートの特定のカテゴリの上に置くと、カーソルの下に小さなボックスが表示され、カテゴリとそれに対応する値が表示されます。

カーソルが指さしの形であれば、対応する領域が「クリック可能」であることを示し、クリックするとそのカテゴリに関する追加情報を表示することができます。カーソルが矢印記号であれば、対応する領域が「クリック可能」ではなく、それ以上の情報がないことを示します。



レポートの表示

すべてのレポートで、表示方法を選択することができます。全体表示で、レポート詳細を表示する必要がない場合は個別のレポートを折りたたむことができます。また、展開して元のサイズに戻すこともできます(レポートが折りたたまれているときは、タイトルバーと説明バーのみが表示されます)。さらに、レポートを完全に展開して全画面表示にすることもできます。また、タイトルバーをダブルクリックすることで、レポートを最大化したりデフォルト表示に戻したりできます。



レポートの更新

すべてのレポートで、データを更新または再ロードしてレポート上に表示させることができます。各レポートには、レポートの表示を更新する [更新] ボタンがあり、バックアップ/SRM 環境に関する最新の情報を表示することができます。更新インジケータは表示されているデータが更新中であることを視覚的に示します。

Dashboard では、数秒おきに自動的にレポートを更新するオプションは提供されていませんが、グローバルツールバーの [すべて更新] をクリックすると、Dashboard のレポートをすぐに更新できます。また、あるレポート(レポート A) から別のレポート(レポート B) へ表示を切り替えると、レポート B は自動的に更新されます。



データのエクスポート

すべてのレポートで、収集したデータをエクスポートできます。レポートごとに、収集データを印刷するか、スプレッドシートで使用できるように表形式のデータを格納するカンマ区切り値ファイル(CSV)として保存するか、またはレポートをSMTPサーバ経由で電子メールで送付するかを指定することができます。

- レポートを印刷する場合は、印刷プレビュー画面から [ページ設定] ダイアログにアクセスし、[フッタ] フィールドから情報を削除することによって、レポートの最後に「about blank」という文字列が印刷されないようにできます。フッタフィールドには、カスタムテキストを入力することもできます。
- レポートの電子メール送付を選択した場合、内容は印刷の場合と同じで、すべてのグラフは埋め込みイメージとして送信されます。

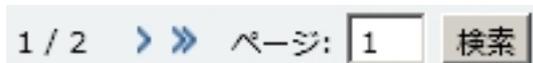
注：電子メールを送信する前に(GUI またはスケジュールより)、Alert マネージャを使用してSMTPを設定する必要があります。詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

注：Microsoft Excel ではマルチバイト文字を正常に表示しない場合があります。



[次のページ] ボタン

メッセージ エントリが 100 を超えるドリルダウンレポートの場合、Dashboard では表示が自動的にページ単位に分割され、[次のページ]ボタンが矢印で表示されます。各ページのエンタリは最大 100 に制限され、それを超えるとページが新たに作成されます。[次のページ]ボタンをクリックすると、次のページへ移動できます。



Dashboard レポートのカスタマイズ

各レポートにはさまざまな設定オプションが用意されており、Arcserve Backup Dashboard の表示やパフォーマンスをカスタマイズして、個別のニーズや優先事項に対応することができます。表示されるレポートの多くで、グラフ情報の表示方法、レポートの期間、モニタするサーバやノード層、モニタするバックアップ方式、収集された情報に対する処理などの機能や、そのほか多くのレポート特有のオプションを選択することができます。

個々のレポートに対してパラメータや環境設定を指定した場合、Dashboard を終了して再度開始しても同じ設定のままになります。自動的にデフォルトの設定に戻ることはありません。さらに、カスタマイズされたレポートを有効にするために、レポートのうちの1つに行う設定が、自動的に残りのレポートすべてに適用されることはありません。各レポートに、個別の設定を持たせることができます。

ただし、Dashboard では、すべてのレポートにグローバルに適用される環境設定を行うこともできます。このグローバル設定によって、すべてのレポートの期間(日数)の指定、モニタするノード層の指定、すべてのレポートの表示データの更新、すべてのレポートのデフォルト値へのリセット、レポートのレイアウト全体のデフォルトへのリセット、などを行うことができます。

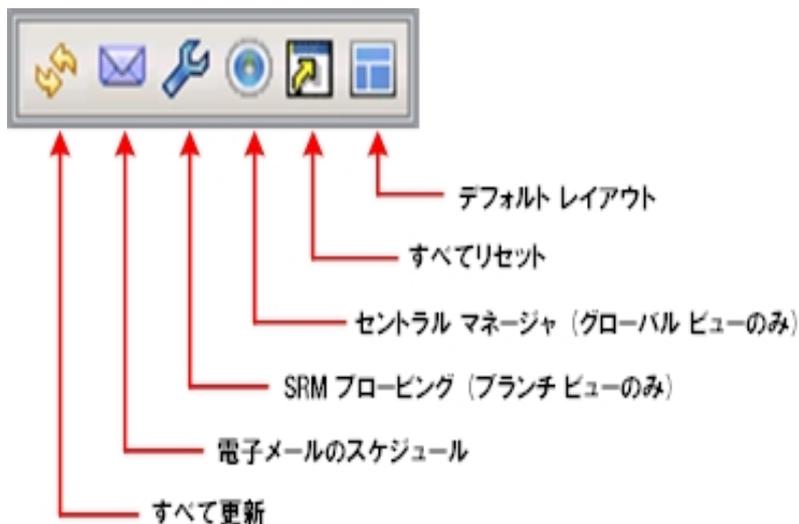
詳細情報:

[グローバルオプション](#)

[レポート特有のオプション](#)

グローバルオプション

Arcserve Backup Dashboard には、指定したアクションをすべてのレポートに適用できるグローバルオプション ツールバーが用意されています。指定したアクションはグローバルに適用され、適用可能なすべてのレポートに反映されます。たとえば、あるレポートにグローバルオプションが適用可能な場合、アクションは実際にそのレポートに適用されます。しかし、あるレポートにグローバルオプションが適用できない場合は、アクションは無関係と見なされ、そのレポートには何の影響も与えません。



Dashboard モード

Dashboard の表示モードを指定します。

- ブランチビューモードでは、ローカルサーバのダッシュボード関連情報のみが表示され、ほかのブランチサイトの詳細やグローバルダッシュボードオプションは表示されません。
- グローバルビューモードでは、ローカルサーバ、および任意またはすべてのブランチサイトのダッシュボード関連情報が表示されます。グローバルビューモードからは、さらにグローバルダッシュボードオプションが使用できます。

注: すべての Dashboard レポートについて、[グローバルビュー]オプションを使用してレポートにアクセスすると、追加のフィルタが使用可能になり、ブランチ名を指定(または [ブランチ名] ドロップダウンから選択)することによって、表示されるデータを絞り込むことができます。その場合、すべての表形式レポートは、ブランチ名を表示する列が含まれるよう展開されます。

全レポートの日付範囲

すべてのレポートで、過去何日間のデータをフィルタして表示するかを指定できます。[過去の指定期間内]フィールドにはドロップダウンリストがあり、最も一般的に使用される収集期間(1、3、7、30日間)があらかじめセットされています。このフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 7日間

ノードグループ

[全レポート]に表示されるデータを、ノードグループに基づいてフィルタするよう指定できます。

ノード名フィルタを使用できる Dashboard レポートでは、ノードグループフィルタも使用できます。ノードグループフィルタは、ノードグループがすでに存在している場合にのみレポートに表示されます。ノードグループが存在する場合、[ノードグループ]フィルタのドロップダウンメニューにグループ名が表示され、レポート表示情報のフィルタ方法を指定できます。ここで選択した方法は、対応する Dashboard レポートにのみ適用されます。指定したノードグループ内のノードを指定して、さらに表示情報をフィルタできます。

Global Dashboard で [グローバルビュー]を選択し、モニタの対象として複数のブランチを選択すると、選択したブランチのノードグループのみが [ノードグループ]ドロップダウンメニューに表示されます。

たとえば、あるブランチグループが3つのブランチサイト(ブランチ1、ブランチ2、ブランチ3)から構成され、各ブランチサイトには以下のノードグループが存在しているとします。

- ブランチ1: ノードグループA、ノードグループB
- ブランチ2: ノードグループB、ノードグループC
- ブランチ3: ノードグループB、ノードグループD

ブランチフィルタでこのブランチグループを選択すると、[ノードグループ]フィルタにはグループBのみが表示されます。このグループのみが、選択したすべてのブランチに所属しているためです。

注: ノードグループ(またはサーバグループ)は、Arcserve Backup のバックアップマネージャ(またはジョブステータスマネージャ)で作成します。ノードグループ作成の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

ノード名

[全レポート]に表示されるデータを、モニタしたいノード名に基づいてフィルタするよう指定できます。

[ノード名]フィールドでは、ワイルドカード文字である「*」と「?」がサポートされています。完全なノード名が不明な場合は、[ノード名]フィールドでワイルドカード文字を指定することによって、フィルタの結果を簡略化することができます。

- "*" -- アスタリスクは、ノード名の0個以上の文字を表します。
- "?" -- 疑問符は、ノード名の1個の文字を表します。

ノード名には、以下の Dashboard の制限が適用されます。

- Dashboard では、最初の 15 文字のみでノード名が区別されます。最初の 15 文字が同じ複数のノード名がある場合、Dashboard は両者を区別できません。
- ノード名は、DNS で解決できる必要があります。DNS を使用してノードを見つけることができない場合、Dashboard はノードを解決できずに関連情報を表示できなくなります。
- ノード名に括弧「()」を含めることはできません。ノード名にこの文字があると、Dashboard はそのノードのバックアップ情報を正しく識別できなくなります。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

ノード層

モニタするノードの層カテゴリを指定します。ここでモニタ対象として選択したノード層に基づいて、すべてのレポートがフィルタされます。

ノード層は、3つのカテゴリ(高優先度、中優先度、および低優先度)に分類されます。[ノード層]フィールドはドロップダウンメニュー形式で、層カテゴリを選択できるようになっています。

詳細を入力します。[「ノード層」](#)を参照してください。

デフォルト: すべての層

すべて更新

最新のデータを表示するようにすべてのレポートを更新します。

電子メールのスケジュール

Dashboard レポートをエクスポートする電子メールの環境設定を指定します。

電子メールのスケジュールオプションを設定して、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するスケジュールを作成できます。これらのレポート電子メールは、スケジュールに従って自動的に更新、生成、送信されます。レポートメールのスケジュールをカスタマイズして、指定した日時に送信したり、定期タスクとして設定したりできます。また、電子メールに含めるレポートや送信相手を指定できます。選択されたレポートは、電子メールに埋め込まれています。

詳細については、[「電子メールレポートの設定」](#)を参照してください。

SRM プロービング

このオプションは、[\[ブランチビュー\]](#)モードを選択した場合のみ使用できます。

SRM タイプのレポート用に SRM 関連のデータを収集するプローブを、すぐに開始したりスケジュール設定したりできます。SRM プローブはデータ収集ユーティリティで、開始すると、ストレージ環境内のすべてのマシンにプローブまたは通信します。マシンはすべての関連情報を含めた最新のレスポンスを送り返し、これらの関連情報が SRM タイプのレポートに記載されます。

詳細については、[「SRM プローブ設定」](#)を参照してください。

セントラル マネージャ

このオプションは、[\[グローバルビュー\]](#)モードを選択した場合のみ使用できます。

セントラル マネージャにアクセスできます。セントラル マネージャは、Global Dashboard 環境全体のスナップショット概要を提供します。このユーザーインターフェースを使用すれば、任意またはすべての登録済みブランチサイトのステータスを単一の場所ですばやく簡単にモニタすることができます。

詳細については、[「セントラル マネージャについて」](#)を参照してください。

すべてリセット

すべてのレポートのパラメータを、以下の適用可能なデフォルト値にリセットします。

- [\[過去の指定期間内\]](#)を7に設定します。
- [\[ノード名\]](#)を*に設定します。
- [\[ノード層\]](#)を「すべての層」に設定します。

適用可能なすべてのレポートで、デフォルト表示を円グラフに設定します。上記以外にパラメータがある場合は、それぞれデフォルト値に設定されます。

デフォルト レイアウト

レポートのレイアウト全体をデフォルトにリセットします。このオプションは、[\[Dashboard グループ\]](#)に複数のレポートを表示している場合に役立ちます。

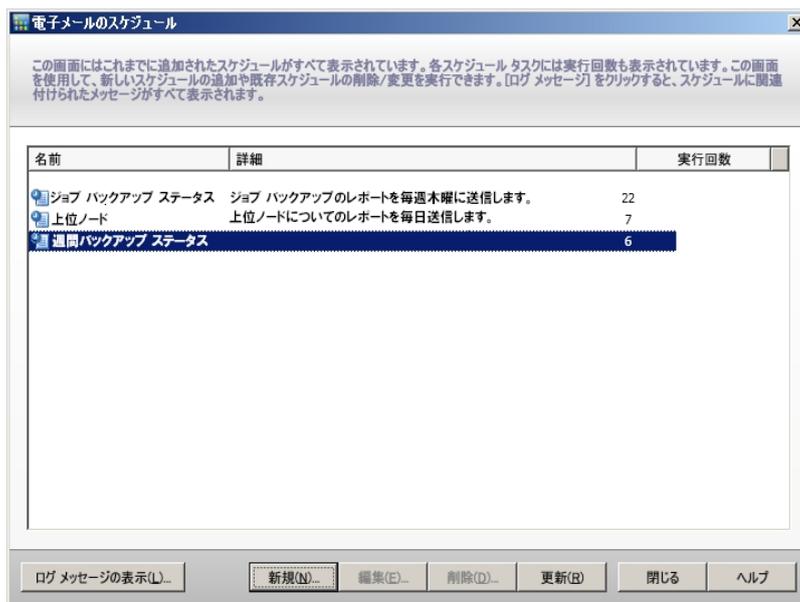
電子メールレポートの設定

グローバルオプション ツールバーから、すべての Dashboard レポート用の電子メールのスケジュール設定を選択できます。電子メールのスケジュールオプションを設定して、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するスケジュールを作成できます。これらのレポート電子メールは、スケジュールに従って自動的に更新、生成、送信されます。レポートメールのスケジュールをカスタマイズして、指定した日時に送信したり、定期タスクとして設定したりできます。また、電子メールに含めるレポートや送信相手を指定できます。選択されたレポートは、電子メールに埋め込まれています。

電子メールレポートの設定

1. グローバルオプション ツールバーの [電子メールのスケジュール] ボタンをクリックします。

[電子メールのスケジュール] ダイアログ ボックスが開きます。



2. このダイアログ ボックスで、既存の電子メールスケジュール名を選択して編集または削除したり、新しい電子メールスケジュールを追加したりできます。

- **新規**] - 新しいスケジュールを追加できます。
- **編集**] - 既存のスケジュールを編集できます。
- **削除**] - 既存のスケジュールを削除できます。
- **更新**] - 各スケジュールのステータスに関する最新情報を表示します。

3. 「ログメッセージの表示」ボタンをクリックしてログメッセージ ウィンドウを表示し、実行されたスケジュールのログメッセージを確認することもできます。詳細については、「電子メールスケジュールステータスのトラッキング」を参照してください。

詳細情報:

[新規電子メールスケジュールの追加](#)

新規電子メールスケジュールの追加

電子メールスケジュールオプションを使用して、スケジュールを新規作成し、指定した受信者に電子メールでレポートを送信するようカスタマイズできます。

注：電子メールを送信する前に(GUI またはスケジュールより)、Alert マネージャを使用して SMTP を設定する必要があります。詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

新規電子メールレポートの追加

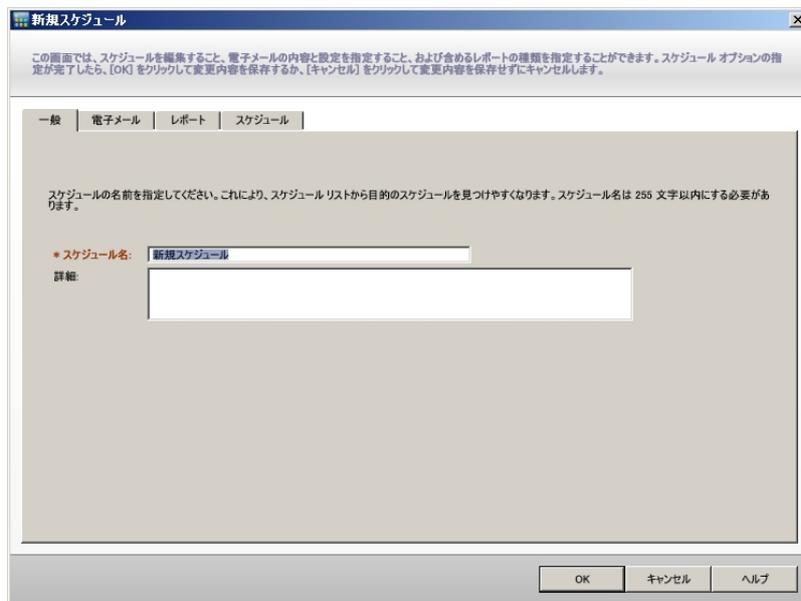
1. グローバルオプション ツールバーの [電子メールのスケジュール] ボタンをクリックします。

[電子メールのスケジュール] ダイアログ ボックスが開きます。

2. [新規] ボタンをクリックします。

[新規スケジュール] ダイアログボックスが [一般] タブが選択された状態で開きます。

注：赤で表示されるフィールドはすべて必須です。



3. スケジュール名、および新規スケジュールの簡単な説明を入力します。

新規レポート名 およびその説明が保存されます。

4. [電子メール] タブをクリックします。

[電子メール設定] ダイアログ ボックスが開きます。

この画面では、スケジュールを編集すること、電子メールの内容と設定を指定すること、および含めるレポートの種類を指定することができます。スケジュール オプションの指定が完了したら、[OK] をクリックして変更内容を保存するか、[キャンセル] をクリックして変更内容を保存せずにキャンセルします。

一般 電子メール レポート スケジュール

メール設定

宛先:

CC:

優先度: 高 通常 低

メールの内容

件名:

コメント:

電子メールにコメントを追加できます。コメントは、全レポートの前、電子メールの始めの部分に挿入されます。

OK キャンセル ヘルプ

5. 宛先]フィールドに、電子メールの各受信者の電子メールアドレスを入力します (受信者の電子メールアドレスを CC フィールドに入力することもできます)。宛先]フィールドには、少なくとも 1 つの受信者アドレスを入力する必要があります。

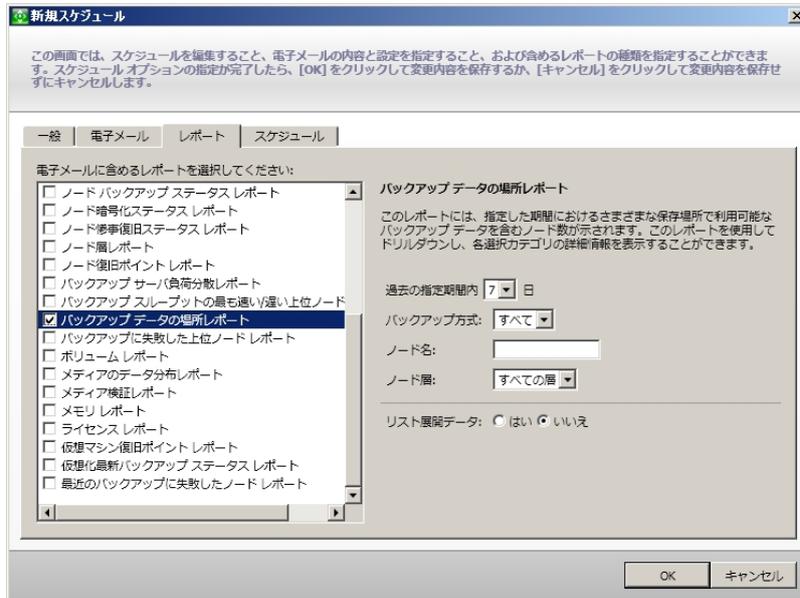
注: 複数の電子メールアドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切る必要があります。

また、スケジュールした電子メールに優先度(高、通常、低)を指定したり、電子メールに記載するコメントを追加したり、件名を入力したりできます(件名を入力しなかった場合、[OK]ボタンをクリックすると、確認を求めるポップアップ ウィンドウが表示されます)。

新しいレポート メール設定が保存されます。

6. [レポート]タブをクリックします。

[レポート設定]ダイアログボックスが表示されます。



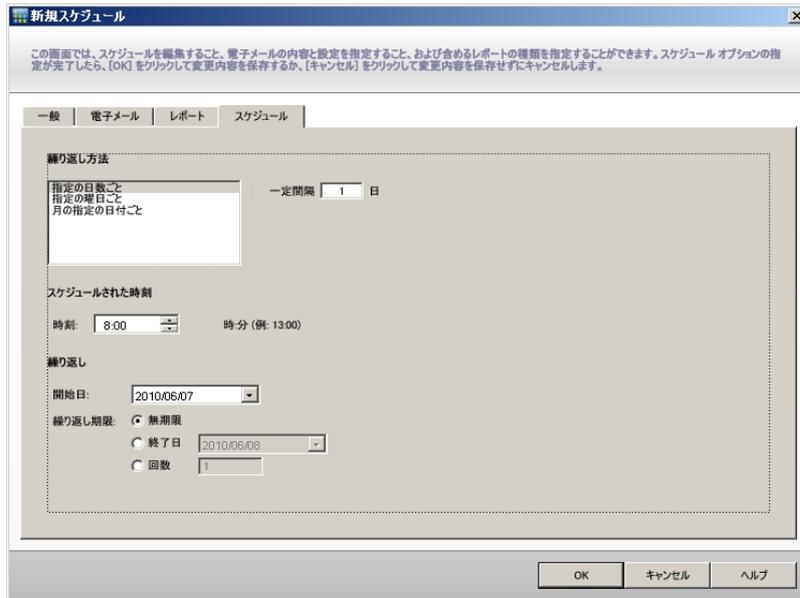
- 電子メールに添付するレポートおよび各レポートのパラメータを選択します。

[レポート]タブは、レポート一覧およびレポートパラメータの2つの部分から構成されています。左ペインでは、送信するレポートのチェックボックスをオンにして選択します。レポート名を選択してハイライトすると、右ペインにそのレポートの名前、説明、およびパラメータが表示されます。右ペインで、送信するレポートのパラメータを指定します。これらのパラメータは、スケジュールした時刻にレポートが生成される際に使用されます。

新しいレポート設定が保存されます。

- [スケジュール]タブをクリックします。

[スケジュール設定]ダイアログボックスが開きます。



9. 送信する電子メールのスケジュールパラメータを選択します。

スケジュール内容は、繰り返し方法、スケジュールされた時刻、繰り返しの3つの部分から構成されています。

繰り返し方法

繰り返し方法]スケジュールオプションは3つあり、電子メール(指定したレポートを添付)を送信する日を選択できます。

- 指定の日数ごと

指定の日数ごと]を選択した場合は、電子メールを送信する間隔を日数で指定します。間隔を1に指定した場合、電子メールは毎日送信されます。

- 指定の曜日ごと

指定の曜日ごと]を選択した場合は、電子メールを送信する曜日(月曜日から日曜日まで)を選択します。複数の曜日を選択できます。デフォルトでは、新規スケジュールは、すべての平日(月曜日から金曜日まで)が設定されています。

- 月の指定の日付ごと

月の指定の日付ごと]を選択した場合は、日付および日付のカウント方向を指定します。カウントする方向は、月の初めから、または月末からを指定します。

スケジュールされた時刻

電子メールを送信する時刻を指定します。時刻は24時間形式で指定します。

繰り返し

スケジュールをアクティブにする日付 (繰り返しを開始する日付) および繰り返しスケジュールを終了する時点を指定します。無期限に繰り返すか、終了日まで繰り返すか、指定した回数だけ繰り返すかを選択します。

デフォルトでは、開始日は常に現在の日付 (今日) で、スケジュールは無期限で繰り返されます。

10. [OK]をクリックします。

電子メールの環境設定および電子メール内容が保存されます。

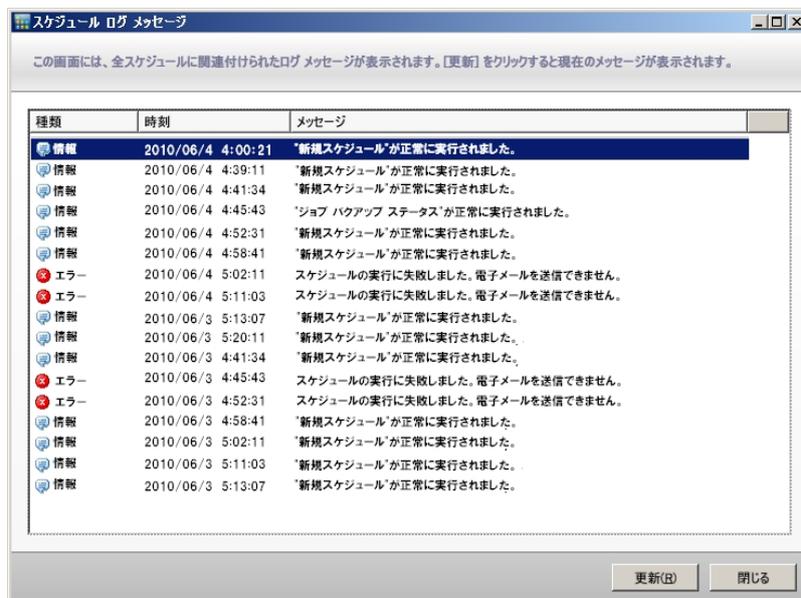
詳細情報:

[電子メールレポートの設定](#)

電子メールスケジュールステータスのトラッキング

[スケジュール マネージャ] ダイアログ ボックスの [ログ メッセージの表示] ボタンをクリックしてログ メッセージ ウィンドウを表示し、実行されたスケジュールのログ メッセージを確認できます。このメッセージを確認することで、各スケジュールが正常に実行されたか失敗したか、考えられる失敗の原因は何か(当てはまる場合)など、スケジュールの実行状態を把握できます。末尾が切り捨てられた長いエラーメッセージの全体を読むには、エントリの上にマウス ポインタを置き、メッセージ テキスト全体を含むツールヒントを表示します。

注: 電子メールスケジュールのログ メッセージは、サーバ管理の [アクティビティ ログ廃棄設定] で定義した設定に基づいて、自動的に廃棄されます(デフォルトでは、14 日おき)。アクティビティ ログの廃棄の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。



レポート特有のオプション

以下のレポート特有のオプションは、Arcserve Backup Dashboard の各レポートをカスタマイズするために個別に設定することができます。これらのオプションにはデフォルト値があり、必要に応じてすべてのレポートをグローバルにリセットできます。

日数

レポートに、過去何日間のデータをフィルタして表示するかを指定できます。[過去の指定期間内]フィールドにはドロップダウンリストがあり、最も一般的に使用される収集期間(1、3、7、30日間)があらかじめセットされています。このフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 7日間

ノード数

レポートに含めるノード数をフィルタするよう指定できます。別のオプション設定に基づいて、対応するカテゴリの最上位のノードからこのフィールドで指定した数までが表示されます。[上位]フィールドには、最も一般的に使用されるデータ収集ノード数(5、10、20、40、100、200、400)があらかじめセットされて表示され、そこから選択できるドロップダウンメニューが含まれています。さらにこのフィールドには手動で値を入力することもできます。

デフォルト: 5ノード

バックアップ方式

レポートに表示するノードの一覧を、ノードで使用するバックアップ方式に基づいてフィルタするよう指定できます。[バックアップ方式]はドロップダウンメニューの[すべて]、[フル]、[増分]、[差分]から選択します。

デフォルト: すべて

バックアップの種類

レポートに表示するノードの一覧を、各ノードで使用するバックアップの種類に基づいてフィルタするよう指定できます。バックアップ方式は、ドロップダウンメニューで表示され、[すべて]、[標準バックアップ]、[合成バックアップ]から選択します。

- **標準バックアップ** -- 標準バックアップは、カスタムスケジュール、繰り返し方法、またはローテーションスキーマを使用して、データソースをデスティネーションにバックアップします。
- **合成バックアップ** - 合成フルバックアップ(SFB)は、合成されたバックアップです。最新のフルバックアップと後続の増分/差分バックアップを統合することにより作成されます(作成される合成フルバックアップは、前回のバックアップがフルバックアップだった場合に作成されるものと同じになります)。

デフォルト: すべて

サーバ

レポートに表示する情報を、対応する Arcserve Backup サーバに基づいてフィルタするよう指定できます。[サーバ]はドロップダウンメニューから、すべての Arcserve Backup サーバ、またはログインしている Arcserve Backup ドメインに所属する Arcserve Backup サーバ 1 つ(プライマリまたはメンバ)を選択します(スタンドアロンサーバとしてログインしている場合、この一覧にはそのスタンドアロンサーバのみが表示されます)。

デフォルト: すべてのサーバ

ノード層

モニタするノードの層カテゴリを指定します。

ノード層は、3つのカテゴリ(高優先度、中優先度、および低優先度)に分類されます。[ノード層]フィールドはドロップダウンメニュー形式で、層カテゴリを選択できるようになっています。

詳細を入力します。[「ノード層」](#)を参照してください。

デフォルト: すべての層

重要度フィルタ

レポートに表示するメッセージの一覧を、メッセージの重要度に基づいてフィルタするよう指定できます。[重要度フィルタ]はドロップダウンメニューの[すべて]、[情報]、[エラー]、[警告]、[エラーと警告]から選択します。

デフォルト: エラーと警告

ブランチドロップダウンメニュー

ブランチドロップダウンメニューを使用して、Global Dashboard コンソールに表示されている情報のフィルタ方法を指定できます。このメニューで選択した方法は、表示されているすべての Dashboard レポートに適用されます。このメニューから、すべてのブランチサイトの Dashboard 関連情報、またはフィルタをかけて、ブランチグループに割り当てられていないブランチサイトや指定したブランチグループ、指定した単一のブランチサイトの Dashboard 関連情報のみを表示できます。[グループ化解除済み]フィルタを選択すると、どのブランチグループにも属していないブランチサイトがすべて表示されます。

デフォルト: すべてのブランチサイト

ブランチフィルタ

各 Dashboard レポートにもブランチフィルタドロップダウンメニューが用意されており、レポート上に表示されている情報のフィルタ方法を指定できます。ここで選択した方法は、対応する Dashboard レポートのみに適用され、表示されている情報が、指定したブランチグループ内にある特定のブランチサイトによってさらにフィルタされます。

デフォルト: すべて

ノード グループフィルタ

ノード名フィルタを使用できる Dashboard レポートでは、ノード グループフィルタも使用できます。ノード グループフィルタは、ノード グループがすでに存在している場合にのみレポートに表示されます。ノード グループが存在する場合、[ノード グループ]フィルタのドロップダウンメニューにグループ名が表示され、レポート表示情報のフィルタ方法を指定できます。ここで選択した方法は、対応する Dashboard レポートにのみ適用されます。指定したノード グループ内のノードを指定して、さらに表示情報をフィルタできます。

Global Dashboard で [グローバルビュー]を選択し、モニタの対象として複数のブランチを選択すると、選択したブランチのノード グループのみが [ノード グループ]ドロップダウンメニューに表示されます。

たとえば、あるブランチグループが3つのブランチサイト(ブランチ1、ブランチ2、ブランチ3)から構成され、各ブランチサイトには以下のノードグループが存在しているとします。

- ブランチ1: ノードグループA、ノードグループB
- ブランチ2: ノードグループB、ノードグループC
- ブランチ3: ノードグループB、ノードグループD

ブランチフィルタでこのブランチグループを選択すると、[ノードグループ]フィルタにはグループBのみが表示されます。このグループのみが、選択したすべてのブランチに所属しているためです。

注: ノードグループ(またはサーバグループ)は、Arcserve Backup のバックアップマネージャ(またはジョブステータスマネージャ)で作成します。ノードグループ作成の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

SRM プローブの設定

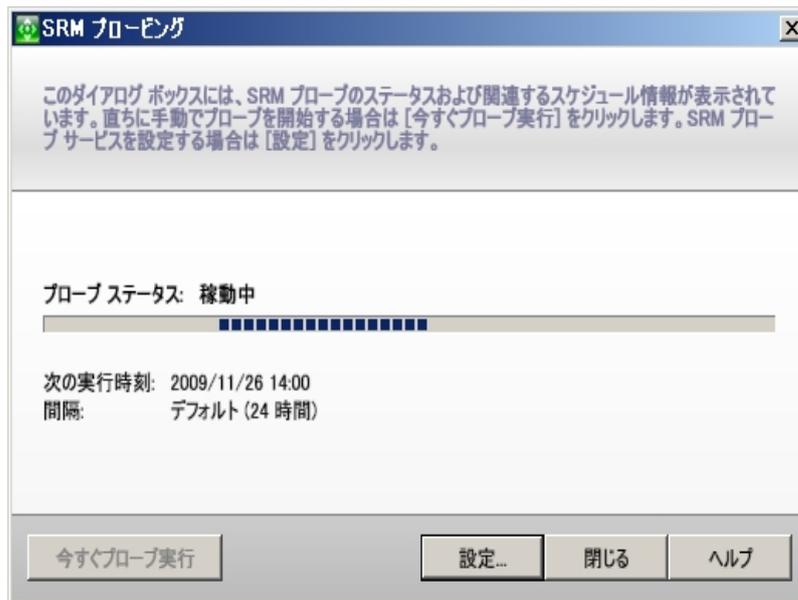
SRM プローブはデータ収集ユーティリティで、開始すると、ストレージ環境内のすべてのマシンにプローブまたは通信します。ただし、サポートされている Microsoft Windows OS 上で Arcserve Backup エージェントが動作しているマシンが対象です。マシンはすべての関連情報を含めた最新のレスポンスを送り返し、これらの関連情報が SRM タイプのレポートに記載されます。

このオプションは、[ブランチビュー]モードを選択した場合のみ使用できます。

注：サポートされている Windows OS の一覧については、Arcserve Backup の Readme ファイルを参照してください。

グローバルオプション ツールバーの SRM プローブ ボタンをクリックすると、[SRM プローピング]ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで、今すぐ SRM プローブを開始するか、スケジュールした時刻に SRM プローブを実行するよう設定するかを選択します。

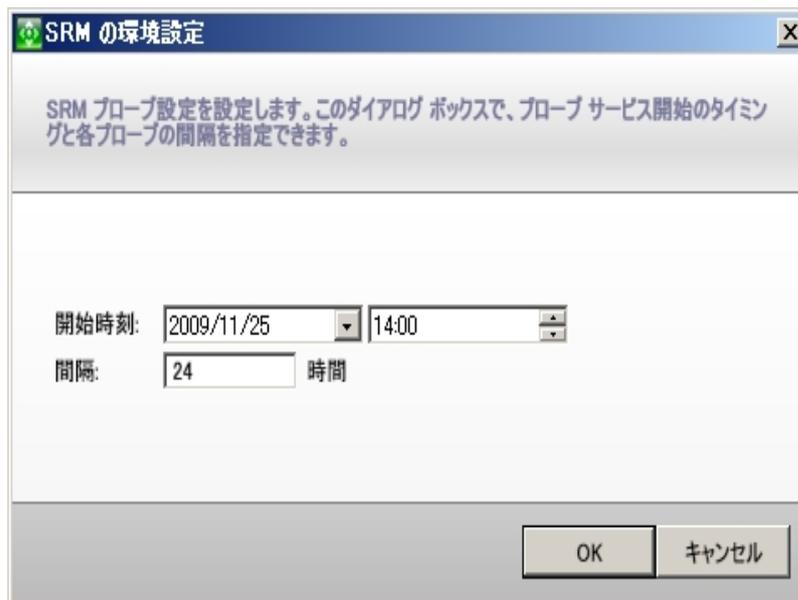
- 今すぐプローブを開始する場合は、[今すぐプローブ実行]ボタンをクリックします。プローブのステータスが表示されます。



- SRM プローブ設定項目を設定するには、[設定]ボタンをクリックします。
[SRM の環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は毎日午後 2 時に SRM プローブを実行するようスケジュールされています。このダイアログ ボックスで、デフォルトのスケジュールを変更し、開始日、時刻、およびプローブの間隔(時間)を変

えることができます。



注: SRM プロブ処理で問題が発生する場合(完了までに時間がかかり過ぎる場合またはシステムリソースの使用に影響する場合)は、トラブルシューティングの「[SRM データ プロブのパフォーマンスに問題がある](#)」のトピックを参照してニーズに合うようにこのパフォーマンスを強化します。

第2章: Global Dashboard について

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

概要	40
機能	41
用語および定義	42
Global Dashboard サービス	44
Global Dashboard の仕組み	45

概要

Global Dashboard は、単一のネットワークベースコンソールを提供するユーザーインターフェースツールです。この単一コンソールから、企業内の複数の Arcserve Backup ドメインの Dashboard 情報をモニタおよびレポートできます。Arcserve Backup Dashboard の場合は、現在接続している Arcserve Backup プライマリサーバのみに関するバックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要が表示されます。Global Dashboard では、この機能を拡張して、メイン オフィスおよびリモート オフィスにある複数の Arcserve Backup プライマリサーバのダッシュボード情報を、一元化された場所から素早く簡単に確認できます。Global Dashboard によって提供される、この一元化されたモニタリング機能によって、Arcserve Backup および SRM 環境全体のパフォーマンスと運用に関する情報収集力が向上します。

リモート オフィスやブランチ オフィス (ROBO) には、個々のブランチ プライマリサーバのダッシュボード関連情報が保存されています。このようなリモート オフィスでは、オンサイトのリソースが比較的制限されていることが多いため、オンサイトのダッシュボード情報と組織全体の情報との統合が必要になる場合があります。Global Dashboard を使用すれば、各サイトでデータをモニタしなくても、オンサイト データを同期させることで、各プライマリサーバ(またはプライマリサーバグループ)のダッシュボード情報を一元的に確認できるようになり、さらには、複数のプライマリサーバのダッシュボードを1つに統合して表示することも可能になります。すべてのブランチ、カスタマイズしたブランチグループ、または単一のブランチの統合レポートを表示できます。

機能

Global Dashboard には、以下のような機能があります。

- 企業内にある複数のプライマリサーバ(ローカルおよびリモート)の Dashboard レポートを表示して、個々のサーバを一元的にモニタおよび評価する機能。
- すべてのブランチ、カスタマイズしたブランチグループ、または単一のブランチのダッシュボードレポートを表示する機能。
- 関連付けられているすべてのブランチを一元管理する機能。ブランチの停止、ブランチの削除、メッセージログの表示、環境設定の変更などの操作が可能です。
- すべてのブランチプライマリサーバからセントラルプライマリサーバに自動的にダッシュボードデータを同期し、常に最新に更新された一元モニタを提供する機能。
- 個々のニーズや優先事項に合わせて、モニタ対象のブランチプライマリサーバを個別に、またはグループ単位でカスタマイズする機能(ブランチプライマリサーバは、複数のブランチグループに属している場合があります)。
- 指定されたブランチパラメータに基づいて、ダッシュボードレポートに表示されているデータをフィルタする機能。
- レポート用に収集したデータを、スプレッドシートで使用するために CSV ファイルとしてエクスポートする機能。このレポートを、印刷したり、電子メールで送信したりすることもできます。
- 新たに追加されたブランチマネージャ GUI を通じて、個々のブランチプライマリサーバのステータスをトラッキングする機能。この GUI から、ログの表示、前回の同期ステータスの確認、およびフル同期の実行ができます。

用語および定義

Global Dashboard の詳細を理解する前に、本ユーティリティで使用されている用語および定義を理解しておく必要があります。

Global Dashboard では以下の用語および定義が使用されます。

セントラルプライマリサーバ

セントラルプライマリサーバ(およびこれに関連付けられた Arcserve Backup データベース) は、同期によってブランチプライマリサーバから取得したダッシュボード関連情報を格納する、中心的なハブ インターフェースです。Arcserve Backup 環境内でセントラルプライマリサーバとして設定できるプライマリサーバは 1 台のみで、ブランチプライマリサーバは 1 台のセントラルプライマリサーバに対してのみレポートが可能で、関連付けるすべてのブランチプライマリサーバをセントラルプライマリサーバに登録し、ネットワーク通信を有効にする必要があります。通信は常に、ブランチサイトからセントラルサイトへの一方方向通信です。このマニュアルでは、「セントラルプライマリサーバ」と「セントラルサイト」を同じ意味で使用します。

ブランチプライマリサーバ

Arcserve Backup 環境内にあるプライマリサーバ(またはスタンドアロンサーバ) は、どれでもブランチプライマリサーバとして設定できます。ブランチプライマリサーバは、指定されたセントラルプライマリサーバとダッシュボード関連情報を同期します。すべてのデータが、ブランチプライマリサーバから関連付けられたセントラルプライマリサーバに送信されます。Arcserve Backup 環境内には、ブランチプライマリサーバは複数設定できますが、セントラルプライマリサーバは 1 台しか設定できません。また、ブランチプライマリサーバがレポートを送信できるのは、1 台のセントラルプライマリサーバに対してのみです。プライマリサーバをブランチプライマリサーバとして設定し、関連付けられたセントラルプライマリサーバに登録すると、対応するダッシュボード データが自動的にセントラルプライマリサーバと同期されます。このマニュアルでは、「ブランチプライマリサーバ」と「ブランチサイト」を同じ意味で使用します。

Global Dashboard コンソール

Global Dashboard コンソールは、同期されたダッシュボード情報(レポート) を表示するためのユーザ インターフェースです。Global Dashboard コンソールは、Arcserve Backup Dashboard GUI をベースとした拡張バージョンで、いくつかの機能とオプションが追加されています。Arcserve Backup Dashboard で表示できるダッシュボード レポートはすべて、Global Dashboard コンソールで表示できます。これに加えて、Global Dashboard コンソールでは、登録済みブランチサイトのうち、任意の 1 つの、または任意のグループのダッシュボード レポートを表示することも可能です。

セントラル マネージャ

セントラル マネージャは、Global Dashboard 環境全体のスナップショット概要を提供します。このユーザ インターフェースを使用すれば、任意またはすべての登録済みブランチ サイトのステータスを単一の場所ですばやく簡単にモニタすることができます。また、セントラル マネージャにはブランチ サイトに関するすべてのログ メッセージが表示されます。セントラル マネージャは、(グローバル ビュー モードが選択されている場合に) Global Dashboard コンソールから、Global Dashboard ツールバーのアイコン ボタンをクリックしてアクセスできます。

詳細については、「[セントラル マネージャについて](#)」を参照してください。

データ同期

データ同期は、ブランチ サイトのデータベースからセントラル サイトのデータベースにダッシュボード関連情報を送信する処理で、これにより、登録済みの各ブランチ データベースと同じ情報がセントラル データベースに格納 (およびレポート) されます。Global Dashboard では、最初のデータ同期は常にフルデータ同期として実行されます。その後のデータ同期は、すべて増分データ同期となります。増分同期では、前回の同期以降に変更、削除、または追加されたデータが同期されます。同期されたデータは、最小サイズに圧縮されてから送信されます。

フル同期処理の間、Arcserve Backup データベース エンジンは数分間シャットダウンされます。増分データ同期の間は、Arcserve Backup サービスはシャットダウンされません。

フルデータ同期処理は、基本的に3つのステップから成ります。

- ◆ ダッシュボード関連データをブランチ データベースからファイルにエクスポートする。
- ◆ エクスポートしたファイルをブランチ サイトからセントラル サイトに送信する。
- ◆ ダッシュボード関連データをファイルからセントラル データベースにインポートする。

増分データ同期処理は、基本的に3つのステップから成ります。

- ◆ ブランチ サイト上の Arcserve Backup データベースのイベント ログ テーブルからデータを読み込む。
- ◆ 変更したダッシュボード関連データをブランチ サイトからセントラル サイトに送信する。
- ◆ 変更したダッシュボード関連データをセントラル データベースにインポートする。

Global Dashboard サービス

Global Dashboard をプライマリサーバ上にインストールすると、対応するサービスもインストールされ、Windows サービスコントロール マネージャ(SCM) に登録されます。SCM は、レジストリ内にあるインストール済みサービスのデータベースを管理します。

注: これらのサービスは、Global Dashboard の設定後、Arcserve Backup でのみ有効です。以下の Global Dashboard サービスがインストールされます。

セントラルサイト:

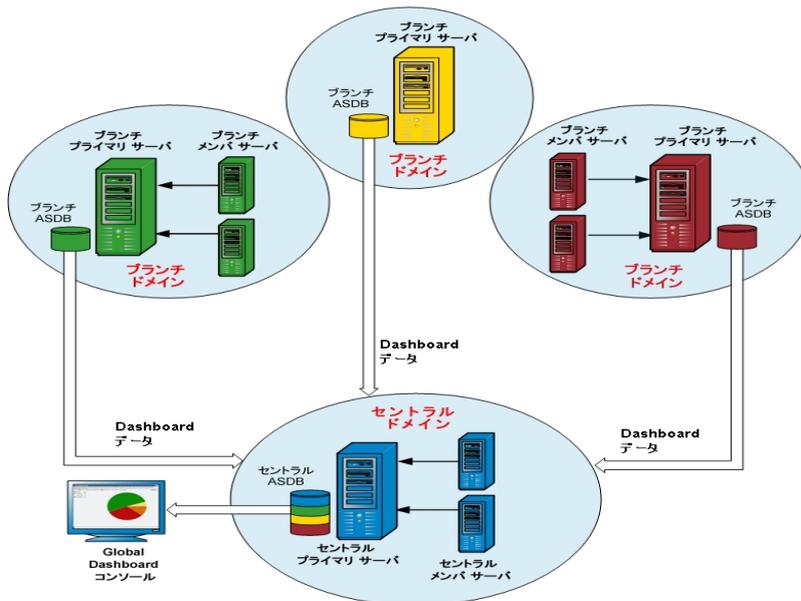
- **Arcserve Central Remoting Server**
ブランチ サイトとセントラル サイトとの間の通信を可能にします。
- **Arcserve Communication Foundation (Global)**
Arcserve Backup Global Dashboard で使用されるデータを提供します。
- **Arcserve Dashboard Sync Service**
ブランチ サイトからセントラル サイト データベースへのデータ同期を可能にします。セントラル サイト 自身もローカルブランチ サイトとして動作するため、このサービスのインストールが必要になります。
- **Arcserve Communication Foundation**
Arcserve Backup Dashboard が使用するデータを提供します。

ブランチ サイト:

- **Arcserve Dashboard Sync Service**
ブランチ サイトからセントラル サイト データベースへのデータ同期を可能にします。
- **Arcserve Communication Foundation**
Arcserve Backup Dashboard が使用するデータを提供します。

Global Dashboard の仕組み

Global Dashboard 環境は、指定された1つのセントラルドメインと、それに関連付けられた複数のブランチドメインで構成されます。各ドメインには、1台の Arcserve Backup サーバと、それに対応する1台の Arcserve Backup データベース (ASDB) が含まれます。Arcserve Backup サーバは、スタンドアロンサーバまたはメンバーサーバが関連付けられたプライマリサーバの場合があります。



Global Dashboard 環境を最初にセットアップするときに、セントラルプライマリサーバとして設定するサーバ、およびそれに接続するブランチプライマリサーバとして登録するサーバを指定する必要があります。通常、セントラルプライマリサーバは、送信されてくる大量のデータの受信、処理、および保存が可能である必要があります。セントラルプライマリサーバは、各 Global Dashboard 環境内に1台しか設定できません。一方、ブランチプライマリサーバは(セントラルプライマリサーバのパフォーマンス制限に応じて)任意の数を含めることが可能で、ローカル、リモートのどちらにでも配置することができます。また、ブランチプライマリサーバがレポートを送信できるのは、1台のセントラルプライマリサーバに対してのみです。

各ブランチプライマリサーバからのダッシュボードデータ(Arcserve Backup データおよび SRM 関連データ)は、それぞれに対応する ASDB 内に保存されます。Global Dashboard ユーティリティは、各ブランチドメインとセントラルドメイン間のインターフェースを提供します。本ユーティリティを(スケジュール設定して自動で、または手動で)起動すると、各ブランチ ASDB から収集されたダッシュボードデータがセントラルドメインと同期され、セントラルプライマリサーバによって処理され、セントラル ASDB に格納されます(すべての通信は常に、ブランチドメインからセントラルドメインへの一方向通信です)。ブランチドメインから同期データを初めて送信するとき、この送信はフルアップロードとして実行され、その後の各送信では前回の同

期以降に変更、削除、または追加されたデータの増分のみがアップロードされます。フル同期処理の間、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンされます。増分データ同期の間は、Arcserve Backup サービスはシャットダウンされません。データ同期では、ファイルの詳細(ファイル名、サイズ、パスなど)はセントラルドメインに送信されません。ブランチ ASDB で実行されたデータベースの廃棄処理はすべて、次にデータ同期を実行したときにセントラル ASDB に反映されません。

Global Dashboard コンソールは、セントラル ASDB に接続するユーザインターフェースです。Global Dashboard コンソールから、関連付けられている任意のブランチ、またはそのすべてのブランチから収集された同期済みダッシュボード データをモニタできます。表示するダッシュボード レポート(またはレポート グループ)とサーバを指定できます。また、Global Dashboard コンソールから、Global Dashboard 環境内にある任意のブランチドメイン グループからの、またはすべてのブランチドメインからのダッシュボード データを統合して表示することもできます。

第3章: Global Dashboard の環境設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

環境設定に関する考慮事項	48
概要	50
Global Dashboard の環境設定	53

環境設定に関する考慮事項

Global Dashboard の環境設定は、Arcserve Backup のインストール中またはインストール後に実行できます。ただし、Global Dashboard を設定する前に、以下を考慮してください。

- Global Dashboard 環境内のどのサーバをセントラルプライマリサーバとして設定するか。

セントラルプライマリサーバは、1 つの Global Dashboard 環境内に 1 台のみ設定できます。

- セントラルプライマリサーバを選択する際に考慮すべき主な点は、データベースのサイズです。選択したセントラルプライマリサーバに、登録されているすべてのブランチプライマリサーバから受け取る Dashboard データを保存できる十分な容量があることを確認してください。
- セントラルプライマリサーバを選択する際には、サーバのパフォーマンスも考慮する必要があります。セントラルプライマリサーバと、関連付けられているすべてのブランチプライマリサーバとの間のデータインターフェースが、速度、効率、信頼性において十分であることを確認してください。
- セントラルプライマリサーバを選択する際は、データベースのタイプも考慮する必要があります。

Global Dashboard では、セントラルプライマリサーバは Microsoft SQL Server 2008/2008 R2/2012/2014/2016/2017 のみをサポートしています。

- Global Dashboard 環境内のどのサーバをブランチプライマリサーバとして設定するか。

ブランチプライマリサーバは、各サーバロケーションにおいて、Arcserve Backup ドメイン内の(ドメインメンバサーバではなく)プライマリサーバまたはスタンドアロンサーバである必要があります。

- 環境設定の処理中、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンします。Arcserve Backup ジョブがスケジュールされておらず、ほかとの競合のない都合の良い時間にインストールを計画してください。
- Global Dashboard ドメインで、ブランチプライマリサーバをメンバサーバに降格するか、または、セントラルプライマリサーバとして設定するプライマリサーバを変更する場合に、古いプライマリサーバの情報を収集し、継続的に使用したい場合があります。Global Dashboard を使用すると、古いプライマリサーバからこの情報をエクスポート(および保存)して、新しいプライマリサーバにインポートできます。

ライセンスの要件:

- Global Dashboard 機能を有効にするには、登録済みのブランチプライマリサーバをすべてカバーする複数ライセンスと共に、セントラルプライマリサーバで有効な Arcserve Backup Global Dashboard ライセンスを持っている必要があります。(ブランチプライマリサーバでは Global Dashboard ライセンスをインストールする必要はありません)。
- 登録済みの各ブランチプライマリサーバは、Global Dashboard ライセンスを1カウントずつ占有します。登録済みのブランチ数がライセンスの最大限度を超えた場合、そのセントラルプライマリサーバにはブランチサイトを新規登録できません。
- 以下の各シナリオに対して、ライセンスステータスの確認が実施されます。
 - ブランチサイトを登録する場合
 - ブランチサイトを再登録する場合
 - フルデータ同期を実行する場合
 - 増分同期を実行する場合
- ライセンスステータスの確認が失敗した場合、追加のライセンスを取得するか、再度既存のライセンスを割り当ててセントラルプライマリサーバへのデータ同期を有効にする必要があります。(各ブランチサイトのライセンスステータスはセントラルマネージャダイアログボックス上に表示されます)。

注：セントラルマネージャからブランチサーバを削除すると、そのブランチが占有していたライセンスカウントがリリースされ、別のブランチサーバへのそのライセンスカウントを再度割り当てることができます。

概要

Arcserve Backup Dashboard は、バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。この Dashboard ビューにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップおよび SRM 環境のパフォーマンスと操作の管理に役立ちます。Dashboard は、指定した Arcserve Backup ドメイン、サーバ、ノード、およびジョブの全体的なステータスを表示するスナップショットを提供します。

さらに、より詳細な情報を表示するレポートヘドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。そのようなレポートでは、任意のステータスカテゴリをクリックし、サマリ情報の表示から、そのカテゴリに重点を置いた詳細なレポートヘドリルダウンすることができます。

Arcserve Backup マネージャ コンソールのナビゲーション バーにある [モニタとレポート] メニューから、または [クイック スタート] メニューから Arcserve Backup Dashboard にアクセスすることができます。

注: Dashboard へは、Arcserve Backup 管理者、Monitor Operator、および Report Operator の役割を割り当てたユーザ プロファイルでのみアクセスできます。ユーザ プロファイルの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

Global Dashboard は、Arcserve Backup Dashboard の一部であり、その機能を拡張したものです。Global Dashboard では、メイン オフィスおよびリモート オフィスにある複数の Arcserve Backup プライマリ サーバのダッシュボード情報を、一元化された場所から素早く簡単に確認できます。Global Dashboard によって提供される、この一元化されたモニタリング機能によって、Arcserve Backup および SRM 環境全体のパフォーマンスと運用に関する情報収集力が向上します。

注: Global Dashboard の詳細については、「[Global Dashboard について](#)」を参照してください。

Arcserve Backup Dashboard に表示されるレポートは以下のとおりです。

注: アスタリスク記号 * は SRM タイプのレポートであることを表しています。

- エージェント分布レポート
- アプリケーション データトレンド レポート *
- バックアップ データの場所レポート
- バックアップ サーバ負荷分散レポート
- クライアント ノード ソフトウェアレポート *
- CPU レポート *
- CPU 使用率レポート *

- メディアのデータ分布レポート
- デデュプリケーション効果推定レポート
- デデュプリケーションステータスレポート
- ディスクレポート *
- ディスクパフォーマンスレポート *
- ジョブアーカイブステータスレポート
- ジョブバックアップステータスレポート
- ライセンスレポート
- メディア検証レポート
- メモリレポート *
- メモリ使用率レポート *
- ネットワークレポート *
- ネットワーク使用率レポート *
- ノードアーカイブステータスレポート
- ノードバックアップステータスレポート
- ノード惨事復旧ステータスレポート
- ノード暗号化ステータスレポート
- ノード復旧ポイントレポート
- ノードサマリレポート *
- ノード層レポート
- 最近のバックアップに失敗したノードレポート
- OS (オペレーティングシステム) レポート *
- RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント) レポート
- SCSI/ファイバカードレポート *
- テープ暗号化ステータスレポート
- バックアップに失敗したノードレポート
- バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート
- 未変更ファイル数の多い上位ノードレポート *
- アーカイブサイズ合計レポート
- 保護サイズ合計レポート
- 仮想マシン復旧ポイントレポート

- 仮想化 - 最新バックアップステータスレポート
- ボリュームレポート *
- ボリュームトレンドレポート *

詳細情報:

[Dashboard の機能](#)

Global Dashboard の環境設定

Global Dashboard が正常に機能するには、環境設定処理をセントラルサイトおよび関連付けられている各ブランチサイトで実行して、ブランチサイトとセントラルサイト間で必要な Dashboard 関連データの通信および同期を有効にする必要があります。サーバの環境設定は、インストールの直後に実行することも、都合の良いときにサーバ環境設定ウィザードから手動で起動することもできます。

重要: 環境設定の処理中、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンします。Arcserve Backup ジョブがスケジュールされておらず、他と競合しない都合の良い時間に環境設定を計画してください。

Global Dashboard 環境設定プロセスを開始する場合、環境設定したいプライマリサーバの種類を最初に選択する必要があります。この選択を実行するときには、以下のことに注意してください。

- Arcserve Backup 環境内でセントラルプライマリサーバとして設定できるプライマリサーバは 1 台のみで、ブランチプライマリサーバは 1 台のセントラルプライマリサーバに対してのみレポートが可能です。セントラルプライマリサーバを選択する際に考慮すべき主な点は、データベースの種類とサイズです。選択したセントラルプライマリサーバが Microsoft SQL Server 2008/2008 R2/2012/2014/2016/2017 であり、登録済みのすべてのブランチプライマリサーバから受信した Dashboard データを保存できることを確認します。
- Arcserve Backup 環境内にあるプライマリサーバ(またはスタンドアロンサーバ)は、どれでもブランチプライマリサーバとして設定できます。ドメインメンバサーバはブランチプライマリサーバとして設定できません。
- 関連付けるすべてのブランチプライマリサーバをセントラルプライマリサーバに登録し、同期を有効にする必要があります。
- Global Dashboard には、セントラルプライマリサーバ、ブランチプライマリサーバ、および Global Dashboard コンソールの 3 つの役割があります。
 - ◆ Global Dashboard コンソールの役割には、環境設定が不要です。プライマリサーバのインストール中に Global Dashboard オプションを選択すると、Global Dashboard コンソールの機能が自動的に追加されます。
 - ◆ Global Dashboard コンソールの役割が設定されたプライマリサーバでも、セントラルプライマリサーバまたはブランチプライマリサーバとして設定できます。
 - ◆ プライマリサーバをセントラルプライマリサーバまたはブランチプライマリサーバとして設定した場合は、役割の変更はできません。
 - ◆ 3 つの役割の関係は以下のとおりです。

- ブランチプライマリサーバは、Global Dashboard コンソールの機能を有しています。
 - セントラルプライマリサーバは、ブランチプライマリサーバ(ローカルブランチあり) および Global Dashboard コンソールの両方の機能を有しています。
- Arcserve Backup のインストールの最後に、Global Dashboard 環境設定ユーティリティが起動します。このユーティリティを使用して、サーバをセントラルプライマリサーバまたはブランチプライマリサーバとして設定できます。Global Dashboard コンソールの機能のみを使用する、または、後ほどセントラルプライマリサーバまたはブランチプライマリサーバとして設定する場合は、現在のプライマリサーバ環境設定を維持する]オプションを選択します。

セントラルサイトの環境設定

セントラルサイトの環境設定中に指定したパラメータを登録済みの各ブランチサイトにも使用して、セントラルサイトとの Dashboard 関連データの同期を有効にする必要があります。

注: セントラルプライマリサーバのローカル Arcserve Backup データベースは、標準のブランチサイトと同様に扱われます。ただし、このデータベースの環境設定はセントラルプライマリサーバのセットアップ中に完了するため、手動で行う必要はありません。

セントラルサイトの環境設定を行う方法

1. [セントラル環境設定] ウィザードを起動し、[次へ]をクリックして、開始します。
セントラルサイトのパスおよびポートの入力画面が表示されます。
2. セントラルサイトのデータベースのパスを指定します(このパスは、各ブランチサイトからの Dashboard 関連データがアップロードされ、格納されるデータベースの場所です)。
注: リモート データベースをセントラルプライマリサーバの ASDB として使用している場合、データベースパスはリモート マシンの既存のパスである必要があります。そうでない場合、環境設定は失敗する可能性があります。
3. 入力ポート番号を指定します。このポート番号は、各ブランチプライマリサーバがセントラルプライマリサーバにアクセスするためのものです。デフォルトでは、ポート番号は 18001 ですが、この画面で変更できます。
4. [次へ]をクリックします。
ユーザ認証情報の入力画面が表示されます。
5. AS_CDASH_USR ユーザ名に対するパスワードを指定し、パスワードの確認入力を行います。このアカウント名とパスワードが設定されたローカルの Windows ユーザがセントラルプライマリサーバ上に作成されます。ブランチサイトがセントラルサイトに接続する際、この認証情報を使用して、セントラルサイトへのアクセス許可を得ます。

パスワードは、各ブランチサイトをセントラルプライマリサーバに登録する際に必要になります。必要に応じて、Windows ユーザ管理を使用してこのパスワードをリセットできます。ただし、パスワードを変更した場合は、このセントラルプライマリサーバに登録されているすべてのブランチサイトで、新しい情報に手動でリセットする必要があります。

Windows ユーザ管理の [AS_CDASH_USR のパスワードの設定] ダイアログボックスには、セントラルプライマリサーバの [スタート] メニューからアクセスできます([プログ

ラム]- [管理ツール]- [コンピュータの管理]- [ローカルユーザーとグループ]- [ユーザー]- [AS_CDASH_USR]- [パスワードの設定])。

注: あらかじめ割り当てられているユーザ「AS_CDASH_USR」は、認証のみを目的としたものです。このユーザ名には、ほかに Arcserve Backup 権限は割り当てられていません。

6. [次へ]をクリックします。

セントラルサイトの [サマリ]画面が表示されます。

7. [サマリ]画面には、セントラル Arcserve Backup データベースおよびセントラルプライマリサーバの環境設定関連情報がすべて表示されます。表示されている情報がすべて正しいことを確認してから、続行してください。情報が正しければ、[完了]をクリックします。

ステータスを示す [環境設定の進捗状況]画面が表示されます。

注: 環境設定プロセスが完了すると、確認画面にセントラルプライマリポート番号と AS_CDASH_USR ユーザに割り当てられているパスワードが表示されます。セントラルサイトと通信するように各ブランチサイトを設定するには、セントラルプライマリポート番号とパスワードを指定する必要があります。

8. [OK]をクリックします。

セントラルサイトの環境設定処理が完了します。

ブランチ サイトの環境設定

ブランチ サイトをセントラル サイトに登録して、そのセントラル サイトへの Dashboard 関連データの同期を有効にする必要があります。ブランチ サイトがレポートを送信できるのは、1 台のセントラル プライマリ サーバに対してのみです。ブランチ サイトに登録するには、まず、セントラル サイトと通信するよう環境設定する必要があります。

ブランチ サイトの環境設定を行う方法

1. [ブランチ環境設定] ウィザードを起動し、[次へ]をクリックして、開始します。
[セントラル サイト情報の入力] 画面が表示されます。
重要: ブランチ サイトがセントラル サイトと通信を行うには、アクセスと場所に関するパラメータを 3 つ入力する必要があります。セントラル プライマリ サーバの名前 (または IP アドレス)、セントラル プライマリ サーバにアクセスするためのポート番号、および AS_CDASH_USR ユーザの認証パスワードです。ブランチ サイトの登録を実行する前に、これらの情報を取得しておく必要があります。
2. セントラル プライマリ サーバの名前、セントラル プライマリ サーバのポート番号、および認証パスワードを入力します。
ブランチ サイトがセントラル サイトに接続する際、これらの情報を使用して、セントラル サイトにアクセスします。
デフォルトでは、ポート番号は 18001 ですが、セントラル サイトから変更できます。セントラル サイトからポート番号を変更する詳細については、「[セントラル サイトの環境設定](#)」を参照してください。
3. [テスト] をクリックして、セントラル サイトに正しく接続されるかどうかを確認します。
テスト接続ステータスを示すメッセージが表示されます。
4. テスト接続ステータスが成功であれば、[OK] をクリックして、続行します。テスト接続ステータスが成功でない場合は、正しいセントラル サイト情報が入力されていることを確認してから、続行します。
[ブランチ サイト情報の入力] 画面が表示されます。
5. ブランチ プライマリ サーバの名前、場所、およびブランチの連絡先の名前を入力する必要があります。また、ブランチ関連の追加情報を入力して、セントラル サイトの管理者がブランチ サイトを識別しやすくすることもできます。ブランチの連絡先電子メールアドレスなどの情報や、セントラル サイトの管理者に伝達したい有用なコメントを入力しておけば、Global Dashboard 環境の効率的な管理に役立ちます。

入力されたブランチ サイト ユーザの情報は、セントラル プライマリ サーバに送信され、セントラル プライマリ サーバのデータベースに格納されます。

6. [次へ]をクリックして続行します。
 - a. 同一のブランチプライマリサーバ名がすでに存在する場合は、この状況を知るメッセージアラートが表示され、別のブランチ名を指定するか、Arcserve Backup Global Dashboard により自動で新しい名前を割り当てる (既存のブランチ名の末尾に番号を追加する) を求められます。
 - b. [はい]をクリックすると、自動的に番号付きブランチ名が作成され、[いいえ]をクリックすると、[ブランチ サイト情報の入力]画面に戻り、別のブランチ名を指定できます。
 - c. ブランチプライマリサーバ名がまだ存在していないものであれば、ブランチ環境設定の [サマリ]画面が表示されます。

[サマリ]画面には、セントラル Arcserve Backup データベース、ブランチ サイト、およびセントラルプライマリサーバの環境設定関連情報がすべて表示されます。

7. ブランチ環境設定の [サマリ]画面には、フルデータ同期をただちに実行するオプションも用意されています。

重要: データ同期を実行すると、このブランチサイトの Arcserve Backup データベースエンジンとデータベースは、環境設定および登録処理が完了するまで一時的に中断され、シャットダウンされます。環境設定および登録処理が完了すると、すべての Arcserve Backup データベースエンジンおよびデータベース機能は通常どおり再開されます。

この画面の表示時にフルデータ同期を実行しない場合は、環境設定処理の完了後に実行することができます。詳細については、「[手動によるデータの同期](#)」を参照してください。

注: 最初のデータ同期は常にフルデータ同期として実行されます。その後のデータ同期は、すべて増分データ同期となります。

8. ブランチ環境設定の [サマリ]画面で、表示されている情報がすべて正しいことを確認してから、続行します。情報が正しいければ、[完了]をクリックします。
ステータスを示す [環境設定の進捗状況]画面が表示されます。
9. 環境設定および登録処理が完了すると、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

ブランチ環境設定処理が完了し、ブランチサイトがセントラルサイトに登録されます。

第4章: Dashboard の使用

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve Backup Dashboard の使用	60
Dashboard グループ	62
ノード層	70
ノード情報	71
レポートを電子メールで送信	72
エージェントの更新アラート	73

Arcserve Backup Dashboard の使用

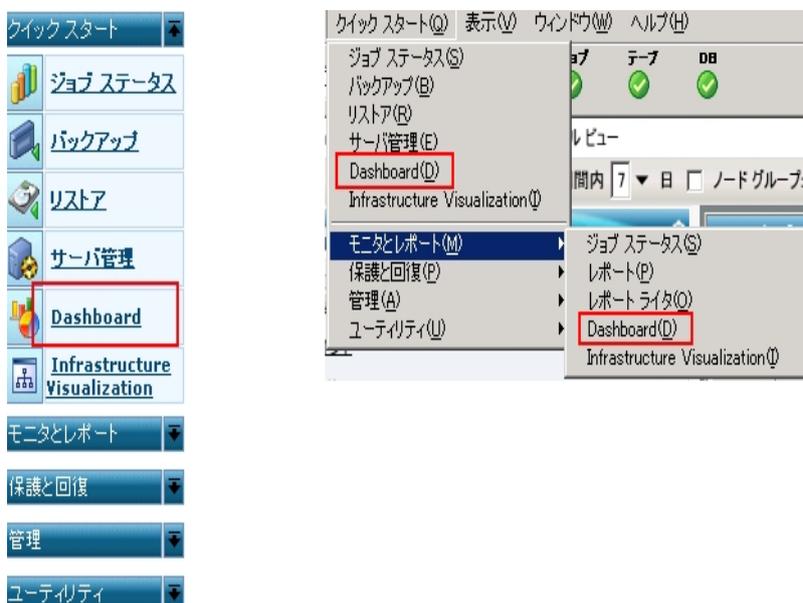
Arcserve Backup Dashboard は、バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。この Dashboard ビューにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップおよび SRM 環境のパフォーマンスと操作の管理に役立ちます。また、広範囲に及ぶバックアップ環境情報を迅速かつ容易にモニタでき、モニタ対象領域についてエクスポート可能なレポートを生成できます。

重要: Arcserve Backup Dashboard を使用する前に、すべての Arcserve Backup サービスが開始し実行していることを確認してください。

注: Dashboard へは、Arcserve Backup 管理者、Monitor Operator、および Report Operator の役割を割り当てたユーザ プロファイルでのみアクセスできます。ユーザ プロファイルの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

Arcserve Backup Dashboard の使用方法

1. Arcserve Backup マネージャ コンソールのナビゲーション バーにある [モニタとレポート] メニューから、または [クイック スタート] メニューから Arcserve Backup Dashboard にアクセスすることができます。



Arcserve Backup Dashboard のメイン画面が表示され、指定した Arcserve Backup 環境のステータスレポートを提供するスナップショット ビューが表示されます。

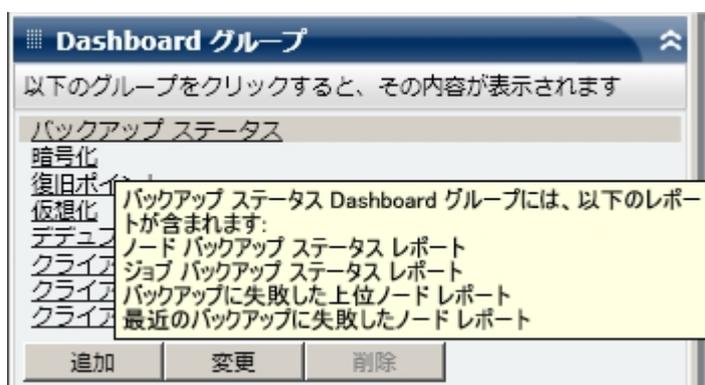
2. Arcserve Backup Dashboard の GUI は、左側の 2 つのレポート内容ペインと、右側の 1 つのレポート表示 ウィンドウから構成されています。2 つのレポート内容ペインには、利用可能な全レポートの一覧 (アルファベット順) および事前に設定された

Dashboard グループの一覧が表示されます。レポート表示ウィンドウには、選択したレポートが表示されます。

注：表示される各レポートの詳細については、対応するレポートの説明を参照してください。

Dashboard グループ

Dashboard グループとは複数のレポートを 1 つにまとめたもので、グループを選択すると、事前にグループとして設定したレポートが表示されます。Dashboard グループを使用して、個別のニーズや優先事項に基づいたレポート表示を構成できます。また、環境の特定領域内のステータスに焦点を絞るのに便利です。グループ名をクリックすると、その Dashboard グループに含まれるレポートを表示できます。さらに、マウスのカーソルを特定のグループ名の上に置くと、ツールチップボックスがカーソルの下に表示されて、グループ名およびそのグループに含まれるレポートの一覧が表示されます。



Arcserve Backup Dashboard では、Dashboard グループを作成、変更、および削除できます。新規グループを作成した場合、そのグループは作成したユーザにしか使用できません。新規グループを作成しても、ほかのユーザには表示されません。たとえば、ユーザ A がグループを作成しても、ユーザ B にはそのグループが表示されません。

Arcserve Backup Dashboard には、設定済みのグループがいくつかあり、必要に応じて変更できます。ただし削除はできません。設定済みのグループに加えて、カスタマイズした Dashboard グループを作成すると、グループとして表示されている個々のレポートを選択することができます。各 Dashboard グループに含めることのできるレポートは、1 つ以上 4 つまでです。

また、グループを選択し、[デフォルトとして設定] ボタンをクリックすることにより、どの Dashboard Group がデフォルトグループになるか指定することもできます。現在のデフォルトグループのグループ名の隣には、(デフォルト) と表示されます。ユーザが Arcserve Backup Dashboard にアクセスするたびに、デフォルトの Dashboard Group が表示された Dashboard が開きます。

事前設定済みの Dashboard グループを以下に示します。

バックアップ ステータス Dashboard グループ

ノード バックアップ ステータスレポート、ジョブ バックアップ ステータスレポート、バックアップに失敗したノード レポート、および最近のバックアップに失敗したノード レポートが含まれます。

暗号化 Dashboard グループ

ノード暗号化ステータスレポート、テープ暗号化ステータスレポートが含まれます。

復旧ポイント Dashboard グループ

ノード復旧ポイント レポート、仮想マシン復旧ポイント レポート、RPOレポート、およびメディア検証レポートが含まれます。

仮想化 Dashboard グループ

仮想マシン復旧ポイント レポート、仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポートが含まれます。

デデュプリケーション Dashboard グループ

デデュプリケーション ステータスレポート、メディアのデータ分布レポートが含まれます。

クライアント ノード ハードウェア情報 Dashboard グループ

ネットワークレポート、CPU レポート、メモリレポート、および SCSI/ファイバカード レポートが含まれます。

クライアント ノード ストレージ情報 Dashboard グループ

ボリュームレポート、ディスクレポートが含まれます。

クライアント ノード ソフトウェア情報 Dashboard グループ

ノード層レポート、エージェント分布レポート、ノード サマリレポート、およびライセンスレポートが含まれます。

リソース使用率 Dashboard グループ

CPU 使用率レポート、ディスクパフォーマンスレポート、メモリ使用率レポート、およびネットワーク使用率レポートが含まれます。

データトレンド Dashboard グループ

アプリケーション データトレンド レポートおよびボリュームトレンド レポートが含まれます。

アーカイブ Dashboard グループ

ジョブ アーカイブ ステータスレポート、ノード アーカイブ ステータスレポート、およびアーカイブ サイズ合計レポートが含まれます。

詳細情報:

[Dashboard グループの追加](#)

[Dashboard グループの変更](#)

Dashboard グループの削除

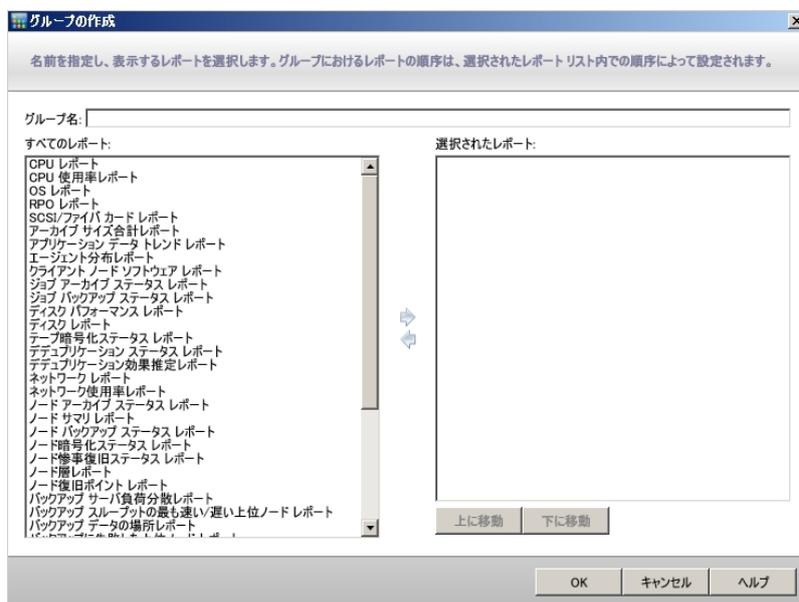
Dashboard グループの追加

Arcserve Backup Dashboard では新規 Dashboard グループを追加して、グループを選択したときに自分でカスタマイズしたレポートのグループを表示させることができます。Dashboard グループに含めることのできるレポートは、1 つ以上 4 つまでです。

Dashboard グループの追加

1. [Dashboard グループ] ペインで [追加] ボタンをクリックします。

[グループの作成] ダイアログボックスが開き、利用可能なレポートの一覧が表示されます。



2. [グループ名] に、作成するグループの名前を入力します。

注: 2 つのグループに同じ名前を付けることはできません。

3. [全レポート] ボックスから、新規グループに含めるレポートを選択し、右矢印アイコンをクリックします。

レポートが [選択されたレポート] ボックスに追加されます。Dashboard グループには少なくとも 1 つのレポートを含める必要があります。

注: 複数のレポートを選択する場合は、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら選択します。

4. Dashboard ウィンドウでのレポートの表示順序は、[選択されたレポート] ボックスでの一覧表示の順序によって決まります。必要に応じて、[上に移動] ボタンや [下に移動] ボタンをクリックして、レポートを表示する順序をカスタマイズできます。

一覧の 1 番目のレポートはウィンドウの最上段の左に、2 番目のレポートはその右に、3 番目は最下段の左に、4 番目はその右に表示されています。

5. [OK]ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

新規グループの名前が [Dashboard グループ]一覧に表示され、選択できるようになります。

詳細情報:

[Dashboard グループ](#)

[Dashboard グループの変更](#)

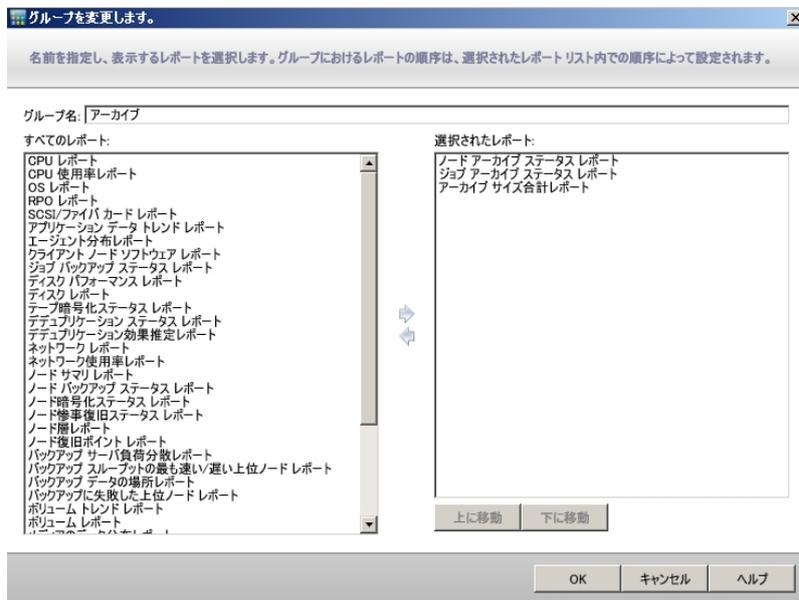
[Dashboard グループの削除](#)

Dashboard グループの変更

Arcserve Backup Dashboard では、既存の Dashboard グループを変更して、グループを選択したときに表示されるカスタマイズ済みレポートのグループを変更することができます。

Dashboard グループの変更

1. [Dashboard グループ] ペインで、変更する既存のグループを選択します。
[変更] ボタンが有効になります。
2. [変更] ボタンをクリックします。
[グループの変更] ダイアログボックスが開き、選択したグループに含まれるレポートおよび利用可能なレポートの一覧が表示されます。



3. 左向き矢印アイコンや右向き矢印アイコンを使用して、レポートを [選択されたレポート] ボックスに追加したり、ボックスから削除したりします。
レポートが [選択されたレポート] ボックスに追加またはボックスから削除されます。
注: Dashboard グループには少なくとも 1 つのレポートを含める必要があります。
グループ名 やレポートの表示順序も変更できます。
一覧の 1 番目のレポートはウィンドウの最上段の左に、2 番目のレポートはその右に、3 番目は次の段の左側に、4 番目はその右に、という順序で表示されます。
4. [OK] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

変更したグループが [Dashboard グループ]一覧に表示され、選択できるようになります。

詳細情報:

[Dashboard グループ](#)

[Dashboard グループの追加](#)

[Dashboard グループの削除](#)

Dashboard グループの削除

Arcserve Backup Dashboard では、既存の Dashboard グループを削除できます。変更可能なグループはどれでも削除できますが、あらかじめ用意されているグループは削除できません。

Dashboard グループの削除

1. [Dashboard グループ] ペインで、削除する既存のグループを選択します。
削除] ボタンが有効になります。
2. 削除] ボタンをクリックします。
選択したジョブを削除してもいいかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。
3. [OK] をクリックして、Dashboard グループを削除します(または [キャンセル] をクリックして処理を中止します)。
選択したグループ名が [Dashboard グループ] 一覧から削除されます。

詳細情報:

[Dashboard グループ](#)

[Dashboard グループの追加](#)

[Dashboard グループの変更](#)

ノード層

Arcserve Backup サーバ管理またはセントラルエージェント管理を使用して、Arcserve Backup ノードに割り当てられた優先度の分類を変更できます。これらの層を使用して、Arcserve Backup Dashboard に表示される情報が、監視されるノードの優先度レベルによってフィルタされます。

[ノード層の設定]ダイアログボックスには3つの優先度カテゴリ(高優先度、中優先度、低優先度)が含まれ、ノードがシステムに追加されたときや参照されたときに自動的に挿入されます。デフォルトでは、高優先度層はすべての Arcserve Backup サーバ(プライマリおよびメンバ) および Arcserve Backup アプリケーション エージェントがインストールされているすべてのノード(Oracle、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Microsoft Sharepoint Server など)が含まれるように設定され、低優先度層は他のすべてのノード(ファイルシステムエージェントがインストールされている)が含まれるように設定されます。中優先度層はどのノードも含まれないように設定され、カスタマイズの用途に利用できます。

各層に対するノード割り当ては、個別のニーズを満たすように再構成やカスタマイズが可能です。それには [ノード層の環境設定]ダイアログボックス(Arcserve Backup サーバ管理からアクセス可能)、バックアップマネージャ([ソース]タブの Windows システム上で右クリック)、セントラルエージェント管理(Windows システムを右クリック)のいずれかを使用します。

注:

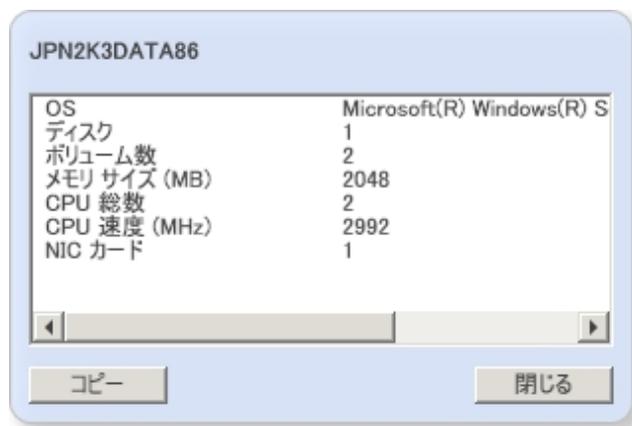
- ノード層の設定の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。
- ノード層のモニタの詳細については、「[ノード層レポート](#)」を参照してください。

ノード情報

ノード名の一覧を含むすべての Dashboard レポートには、各ノードのサマリ情報を迅速かつ容易に表示できる機能が用意されています。ノード名を選択してマウスボタンをダブルクリックすると、関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。

このポップアップ ウィンドウで、[コピー]ボタンをクリックしてノード情報の内容をメモリにコピーし、電子メール、または MS Word やメモ帳などのテキスト エディタに貼り付けることができます。

注: ご使用のバックアップ環境にバージョン r16.5 以降の Unix/Linux/Mac エージェントが含まれている場合は、SRM 情報収集が Windows 以外のノードをサポートしていないため、このウィンドウにはノードの情報が表示されません。



レポートを電子メールで送信

すべてのレポートで、収集したデータをエクスポートできます。レポートごとに、SMTPサーバを通してレポートを電子メール送信するかどうかを指定できます。レポートを電子メールで送信する場合、内容は印刷の場合と同じで、すべてのグラフは埋め込みイメージとして送信されます。

レポートを電子メールで送信する方法

1. 電子メールアイコン(各レポートの右上隅に表示)をクリックします。

[レポートを電子メールで送信]ダイアログボックスが開きます。

2. [宛先]フィールドに、電子メールの各受信者の電子メールアドレスを入力します(受信者の電子メールアドレスをCCフィールドに入力することもできます)。

[宛先]フィールドには、少なくとも1つの受信者アドレスを入力する必要があります。

注: 複数の電子メールアドレスを入力するには、各アドレスをセミコロンで区切る必要があります。

3. スケジュールした電子メールに優先度(高、通常、低)を指定し、電子メールに記載するコメントを追加し、件名を入力します。

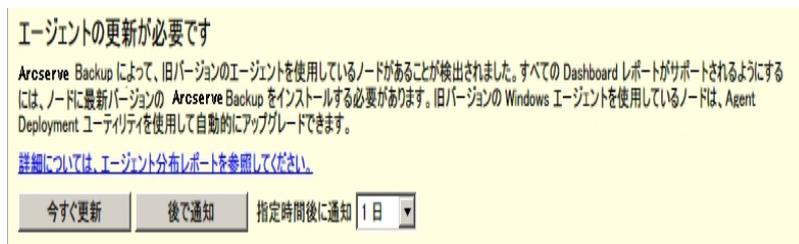
注: 件名を入力しなかった場合、[OK]ボタンをクリックすると、確認を求めるポップアップウィンドウが表示されます。

4. [OK]をクリックします。

対応するレポートが含まれている電子メールが相手先に送信されます。

エージェントの更新アラート

Arcserve Backup Dashboard にアクセスすると、Arcserve Backup エージェントが Arcserve Backup の最新版より前のバージョンでインストールされていないかどうかを検出するために、バックアップ環境の調査が行われます。Dashboard では、r16.5 以降の Arcserve Backup エージェントがインストールされているノードに関してのみモニタおよびレポートが可能です。古いバージョンのエージェントが検出された場合、[エージェントの更新が必要です]という警告が表示され、最新版より前の Arcserve Backup エージェントがインストールされているバックアップ環境内のノードを示します。この警告ウィンドウでは、古いバージョンの Windows のエージェントを今すぐ簡単かつ迅速に更新できます。リクエストは、指定した日数後または後で通知するように選択できます。



後で通知するように指定すると、[エージェントの更新が必要です]アラートが非表示になり、Dashboard が古いエージェントに関するレポート情報を提供しないことを通知する小さなリマインダ ウィンドウで置き換えられます。

Arcserve Backup によって古いエージェントが検出されました。これらのエージェントのアップグレードに関する詳細については、[ここをクリックしてください。](#)

注： Arcserve Backup プライマリ サーバのインストール中に Agent Deployment パッケージをインストールしなかった場合は、[エージェントの更新が必要です]アラートウィンドウの [今すぐ更新] ボタンをクリックし、Arcserve Backup インストールメディアで Agent Deployment パッケージのパスを指定することによって、古いバージョンのエージェントをアップグレードできます。Agent Deployment パッケージの詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

重要なデータに適切な保護を確実に適用し、Arcserve Backup が提供する最新の機能とテクノロジーをフルに活用するためには、バックアップ環境全体を最新のバージョンに保っておくことが不可欠です。

第5章: Global Dashboard の使用

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Global Dashboard のユーザ インターフェース	76
ブランチ グループの管理	97
データの同期化	105
手動によるブランチ サイトの環境設定	108
Global Dashboard 情報のエクスポート/インポート	110

Global Dashboard のユーザ インターフェース

Global Dashboard を使用する前に、関連するユーザ インターフェースに慣れておく必要があります。これらのインターフェースは、主にセントラル マネージャとブランチ マネージャのインターフェースから構成されています。

詳細情報:

[セントラル マネージャについて](#)

[ブランチ マネージャについて](#)

セントラル マネージャについて

セントラル マネージャは、Global Dashboard 環境全体のスナップショット概要を提供します。このユーザ インターフェースを使用すれば、任意またはすべての登録済みブランチ サイトのステータスを単一の場所ですばやく簡単にモニタすることができます。また、セントラル マネージャにはブランチ サイトに関するすべてのログ メッセージが表示されます。セントラル マネージャは、(グローバルビュー モードが選択されている場合に) Global Dashboard コンソールから、Global Dashboard ツールバーのアイコン ボタンをクリックしてアクセスできます。



セントラル マネージャから、以下のタスクを実行できます。

- Global Dashboard サービス(Arcserve Backup Central Remoting Server) の停止と開始
- 登録されているすべてのブランチ サイトのステータスの管理とモニタ
- ブランチ サイト グループの管理
- ログ メッセージの表示
- 詳細設定の変更

セントラル マネージャの左ペインには、主に、データ同期ステータス情報が、セントラル Arcserve Backup データベース、統計、タスク、グループの各セクションに分けて表示されます。

The screenshot displays the 'Central CA Arcserve Backup Data' section of the Global Dashboard. It features a light blue header with the title 'セントラル CA Arcserve Backup データ...' and a sub-header 'セントラルサーバ: JA8ESP1X64'. Below this, the 'サービスステータス:' is shown as '稼動中' (Operational) with a green '停止' (Stop) button. The '統計' (Statistics) section shows 'すべてのブランチ サイト (合計: 3)' (All Branch Sites (Total: 3)) with a list: 3 レディ (Ready), 0 登録済み (Registered), 0 フル同期実行中 (Full Sync Running), 0 中断 (Interrupted), 0 増分同期実行中 (Incremental Sync Running), and 0 48 時間内に未更新 (Not updated within 48 hours). The 'タスク' (Tasks) section includes 'ブランチ管理' (Branch Management), 'ログメッセージ' (Log Messages), and '詳細設定...' (Detailed Settings...). The 'グループ' (Groups) section is currently empty.

セントラル Arcserve Backup データベース

[セントラル Arcserve Backup データベース]セクションには、データベースが接続しているセントラルプライマリサーバ名が表示されます。[開始]または[停止]のインジケータをクリックして、Global Dashboard サービス(Arcserve Backup

Central Remoting Server) のステータスを切り替えることもできます。メンテナンスを行う必要がある場合はサービスを停止できます。

統計情報

[統計]画面には、登録されているすべてのブランチサイトの全体のステータスが表示されます。ステータスカテゴリは、以下のとおりです。

レディ

ブランチ サイトは登録されており、データ同期(フルまたは増分)は正常に完了しています。

登録済み

ブランチ サイトは登録されていますが、フルデータ同期は実行されていません。

フル同期実行中

ブランチ サイトのフルデータ同期を実行中です。

一時停止中です。

ブランチ接続は中断されています。セントラルプライマリサーバは、このブランチサイトからのデータを受信できません。

増分同期実行中

ブランチ サイトの増分データ同期を実行中です。

48 時間内に未更新

ブランチ サイトのデータ同期が、過去 48 時間内に実行されていません。

タスク

[タスク]セクションには、以下の選択項目が表示されます。

ブランチ管理

セントラル マネージャの右ペインに、ブランチ サイトのステータス情報が表示されます。詳細については、「[ブランチ管理画面について](#)」を参照してください。

ログメッセージ

セントラル マネージャの右ペインに、ログメッセージ情報が表示されます。詳細については、「[ログメッセージ画面について](#)」を参照してください。

拡張設定

[詳細設定]ダイアログボックスが表示され、ブランチ サイトからセントラル サイトへの接続用の動作パラメータを指定できます。詳細については、「[詳細設定について](#)」を参照してください。

Global Dashboard 情報のエクスポート

セントラルプライマリサーバから一時的な場所にダッシュボード情報(グループ化環境設定および登録済みブランチ情報)をエクスポートできます。その後、この保存された情報を別のセントラルプライマリサーバにインポートできます。詳細については、「[Global Dashboard 情報のエクスポート](#)」を参照してください。

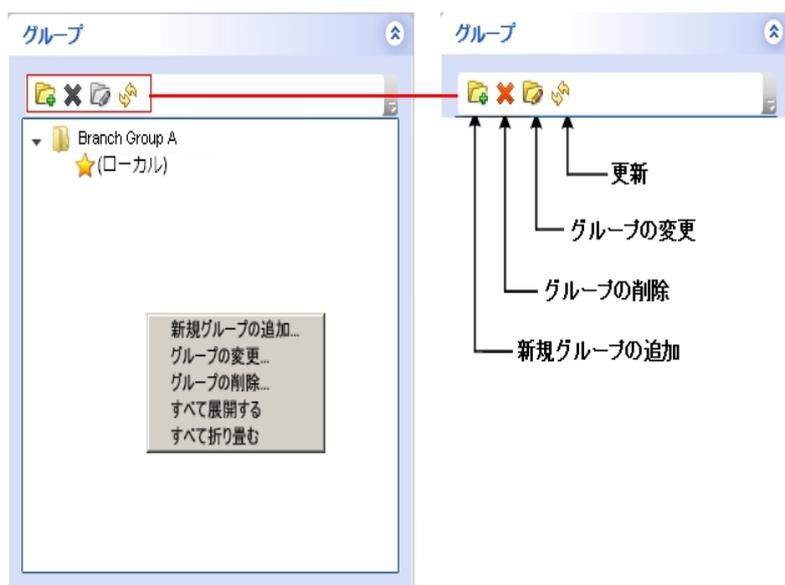
Global Dashboard 情報のインポート

一時的な場所にエクスポートされたダッシュボード情報(グループ化環境設定および登録済みブランチ情報)を取得して、セントラルプライマリサーバにインポートできます。詳細については、「[Global Dashboard 情報のインポート](#)」を参照してください。

グループ

[グループ]セクションには、設定されているブランチグループの名前が表示されます。一覧表示された各ブランチグループを展開して、そのグループに含まれているブランチプライマリサーバ名を表示することができます。このセクションで、コンテキストメニューまたはツールバーボタンから、以下のグループ関連のタスクを実行できます。

注：これらのグループ関連のタスクでは、変更結果を表示するために Global Dashboard コンソールを再起動する必要があります。



新しいグループの追加

新しいブランチサイトグループを追加する場合に指定します。ブランチサイトは、複数のブランチグループに属している場合があります。詳細については、「[新しいブランチグループの追加](#)」を参照してください。

グループの削除

既存のブランチ グループを削除する場合に指定します。このコマンドを使用して、選択したブランチ サイトをブランチ グループから削除するか、ブランチ グループ全体を削除することができます。詳細については、「[ブランチ グループの削除](#)」を参照してください。

グループの変更

既存のブランチ グループ内に含まれるブランチ サイトを変更する場合に指定します。詳細については、「[ブランチ グループの変更](#)」を参照してください。

更新

選択したブランチ グループの表示情報を更新する場合に指定します。

詳細情報:

[ブランチ管理画面について](#)

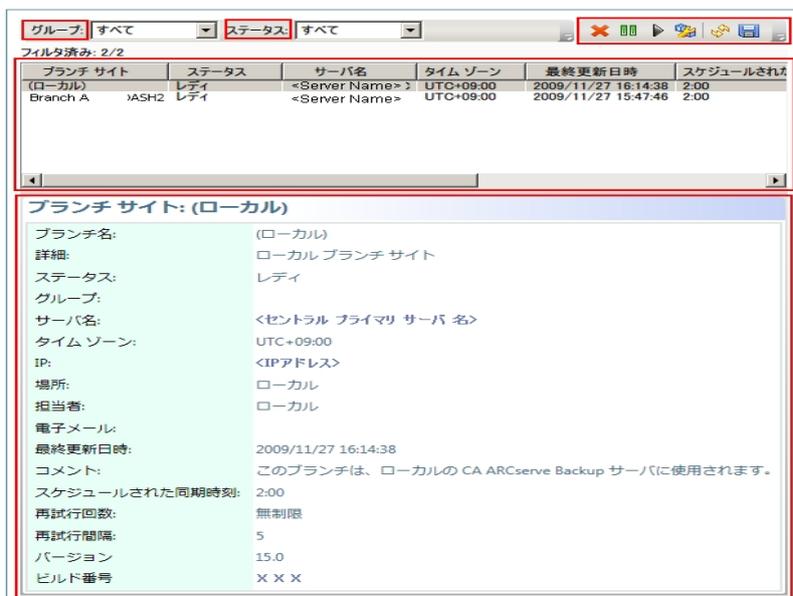
[\[ブランチ環境設定\]ダイアログ ボックスについて](#)

[\[ログ メッセージ \]ペインについて](#)

[詳細設定について](#)

ブランチ管理画面について

ブランチ管理画面は、セントラル マネージャの左 ペインの [タスク] セクションからアクセスします。ブランチ管理画面には、ブランチ グループおよび関連付けられているブランチ サイトのステータス情報が表示されます。この画面は、上下 2 つのセクションに分かれています。



ブランチ管理画面 - 上部セクション

ブランチ管理画面の上部セクションには、登録されているすべてのブランチ サイトのステータス情報を表示したり、フィルタをかけて特定のブランチ グループのステータス情報のみを表示したりすることができます。また、フィルタをかけて、以下のブランチ サイト ステータスの情報のみを表示することも可能です。

すべて

すべてのブランチ サイトを(フィルタをかけずに) 表示する場合に指定します。

レディ

レディ状態(登録されていて、データ同期が正常に完了している状態)のブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。

登録済み

登録されているがフルデータ同期がまだ実行されていないブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。

フル同期実行中

フルデータ同期を実行中のブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。

一時停止中です。

接続が中断されているブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。セントラルプライマリサーバは、このブランチ サイトからのデータを受信できません。

増分同期実行中

増分データ同期を実行中のブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。

48 時間内に未更新

データ同期が過去 48 時間内に実行されていないブランチ サイトのみを表示する場合に指定します。

[ブランチ管理]の列見出しのいずれかをクリックすると、表示されている情報を指定した列で並べ替えることができます。

ブランチ サイト

登録済みのブランチ サイトの名前を示します。

注: [ローカル]は、ダッシュボード関連データがロカールサーバのものであることを示します。サーバをセントラルプライマリサーバとして設定している場合、このサーバに格納されているデータは、別のブランチプライマリサーバと同様に扱われ、「ローカル」サーバとして Global Dashboard にレポートされません。

ステータス

対応するブランチ サイトのステータスを示します。ブランチ サイトが 48 時間内に未更新(セントラルサイトと同期されていない)の場合は、赤い文字による表示で、この状況を警告し、非アクティビティの原因調査を促します。

サーバ名

対応するブランチ サイトのブランチプライマリサーバの名前を示します。

タイムゾーン

対応するブランチ サイトのタイムゾーンを示します。ここに一覧表示されるタイムゾーンは、GMT (グリニッジ標準時) との時差数を基準にしています。同期時刻をスケジュールする際や、複数の表示時刻を確認する際、タイムゾーンの時差を把握しておくことが重要になります。表示時刻は常に、セントラルサイトの時刻をベースにしています。

例:

- ◆ セントラルサイトがニューヨークにある(GMT-05:00 タイムゾーン)。
- ◆ ブランチサイトが東京にある(GMT+09:00 タイムゾーン)。

- ◆ 東京のランチ サイトが午前 7 時(ニューヨークのローカル時刻) にセントラル サイトに同期するようスケジュールされている場合、ランチ サイトの同期は、東京のローカル時刻の午後 9 時に実行されることとなります($5 + 9 = 14$ 時間の時差)。
- ◆ Global Dashboard のすべてのフィールド([最終更新日時]、[スケジュールされた同期時刻]、[エラーメッセージ時刻]など) の表示時刻は、午前 7 時になります。

最終更新日時

前回データ同期(フルまたは増分)が正常に完了した日付と時刻を示します。日時情報は、セントラルプライマリサーバのローカル時刻に基づきます(ランチサイトのローカル時刻と同じであるとは限りません)。

スケジュールされた同期時刻

データ同期を試行する時刻(毎日)を示します。この毎日の時刻は、セントラルプライマリサーバのローカル時刻に基づきます(ランチサイトのローカル時刻と同じであるとは限りません)。

再試行回数

ランチプライマリサーバがセントラルプライマリサーバへのデータ同期を試行する回数を示します。何らかの理由で、スケジュールされた時刻にデータ同期が実行できなかった場合、ランチプライマリサーバは再試行間隔として指定された時間(分)待ってから、再試行します。データ同期に成功せずに、この再試行の最大回数に達した場合は、ランチプライマリサーバはその日の試行を停止し(翌日にはスケジュールされたとおりに再試行します)、エラーメッセージを生成します。

再試行間隔

ランチプライマリサーバがセントラルプライマリサーバへのデータ同期アップロードを次に試行するまでに待つ時間(分単位)を示します。何らかの理由で、スケジュールされた時刻にデータ同期が実行できなかった場合、ランチプライマリサーバは再試行間隔として指定された時間(分)待ってから、再試行します。

バージョン

ランチサイトにインストールされている Arcserve Backup のバージョンを示します。

ビルド番号

ランチサイトにインストールされている Arcserve Backup のビルド番号を示します。

ライセンスの確認

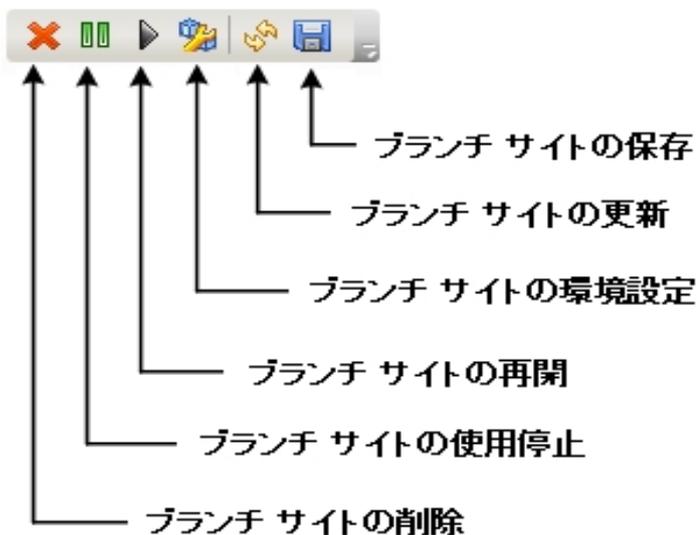
セントラルサイトで対応する各ブランチ サイトに対して実行されたライセンス確認のステータス(成功または失敗)を示します。ライセンスステータスが「失敗」の場合、ブランチ サイト情報は赤いテキストで表示されます。その場合、セントラルプライマリサーバとのデータ同期を可能にするには、追加のライセンスを取得するか、既存ライセンスの再割り当てが必要になります。

ブランチ管理画面 - 下部セクション

下部セクションには、選択したブランチ サイトのサマリ情報が表示されます。

ブランチ管理画面 - アイコン ボタン

ブランチ管理画面には、選択したブランチ サイトを管理するためのアイコン ボタンも表示されます。



ブランチ サイトの削除

選択したブランチ サイトを削除する場合に指定します。ブランチ サイトが Global Dashboard 環境から削除され、関連データはレポートされなくなります。ブランチ サイトが削除された後、そのブランチ サイトをセントラル サイトへ追加(および再登録)する唯一の方法は、[Global Dashboard ブランチ マネージャ]ダイアログ ボックスの下部にある [再登録]リンクを使用することです。

詳細については、「[ブランチ マネージャについて](#)」を参照してください。

ブランチ サイトの使用停止

選択したブランチ サイトからセントラルプライマリサーバへの接続を停止する場合に指定します。メンテナンスの実行が必要な場合や、ブランチ サイトで問題が発生した場合に、このモードを使用できます。停止中、このブランチ

チ サイトからセントラルプライマリサーバへの Dashboard 関連データのアップロードは実行されません。

ブランチ サイトの再開

選択したブランチ サイトからセントラルプライマリサーバへの停止中の接続を再開する場合に指定します。次のスケジュールされた同期時刻に、このブランチ サイトからセントラルプライマリサーバに、Dashboard 関連データがアップロードされます。

ブランチ サイトの環境設定

選択したブランチ サイトを環境設定する場合に指定します。このボタンをクリックすると、[\[ブランチ環境設定\]ダイアログボックス](#)が表示され、データ同期をスケジュール設定するためのパラメータを指定できます。詳細については、「[\[ブランチ環境設定\]ダイアログボックスについて](#)」を参照してください。

ブランチ サイトの更新

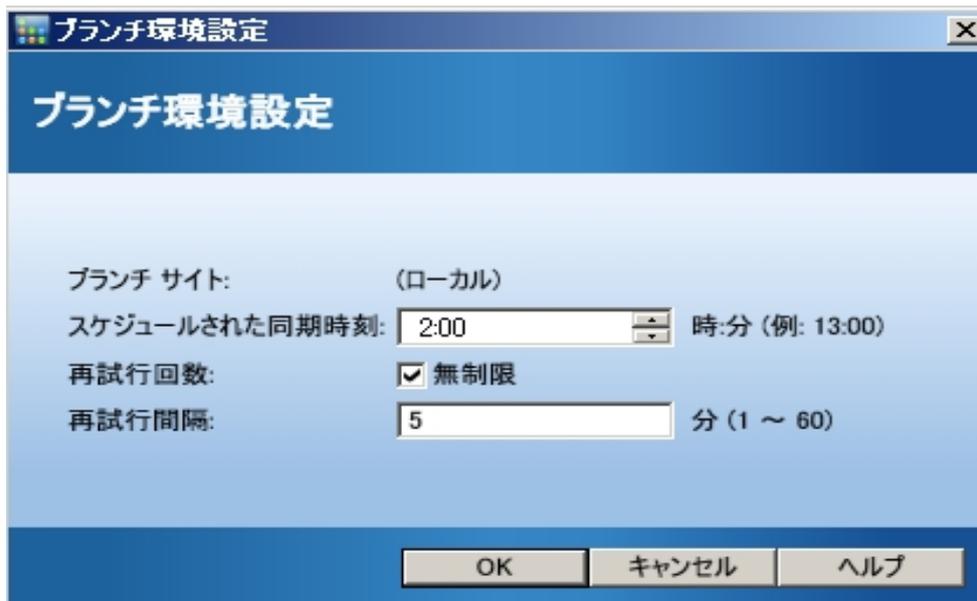
[\[ブランチ管理\]](#)画面の列に表示されているデータを更新する場合に指定します。

ブランチ サイトの保存

[\[ブランチ管理\]](#)画面の列に表示されているすべてのデータを保存する場合に指定します。このボタンをクリックすると、[\[名前を付けて保存\]](#)ダイアログボックスが表示され、表示されているデータを、スプレッドシートで使用できるように表形式のデータを格納するカンマ区切り値ファイル(CSV)として保存できます。

「ブランチ環境設定」ダイアログボックスについて

「ブランチ環境設定」ダイアログボックスには、セントラル マネージャ(ブランチ サイトの環境設定アイコン) からアクセスし、データ同期プロセスをスケジュールリングするための動作パラメータを指定します。これらのブランチ環境設定を変更した場合、次のデータ同期までは適用されません。



ブランチ サイト

選択したブランチ プライマリ サーバの名前を表示します。このダイアログ ボックス上の残りのすべての設定は、このブランチ サイトのデータ同期プロセスにのみ適用されます。(「ローカル」が表示されている場合、セントラル プライマリ サーバに設定されている場合でも、この設定がローカル ブランチ プライマリ サーバに適用されることを示します。)

スケジュールされた同期時刻

データ同期を試行する時刻(毎日)を指定します。この毎日の時刻は、セントラル プライマリ サーバのローカル時刻に基づきます(ブランチ サイトのローカル時刻と同じであるとは限りません)。時刻の設定は、24 時間形式を使用し、デフォルト設定は午前 2 時です。

ブランチ同期のスケジュール時刻が変更された場合、次の同期が実行されるまで変更は有効になりません。

例:

- ◆ 午前 1 時に、スケジュールされた同期時刻を午前 2 時から午前 4 時に変更した場合、ブランチ サイトはその日の午前 2 時にセントラル サイトに接続し、そ

の際に午前 4 時という新しいスケジュール時刻を取得します。したがって、次の増分同期は同日の午前 4 時に実行されます。

- ◆ 午前 3 時に、スケジュールされた同期時刻を午前 2 時から午前 4 時に変更した場合、ランチサイトは次の日の午前 2 時にセントラルサイトに接続し、午前 4 時という新しいスケジュール時刻を取得します。したがって、次の増分同期は次の日の午前 4 時に実行されます。
- ◆ 午前 2 時まで待たずに新しいランチ サイトのデータ同期するには、「Arcserve Dashboard Sync Service」を該当するランチ サイトで再起動できます。

再試行回数

ランチ プライマリ サーバがセントラル プライマリ サーバへのデータ同期を試行する回数を指定します。何らかの理由で、スケジュールされた時刻にデータ同期が実行できなかった場合、ランチ プライマリ サーバは再試行間隔として指定された時間(分) 待ってから、再試行します。データ同期に成功せずに、この再試行の最大回数に達した場合は、ランチ プライマリ サーバはその日の試行を停止し(翌日にはスケジュールされたとおりに再試行します)、エラーメッセージを生成します。

デフォルトでは、 無制限 チェックボックスが選択されており、再試行の回数に制限はありません。このチェックボックスが選択されていない場合、別のフィールドが表示され、再試行の回数を指定できます。この指定回数は、0 から 100 の間である必要があり、デフォルトでは再試行回数が 10 回に設定されます。



再試行回数: 無制限
 回 (0 ~ 100)

再試行間隔

ランチ プライマリ サーバがセントラル プライマリ サーバへのデータ同期アップロードを次に試行するまでに待機する時間(分単位)を指定します。何らかの理由で、スケジュールされた時刻にデータ同期が実行できなかった場合、ランチ プライマリ サーバは再試行間隔として指定された時間(分) 待ってから、再試行します。

この数は 1 から 60 の間である必要があり、デフォルトでは再試行の間隔が 5 分間に設定されます。

「ログ メッセージ」ペインについて

「ログ メッセージ」画面は、セントラル マネージャの左 ペインの「タスク」セクションからアクセスします。「ログ メッセージ」画面には、登録されているブランチ サイトのログ メッセージ情報が表示されます。



重大度	ブランチ名	時刻	メッセージ
警告	BRANCH A	2009/07/22 15:47:24	ブランチ DB クリアが起動されました。古いブランチ データはクリアされ、新しいブランチ データ
警告	BRANCH A	2009/07/22 15:47:24	ブランチ サイトでは、データベースのフル同期を再度実行する必要があります。
警告	BRANCH A	2009/07/22 15:43:21	ブランチ DB クリアが起動されました。古いブランチ データはクリアされ、新しいブランチ データ
警告	BRANCH A	2009/07/22 15:43:21	ブランチ サイトでは、データベースのフル同期を再度実行する必要があります。
警告	(ローカル)	2009/07/22 14:48:45	ブランチ DB クリアが起動されました。古いブランチ データはクリアされ、新しいブランチ データ
警告	(ローカル)	2009/07/22 14:48:45	ブランチ サイトでは、データベースのフル同期を再度実行する必要があります。

この一覧には、登録されているすべてのブランチ サイトのログ メッセージを表示することも、フィルタをかけて特定のブランチ サイトのログ メッセージのみを表示することもできます。また、フィルタをかけて、特定の重大度レベル [すべて]、[メッセージ]、[警告]、[エラー]、または [エラーと警告]) のメッセージのみを表示することも可能です。

「ログ メッセージ」の列見出しのいずれかをクリックすると、表示されている情報を指定した列で並べ替えることができます。

Severity

表示されているログ メッセージの重大度レベルを示します。使用可能なレベルは、警告、エラー、およびメッセージです。デフォルトの設定は、[エラーと警告]です。

ブランチ名

ログ メッセージが記録されているブランチ プライマリ サーバの名前を示します。

注: 「ローカル」は、ダッシュボード関連データがローカル サーバのものであることを示します。サーバをセントラル プライマリ サーバとして設定している場合、このサーバに格納されているデータは、別のブランチ プライマリ サーバと同様に扱われ、「ローカル」サーバとして Global Dashboard にレポートされます。

時刻

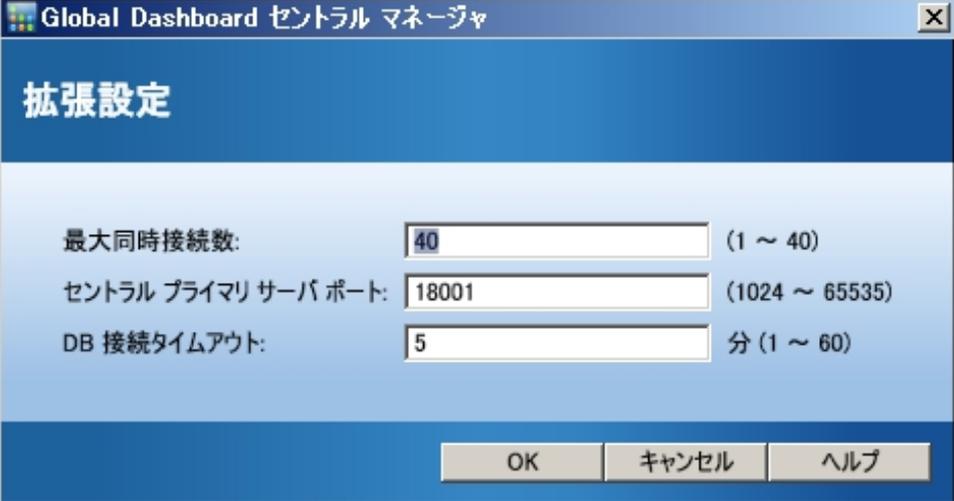
ログメッセージが記録された日付と時刻を示します。日時情報は、セントラルプライマリサーバのローカル時刻に基づきます(ブランチ サイトのローカル時刻と同じであるとは限りません)。

また、[ログメッセージ]画面には、すべてのログ エントリのクリア、ログ表示の更新、およびログの保存のための各アイコンが表示されます。



詳細設定について

[拡張設定] ダイアログボックスは、セントラル マネージャの左 ペイン([タスク] 領域) からアクセスします。このダイアログ ボックスで、ブランチ サイトからセントラル サイトへの接続用の動作パラメータを指定できます。



最大同時接続数:	<input type="text" value="40"/>	(1 ~ 40)
セントラル プライマリ サーバ ポート:	<input type="text" value="18001"/>	(1024 ~ 65535)
DB 接続タイムアウト:	<input type="text" value="5"/>	分 (1 ~ 60)

OK キャンセル ヘルプ

同時接続の最大数

ブランチ サイトからセントラル サイトに実行できるデータ同期の同時接続の最大数を指定します。通常、同時接続数が増えると、システムリソースに与えられる影響も大きくなります。そのため、規模が大きくパフォーマンスが高いシステムでは、この数値を増やして、データ同期の総時間を最小限に抑えることができます。規模が小さくパフォーマンスの低いシステムの場合は、数値を減らすと、システムのパフォーマンスを向上させることができますが、データ同期の総時間は増大します。

数値は、1 から 40 までの間で指定します。デフォルトの同時接続の最大数は 40 です。

たとえば、同時接続の最大数を 5 に指定していて、同時刻にデータ同期を実行するようスケジュールされたブランチ サイトが 8 つある場合、最初の 5 つのブランチ サイトのみがスケジュールされた時刻に同期処理を開始します。残りの 3 つのブランチ サイトは、指定された時間(分単位) 待ってから再試行し、実行されている同期の最大数が 4 以下であれば、次のブランチ サイトがセントラル サイトへの接続を許可され、データ同期が開始されます。

セントラルプライマリサーバポート

登録されたブランチプライマリサーバがダッシュボード関連データを送信するためにセントラルプライマリサーバに接続する際に使用する入力ポート番号を指定します。このポート番号は、セントラルサイトからしか制御できないため、

デフォルトの数値を変更した場合、通信を有効にするために各ブランチ サイトでも同じ変更を行う必要があります。

数値は、1024 から 65535 までの間で指定します。デフォルトのポート番号は 18001 です。

DB 接続タイムアウト

(セントラルプライマリサーバ上の) Arcserve Backup Central Remoting Server サービスがセントラルデータベースからのレスポンスを待つ時間(分単位)を指定します。このレスポンスをきっかけに、ブランチ データベースからセントラルデータベースにダッシュボード関連データがアップロードされます。通常、タイムアウト時間を増やすと、タイムアウト エラーが発生する可能性は低くなります。セントラルデータベースのレスポンス時間が遅い場合(特にセントラルデータベースがリモートサーバ上にある場合)は、DB 接続タイムアウトの値を増やしたほうが良い可能性があります。そのため、規模が小さくパフォーマンスの低いシステム(または非常に稼働率が高いシステム)では、この数値を減らせば、タイムアウト エラーが発生する可能性を低く抑えることができます。

数値は、1 ~ 60 分までの間で指定します。デフォルトのデータベース接続タイムアウトは 5 分です。

ブランチ マネージャについて

[Global Dashboard ブランチ マネージャ]ダイアログ ボックスには、[スタート]メニューから([プログラム]- [CA]- [Arcserve Backup]- [ブランチ マネージャ]) アクセスします。このダイアログ ボックスを使用すると、各ローカルブランチ サイトで以下のタスクを実行できます。

- ブランチ サイト環境設定情報の変更
- セントラル サイトへの接続に使用するブランチ サイト接続情報の変更
- Arcserve Backup セントラル データベースへの接続に使用する認証情報の変更
- 手動によるデータ同期処理の開始
- 手動によるブランチ同期サービスの稼働管理
- 最新のログ メッセージの表示

注：このダイアログ ボックスの下部にある「再レジスタ」リンクでは、ユーザのブランチ登録が不注意に削除された場合に、同じセントラル サイトへのブランチ サイトを登録することができます。

ブランチ プライマリサーバ情報

[変更] ボタンをクリックすると、[ブランチ サイト情報]ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスには、ローカルブランチ サイトの情報が表示されます。

このダイアログ ボックスから、ブランチ サイトのブランチ名、詳細、場所、連絡先情報(電子メールアドレスなど) の変更や役立つコメントの追加を行えます。

ブランチ サイト情報を更新して [OK]をクリックすると、変更した情報はすぐにセントラル サイトに送信され、セントラル マネージャに表示されます。

セントラルプライマリサーバ情報

[変更] ボタンをクリックすると、[セントラル サイト情報] ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスには、セントラル サイトへの接続情報が表示されます。ブランチ サイトがセントラル サイトに正常に接続するには、これらのパラメータが、セントラル サイトの環境設定で指定したものと同一である必要があります。

これらの接続パラメータの中に、セントラル サイト環境設定のパラメータと一致しないものがある場合は、このダイアログ ボックスを使用して、セントラルプライマリサーバの名前(または IP アドレス)、セントラルプライマリサーバにアクセスするためのポート番号、またはユーザの認証パスワードを変更できます。[テスト] ボタンをクリックすれば、セントラル サイトへの接続ステータスを確認できます。

セントラルサイトの接続情報を更新して [OK]をクリックすると、変更した情報は、次のスケジュールされた同期時刻に、ブランチ同期サービスによってブランチサイトのデータをセントラルサイトにアップロードするために使用されます。

以下のような場合には、このダイアログ ボックスを使用して、ブランチサイト上のセントラルサイト情報を変更できます。

- ◆ 以前に IP アドレスを使用してセントラルプライマリサーバを環境設定していて、その IP アドレスを変更した。
- ◆ セントラルプライマリサーバ上の Arcserve Backup Central Remoting Server サービスのポート番号を変更した。

- ◆ Windows アカウント AS_CDASH_USR のパスワードを変更した(これは、セントラルプライマリサーバのパスワード ポリシー要件によるものと考えられます)

注：セントラルプライマリサーバを変更する場合、すべてのブランチプライマリサーバから新しいセントラルプライマリサーバへの登録を行う必要があります。

データ同期

[同期] ボタンをクリックすると、手動でローカルブランチサイトのフルデータ同期を開始できます。

重要：フルデータ同期は、それまでにブランチサイトからアップロードされたすべてのデータを完全に上書きします。そのため、手動によるフルデータ同期は、ブランチサイトからセントラルサイトに初めてデータを同期する場合か、それまでにセントラルサイトにアップロードしたブランチサイトのデータが古くなっていたり破損していると思われる場合にのみ実行してください。

フルデータ同期処理の間、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンされ、処理が完了するまで、Arcserve Backup ジョブ情報のログはデータベースに挿入できなくなります。ほかと競合しない都合の良い時間であることを確認してから、処理を続行してください。

データ同期サービス

[停止] ボタンをクリックすると、データ同期サービス(Arcserve Dashboard Sync Service) のステータスが、[稼動中] から [停止] に切り替わります(ボタンの名称も [開始] に切り替わります)。 [開始] ボタンをクリックすると、データ同期サービスのステータスが、[停止] から [稼動中] に切り替わります(ボタンの名称も [停止] に切り替わります)。

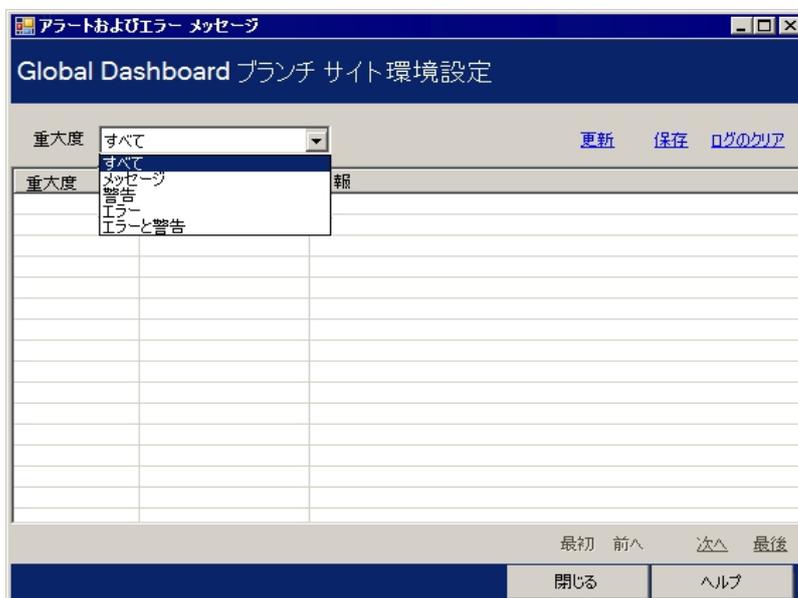
データ同期サービスは、前回同期が実行されて以降に変更、削除、または追加されたブランチ サイト データのアップロードを実行します。

サービスが稼働している場合、ブランチ サイトのデータは、リクエストされたときに(スケジュールによって、または手動で開始されたときに) セントラル サイトに同期されます。サービスが停止している場合、ブランチ サイトからセントラル サイトへの通信は停止され、データ同期は実行されません。

最新のエラー メッセージ

ブランチ サイトからレポートされた最新のエラー メッセージが一覧表示されます。このブランチ マネージャのメッセージは、セントラル マネージャに一覧表示されるログ メッセージとは異なるものです。このエラーはブランチ サイトで検出される(データ送信時に発生するエラー)のに対して、セントラル マネージャのエラーはセントラル サイトで検出されます(データ受信時に発生するエラー)。

[更新]リンクをクリックすると、表示されている最新のエラー メッセージが更新されます。[さらに表示]リンクをクリックすると、[警告およびエラー メッセージ] ウィンドウが開き、すべてのブランチ関連メッセージが展開表示されます。表示されたこれらのメッセージを、重大度レベル [エラー]、[警告]、[メッセージ]など)に基づいてフィルタすることができます。また、このウィンドウから、表示の更新、ログ エントリを CSV ファイルとして保存、すべてのログ エントリのクリアを実行できます。



ブランチグループの管理

Global Dashboard ブランチグループは、選択したときに、事前にグループとして設定したブランチプライマリサーバからのレポート情報が統合して表示されるように、カスタマイズにより複数のブランチサイトを1つにまとめたものです。ブランチグループを使用して、個別のニーズや優先事項に基づいたレポート情報の表示を構成できます。地域別、グループの機能別、社内の部門別などのカテゴリ別に、論理的にブランチグループを構成できます。ブランチグループは、ダッシュボード環境の特定領域内のステータスに焦点を絞るのに便利です。1つのブランチサイトを複数のブランチグループに所属させることができます。

セントラルマネージャの左ペインから [グループ] セクションにアクセスして、さまざまなブランチグループ関連のタスクを実行できます。一覧表示された各ブランチグループを展開して、そのグループに含まれているブランチプライマリサーバ名を表示することができます。このセクションで、コンテキストメニューまたはツールバーボタンからグループ関連のタスクを実行できます。

詳細情報:

[新しいブランチグループの追加](#)

[ブランチグループの削除](#)

[ブランチグループの変更](#)

新しいブランチグループの追加

Global Dashboard では、新規ブランチグループを追加して、グループを選択したときに自分でカスタマイズしたブランチサイトのグループを表示できます。

新しいブランチグループの追加

1. セントラル マネージャの [グループ] ペインで、[新規グループの追加] ボタンをクリックします。

[新規グループの追加] ダイアログ ボックスが表示され、使用可能なすべての登録済みブランチサイトの一覧が表示されます。

2. 作成する新しいブランチグループの名前と説明を入力します。
グループ名では大文字と小文字は区別されません。
注: 2つのブランチグループに同じ名前を付けることはできません。
3. [使用可能なブランチサイト] ボックスから、新規ブランチグループに含めるブランチサイトを選択し、右矢印アイコンをクリックします。
ブランチサイトが [選択されたブランチサイト] ボックスに追加されます。
注: 複数のブランチサイトを選択する場合は、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらか選択します。
4. [OK] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。
新しいブランチグループの名前がセントラル マネージャの [グループ] 一覧に表示され、選択できるようになります。

注: このグループ関連のタスクでは、変更結果を表示するために Global Dashboard コンソールを再起動する必要があります。

詳細情報:

[ブランチグループの削除](#)

[ブランチグループの変更](#)

ブランチグループの削除

Global Dashboard では、ブランチグループ全体を削除したり、ブランチグループから選択したブランチサイトを削除できます。

ブランチグループの削除

1. セントラル マネージャの [グループ] ペインから、削除する既存のブランチグループを選択します(または一覧表示されているブランチグループを展開して、特定のブランチサイトを選択します)。

削除] ボタンが有効になります。

2. 削除] ボタンをクリックします。

選択したブランチグループを削除してもいいかどうか(または選択したブランチサイトをブランチグループから削除してもいいかどうか)を確認するダイアログボックスが表示されます。

3. 削除リクエストを承認する場合は [[はい] をクリックします(または、処理を中止する場合は [[いいえ] をクリックします)。

選択したブランチグループ(またはブランチサイト)が [グループ] ペインに表示されなくなります。

注-

:

このグループ関連のタスクでは、変更

結果を
表示す
るため
に

G-
l-
o-
b-
a-
l

D-
a-
s-
h-
b-
o-
a-
r-
d

コン
ソール
を再
起動
する
必

要
が
あ
り
ま
す。
。

詳細情報:

[新しいブランチグループの追加](#)

[ブランチグループの変更](#)

ブランチグループの変更

Global Dashboard では、選択した際に、既存のブランチグループを変更することができます。

ブランチグループの変更

1. セントラル マネージャの [グループ] ペインから、変更する既存のブランチグループを選択します。

[グループの変更] ボタンが有効になります。

2. [グループの変更] ボタンをクリックします。

[グループの変更] ダイアログ ボックスが表示され、選択したブランチグループに含まれるすべてのブランチ サイト、および利用可能なすべての登録済みブランチ サイトが一覧表示されます。

注: 複数のブランチ サイトを選択する場合は、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらか選択します。

- a. ブランチ サイトをブランチグループに追加するには、[使用可能なブランチ サイト] ボックスからブランチ サイトを選択し、右矢印アイコン ボタンをクリックします。

選択したブランチ サイトが [使用可能なブランチ サイト] から消え、[選択されたブランチ サイト] ボックスに追加されます。

- b. ブランチ サイトをブランチグループから削除するには、[選択されたブランチ サイト] ボックスからブランチ サイトを選択し、左矢印アイコン ボタンをクリックします。

選択したブランチ サイトが [選択されたブランチ サイト] から消え、 [使用可能なブランチ サイト] ボックスに追加されます。

3. [OK] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

変更されたブランチ グループの名前がセントラル マネージャの [グループ] 一覧に表示され、選択できるようになります。

詳細情報:

[新しいブランチ グループの追加](#)

[ブランチ グループの削除](#)

データの同期化

データ同期は、ブランチサイトのデータベースからセントラルサイトのデータベースにダッシュボード関連情報を送信する処理です。データを同期することによって、複数のデータベースにあるデータが、整合性の取れた最新の状態に保たれ、登録済みの各ブランチサイトのデータベースと同じ情報がセントラルサイトのデータベースに格納(およびレポート)されます。フル同期処理の間、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンされます。増分データ同期の間は、Arcserve Backup サービスはシャットダウンされません。

データ同期は、指定したスケジュールに従って自動で、または必要なときに手動で実行することができます。

詳細情報:

[自動データ同期の変更](#)

[手動によるデータの同期](#)

自動データ同期の変更

自動データ同期は、毎日、指定したスケジュール時刻に試行されます。この毎日の時刻は、セントラルプライマリサーバのローカル時刻に基づきます(ブランチサイトのローカル時刻と同じではありません)。

各ブランチサイトのデータ同期をスケジュール設定する動作パラメータは、[ブランチ環境設定]ダイアログボックスで指定します。このダイアログボックスから、自動データ同期パラメータを表示および変更できます。

自動データ同期パラメータの変更

1. セントラルマネージャの左ペインから、[ブランチ管理]タスクオプションをクリックします。

ブランチ管理画面が、右ペインに表示されます。

2. ブランチ管理画面から、データ同期パラメータを表示または変更するブランチサイトを選択します。

[ブランチサイトの環境設定]アイコンボタンが有効になります。

3. [ブランチサイトの環境設定]アイコンボタンをクリックします。

[ブランチ環境設定]ダイアログボックスが表示され、選択したブランチサイト名が表示されます。

4. 必要に応じて、データ同期パラメータ(スケジュールされた毎日の同期時刻、再試行の最大回数、再試行の時間間隔)を変更し、[OK]をクリックします。これらのパラメータの詳細については、「[\[ブランチ環境設定\]ダイアログボックスについて](#)」を参照してください。

新たに設定したデータ同期パラメータが保存され、[ブランチ環境設定]ダイアログボックスが閉じます。

詳細情報:

[手動によるデータの同期](#)

手動によるデータの同期

スケジュールされたデータ同期の次の試行まで待てない場合、手動でブランチサイトのデータ同期処理を開始できます。手動でデータ同期を実行すると、常にフルデータ同期になります。

重要:フルデータ同期は、それまでにブランチサイトからアップロードされたすべてのデータを完全に上書きします。そのため、手動によるフルデータ同期は、ブランチサイトからセントラルサイトに初めてデータを同期する場合か、それまでにセントラルサイトにアップロードしたブランチサイトのデータが古くなっていたり破損していると思われる場合にのみ実行してください。

フルデータ同期処理の間、Arcserve Backup データベースエンジンは数分間シャットダウンされ、処理が完了するまで、Arcserve Backup ジョブ情報のログはデータベースに挿入できなくなります。ほかと競合しない都合の良い時間であることを確認してから、処理を続行してください。

手動によるデータの同期

1. [スタート]メニューから [プログラム]- [CA]- [Arcserve Backup]- [ブランチ マネージャ]の順に選択します。

[ブランチ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。

2. [同期]ボタンをクリックします。

フルデータ同期が開始されます。ブランチサイトからセントラルサイトにデータがアップロードされます。

データ同期処理が完了すると、[ブランチ マネージャ]ダイアログ ボックスが更新され、前回のフルデータ同期の日時として新しい日付と時刻が表示されます。詳細については、「[ブランチ マネージャについて](#)」を参照してください。

詳細情報:

[自動データ同期の変更](#)

手動によるブランチサイトの環境設定

ブランチサイトの環境設定情報を変更する必要がある場合、ローカルブランチサイトの設定やブランチサイトからセントラルサイトへの接続設定を手動で変更することができます。

手動によるブランチサイトの環境設定

1. [スタート]メニューから [プログラム]- [CA]- [Arcserve Backup]- [ブランチ マネージャ]の順に選択します。

[ブランチ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。詳細については、「[ブランチ マネージャについて](#)」を参照してください。

2. ローカルブランチサイトの情報を変更するには、ブランチサイトの [変更] ボタンをクリックします。

[ブランチ サイト情報]ダイアログ ボックスが表示されます。

ダイアログ ボックスには、ローカルブランチサイトの情報が表示されます。このダイアログ ボックスから、ブランチサイトの詳細、場所、連絡先情報(電子メールアドレスなど)の変更や役立つコメントの追加を行えます。

3. ブランチサイト情報を更新したら、[OK]をクリックして、設定を保存します。
変更した情報はすぐにセントラルサイトに送信され、セントラルマネージャに表示されます。
4. セントラルプライマリサーバへの接続情報を変更するには、セントラルプライマリサーバへの接続の [変更] ボタンをクリックします。

[セントラルサイト情報]ダイアログボックスが表示されます。

セントラル サイト情報

Global Dashboard ブランチサイトの環境設定

このブランチプライマリサーバの接続先であるセントラルプライマリサーバの情報を入力してください。また、セントラルプライマリサーバにアクセスするために、ユーザ認証情報も入力する必要があります。

セントラルプライマリサーバアドレス: JA8ESP1X64 *

ポート: 18001 * (1024 ~ 65535)

ユーザ名: AS_CDASH_USR

パスワード: ***** * テスト

OK キャンセル

ダイアログボックスには、セントラルサイトへの接続情報が表示されます。ブランチサイトがセントラルサイトに正常に接続するには、これらのパラメータが、セントラルサイトの環境設定で指定したものと同一である必要があります。

これらの接続パラメータの中に、セントラルサイト環境設定のパラメータと一致しないものがある場合は、このダイアログボックスを使用して、セントラルプライマリサーバの名前(またはIPアドレス)、セントラルプライマリサーバにアクセスするためのポート番号、またはユーザの認証パスワードを変更できます。

[テスト]ボタンをクリックすれば、セントラルサイトへの接続ステータスを確認できます。

5. セントラルサイトへの接続情報を更新したら、[OK]をクリックします。

変更した情報はすぐにブランチ同期サービスで使用され、ブランチサイトのデータがセントラルサイトにアップロードされます。

Global Dashboard 情報のエクスポート/インポート

Global Dashboard ドメインでは、セントラルプライマリサーバには、登録済みのブランチプライマリサーバのグループ化環境設定情報が格納されています。Arcserve Backup では、メンバサーバをプライマリサーバに昇格、またはプライマリサーバをメンバサーバに降格できます。この昇格/降格プロセス中に Global Dashboard セントラルプライマリサーバとして設定するプライマリサーバも変更する場合、古いセントラルプライマリサーバに存在する収集済み情報を引き続き使用できます。Global Dashboard を使用すると、古いセントラルプライマリサーバからこの情報をエクスポート(および保存)して、新しいセントラルプライマリサーバにインポートできます。

以下の各シナリオでは、タスクを実行する前に Global Dashboard 情報のエクスポートを検討する必要があります。

- セントラルプライマリサーバをメンバサーバに降格する
- メンバサーバをセントラルプライマリサーバに昇格する
- セントラルプライマリサーバのデータベースを Microsoft SQL Server Express または Microsoft SQL Server 2000 に変更する(Global Dashboard は Microsoft SQL Express または Microsoft SQL 2000 をサポートしていないため、このサーバは Global Dashboard セントラルプライマリサーバとして機能しなくなります)

Notes:

- ◆ サーバが Global Dashboard ドメイン内のセントラルプライマリサーバで、新しく選択したデータベースが Microsoft SQL Server Express または Microsoft SQL Server 2000 (セントラルプライマリサーバではサポートされていない) である場合は、必要に応じて、データベースを変更する前に Global Dashboard 情報をエクスポートして保持します。データベース変更操作の完了後、そのサーバはサポートされるセントラルプライマリサーバではなくなるため、Global Dashboard 情報は失われます。グループ化環境設定および登録済みブランチ情報を保持したい場合は、データベース変更操作を実行する前に、この Global Dashboard 情報を一時的な場所にエクスポートする必要があります。
- ◆ セントラルプライマリサーバのデータベースをある SQL Server から別の SQL Server に変更する場合は、Global Dashboard 情報をエクスポートする必要はありません。
- ◆ セントラルプライマリサーバ用の Arcserve Backup データベース(ASDB) を上書きする場合、ブランチ環境設定情報も上書きされるので、関連するすべてのブランチプライマリサーバから「再登録」操作を手動で実行する必要があります。「再登録」操作は、フル同期を自動的に実行します。

Global Dashboard 情報のエクスポート

Global Dashboard セントラルプライマリサーバを変更(降格または昇格)する場合、グループ化環境設定および登録済みブランチ情報を保持して再利用できません。そのためには、最初にこのダッシュボード情報を一時的な場所にエクスポート(および保存)する必要があります。新しいGlobal Dashboard セントラルプライマリサーバの設定が完了したら、保存した情報を新しいセントラルプライマリサーバにインポートします。

エクスポート処理が完了すると、以下の2つのファイルが新規作成されます。

- GlobalDashboardInfo.xml
- BranchContactInfo.txt

これらの新しいファイルの保存先を指定して、新しいセントラルプライマリサーバが設定されたときにこれらを取得してインポートできるようにしておく必要があります。

Global Dashboard 情報のエクスポート

1. セントラル マネージャの左 ペインから、**[Global Dashboard 情報のエクスポート]** タスク オプションをクリックします。

[フォルダの参照] ダイアログ ボックスが開きます。

2. **[フォルダの参照]** ダイアログ ボックスで、Global Dashboard 情報のエクスポート先のフォルダを指定または参照します。必要な場合、この情報を保存するためのフォルダを新しく作成できます。

重要: このデスティネーション フォルダの場所を覚えて(記録して) おき、インポート プロセス中にその場所をすぐに検索および選択できるようにしておきます。

3. **[OK]** ボタンをクリックしてエクスポート プロセスを開始します。

「GlobalDashboardInfo.xml」および「BranchContactInfo.txt」ファイルが生成され、指定されたデスティネーション フォルダにエクスポートされます。エクスポートしたファイルがすでに存在する場合、既存のファイルを上書きするかどうかをたずねるアラートメッセージが表示されます。

[Global Dashboard 情報のエクスポート] 画面が開き、エクスポート プロセスのステータスが表示されます。

4. エクスポート プロセスが完了すると、情報メッセージ画面が表示されます。**[OK]** をクリックします。

新しく作成された「GlobalDashboardInfo.xml」および「BranchContactInfo.txt」ファイルが指定したデスティネーション フォルダに存在することを確認します。

Global Dashboard 情報のインポート

プライマリサーバを Global Dashboard セントラルプライマリサーバに昇格する場合、グループ化環境設定、および古いセントラルプライマリサーバに存在した登録済みのブランチ情報を再利用できます。そのためには、一時的な場所にエクスポートされた Dashboard 情報ファイルを検索して、新しい Global Dashboard セントラルプライマリサーバにインポートする必要があります。

Global Dashboard 情報のインポート

1. セントラル マネージャの左 ペインから、**[Global Dashboard 情報のインポート]** タスク オプションをクリックします。

[フォルダの参照] ダイアログ ボックスが開きます。

2. **[フォルダの参照]** ダイアログ ボックで、前にエクスポートされた「GlobalDashboardInfo.xml」および「BranchContactInfo.txt」ファイルが存在するフォルダを見つけます。

注: これらのファイルが存在するフォルダを選択するだけでよく、個々のファイルを選択する必要はありません。

3. **[OK]** ボタンをクリックしてインポート プロセスを開始します。

「GlobalDashboardInfo.xml」および「BranchContactInfo.txt」ファイルが新しいセントラルプライマリサーバにインポートされます。

- ◆ 選択したフォルダにエクスポートされたファイルが存在しない場合、別のフォルダの選択を求めるアラート メッセージが表示されます。
- ◆ インポート ファイルに記述されているブランチの接続情報がすでにセントラルプライマリサーバに存在する場合、アラート メッセージが表示され、そのブランチ連絡先情報を上書きするかどうかの選択を求められます。

[Global Dashboard 情報のインポート] 画面が開き、インポート プロセスのステータスが表示されます。

4. インポート プロセスが完了すると、情報メッセージ画面が表示されます。 **[OK]** をクリックします。
5. 登録されている(インポートした「BranchContactInfo.txt」ファイルに指定されている)ブランチプライマリサーバの各管理者に対して、新しいセントラルプライマリサーバについて通知し、各ブランチサイトから新しいセントラルプライマリサーバとのフルデータ同期を実行するように要求します。

第6章: Dashboard レポート

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve Backup Dashboard レポートの種類	115
エージェント分布レポート	119
アプリケーション データトレンド レポート	123
バックアップ データの場所レポート	127
バックアップ サーバ負荷分散レポート	131
クライアント ノード ソフトウェアレポート	135
CPU レポート	140
メディアのデータ分布レポート	144
デデュPLICATION 効果推定レポート	148
デデュPLICATION ステータスレポート	151
ディスクレポート	155
ジョブ アーカイブ ステータスレポート	159
ジョブ バックアップ ステータスレポート	165
ライセンスレポート	171
メディア検証レポート	174
メモリレポート	178
ネットワークレポート	182
ノード アーカイブ ステータスレポート	186
ノード バックアップ ステータスレポート	192
ノード 惨事復旧ステータスレポート	198
ノード暗号化ステータスレポート	209
ノード復旧ポイント レポート	214
ノード サマリレポート	218
ノード層レポート	221
最近のバックアップに失敗したノード レポート	225
OS レポート	230
RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント) レポート	233
SCSI/ファイバカード レポート	237
SRM PKI 使用率レポート	241
テープ暗号化ステータスレポート	248
バックアップに失敗したノード レポート	253
バックアップ スループットの最も速い遅い上位ノード レポート	257

未変更ファイル数の多い上位ノード レポート	260
アーカイブ サイズ合計レポート	263
保護 サイズ合計レポート	266
仮想マシン復旧ポイント レポート	269
仮想化 - 最新バックアップ ステータス レポート	273
ボリューム レポート	277
ボリュームトレンド レポート	282

Arcserve Backup Dashboard レポートの種類

Arcserve Backup Dashboard のレポートは、バックアップレポート、アーカイブレポート、およびストレージリソース管理 (SRM) レポートの3種類に分類されます。さらに、より詳細な情報を表示するレポートヘドリルダウンする高度な機能を持つレポートもあります。

注: すべての Dashboard レポートについて、[グローバルビュー]オプションを使用してレポートにアクセスすると、追加のフィルタが使用可能になり、ブランチ名を指定 (または [ブランチ名]ドロップダウンから選択) することによって、表示されるデータを絞り込むことができます。その場合、すべての表形式レポートは、ブランチ名を表示する列が含まれるよう展開されます。

詳細情報:

[バックアップ環境タイプのレポート](#)

[SRM タイプのレポート](#)

バックアップ環境タイプのレポート

バックアップ環境レポートでは、バックアップ インフラストラクチャのスナップショット概要が利用できます。このレポートにより、関連情報を迅速かつ容易にモニタすることができ、バックアップ環境のパフォーマンスと操作の管理に役立ちます。バックアップ環境レポートには、次のような情報が含まれます：指定した Arcserve Backup ドメイン、サーバ、ノード、および/またはジョブの全体のステータス、暗号化/非暗号化セッションを含むメディア、仮想化環境のステータス、デデュプリケーションの効果など。また、このバックアップ環境レポートでは、環境内の特定の領域にドリルダウンする機能が追加され、領域ごとに焦点をさらに絞り込んだステータスの表示が利用できます。

これらのレポートは、レポート同士を組み合わせることで評価し、結果を比較したり、バックアップ環境の状態について全体像をより詳しく把握したりすることが重要です。

注： Dashboard を初めて使用する際、バックアップ環境レポートにバックアップデータが表示されない場合がありますが、データを収集して表示するには、その前に1度はバックアップジョブが実行されている必要があります。

詳細情報：

[SRM タイプのレポート](#)

SRM タイプのレポート

ストレージ リソース管理 (SRM) レポートを使用すると、ストレージ環境全体を一目でモニタし、関連するリソースすべてのステータスを測定することができます。また、パフォーマンス分析やリアルタイムレポートを実行して、ストレージ環境内のすべての Windows ノードについて動作の傾向を見極めることができます。ストレージ環境と個々のストレージコンポーネントを把握しておけば、潜在的なボトルネックをすばやく特定し、サービスの中断を予防できます。

SRM レポートには、バックアップ インフラストラクチャ内のノードに関する次のような情報が含まれます: 使用済みおよび利用可能なストレージ容量、メモリ容量、OS のバージョン、インストールされているネットワーク インターフェースカードおよびその速度、プロセッサアーキテクチャおよびその速度、SCSI カードまたはファイバカードを介して共有ストレージや外部メディアにアクセスしているノードなど。また、SRM レポートでは、環境内の特定の領域にドリルダウンする機能が追加され、領域ごとに焦点をさらに絞り込んだステータスの表示が利用できます。

これらの SRM レポートは、レポート同士を組み合わせることで評価し、結果を比較したり、ストレージ環境の状態について全体像をより詳しく把握したりすることが重要です。

注: Dashboard を初めて使用する際、SRM レポートに SRM データが表示されない場合がありますが、データを収集して表示するには、その前に 1 度は SRM プロブが実行されている必要があります。デフォルトでは、毎日午後 2 時に SRM プロブおよびデータ更新が実行されます。ただし、SRM 情報をすぐに収集および表示したい場合は、[SRM プロビング] ダイアログ ボックスの [今すぐプロブ実行] ボタンをクリックすれば、すぐにプロブを開始できます。詳細については、[「SRM プロブ設定」](#)を参照してください。

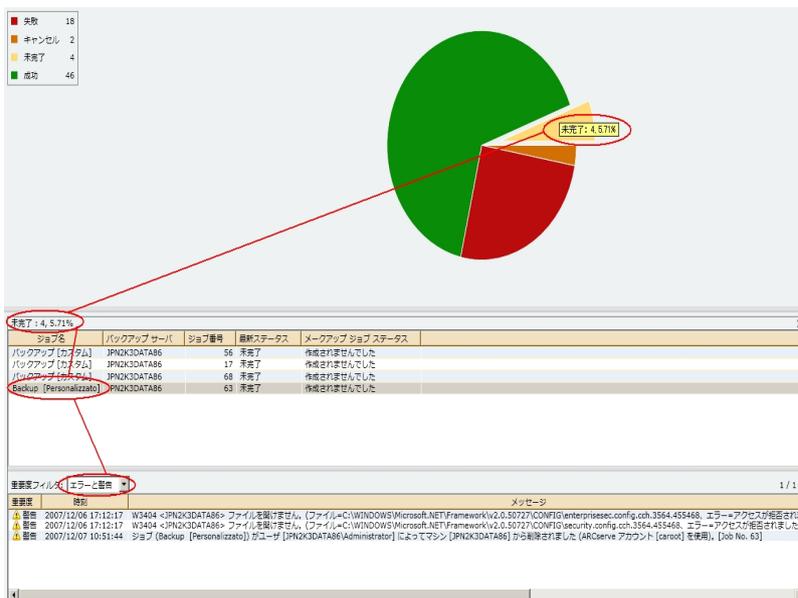
詳細情報:

[バックアップ環境タイプのレポート](#)

ドリルダウン レポート

レポートによっては、さらに詳しい情報を表示するレポートへとドリルダウンする拡張機能が備えられています。そのようなレポートでは、任意のステータスカテゴリをクリックすると、サマリ情報の表示から、そのカテゴリに重点を置いた詳細なレポートビューへとドリルダウンすることができます。

また、レポートによっては、個別のジョブやノードの名前をクリックしてさらにドリルダウンし、ジョブやノードに関連するすべてのログメッセージの詳細な一覧を表示することができます。



エージェント分布レポート

エージェント分布レポートは、各ノードにインストールされているすべての Arcserve Backup エージェントのバージョンを表示します。Dashboard は、Arcserve Backup r16.5 以降および関連するエージェントのみをサポートしています。Dashboard をフルに活用し、その機能を十分に活かすためには、すべてのエージェントのバージョンが r16.5 またはそれ以降である必要があります。エージェントのバージョンが r16.5 以降でない場合、関連するすべての Dashboard レポートで、そのノードに対応するデータが表示されません。ドロップダウンメニューからエージェントを選択して、表示をフィルタすることができます。すべてのエージェントを含めたり、個別にエージェントを指定したりできます。ドロップダウンメニューには、すべての「アクティブ」なエージェントが含まれます。「アクティブ」とは、以前に Arcserve Backup を使用してそのエージェントをバックアップしたことがあるという意味です。

このレポートを使用して、Arcserve Backup エージェントのバージョンステータスをすばやく調べたり、アップグレードが必要なエージェントを特定したりすることができます。

詳細情報:

[エージェント分布レポート - レポートの利点](#)

[エージェント分布レポート - レポートビュー](#)

[エージェント分布レポート - ドリルダウンレポート](#)

エージェント分布レポート - レポートの利点

エージェント分布レポートは、各ノードにインストールされている Arcserve Backup エージェントのバージョンを分析して判別するのに役立ちます。Dashboard は、Arcserve Backup r16.5 以降および関連するエージェントのみをサポートしています。

各種 Dashboard レポートで、表示されていないバックアップ データがある場合には、このレポートを使用して、Arcserve Backup エージェントの中にバージョンが r16.5 にアップデートされていないものがあるかどうかを調べることができます。

Dashboard と Arcserve Backup エージェントが提供する最新の機能をフルに活用するためには、これらの製品を常に最新のバージョンにしておくことが必要です。

Arcserve Backup エージェントを最新バージョンにアップデートする方法

- テクニカル サポートのオンライン サポートにアクセスし、サポートの所在地、受付時間、電話番号の一覧を参照してください。
- Arcserve Backup の [管理] セクションから、Agent Deployment ツールを使用することができます。

詳細情報:

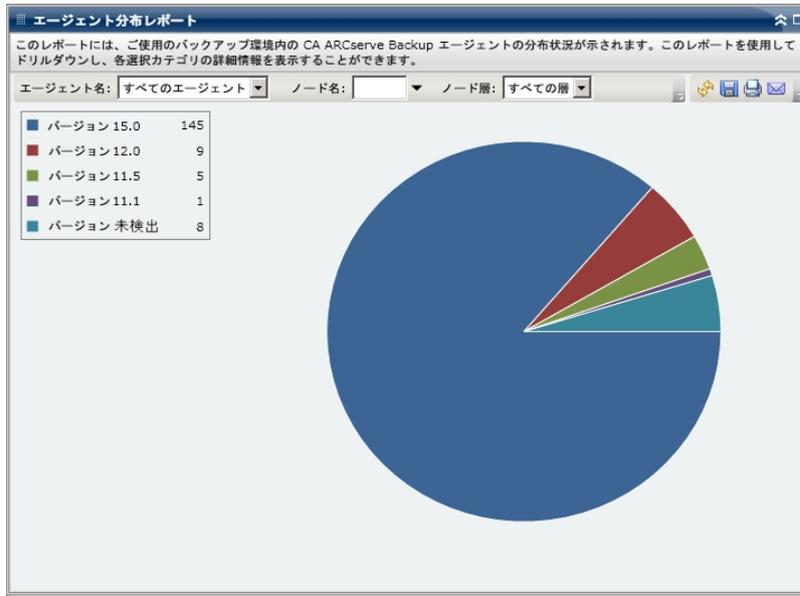
[エージェント分布レポート](#)

[エージェント分布レポート - レポート ビュー](#)

[エージェント分布レポート - ドリルダウンレポート](#)

エージェント分布レポート - レポート ビュー

エージェント分布レポートは円グラフ形式で表示され、選択したエージェント名のバージョン分布を表します。このレポートには、エージェント名、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

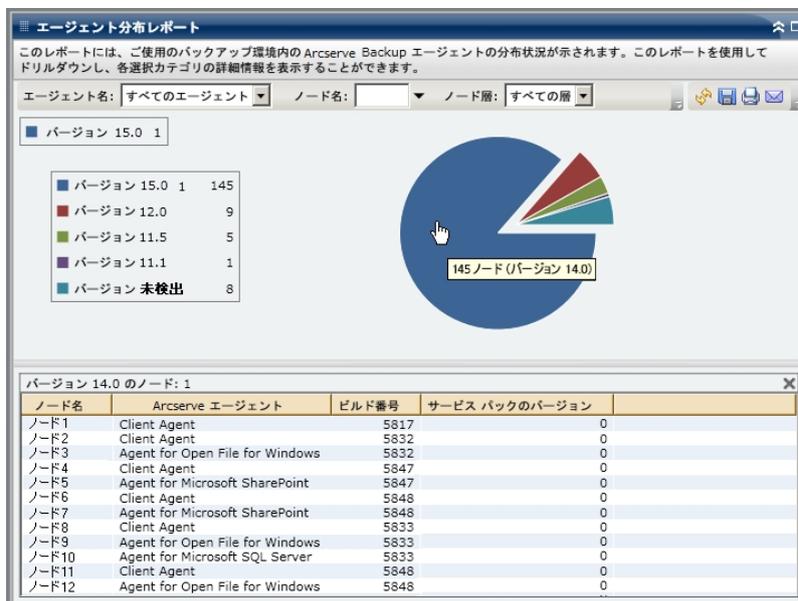


エージェント分布レポート - ドリルダウンレポート

エージェント分布レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。円グラフをクリックすると、エージェント情報の詳細が表形式で表示されません。

注 Arcserve: エージェントのリストで、Agent for SAP は Agent for Oracle として数えられます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



エージェント分布レポートには、r16.5 以降のリリースの Arcserve Backup エージェントのノードのサービスパック (SP) バージョンのみが表示されます。以前のリリースの場合、SP 情報は、以下のテーブルを使用してビルド番号を対応する SP 番号に変換することによって、レポートの [ビルド] 列から識別することができます。

注: 詳細については、Arcserve [サポート](#) にお問い合わせください。

詳細情報:

[エージェント分布レポート](#)

[エージェント分布レポート - レポートの利点](#)

[エージェント分布レポート - レポートビュー](#)

アプリケーション データトレンド レポート

アプリケーション データトレンド レポートは SRM レポートの 1 つで、各種類のアプリケーションの使用データ サイズを履歴ビューに表示し、それらのアプリケーションの増加トレンドを予測します。このレポートに基づいて、将来必要なディスクスペースを予想し、準備することができます。このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行するノードの情報が表示されます。ノードごとにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

詳細情報:

[アプリケーション データトレンド レポート - レポートの利点](#)

[アプリケーション データトレンド レポート - レポート ビュー](#)

アプリケーション データトレンド レポート - レポートの利点

アプリケーション データトレンド レポートは、Arcserve Backup で保護されているアプリケーションの現在 (および過去) の使用データ サイズを分析するのに役立ちます。さらにこのレポートは、予想増加トレンドに基づいて将来のアプリケーション サイズのニーズを見極める上でも役立ちます。この情報を使用することで、将来のディスクスペース要件を予測し、それに応じた措置を実行して、適切な保護レベルを確保できます。アプリケーション データトレンド レポートでは、特定のアプリケーションを選択して分析することも、複数のアプリケーションを選択してそれら全体のデータ サイズを分析することもできます。

アプリケーション データトレンド レポート - レポート ビュー

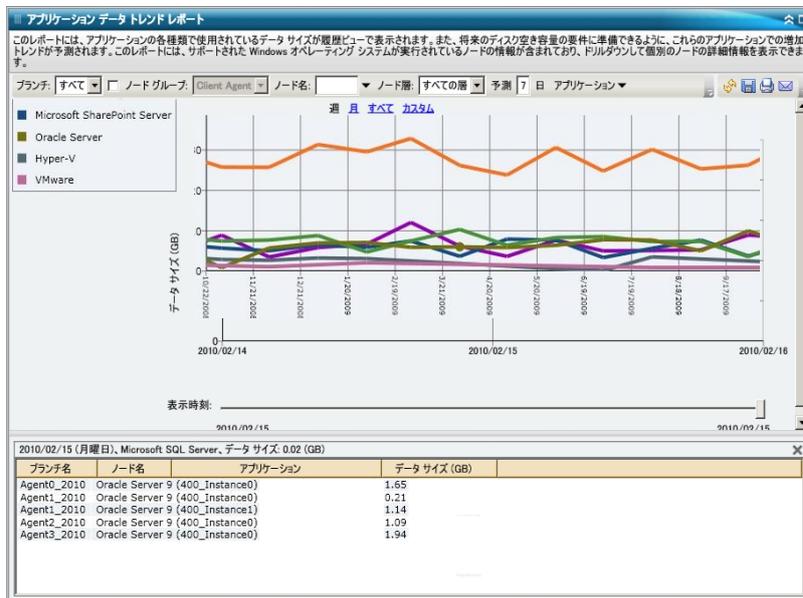
アプリケーション データトレンド レポートは、特定のアプリケーションのデータ使用量 (GB) と将来の期間の予測トレンドをグラフ形式で表示します。このレポートでは、表示される期間の表示モード (週、月、年、すべて、指定期間) を指定できます。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、表示されている期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。さらに、個々のアプリケーションおよび予測期間でデータをフィルタできます。

このレポートを使用すると、アプリケーションのストレージ容量に関する予測トレンドを素早く確認して、将来のデータストレージのニーズを計画できます。各アプリケーションのデータは固有の線および色で表示され、そのアプリケーションの予測データは明るい色で表示されます。さらに、選択したすべてのアプリケーションの合計データサイズ (およびトレンド) を示すサマリ線グラフを表示することもできます。インストールされている (Arcserve Backup によって保護されている) アプリケーションのデータのみが表示されます。

注: Oracle データベースの正確なデータベース サイズをレポートできるように、Oracle インスタンスはアーカイブ モードに設定する必要があります。

アプリケーション データトレンド レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その期間の詳細を表示できます。このドリルダウンレポートには、ノード名に加えて、各アプリケーションの関連付けられたアプリケーション タイプとデータ サイズ (GB で) が含まれています。

このレポートには、ノード グループ、ノード名、ノード層、予測、アプリケーションの各フィルタが含まれます。



詳細情報:

[アプリケーション データトレンド レポート - レポートの利点](#)

バックアップ データの場所レポート

バックアップ データの場所レポートはノードの数とそのノードのバックアップされたデータの場所を表示します。このレポートを使用して、バックアップ インフラストラクチャと計画がデータを適切に保護しているかどうかを評価することができます。また、必要な場合は、データを回復する最も迅速で効率の良い方法を、このレポートを利用して選択することができます。このレポートでは、5つの回復可能な場所カテゴリ(レプリケート、ディスク、クラウド、テープ オンサイト、テープ オフサイト)における保護データのさまざまな場所を分析し、バックアップされたデータをそこから回復する最も効果的な方法を特定することができます。

レプリケート

Arcserve Replication によってレプリケートされたノード、および Arcserve Backup によって Arcserve Replication シナリオとしてバックアップされたノード。

ディスク

ディスク(FSD、VTL デバイス、およびデデュプリケーション デバイスを含む)にバックアップされたノード。

クラウド

クラウド 接続およびクラウド ベース デバイスを作成することによってクラウドにバックアップされたノード。クラウド デバイスの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

オンサイト:

オンサイトのテープにバックアップされたノード。

オフサイト:

オフサイトのテープにバックアップされたノード。

詳細情報:

[バックアップ データの場所レポート - レポートの利点](#)

[バックアップ データの場所レポート - レポート ビュー](#)

[バックアップ データの場所レポート - ドリルダウン レポート](#)

バックアップ データの場所レポート - レポートの利点

バックアップ データの場所レポートは保護されたデータ環境の有効性を分析し判断するのに役立ちます。このレポートから、バックアップ インフラストラクチャ全体のスナップショット ビューを取得し、データが適切に保護されているかどうかを判断することができます。

たとえば、このレポートから、保護されたデータの大部分がオンサイト テープに存在し、オフサイト テープには存在しないことがわかった場合、データがローカルの惨事に対して適切に保護されていないので、バックアップ計画を変更する必要があります。

さらに、このレポートは、必要な場合にバックアップ データを復旧するための最も効果的な方法を特定するのにも役立ちます。

たとえば、回復するデータがオンサイトのテープ、またはディスクとオフサイト テープの両方にバックアップされていることがわかった場合、通常、リモートの場所からではなくローカルのテープやディスクからの方がより迅速に復旧できます。したがって、必要な場合には、データ回復にはオンサイトのテープソースやディスクを選択します。

詳細情報:

[バックアップ データの場所レポート](#)

[バックアップ データの場所レポート - レポート ビュー](#)

[バックアップ データの場所レポート - ドリルダウン レポート](#)

バックアップデータの場所レポート - レポート ビュー

バックアップデータの場所レポートは棒グラフの形式で表示され、バックアップデータを持つノードの数を場所ごとに表示します。このレポートには、過去 # 日間、バックアップサーバ、バックアップ方式、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。



詳細情報:

[バックアップデータの場所レポート](#)

[バックアップデータの場所レポート - レポートの利点](#)

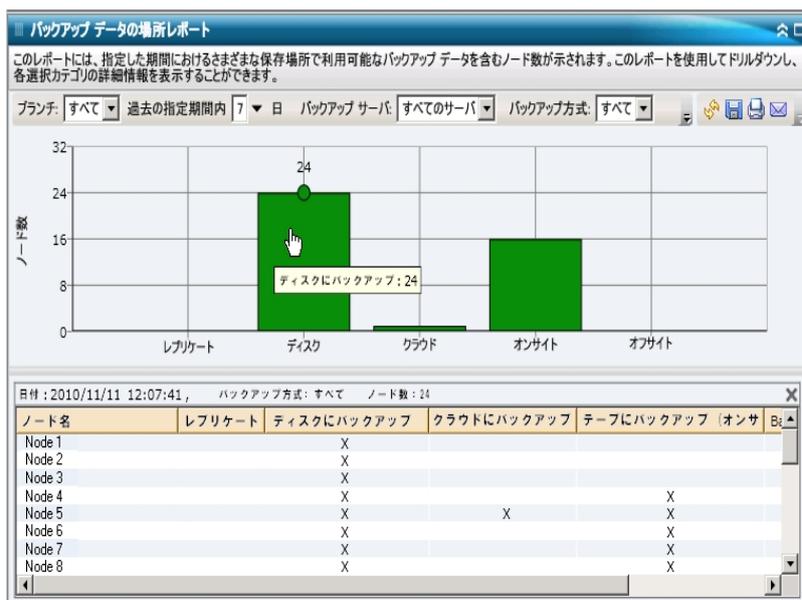
[バックアップデータの場所レポート - ドリルダウンレポート](#)

バックアップ データの場所レポート - ドリルダウンレポート

バックアップ データの場所レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のステータスカテゴリをクリックし、サマリ情報の表示から、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

たとえば、「テープ オンサイト」カテゴリをクリックすると、レポート サマリが切り替わり、過去の指定期間内にオンサイト テープにバックアップされたすべてのノードのみをフィルタした一覧が表示されます。このレポートには、バックアップされた同じノードのすべての場所カテゴリが表示されるため、必要な場合にはデータの回復元として最適な場所を判断するのに役立ちます。

注： ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。



詳細情報：

[バックアップ データの場所レポート](#)

[バックアップ データの場所レポート - レポートの利点](#)

[バックアップ データの場所レポート - レポート ビュー](#)

バックアップサーバ負荷分散レポート

バックアップサーバ負荷分散レポートは過去の指定日数の間の、各 Arcserve Backup サーバのデータの負荷分散をリストします。

詳細情報:

[バックアップサーバ負荷分散レポート - レポートの利点](#)

[バックアップサーバ負荷分散レポート - レポートビュー](#)

バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポートの利点

バックアップ サーバ負荷分散レポートは、データのバックアップ用に比較的多く利用されている Arcserve Backup サーバや、もっと有効利用できるサーバを分析して特適するのに役立ちます。このレポートを使用して、どのサーバが大量のバックアップを実行しているかを示すスナップショット ビューを取得することができ、必要な場合に、より適切な負荷分散方法を特定することができます。

詳細情報:

[バックアップ サーバ負荷分散レポート](#)

[バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポート ビュー](#)

バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポート ビュー

バックアップ サーバ負荷分散レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、バックアップ方式の各フィルタが含まれます。

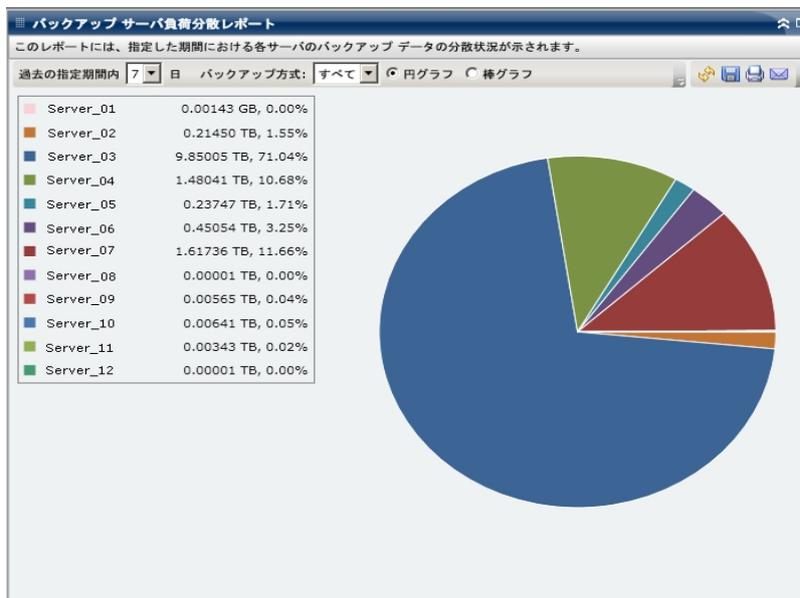
注: メディアを再フォーマットすると、バックアップ サーバ負荷分散レポートに表示されるデータ量には、再フォーマットする前の古いメディアのデータはカウントされません。

たとえば、1GB のバックアップを 7 日間実行する場合、レポートは 7 GB のデータの負荷分散を表示します。しかし、最も古いメディアを再フォーマットした後でレポートを更新すると、レポートは 6 GB のデータの負荷分散しか表示しなくなります。

円グラフ

円グラフは、過去の指定日数の間のすべての日における、Arcserve Backup サーバ間のバックアップ データ分散の高レベルの概要を提供します。円グラフに示されるステータスカテゴリは、それらのサーバにおける合計のバックアップ データ分散の割合を表します。

円グラフビューは各サーバにおける指定日数のデータ分散をテラバイト (TB) 単位で表示します。

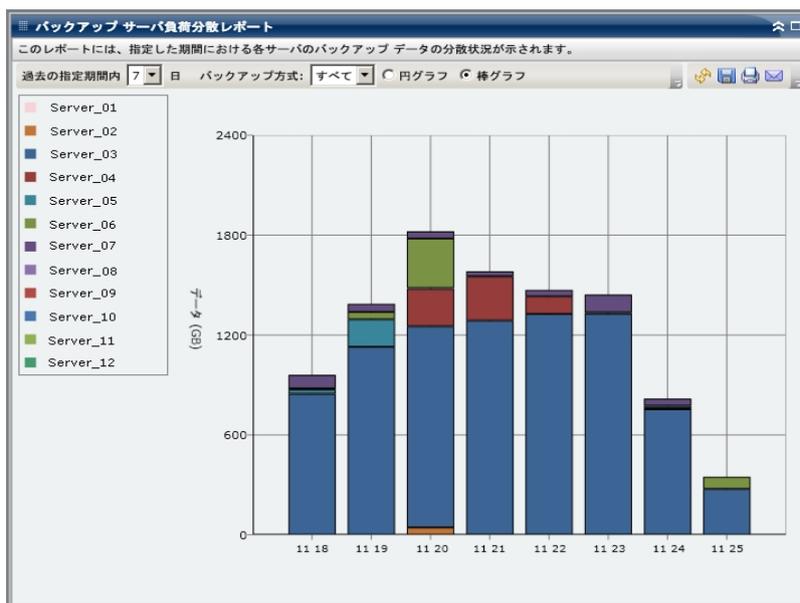


棒グラフ

棒グラフは、過去の指定日数の間の各日における、<caab> サーバ間のバックアップ データ分散の詳細レベルのビューを提供します。棒グラフに示されるステータスカテゴリは、それらのサーバにおける日単位のバックアップ データ分散を表します。

棒グラフビューは各サーバにおける指定日数のデータ分散をギガバイト(GB)単位で表示します。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみ情報を棒グラフに表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制限は同じレポートの円グラフビューには適用されません(円グラフの表示日数の最大は 999 日です)。



詳細情報:

[バックアップ サーバ負荷分散レポート](#)

[バックアップ サーバ負荷分散レポート - レポートの利点](#)

クライアント ノード ソフトウェア レポート

クライアント ノード ソフトウェア レポートは、Arcserve Backup で保護できるアプリケーションが存在するノードの数と保護ステータスを表示する SRM タイプのレポートです。このレポートを使用すると、これらのアプリケーション上のデータの保護状態を評価し、Arcserve Backup エージェントで保護する必要があるアプリケーションを識別できます。

クライアント ノード ソフトウェア レポート - レポート の利 点

クライアント ノード ソフトウェア レポートは、保護されたデータ環境の有効性を分析および判断するのに役立ちます。このレポートでは、ノードにインストールされているアプリケーションのスナップショット ビューを取得して、アプリケーションに関連するデータが保護されているかどうかを簡単に調べることができます。

たとえば、このレポートによって、SQL Server が存在するが、対応する Arcserve Backup SQL Server Agent が存在しないことが判明した場合、そのサーバ上のデータが保護されていないことがわかるので、エージェントの有効なライセンスを取得する必要があります。

さらにこのレポートは、バックアップに関して問題があるかどうかを調べるのにも役立ちます。

たとえば、SQL Server が存在し、対応する Arcserve Backup SQL Server Agent がインストールされているが、指定された日数の間にバックアップが正常に行われていないことが判明した場合、そのサーバ上のデータが保護されていないことがわかるので、スケジュール済みバックアップ計画を確認してバックアップが試行されたかどうかを調べるか、またはバックアップが失敗した理由を調査する必要があります。

クライアント ノード ソフトウェア レポート - レポート ビュー

クライアント ノード ソフトウェア レポートは、棒グラフまたは表形式で表示されます。このレポートには、未バックアップ日数、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

棒グラフ

棒グラフには、アプリケーションごとに、環境内の保護ステータス分類の合計ノード数が表示されます。また、各アプリケーションのサマリと対応するステータス分類を示す凡例も表示されます。

Arcserve Backup で保護できるインストールされた各アプリケーションに対して、以下の3つの保護ステータス分類が存在します。

保護済み

対応する Arcserve Backup エージェントがインストールされており、このアプリケーションに対するバックアップが指定日数内に正常に実行されました。指定日数は、ツールバーから設定できます。デフォルト値は7日です。

理想的な条件下では、グラフのすべての棒が緑(保護)で表示されます。

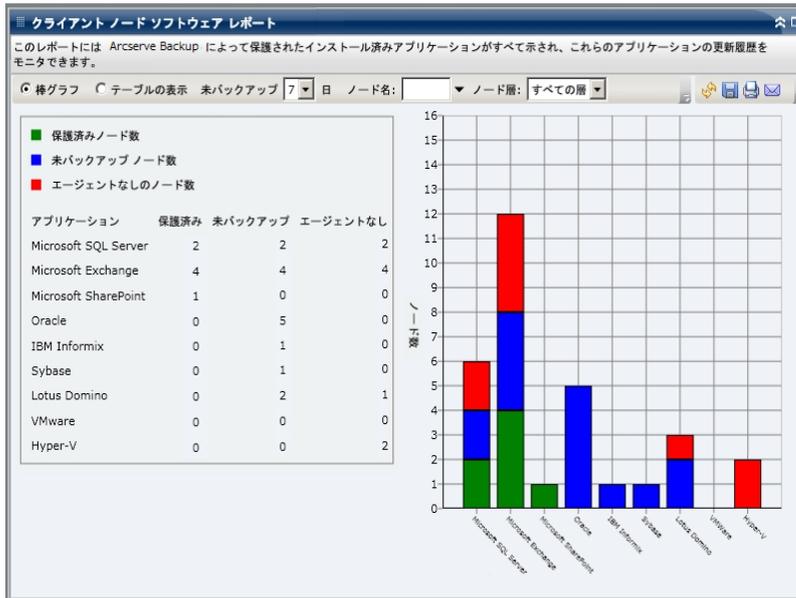
未バックアップ

対応する Arcserve Backup エージェントがインストールされていますが、このアプリケーションに対するバックアップが指定日数の間に正常に行われていません。すべての関連データはバックアップによって保護されていないため、リスクが存在します。

エージェントなし

このアプリケーションに対応する Arcserve Backup エージェントがインストールされていません。すべての関連データはバックアップによって保護されていないた

め、リスクが存在します。



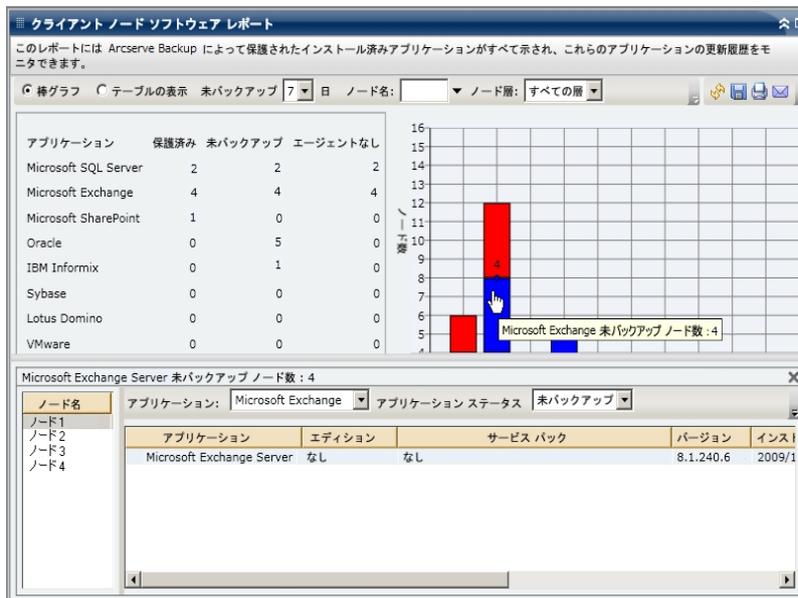
テーブルの表示ビュー

テーブルビューには、各ノードにインストールされているアプリケーションの情報と、そのノードの関連するバックアップステータス情報が表示されます。テーブルリストは、特定のアプリケーションの種類または特定のバックアップ保護ステータス分類、あるいはその両方によってフィルタできます。さらに、一覧表示されたアプリケーションのインストール履歴を表示することもできます。

ノード名	アプリケーション	エディション	サービスパック	バージョン	インストール済み時間
Microsoft Exchange Server (12)					
ノード1	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.0.685.25	8/11/2009 12:00:00
ノード2	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.0.685.25	8/18/2009 12:00:00
ノード3	Microsoft Exchange Server	なし	なし	14.0.639.11	8/25/2009 12:00:00
ノード4	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.1.240.6	8/26/2009 12:00:00
ノード5	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.1.240.6	8/26/2009 12:00:00
ノード6	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.0.685.25	8/11/2009 12:00:00
ノード7	Microsoft Exchange Server	なし	なし	8.0.685.25	8/11/2009 12:00:00
ノード8	Microsoft Exchange Server	なし	なし	6.5	なし
ノード9	Microsoft Exchange Server	なし	なし	14.0.639.11	8/25/2009 12:00:00
ノード10	Microsoft Exchange Server	なし	なし	14.0.639.11	8/25/2009 12:00:00
ノード11	Microsoft Exchange Server	なし	なし	14.0.639.11	8/25/2009 12:00:00
ノード12	Microsoft Exchange Server	なし	なし	14.0.639.11	8/25/2009 12:00:00
Microsoft SQL Server 2008 (4)					
ノード13	Microsoft SQL Server 2008	Enterprise Editic	なし	10.0.1600.22	8/10/2009 12:00:00
ノード14	Microsoft SQL Server 2008	Enterprise Editic	なし	10.0.1600.22	8/10/2009 12:00:00
ノード15	Microsoft SQL Server 2008	Express Edition	Service Pack 1 for SQL Server	10.1.2531.0	6/27/2009 12:00:00
ノード16	Microsoft SQL Server 2008	Enterprise Editic	なし	10.0.1600.22	8/2/2009 12:00:00
Hyper-V (2)					
ノード17	Hyper-V	なし	なし	2.0	なし
ノード18	Hyper-V	なし	なし	1.0	なし
Microsoft SQL Server 2005 (5)					
ノード19	Microsoft SQL Server 2005	Express Edition	なし	9.2.3042.00	8/25/2009 12:00:00
ノード20	Microsoft SQL Server 2005	Enterprise Editic	Service Pack 3 for SQL Server	9.3.4035	8/3/2009 12:00:00
ノード21	Microsoft SQL Server 2005	Enterprise Editic	Service Pack 3 for SQL Server	9.3.4035	8/3/2009 12:00:00
ノード22	Microsoft SQL Server 2005	Enterprise Editic	Service Pack 3 for SQL Server	9.3.4035	8/3/2009 12:00:00
ノード23	Microsoft SQL Server 2005	Enterprise Editic	Service Pack 3 for SQL Server	9.3.4035	8/3/2009 12:00:00
Oracle Server (5)					
ノード24	Oracle Server	Enterprise	なし	10.2.0.1.0	なし

クライアント ノード ソフトウェア レポート - ドリルダウン レポート

クライアント ノード ソフトウェア レポートの棒グラフビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。特定のノードをクリックすると、そのノードのすべてのアプリケーションを表示できます。さらに、アプリケーションフィルタを使用して、特定の種類のアプリケーションが存在するノードをすべて表示することもできます。



CPU レポート

CPU レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、Arcserve Backup ドメイン内の Windows ノードの数を、CPU の各種プロパティ別に表示します。このレポートをフィルタして、指定した CPU プロパティでノードを分類して表示することができます。

詳細情報:

[CPU レポート - レポートの利点](#)

[CPU レポート - レポート ビュー](#)

[CPU レポート - ドリルダウンレポート](#)

CPU レポート - レポートの利点

CPU レポートは、CPU の数、CPU のメーカー、CPU のアーキテクチャ(32 ビットまたは 64 ビット) に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの CPU が最も効率が良く、どの CPU に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、スループット値の低いノードを特定する場合は、このレポートでノードの CPU 速度をモニタできます。遅い CPU や同じメーカー製の CPU の動作パターンを調べることができます。32 ビット CPU ノードは、64 ビット CPU ノードに比べてスループットが低くなる場合があります。

最も速いスループット値を基準として使用し、その CPU のパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅い CPU と速い CPU を比較して、CPU 自体に問題があるかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い CPU はパフォーマンスが悪いのではない可能性があります。

このレポートから、CPU ハードウェアをアップグレードする必要があるかどうかを判断できます。

問題が潜在している CPU を特定し、同じ CPU が搭載されたノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[CPU レポート](#)

[CPU レポート - レポート ビュー](#)

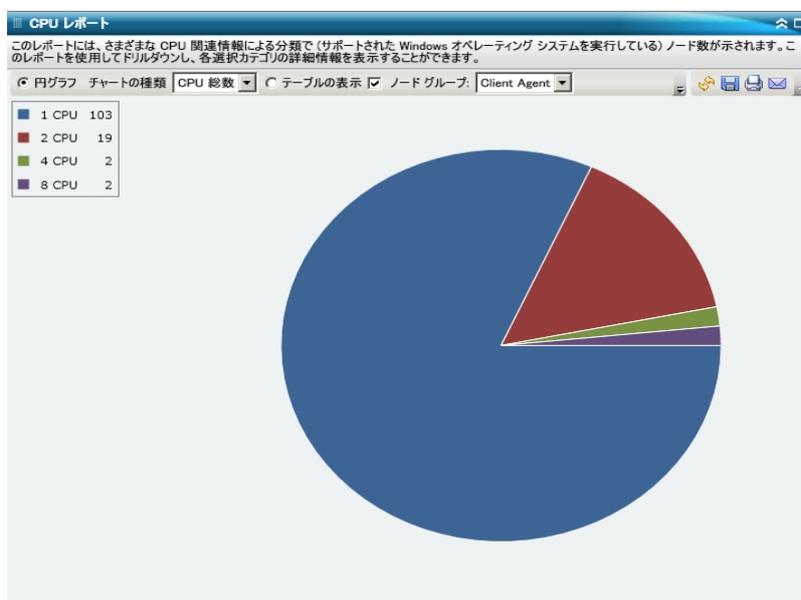
[CPU レポート - ドリルダウン レポート](#)

CPU レポート - レポート ビュー

CPU レポートは、円グラフまたは全表で表示することができます。このレポートには、チャートの種類 (CPU 総数、メーカー、またはアーキテクチャ)、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフ形式は、Arcserve Backup ドメイン内にあるノードの高レベルの概要を提供し、対応する CPU 情報を、指定したフィルタに基づいて表示します。[チャートの種類] ドロップダウンメニューから、ノードの CPU 数の表示方法を選択して、CPU の物理属性 (シングルかマルチか)、メーカー (Intel か AMD か)、アーキテクチャ (32 ビットか 64 ビットか) のいずれかに基づいて表示することができます。



テーブルの表示

表ビュー形式では、Arcserve Backup ドメイン内にある各ノードのより詳細な情報を表示します。表形式には、物理構造、メーカー、アーキテクチャ、速度、キャッシュ、OS など、すべてのノード CPU カテゴリに関して表示可能な CPU 情報が含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報:

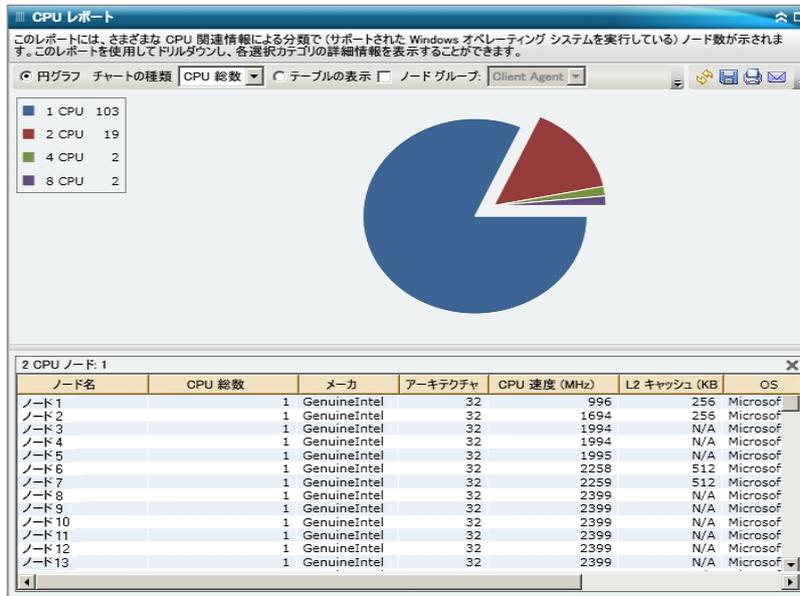
[CPU レポート](#)

[CPU レポート - レポートの利点](#)

[CPU レポート - ドリルダウンレポート](#)

CPU レポート - ドリルダウン レポート

CPU レポートの円グラフビューを展開して、[表の表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウン レポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[CPU レポート](#)

[CPU レポート - レポートの利点](#)

[CPU レポート - レポート ビュー](#)

メディアのデータ分布レポート

メディアのデータ分布レポートには、指定した過去の期間内に各種メディア(デュプリケーション デバイス、ディスク、クラウド、およびテープ) にバックアップされたデータの量と分布が表示されます。ハードウェア圧縮が施されたデデュプリケーション デバイスの場合、このレポートに raw データ サイズと圧縮済みデータ サイズの比較(GB 単位) も表示されます。

詳細情報:

[メディアのデータ分布レポート - レポートの利点](#)

[メディアのデータ分布レポート - レポート ビュー](#)

[メディアのデータ分布レポート - ドリルダウンレポート](#)

メディアのデータ分布レポート - レポートの利点

メディアのデータ分布レポートは、Arcserve Backupドメイン内のすべてのサーバを分析して、データが各種バックアップメディアにどのように分布しているかを把握するのに役立ちます。このレポートによって、バックアップ中に圧縮によって節約できる容量(バックアップサイズ)を把握することができます。この情報を得ることで、バックアップサイズの節約によって必要なバックアップリソースを節約する方法を迅速かつ簡単に判断できます。たとえば、このレポートから、Arcserve Backupドメイン内では、デデュプリケーションデバイスに存在する圧縮されたバックアップデータのサイズが生データのバックアップデータよりもはるかに小さいことがわかります。また、別のデータはディスクにバックアップされている(そのため圧縮されていない)ことがレポートに表示された場合には、バックアップの効率を改善するためにデデュプリケーションの利用を増やすよう検討する必要があります。さらに、圧縮済みデータを保存するのに必要なバックアップテープの数を減らせるかどうか判断できます。

注: テープに保存されているデータには、テープがハードウェア圧縮をサポートしていない限り、バックアップサイズの節約はありません。デデュプリケーションデバイスで圧縮され保存されたデータのみについて、バックアップサイズの大幅な節約が可能になります。

詳細情報:

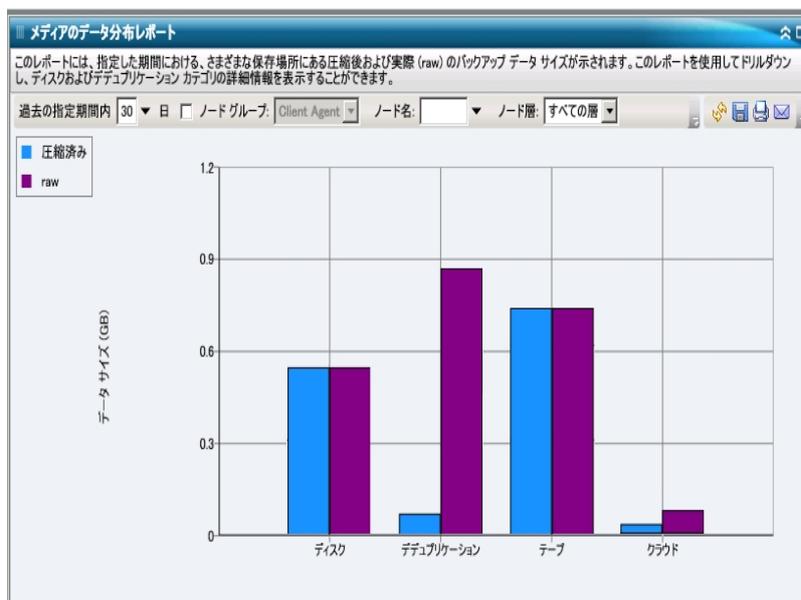
[メディアのデータ分布レポート](#)

[メディアのデータ分布レポート - レポートビュー](#)

[メディアのデータ分布レポート - ドリルダウンレポート](#)

メディアのデータ分布レポート - レポート ビュー

メディアのデータ分布レポートは棒グラフ形式で表示され、過去の指定期間内に Arcserve Backup ドメイン内の各種メディアに分布しているバックアップデータの量 (GB) を表します。表示されるメディアの種類は、デデュプリケーション デバイス、ディスク、クラウド、およびテープです。デデュプリケーション デバイスメディアは、比較に役立つよう、さらに2つのカテゴリ「圧縮済みデータ サイズ」および「raw データ サイズ」に分割されます。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。



詳細情報:

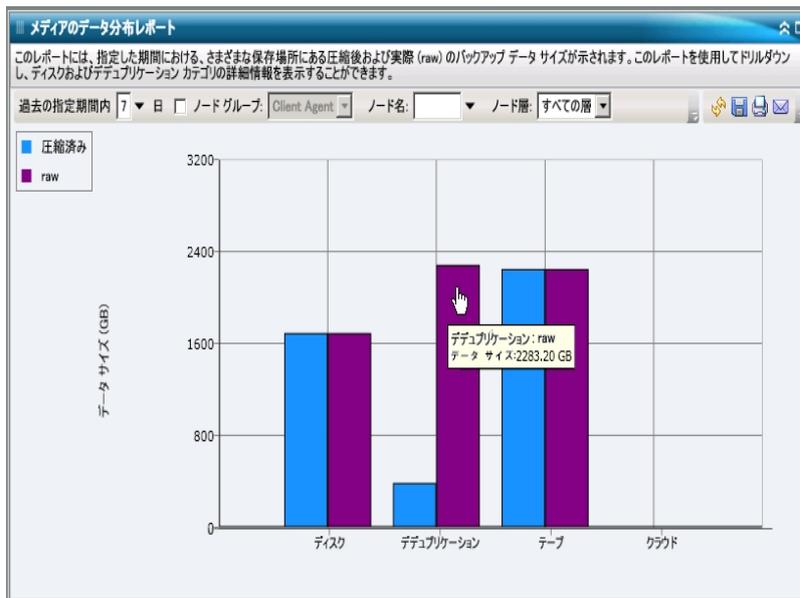
[メディアのデータ分布レポート](#)

[メディアのデータ分布レポート - レポートの利点](#)

[メディアのデータ分布レポート - ドリルダウンレポート](#)

メディアのデータ分布レポート - ドリルダウンレポート

メディアのデータ分布レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。デデュプリケーション、ディスク、またはクラウドのいずれかのカテゴリをクリックしてドリルダウンし、対応する Arcserve Backup サーバ内の個々のデデュプリケーションデバイス、ディスクデバイス (FSD および VTL)、またはクラウド デバイスの詳細な棒グラフを表示できます (ドリルダウン機能は、テープカテゴリのメディアには適用されません)。この詳細な表示には、各デバイスの圧縮済みデータサイズと raw データサイズが含まれ、節約量を比較できます。



詳細情報:

[メディアのデータ分布レポート](#)

[メディアのデータ分布レポート - レポートの利点](#)

[メディアのデータ分布レポート - レポート ビュー](#)

デデュプリケーション効果推定レポート

デデュプリケーション効果推定レポートには、デデュプリケーション デバイスを使用した場合のバックアップ容量の推定節約量が表示されます。

詳細情報:

[デデュプリケーション効果推定レポート - レポートの利点](#)

[デデュプリケーション効果推定レポート - レポート ビュー](#)

デデュプリケーション効果推定レポート - レポートの利点

デデュプリケーション効果推定レポートは、Arcserve Backup デデュプリケーション機能を使用している場合としていない場合のバックアップ容量の節約を分析して測定するのに役立ちます。このレポートは、同じ容量のデータをバックアップするという前提で、デデュプリケーションを使用した場合としない場合を比較し、必要となる容量の推定節約量を表示します。このレポートによって、節約される容量から節約可能なコストを簡単に算出できます。たとえば、新たにテープを購入しなくてもハードドライブ上の使用スペースを減らすことでコスト削減が図れることがわかります。

たとえば、毎週 1TB のデータをバックアップし、このデータを 4 週間保持する必要がある場合、全体でテープ容量の 4TB を占めることとなります。バックアップテープの容量を平均 500 GB とすると、このバックアップデータを保存するのにテープが 8 本必要となります(ハードウェア圧縮を使用しない場合)。ハードウェア圧縮を 1.6:1 とすると、このバックアップデータを保存するのにおよそ 6 本のテープが必要となります。

ここで、同じ容量のデータをデデュプリケーション機能を使用して 1:15 という低い平均圧縮率でバックアップすると、1230 GB のハードドライブスペースしか必要でないことが、このレポートによって容易に把握できます。また、それだけの数のテープにデータを保存する場合の平均コストを、より小さいデータドライブ上のスペースに保存する場合のコストと比較して判断できます。

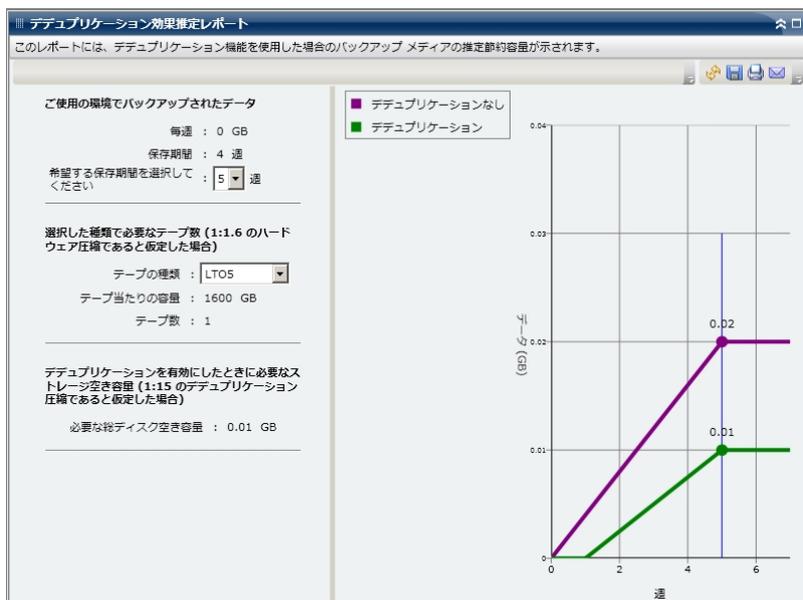
詳細情報:

[デデュプリケーション効果推定レポート](#)

[デデュプリケーション効果推定レポート - レポートビュー](#)

デデュープリケーション効果推定レポート - レポートビュー

デデュープリケーション効果推定レポートには、グラフ形式で、バックアップデータの容量 (GB) および保存期間 (週) が表示されます。これは、使用されているテープの種類ごとにグループ化して表示され、テープあたりの容量およびデータをバックアップするのに必要なテープの数が含まれます。このレポートによって、デデュープリケーションを使用した場合と使用しない場合の必要なストレージスペースの推定節約量が容易に把握できます。



詳細情報:

[デデュープリケーション効果推定レポート](#)

[デデュープリケーション効果推定レポート - レポートの利点](#)

デデュプリケーション ステータスレポート

デデュプリケーション ステータスレポートは、過去の指定日数の間にデデュプリケーション デバイスを使用してバックアップしたノードの数を表示します。このレポートによって、実現できた節約量に加えて、それらのノードのうちデデュプリケーションの効果があったノード、または効果がなかったノードを把握できます。

詳細情報:

[デデュプリケーション ステータスレポート - レポートの利点](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

デデュプリケーション ステータスレポート - レポートの利点

デデュプリケーション ステータスレポートは、デデュプリケーションの効果があるのはどのノードか、各ノードで節約できた量(バックアップサイズ)はどれくらいかを分析し特定するのに役立ちます。この情報を得ることにより、バックアップサイズの節約が、バックアップに必要なリソースの節約にどうつながるかを容易に把握できます。

たとえば、このレポートによって、ノードの大部分でデデュプリケーションの効果があり、raw バックアップサイズから圧縮済みバックアップサイズへの実際の節約量が著しいことがわかれば、今後のバックアップでは、バックアップの効率を改善するためにデデュプリケーションの利用を増やすよう検討する必要があります。さらに、圧縮済みデータを保存するのに必要なバックアップテープの数を減らせるかどうかも判断できます。

注: テープに保存されているデータには、テープがハードウェア圧縮をサポートしていない限り、バックアップサイズの節約はありません。デデュプリケーション デバイスで圧縮され保存されたデータのみについて、バックアップサイズの大幅な節約が可能になります。

詳細情報:

[デデュプリケーション ステータスレポート](#)

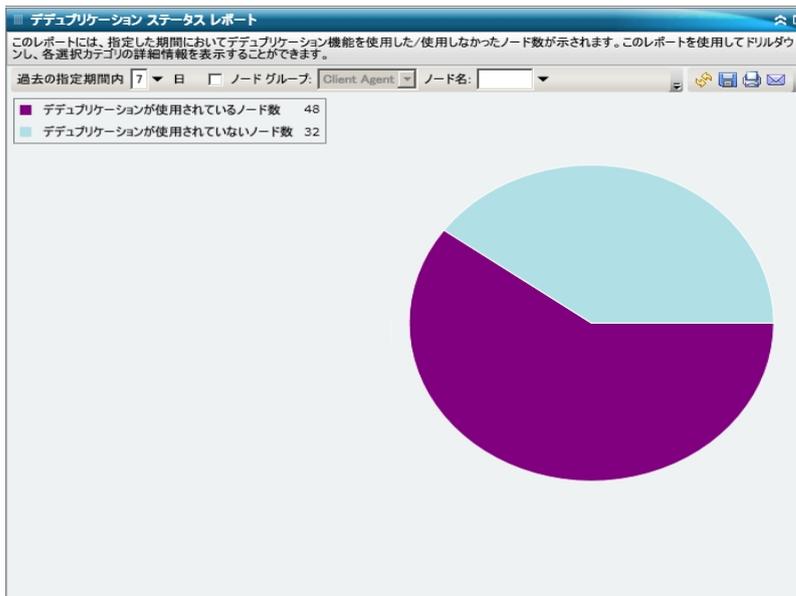
[デデュプリケーション ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - ドリルダウン レポート](#)

デデュプリケーション ステータスレポート - レポート ビュー

デデュプリケーション ステータスレポートは円グラフ形式で表示され、デデュプリケーションの効果があるノードの数(およびパーセント)と効果のないノードの数を表します。このレポートには、過去 # 日間、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

- 「デデュプリケーションによって恩恵を受ける」ノード数に含まれるのは、デデュプリケーション デバイスを使用したセッションを1つ以上含むノードで、圧縮済みバックアップの測定サイズがraw バックアップのサイズよりも小さいものです。
- 「デデュープによって恩恵を受けない」ノード数に含まれるのは、デデュプリケーション デバイスを使用したセッションを1つ以上含むノードで、圧縮済みバックアップの測定サイズがraw バックアップのサイズより小さくないものです。



詳細情報:

[デデュプリケーション ステータスレポート](#)

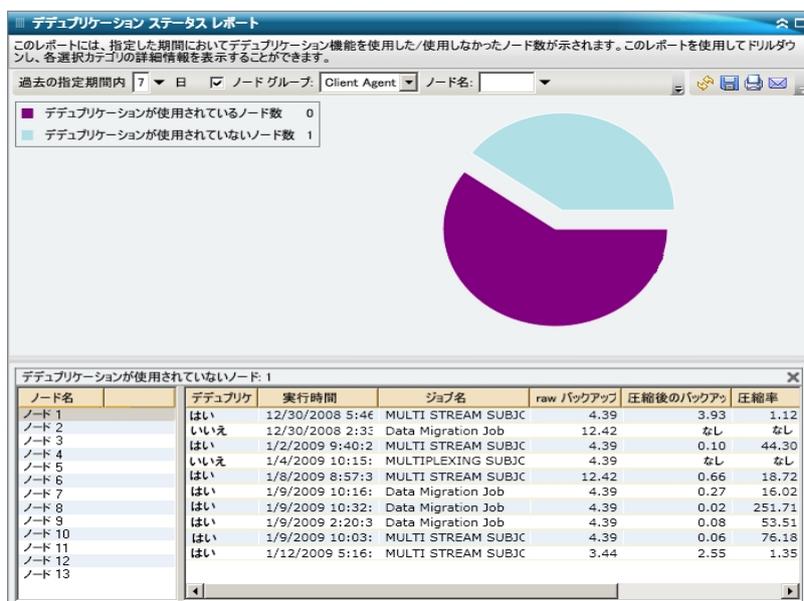
[デデュプリケーション ステータスレポート - レポートの利点](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

デデュプリケーション ステータスレポート - ドリルダウンレポート

デデュプリケーション ステータスレポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。2つの円グラフのどちらかをクリックすると、カテゴリに関連するノードのうち過去の指定期間内にバックアップされたものがすべて詳細な一覧で表示されます。ドリルダウンレポートには、各ノードにおけるrawバックアップデータサイズと圧縮済みデータサイズの比較が見やすく表示され、デデュプリケーションの効果をすばやく把握できます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



詳細情報:

[デデュプリケーション ステータスレポート](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - レポートの利点](#)

[デデュプリケーション ステータスレポート - レポート ビュー](#)

ディスクレポート

ディスクレポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、Arcserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードのディスク情報を、各ノードに割り当てたディスク容量順に表示します。ディスクは割り当てをした後も空き領域が残る場合があります。未使用の領域は別のディスクに再割り当てすることができます。空き領域はボリュームレポートで報告されます。

詳細情報:

[ディスクレポート - レポートの利点](#)

[ディスクレポート - レポート ビュー](#)

[ディスクレポート - ドリルダウンレポート](#)

ディスクレポート - レポートの利点

ディスクレポートは、各ディスクに割り当てた容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。このレポートには、各物理ハードドライブ上のパーティション領域の総量が表示されます。この全体像から、どのディスクに未割り当ての領域があり、別のディスクへの再割り当ての可能性が残っているかを分析して特定することができます。

このレポートをボリュームレポートと共に使用すれば、割り当て容量を使用容量と比較しながら分析することができます。

たとえば、このレポートによって、あるディスクに割り当て領域が少ないことがわかった場合は、ボリュームレポートをチェックして、割り当て領域と使用されている領域の容量を比較する必要があります。割り当て領域が少なく、使用領域が多い場合は、割り当てられていない領域の原因を調査し、可能であれば、利用できる領域を有効活用するためにボリュームを新規作成する必要があります。

問題が潜在しているディスクを特定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ディスクレポート](#)

[ディスクレポート - レポート ビュー](#)

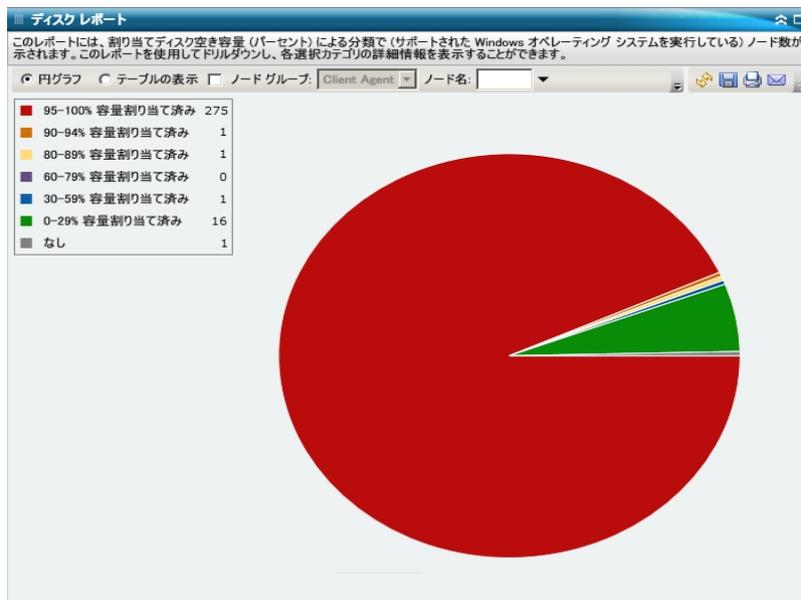
[ディスクレポート - ドリルダウンレポート](#)

ディスクレポート - レポート ビュー

ディスクレポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。このレポートには、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフは、事前に定義した使用ディスク容量の範囲(パーセント)によって分類され、環境内にあるディスクに関する高レベルの概要を提供します。ディスク領域が割り当てられていないと、その領域は使用できないため、ディスクが適切に割り当てられているようにする必要があります。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、ディスクレポートには、すべてのカテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、ディスク名、メーカー、種類、サイズ、使用容量、未使用容量、ボリューム数、ボリューム名などが含まれます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報：

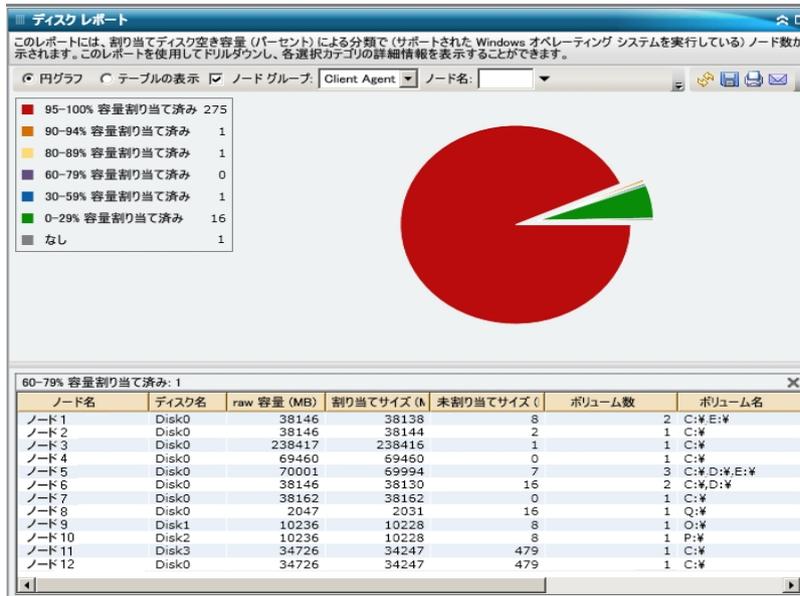
[ディスクレポート](#)

[ディスクレポート - レポートの利点](#)

[ディスクレポート - ドリルダウンレポート](#)

ディスクレポート - ドリルダウンレポート

ディスクレポートの円グラフビューを展開して、[テーブルの表示]と同じ詳細情報を含むドリルダウンレポートを表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[ディスクレポート](#)

[ディスクレポート - レポートの利点](#)

[ディスクレポート - レポートビュー](#)

ジョブアーカイブステータスレポート

ジョブアーカイブステータスレポートは、過去の指定日数の間に指定のサーバで開始されたすべてのアーカイブジョブの最新のステータス結果をリストします。

アーカイブジョブが完了すると CSV ファイルが生成され、バックアップサーバの BAB_HOME\Archived Files ディレクトリ下にノード名を使って保存されます。CSV ファイルは Arcserve Backup によって廃棄されず、Arcserve Backup をアンインストールしても削除されません。

デフォルトでは、Arcserve Backup r18 はジョブレコードを 180 日間保持します。Dashboard にジョブレコードを表示する期間を別の期間にする場合は、レジストリキーを追加して任意の日付範囲を設定することができます。以下のようにして新しいレジストリキーを追加することによって、ジョブの廃棄間隔を定義することができます。

レジストリエディタにジョブ廃棄時間間隔を設定するには、以下の手順に従います。

1. のレジストリエディタを開きます。
2. レジストリエディタのツリーで、以下のノードまで展開します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCServe Backup\Base\Database\
3. 新しい DWORD 値を追加して「JobPruningDays」という名前を付けます。
4. JobPruningDays キーをダブルクリックして [DWORD 値の編集] ダイアログボックスを開きます。これで、DWORD の設定を変更し、特定の時間間隔を設定して Arcserve Backup データベースからジョブレコードを廃棄することができます。
5. JobPruningDays キーの設定を終了したら、レジストリエディタを閉じます。

詳細情報:

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートの利点](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートビュー](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ジョブアーカイブステータスレポート - レポートの利点

ジョブアーカイブステータスレポートは、どのジョブが他のジョブよりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ジョブの観点から最新のアーカイブジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのアーカイブステータスがすべて緑(成功)の場合、正常にアーカイブされたことがわかります。しかし、ステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のジョブをモニタして、環境内のアーカイブジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のアーカイブジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ジョブバックアップステータスレポート](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートビュー](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

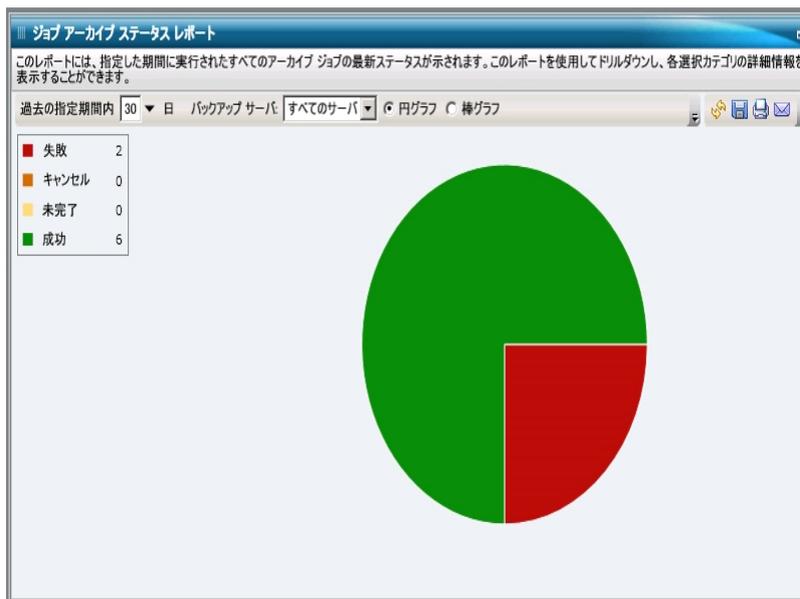
ジョブアーカイブステータスレポート - レポート ビュー

ジョブアーカイブステータスレポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、バックアップサーバ、ジョブ名に含まれる文字列の各フィルタが含まれます。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup はアクティビティログの情報を 14 日間保存します。Arcserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

円グラフ

円グラフは指定した期間の**すべての日**における、選択したサーバのアーカイブジョブの高レベルの概要を提供します。円グラフに示されたステータスカテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のアーカイブジョブの**合計数**の割合と各ジョブに対する最新のステータスを示します。

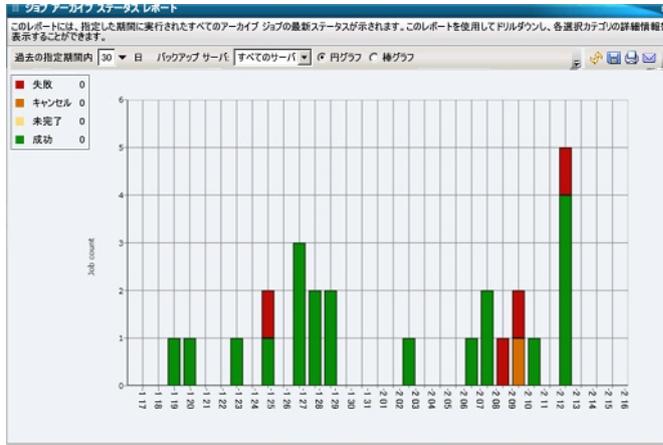


棒グラフ

棒グラフは指定した期間の**各日**における、選択したサーバのアーカイブジョブのより詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに示されたステータスカテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のアーカイブジョブの**日単位の数**を示します。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は最大で 90 日間**のみ**の情報を棒グラフに表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定する

と、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制限は同じレポートの円グラフビューには適用されません(円グラフの表示日数の最大は 999 日です)。



詳細情報:

[ジョブバックアップステータスレポート](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートの利点](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

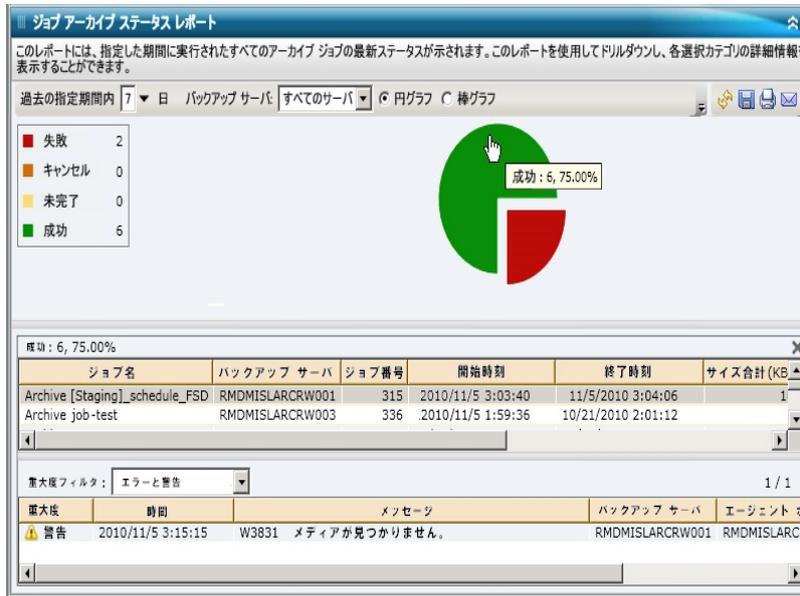
ジョブアーカイブステータスレポート - ドリルダウンレポート

ジョブアーカイブステータスレポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のステータスカテゴリ(円グラフビューまたは棒グラフビューから)をダブルクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。たとえば、[未完了]カテゴリをクリックすると、レポートサマリが更新され、指定した期間に完了しなかったアーカイブジョブのみをフィルタした一覧が表示されます。

また、このレポートには、関連するすべてのメイクアップジョブのステータスも表示されます。メイクアップジョブステータスは、以下のいずれかです。

- **作成されました** -- メイクアップジョブが作成され、ジョブキュー内でレディ状態ですが、まだ実行されていません。
- **作成されませんでした** -- 最初のアーカイブジョブが失敗した後、メイクアップジョブは作成されていません。失敗した場合にメイクアップジョブを作成するようジョブが正しく設定されていることを確認する必要があります。この列は、アーカイブジョブが成功、未完了、またはキャンセルの場合には無視できません。
- **アクティブ** -- メイクアップジョブが作成され、実行中です。メイクアップジョブのステータスは、まだ不明です。
- **終了** -- 最初のアーカイブジョブが失敗した後に、メイクアップジョブが作成され、実行が完了しています。[最新ステータス]列では、メイクアップジョブの対応する最終ステータスを確認できます(結果は「終了」、「未完了」、または「失敗」のいずれかです)。

注：棒グラフビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータスカテゴリのフィルタ済みジョブリストが1日分表示されます。



このレポートで各ジョブの名前をクリックしてさらにドリルダウンし、そのジョブに関連するすべてのログメッセージのより詳細な一覧を表示できます。表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- Dashboardでは、ログメッセージを1ページに100個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。
- このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

詳細情報:

[ジョブバックアップステータスレポート](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートの利点](#)

[ジョブバックアップステータスレポート - レポートビュー](#)

ジョブ バックアップ ステータス レポート

ジョブ バックアップ ステータス レポートは、過去の指定日数の間に指定したサーバで開始されたすべてのバックアップ ジョブ(フル、合成フル、増分、差分)の最新のステータス結果をリストします。

デフォルトでは、Arcserve Backup はジョブ レコードを 180 日間保持します。Dashboard にジョブ レコードを表示する期間を別の期間にする場合は、レジストリ キーを追加して任意の日付範囲を設定することができます。以下のようにして新しいレジストリ キーを追加することによって、ジョブの廃棄間隔を定義することができます。

レジストリエディタにジョブ廃棄時間間隔を設定する方法

1. レジストリエディタを開きます。
2. レジストリエディタのツリーで、以下のノードまで展開します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCServe Backup\Base\Database\
3. 新しい DWORD 値を追加して「JobPruningDays」という名前を付けます。
4. JobPruningDays キーをダブルクリックして [DWORD 値の編集] ダイアログ ボックスを開きます。これで、DWORD の設定を変更し、特定の時間間隔を設定して Arcserve Backup データベースからジョブ レコードを廃棄することができます。
5. SRM プロンプトの JobPruningDays キーの設定を終了したら、レジストリエディタを閉じます。

詳細情報:

[ジョブ バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

[ジョブ バックアップ ステータス レポート - レポート ビュー](#)

[ジョブ バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート](#)

ジョブ バックアップ ステータスレポート - レポートの利点

ジョブ バックアップ ステータスレポートは、どのジョブが他のジョブよりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ジョブの観点から最新のバックアップジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップステータスがすべて緑(成功)の場合、正常にバックアップされたことがわかります。しかし、バックアップステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティログをすぐ分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のジョブをモニタして、環境内のバックアップジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のバックアップジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ジョブ バックアップ ステータスレポート](#)

[ジョブ バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ジョブ バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

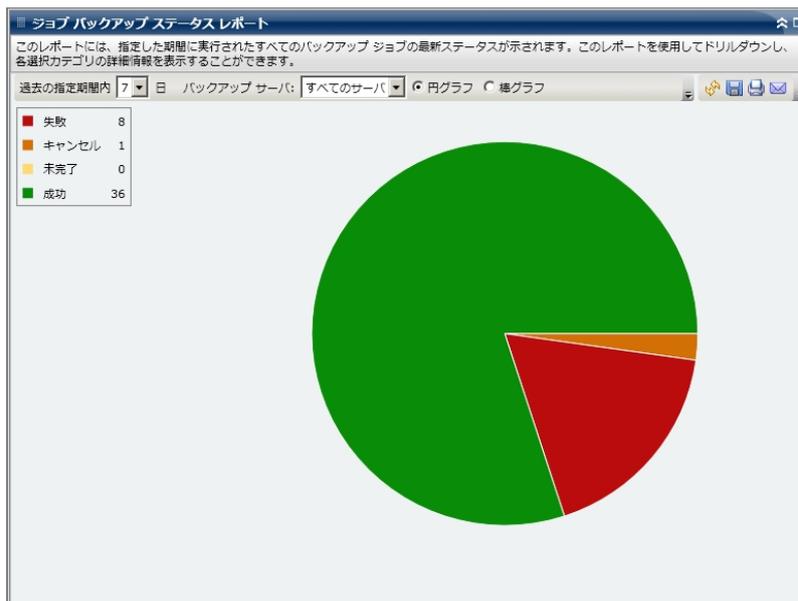
ジョブ バックアップ ステータス レポート - レポート ビュー

ジョブ バックアップ ステータス レポート は円 グラフまたは棒 グラフとして表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、バックアップ サーバ、バックアップの種類、ジョブ名に含まれる文字列の各フィルタが含まれます。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。Arcserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔] オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティ ログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

円グラフ

円グラフは指定した期間のすべての日における、選択したサーバのバックアップジョブの高レベルの概要を提供します。円グラフに示されたステータスカテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のバックアップジョブの合計数の割合と各ジョブに対する最新のステータスを示します。

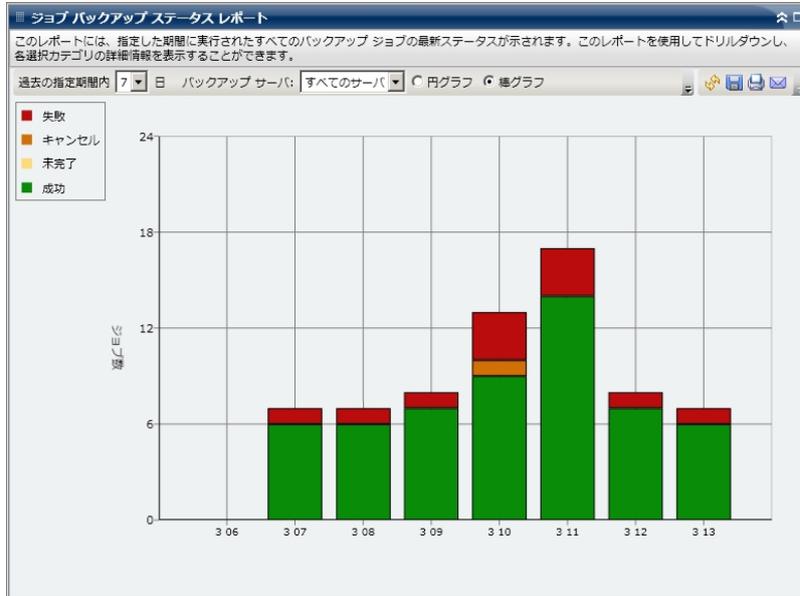


棒グラフ

棒グラフは指定した期間の各日における、選択したサーバのバックアップジョブのより詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに示されたステータスカテゴリは、そのサーバにおける過去の指定日数の間のバックアップジョブの日単位の数を示します。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみ情報を棒グラフに表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定する

と、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制限は同じレポートの円グラフビューには適用されません(円グラフの表示日数の最大は 999 日です)。



詳細情報:

[ジョブ バックアップ ステータス レポート](#)

[ジョブ バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

[ジョブ バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート](#)

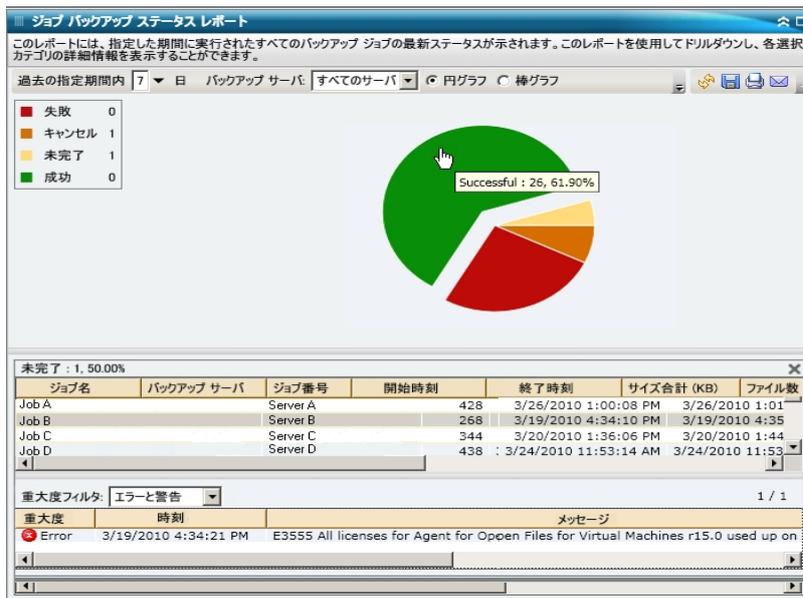
ジョブ バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート

ジョブ バックアップ ステータス レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のステータス カテゴリ(円グラフビューまたは棒グラフビューから)をダブルクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。たとえば、[未完了]カテゴリをクリックすると、レポート サマリが更新され、指定した期間に完了しなかったバックアップ ジョブのみをフィルタした一覧が表示されます。

また、このレポートには、関連するすべてのメイクアップ ジョブのステータスも表示されます。メイクアップ ジョブ ステータスは、以下のいずれかです。

- **作成されました** - メイクアップ ジョブが作成され、ジョブ キュー内でレディ状態ですが、まだ実行されていません。
- **作成されませんでした** - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後、メイクアップ ジョブは作成されていません。失敗した場合にメイクアップ ジョブを作成するようジョブが正しく設定されていることを確認する必要があります。この説明は、バックアップ ジョブが成功、未完了、またはキャンセルの場合には該当しません。
- **アクティブ** - メイクアップ ジョブが作成され、実行中です。メイクアップ ジョブのステータスは、まだ不明です。
- **終了** - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後に、メイクアップ ジョブが作成され、実行が完了しています。[最新ステータス]列では、メイクアップ ジョブの対応する最終ステータスを確認できます(結果は「終了」、「未完了」、または「失敗」のいずれかです)。

注：棒グラフビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータス カテゴリのフィルタ済みジョブリストが 1 日分表示されます。



このレポートで各ジョブの名前をクリックしてさらにドリルダウンし、そのジョブに関連するすべてのログメッセージのより詳細な一覧を表示できます。表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- Dashboard では、ログメッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。
- このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

ライセンスレポート

ライセンスレポートは、Arcserve Backup ドメイン内で使用されているすべての Arcserve Backup エージェントおよびサーバオプションに関するライセンス情報を表示します。エージェントまたはオプションの「アクティブなライセンス数」が、対応する「利用可能なライセンス数」を超えた場合、そのエントリは赤色で表示され、ライセンスに問題があるためバックアップに失敗する可能性があることが示されます。

また、レポートの最上部に表示される黄色の警告バーによって、この潜在的な問題の状況がさらに強調され、エージェント分布レポートで古いバージョンのエージェントについて詳細を確認するよう指示されます。

- [コンポーネントの種類] ドロップダウンメニューを使用すると、エージェントまたはサーバオプションのいずれかを選択して表示をフィルタできます。すべてのエージェントおよびサーバオプションのライセンス情報を表示することも、エージェントのみまたはオプションのみに限定して表示することもできます。
- [コンポーネント名] ドロップダウンメニューを使用すると、個別のエージェントまたはサーバオプションに絞り込んで表示させることができます。[コンポーネント名] ドロップダウンメニューには、すべての「アクティブ」なエージェントおよびサーバオプションが含まれています。つまり、現在の Arcserve Backup ドメイン内でライセンスが付与されているすべてのエージェントおよびオプションが対象になります。
- [バージョン] ドロップダウンメニューを使用すると、エージェントまたはサーバオプションのバージョン番号に基づいて表示をフィルタできます。すべてのバージョンのエージェントおよびオプションのライセンス情報を表示するように指定できます。

このレポートを使用して、Arcserve Backup エージェントおよびサーバオプションのライセンス数および使用数をすぐに把握することができ、ライセンスの問題が発生する可能性のあるエージェントおよびオプションを迅速に特定できるようになります。

詳細情報:

[ライセンスレポート - レポートの利点](#)

[ライセンスレポート - レポートビュー](#)

ライセンスレポート - レポートの利点

ライセンスレポートは、Arcserve Backupドメイン内で使用中のArcserve Backupコンポーネント(エージェントおよびサーバオプション)を分析および特定し、それぞれに適切なライセンスが登録されているかどうかを判断するのに役立ちます。このレポートを基に、ライセンス情報の概要を把握し、コンポーネントのライセンス数に対して現在使用されている数を比較することができます。

たとえば、特定のマシンでバックアップが繰り返し失敗している場合、そのマシン上で特定のArcserve Backupコンポーネントを使用するためのライセンスが適切に登録されていない可能性があります。このレポートを使用すると、現在使用されている数を満たすだけの十分なライセンスを取得しているかどうかを素早く把握することができます。Arcserve Backup エージェントまたはオプションの「利用可能なライセンス数」が使用中の「アクティブなライセンス数」よりも少ない場合、ライセンスされていないコンポーネントを使用してバックアップを試行している可能性があります。

詳細情報:

[ライセンスレポート](#)

[ライセンスレポート - レポート ビュー](#)

ライセンスレポート - レポート ビュー

ライセンスレポートには、Arcserve Backup ドメイン内のライセンス取得済み Arcserve Backup コンポーネント(エージェントおよびサーバオプション) が表形式で示されます。また、それぞれに対応するライセンス数(総数、アクティブ数、利用可能数、必要数)、リリースバージョン番号も併せて表示されます。このレポートには、コンポーネントの種類、コンポーネント名、バージョンの各フィルタが含まれます。

このレポートの列の意味は以下のとおりです。

- **ライセンス総数** - 所有しているライセンス数。
- **アクティブなライセンス数** - バックアップ ジョブに含まれるエージェントがすでに使用しているライセンス数。
- **利用可能なライセンス数** - 所有しているが使用していないライセンス数。
- **必要なライセンス数(最小)** - バックアップ ジョブに含まれるすべてのエージェントで必要となる最小のライセンス数。

コンポーネント名	検出数	ライセンス総数	アクティブなライセンス数	利用可能なライセンス数	必要なライセンス数(最小)
Arcserve Backup	N/A	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 1 バージョン 15.0:1	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 1 バージョン 15.0:1
Enterprise Module	N/A	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 1 バージョン 15.0:1	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 1 バージョン 15.0:1
Exchange Backup Agent	合計: 3 バージョン 15.0:3	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 2 バージョン 15.0:2	合計: 0 バージョン 15.0:0	合計: 2 バージョン 15.0:2

詳細情報:

[ライセンスレポート](#)

[ライセンスレポート - レポートの利点](#)

メディア検証レポート

このレポートには、スキャンが実行されたノード/まだ実行されていないノードの数が表示され、メディア上のセッションがリストア可能であるかどうかを確認できます。このレポートによって、ノードのデータがメディア上で適切に保護されているかどうかを判断することができ、バックアップデータのリストアに関して問題の可能性のある領域を素早く特定して対処するための手段となります。

詳細情報:

[メディア検証レポート - レポートの利点](#)

[メディア検証レポート - レポート ビュー](#)

[メディア検証レポート - ドリルダウンレポート](#)

メディア検証レポート - レポートの利点

メディア検証レポートは、どのノードが適切にバックアップされリストア用に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。これにより、データのリストアを実行して初めてバックアップが適切に行われていないことがわかる、という事態を防ぐことができます。メディア検証では、メディアにバックアップされたデータが有効であり必要に応じてリストア可能であることが保証されます。バックアップ先メディアのスキャンをランダムに実行することにより、Arcserve Backup では、リストアに失敗する可能性がほぼ排除されます。

一般に、優先度の高いデータが含まれているノードに対しては、必要に応じてそのデータを素早くかつ完全にリストアできるという保証が必要とされます。

たとえば、優先度の高いデータを含むすべてのノードは、データのリストアが可能であることを保証する「検証済みセッションのあるノード」カテゴリの対象となります。このレポートによって、優先度の高いノードのなかに「検証済みセッションのないノード」カテゴリに含まれているものがあることがわかった場合は、必要に応じてスキャンスケジュールを変更して、これらの高優先度ノードを適切にスキャン、保護、およびチェックする必要があります。

このレポートをノード復旧ポイントレポートと共に検証し、適切な復旧ポイントが確保されていること、およびデータが有効でリストア可能であることを常に確認することをお勧めします。

詳細情報:

[メディア検証レポート](#)

[メディア検証レポート - レポート ビュー](#)

[メディア検証レポート - ドリルダウンレポート](#)

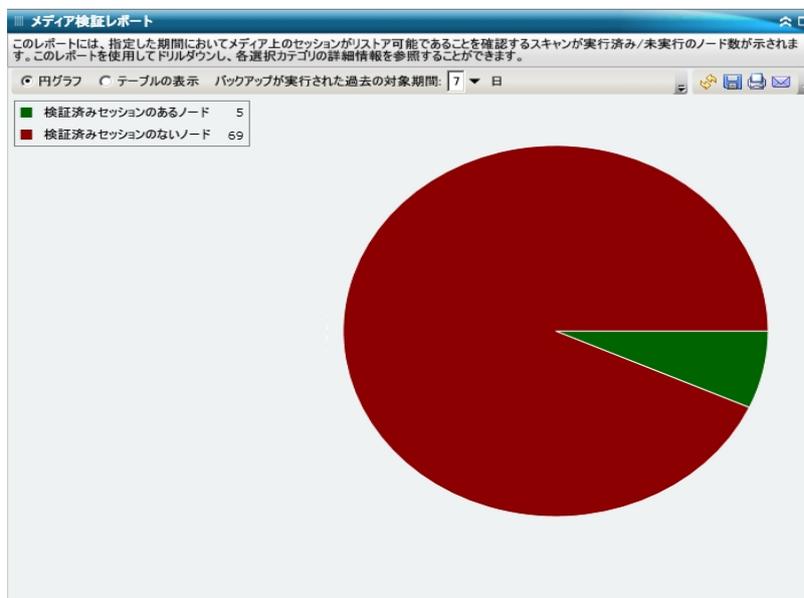
メディア検証レポート - レポート ビュー

メディア検証レポートは、円グラフまたは表形式で表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: このレポートの日付範囲のフィルタは、前回のバックアップ以降の日数に適用されます。前回のメディア スキャン以降の日数ではないので注意してください。

円グラフ

円グラフは、メディア上のセッションが指定した日数はいつでもリストアップ可能であることを保証するために、スキャン済み/未スキャンのノードの分布(数とパーセント)を示します。



テーブルの表示

[テーブルの表示]を選択すると、メディア検証レポートには、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名と、それぞれに対応するバックアップ、スキャンセッション、およびメディアの情報が含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報:

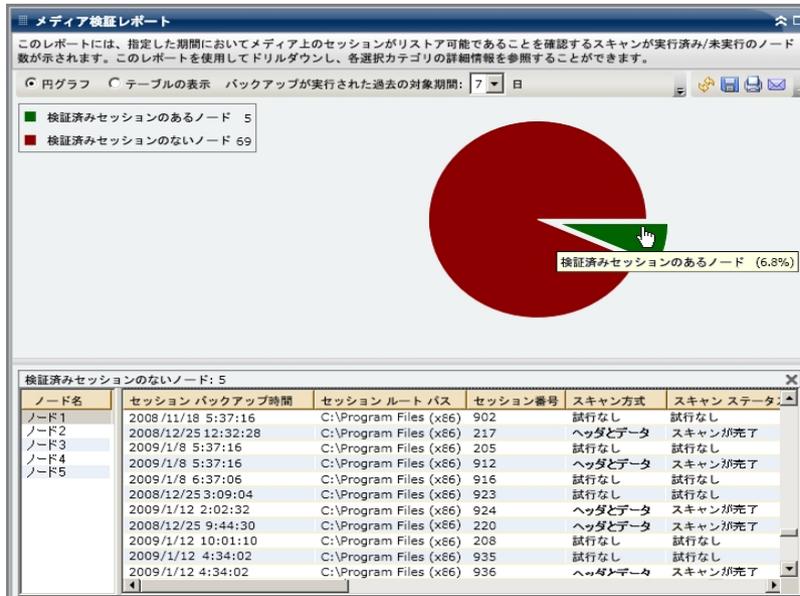
[メディア検証レポート](#)

[メディア検証レポート - レポートの利点](#)

[メディア検証レポート - ドリルダウンレポート](#)

メディア検証レポート - ドリルダウン レポート

メディア検証レポートの円グラフビューを展開して、[テーブルの表示]を選択した場合と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[メディア検証レポート](#)

[メディア検証レポート - レポートの利点](#)

[メディア検証レポート - レポートビュー](#)

メモリレポート

メモリレポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、Arcserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードのメモリ情報を表示します。このレポートでは、各ノードに搭載されたメモリ容量によってノードが分類されます。

詳細情報:

[メモリレポート - レポートの利点](#)

[メモリレポート - レポート ビュー](#)

[メモリレポート - ドリルダウンレポート](#)

メモリレポート - レポートの利点

メモリレポートは、メモリ容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、メモリ容量がバックアップジョブに影響を与えるかどうかを分析して判定することができます。通常は、高優先度の層にあるノードに最も多くのメモリ容量があるようにする必要があります。

たとえば、このレポートによって、あるノードのスループット値が低いことがわかった場合は、ノードに搭載されたメモリ容量を測定し、メモリが少ないノードや最大メモリを搭載したノードの動作パターンを調べることができます。また、最も速いスループット値を基準として使用し、適切なパフォーマンスを得るために必要とされるメモリの量を分析することもできます。遅いノードと速いノードを比較して、メモリ自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅いノードはメモリ不足のせいで正常に動作していない可能性もあります。

メモリの潜在的な問題を特定し、同じメモリ容量のノードで頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[メモリレポート](#)

[メモリレポート - レポートビュー](#)

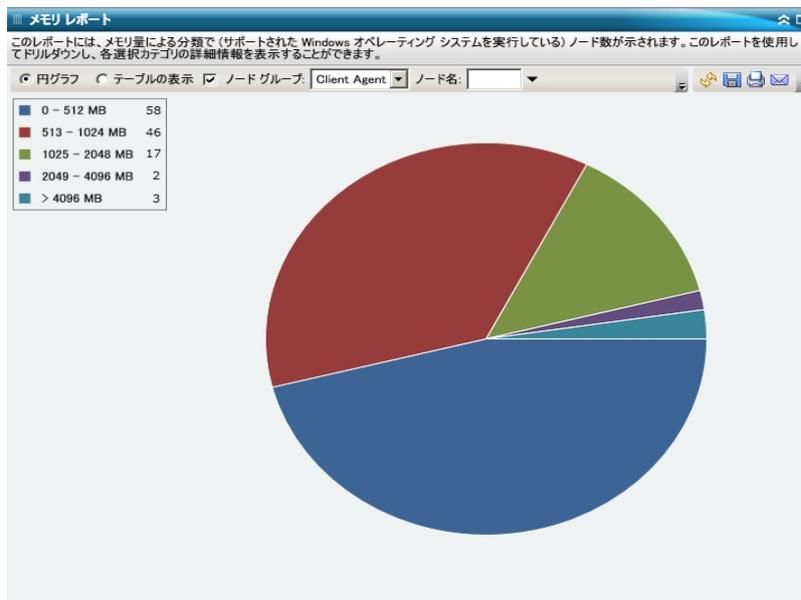
[メモリレポート - ドリルダウンレポート](#)

メモリレポート - レポート ビュー

メモリレポートは、円グラフまたは表で表示することができます。このレポートには、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフには、すべてのノードのメモリ情報が表示されます。データは、事前に定義したカテゴリで分類されます。ノードごとにメモリ合計が表示され、ノードごとのスロット数は考慮されません。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、すべてのカテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、メモリサイズ、メモリスロット、速度などが含まれます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報：

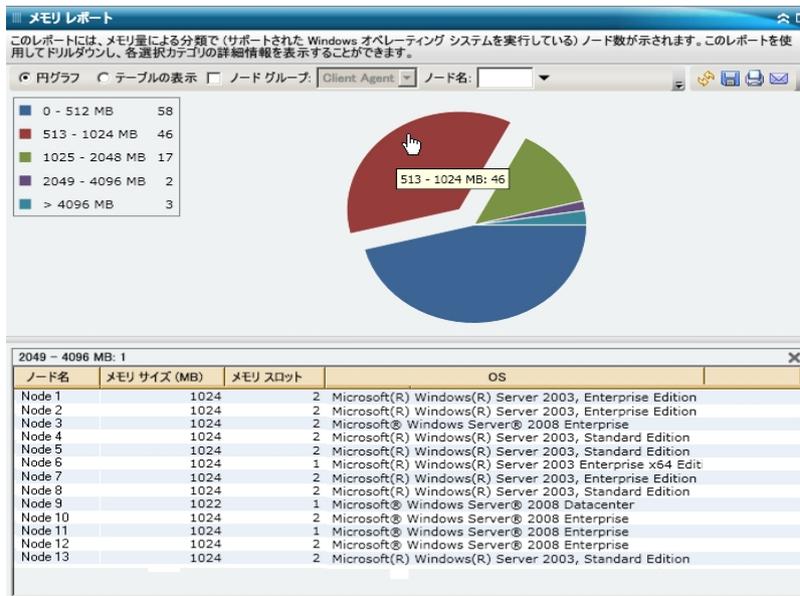
[メモリレポート](#)

[メモリレポート - レポートの利点](#)

[メモリレポート - ドリルダウンレポート](#)

メモリレポート - ドリルダウンレポート

メモリレポートの円グラフビューを展開して、[表の表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[メモリレポート](#)

[メモリレポート - レポートの利点](#)

[メモリレポート - レポートビュー](#)

ネットワークレポート

ネットワークレポートは、SRM タイプのレポートの1つで、環境内の Windows ノードを、ネットワーク インターフェースカード (NIC) の速度別に分類して表示します。

詳細情報:

[ネットワークレポート - レポートの利点](#)

[ネットワークレポート - レポート ビュー](#)

[ネットワークレポート - ドリルダウンレポート](#)

ネットワークレポート - レポートの利点

ネットワークレポートは、事前に定義したカテゴリに分類した NIC の速度に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、バックアップジョブに対してどの NIC が最も効率が良く、どの NIC に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、スループット値の低いノードを特定する場合は、このレポートでノードの NIC 速度をモニタできます。速度の遅い NIC は、スループット値の低下の原因となる可能性があります。遅い NIC や同じメーカー製の NIC の動作パターンは常に調べておいてください。

最も速いスループット値を基準として使用し、その NIC のパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅い NIC と速い NIC を比較して、NIC 自体に問題があるかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い NIC はパフォーマンスが悪いのではない可能性があります。また、このレポートから、NIC ハードウェアをアップグレードする必要があるかどうかを判断できます。

問題が潜在している NIC を特定し、同じ種類の NIC が搭載されたノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ネットワークレポート](#)

[ネットワークレポート - レポート ビュー](#)

[ネットワークレポート - ドリルダウンレポート](#)

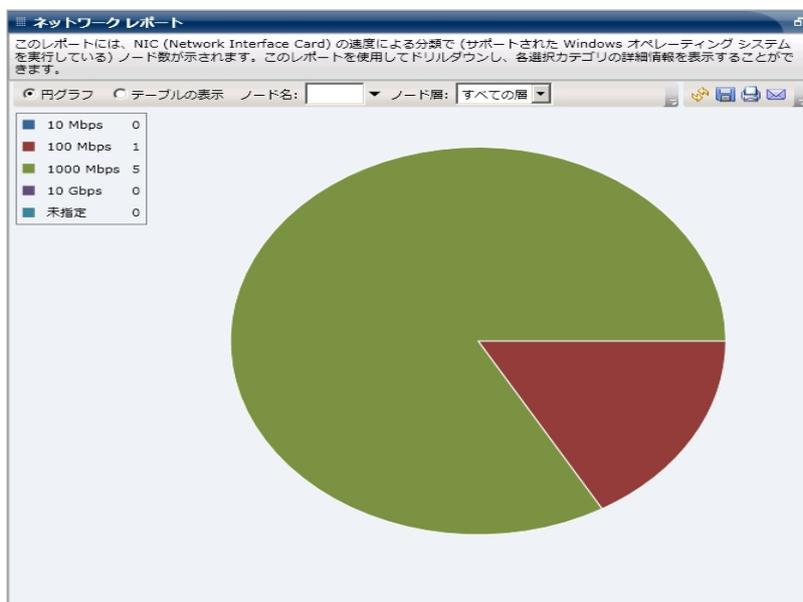
ネットワークレポート - レポート ビュー

ネットワークレポートは、円グラフまたは表で表示することができます。このレポートには、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: 「未指定」カテゴリは、Dashboard がネットワークカードの速度を検出できなかったことを示します。カードがネットワークに接続されていないか、または検出された速度が正しくない場合などがあります。

円グラフ

円グラフには、すべてのノードのネットワーク情報が表示されます。データは、事前に定義したカテゴリで分類されます。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、ネットワークレポートには、すべての NIC カテゴリについて、詳細の情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、メーカー、速度、MAC アドレスなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報:

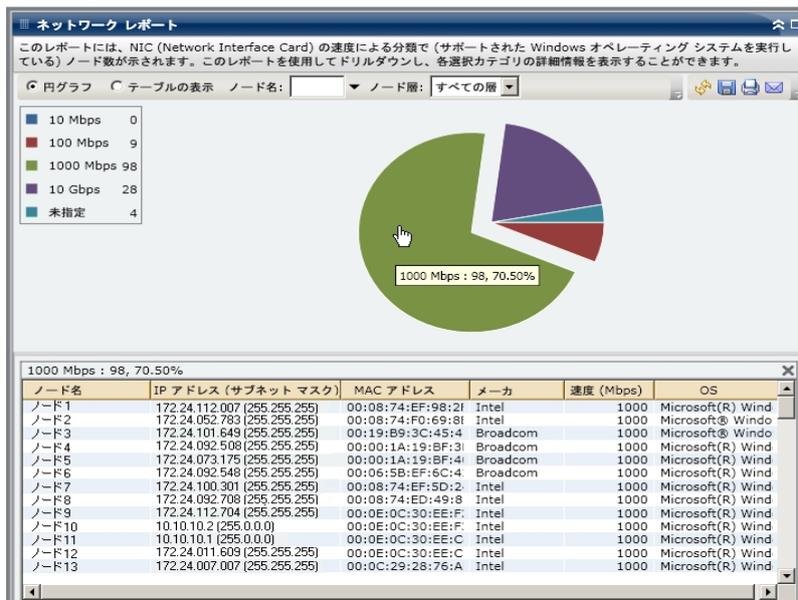
[ネットワークレポート](#)

[ネットワークレポート - レポートの利点](#)

[ネットワークレポート - ドリルダウンレポート](#)

ネットワークレポート - ドリルダウンレポート

ネットワークレポートの円グラフビューを展開して、[表の表示]と同じ詳細情報を表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。同じノード内に NIC が複数ある場合でも、各 NIC が別々の行に表示されます。



詳細情報:

[ネットワークレポート](#)

[ネットワークレポート - レポートの利点](#)

[ネットワークレポート - レポートビュー](#)

ノード アーカイブ ステータスレポート

ノード アーカイブ ステータスレポートは、過去の指定日数の間にアーカイブされたすべてのノードの最新のステータス結果をリストします。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード アーカイブ ステータス レポート - レポートの利点

ノード アーカイブ ステータス レポートは、どのノードのアーカイブ ジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ノードの観点から最新のアーカイブ ジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップ ステータスがすべて緑(成功)の場合、対応するノードが正常にアーカイブされたことがわかります。しかし、ステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティ ログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のノード ステータスをモニタして、環境内のノード ステータス ジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータス レポート](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポート ビュー](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート](#)

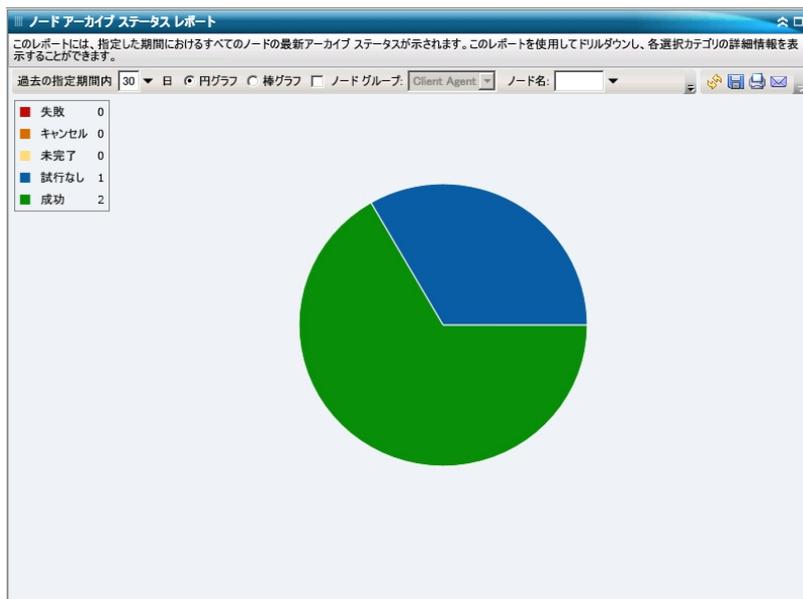
ノード アーカイブ ステータス レポート - レポート ビュー

ノード アーカイブ ステータス レポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。Arcserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティ ログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

円グラフ

円グラフは指定した期間の**すべての日**にアーカイブされたノードの高レベルの概要を提供します。円グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にアーカイブされたノードの**合計数**の割合と各ノードの最新のステータスを示します。

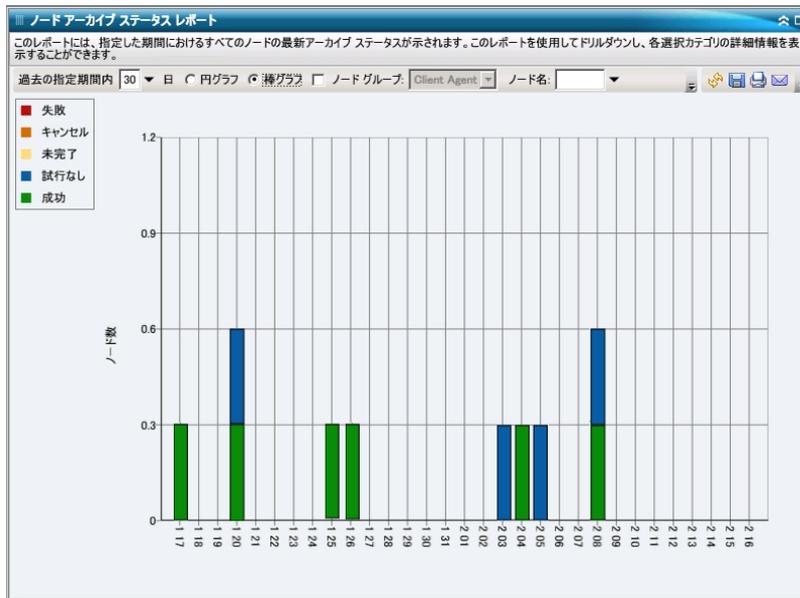


棒グラフ

棒グラフは指定した期間の**各日**にアーカイブされたノードのより詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にアーカイブされたノードの**日単位の数**を示します。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は最大で 90 日間のみ情報を棒グラフに表示します。表示される日数を 90 日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90 日以上レポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず 90 日間に制限されます。この制

限は同じレポートの円グラフビューには適用されません(円グラフの表示日数の最大は999日です)。



詳細情報:

[ノード バックアップ ステータス レポート](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

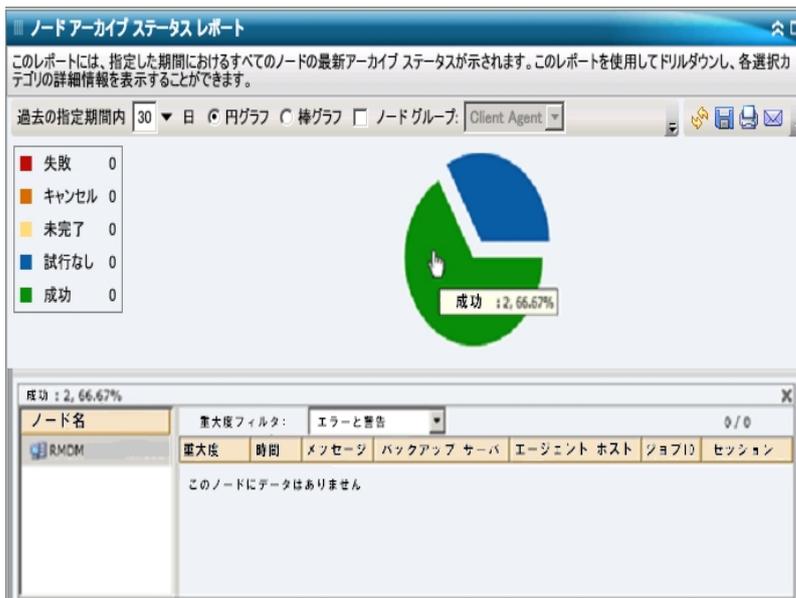
[ノード バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート](#)

ノード アーカイブ ステータスレポート - ドリルダウンレポート

ノード アーカイブ ステータスレポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のステータスカテゴリ(円グラフビューまたは棒グラフビューから)をクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

以下の点に注意してください。

- 棒グラフビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータスカテゴリのフィルタ済みノードリストが1日分表示されます。
- ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「ノード情報」を参照してください。



次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログメッセージのリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

以下の点に注意してください。

- Dashboardでは、ログメッセージを1ページに100個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。
- このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータス レポート](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポート ビュー](#)

ノード バックアップ ステータスレポート

ノード バックアップ ステータスレポートは、過去の指定日数の間にバックアップされたすべてのノードの最新のステータス結果をリストします。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード バックアップ ステータスレポート - レポートの利点

ノード バックアップ ステータスレポートは、どのノードのバックアップジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、ノードの観点から最新のバックアップジョブのステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップステータスがすべて緑(成功)の場合、対応するノードが正常にバックアップされたことがわかります。しかし、バックアップステータスが赤(失敗)の場合、ドリルダウンレポートのアクティビティログをすぐに分析して問題の領域を特定し、遅延を最低限に抑えながら修正することができます。また、日々のノードステータスをモニタして、環境内のノードステータスジョブの動作傾向を見極めることもできます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータスレポート](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ノード バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

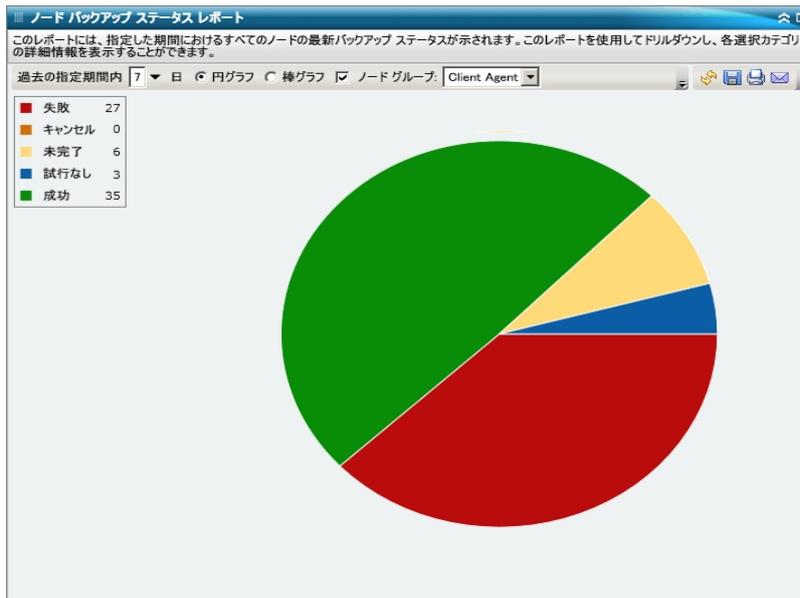
ノード バックアップ ステータスレポート - レポート ビュー

ノード バックアップ ステータスレポートは円グラフまたは棒グラフとして表示することができます。このレポートには、過去 # 日間、バックアップタイプ、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注：デフォルトでは、Arcserve Backup はアクティビティログの情報を14日間保存します。Arcserve Backup Dashboard に14日間以上のアクティビティログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティログ廃棄間隔]オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

円グラフ

円グラフは指定した期間のすべての日にバックアップされたノードの高レベルの概要を提供します。円グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの合計数の割合と各ノードの最新のステータスを示します。

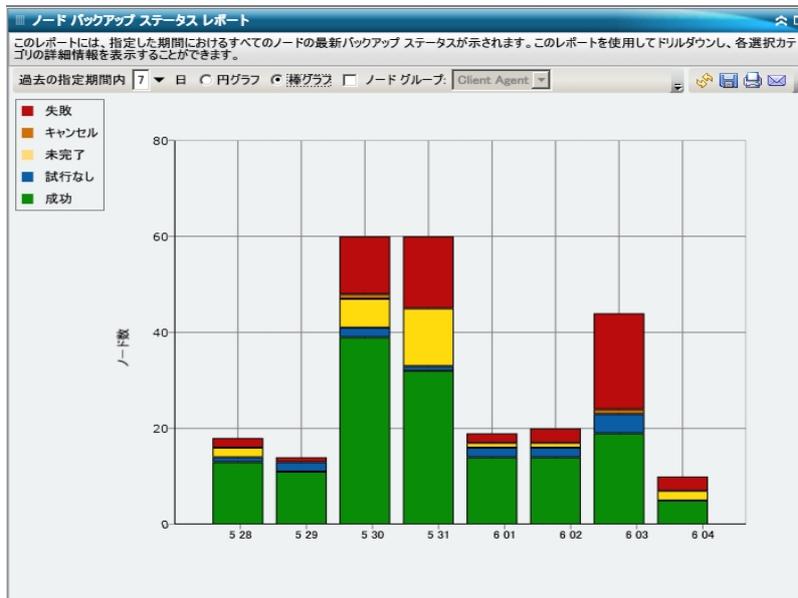


棒グラフ

棒グラフは指定した期間の各日にバックアップされたノードのより詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに示されたステータスカテゴリは、過去の指定日数の間にバックアップされたノードの日単位の数を示します。

注：デフォルトでは、Arcserve Backup Dashboard は最大で90日間のみ情報を棒グラフに表示します。表示される日数を90日間よりも長くすると、棒グラフの情報が読みにくくなります。90日以上レポート情報を表示するよう指定すると、棒グラフの表示は入力した日数に関わらず90日間に制限されます。この制

限は同じレポートの円グラフビューには適用されません(円グラフの表示日数の最大は999日です)。



詳細情報:

[ノード バックアップ ステータス レポート](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

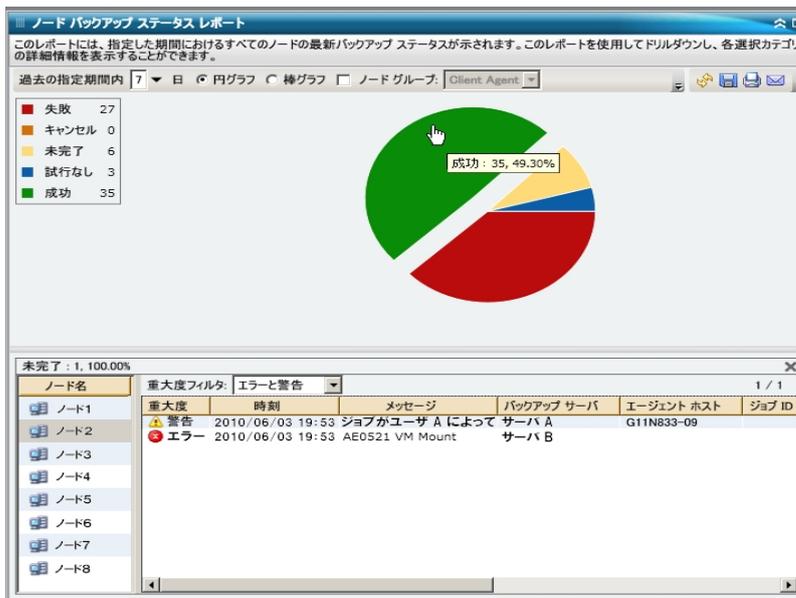
[ノード バックアップ ステータス レポート - ドリルダウン レポート](#)

ノード バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート

ノード バックアップ ステータスレポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のステータスカテゴリ(円グラフビューまたは棒グラフビューから)をクリックし、サマリ情報のレポートから、特定のカテゴリに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。

以下の点に注意してください。

- 棒グラフビューでドリルダウンを実行すると、該当するステータスカテゴリのフィルタ済みノードリストが1日分表示されます。
- ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



次にこのレポートで個別のノードの名前をクリックすることでさらにドリルダウンし、そのノードに関連するすべてのログメッセージのリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指

定してリストをフィルタすることもできます。

成功: 5, 71.43%

ノード名: FRA_WIN2003, A86-ZUS90725, WIN-415VOLBVCP2, XIAO, E-268919C5CA4

重要度フィルタ: エラーと警告 0 / 0

重要度	時刻	メッセージ	バックアップサーバ	エージェントホスト	ジョブ ID	セッ
警告		ジョブ キヤ	Server A		1387	
エラー		AE0521 VM	Server B		1388	

以下の点に注意してください。

- Dashboard では、ログ メッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。
- このドリルダウン レポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

詳細情報:

[ノード バックアップ ステータス レポート](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポートの利点](#)

[ノード バックアップ ステータス レポート - レポート ビュー](#)

ノード惨事復旧ステータスレポート

このノード惨事復旧ステータスレポートには、指定した期間内に正常にバックアップされたノードの数と、惨事復旧 (DR) 保護情報が含まれているノードと含まれていないノードを表示します。DR で保護された情報が含まれているノードは、以下のいずれかのプロセスを使用して復旧できます。

- Arcserve Backup Disaster Recovery Option
- Arcserve Backup(後で復旧に使用できるフル VM イメージを作成するための) Agent for Virtual Machines。

DR で保護された情報が含まれていないノードは、データをリストアすることはできませんが、復旧することはできません。ノード惨事復旧ステータスレポートは、どのノードが惨事復旧に備えて適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

惨事復旧とは、大惨事や自然災害によるデータの損失からコンピュータ環境を保護するための、バックアップおよび復旧処理のことです。惨事が発生すると、オペレーティングシステムのインストールやサーバのセットアップなど、非常に面倒で時間のかかる作業を手動で行わなければなりません。惨事復旧プロセスでは、サーバを確実にリストアし、ブートメディアによる起動から、バックアップメディアによるシステムの復旧、システムの動作回復まで、一連の処理を行うことで所要時間を大幅に削減し、サーバの設定経験があまりないユーザでも複雑なシステムを復旧することが可能になります。惨事復旧の基本的な概念は、惨事が発生する前にマシン固有の情報を収集および保存しておくことで、惨事へのソリューションを提供するというものです。

Disaster Recovery Option の詳細については、「[Disaster Recovery Option ユーザガイド](#)」を参照してください。Agent for Virtual Machines の詳細については、「[Agent for Virtual Machines ユーザガイド](#)」を参照してください。

注: Arcserve Backup Disaster Recovery Option がインストールされていないことが検出された場合、このレポートの上部に警告メッセージが表示され、潜在的に危険な状況であることが通知されます。

 Arcserve Backup for Windows Disaster Recovery Option がインストールされていません

詳細情報:

[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートビュー](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートの利点

ノード惨事復旧ステータスレポートは、どのノードが惨事復旧に備えて適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、このレポートによって、重要度や優先度の高いデータの一部が Disaster Recovery Option がないノードにバックアップされていることがわかった場合は、まず実際にオプションがインストールされているかどうかを確認します。インストールされていても、正常に設定されていないために使用できない可能性があります。このオプションがインストールされていないことがわかった場合、手遅れにならないうちにこのオプションを追加して、データ保護を改善する必要があります。このレポートから、重要なノードのいずれかに DR 情報がないことがわかった場合には、そのノードのフルノード バックアップ(システム状態を含む)を実行し、ノードが正常に復旧できることを確認する必要があります。

詳細情報:

[ノード惨事復旧ステータスレポート](#)

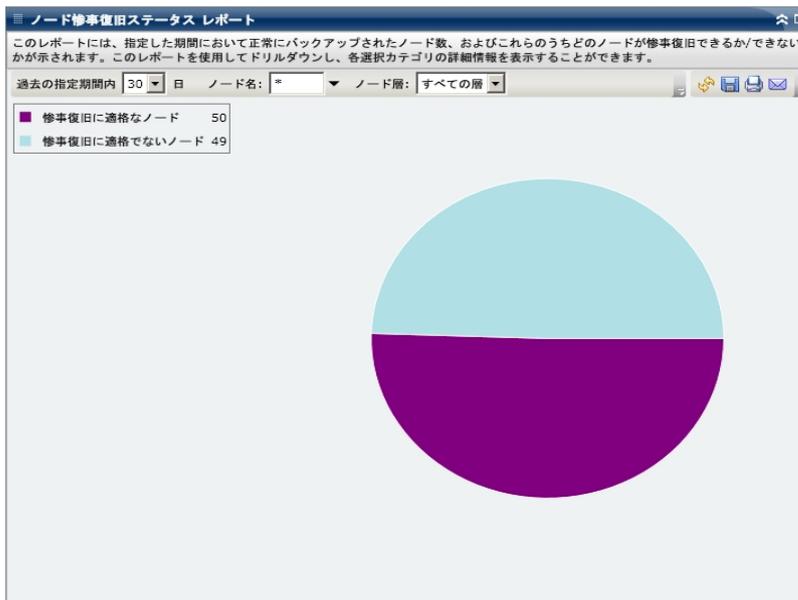
[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード惨事復旧ステータスレポート - レポート ビュー

ノード惨事復旧ステータスレポートは円グラフ形式で表示され、惨事復旧 (DR) 情報を含むノードの数 (およびパーセント) と DR 情報を含まないノードの数を表します。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

- 惨事復旧に適格なノードの定義は、指定した期間において、バックアップされたセッションを1つ以上含み、かつ DR 情報を含むノードです。
- 惨事復旧に適格でないノードの定義は、指定した期間において、バックアップされたセッションおよび DR 情報を含まないノードです。



詳細情報:

[ノード惨事復旧ステータスレポート](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートの利点](#)

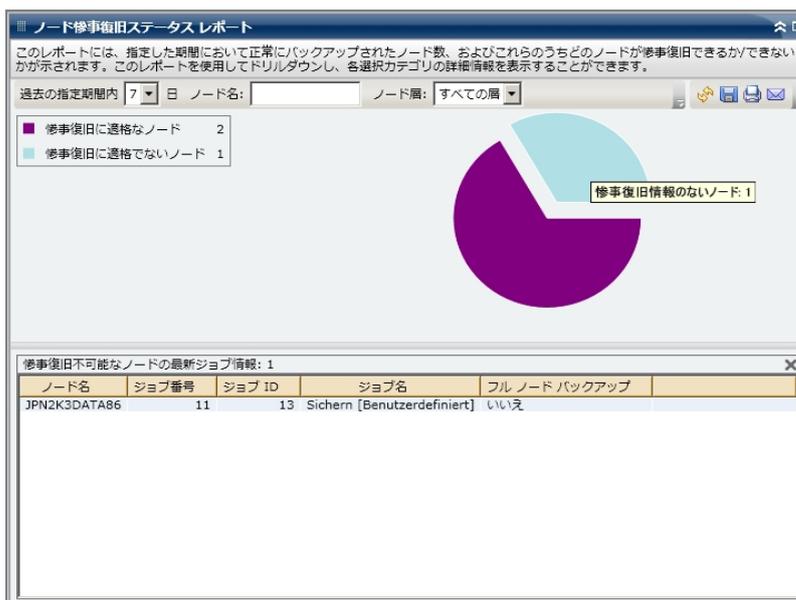
[ノード惨事復旧ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード惨事復旧ステータスレポート - ドリルダウンレポート

ノード惨事復旧ステータスレポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。2つの円グラフのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのノードが詳細な一覧で表示されます。このドリルダウンレポートには、ノード名と共に、各カテゴリに関連したDR関連情報が表示されます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

- [惨事復旧に適合でないノード]カテゴリをドリルダウンした場合、対応する表には、そのノードの最新のバックアップジョブのジョブ番号、ジョブ名、および最新のバックアップジョブがフルバックアップだったかどうかも表示されます。



- [惨事復旧に適合なノード]カテゴリをドリルダウンした場合、対応する表には、成功したDRバックアップの最新の日時、テープ情報(名前、ランダムID、シーケンス番号、およびシリアル番号)、DR情報の場所、およびDR情報のバックアップに使用した方式(Arcserve BackupによるバックアップまたはArcserve Replicationによるレプリケート)も表示されます。

注-

:

特

定のノードの場合、ノード復旧ポイントレポートに惨事復旧が利用できないと表示され

ているのに、ノード惨事復旧ステータス レポートに惨事復旧が利用可能であると表示さ

れる場合があります。
。これは、情報がレポートされた方法の違いによります。
。ノード復旧

ポイント

レポートでは、前回の復旧ポイントに関連する

D-R

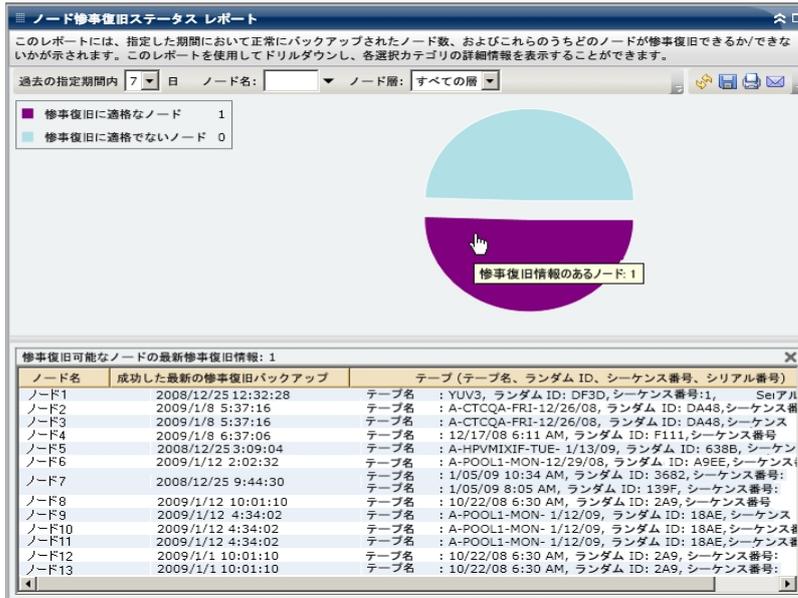
情報が表示されます

が、ノード惨事復旧ステータスレポートでは、指定された期間内に使用可能なDR

セッションが少なくとも

1

つある場合に情報が表示されません。



詳細情報:

[ノード惨事復旧ステータスレポート](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード惨事復旧ステータスレポート - レポートビュー](#)

ノード暗号化ステータスレポート

ノード暗号化レポートには、指定した期間にテープにバックアップされたノードで、暗号化されたバックアップセッションがあるノード、および暗号化セッションのないノードの数が表示されます。このレポートによって、ノード上の機密データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性のある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。

詳細情報:

[ノード暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - レポートビュー](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード暗号化ステータスレポート - レポートの利点

ノード暗号化ステータスレポートは、どのノードが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。データの暗号化は、セキュリティ維持の面でも、企業のコンプライアンス遵守の面でも非常に重要です。このレポートの表示内容は、各ノードに割り当てられた層カテゴリ(高優先度、中優先度、および低優先度)でフィルタできます。ノード層の設定の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

このレポートによって、暗号化されていないノードに機密データが存在して、セキュリティリスクにさらされているということがないかどうかをすばやく調べることができます。

たとえば、このレポートによって、暗号化されていない高優先度ノードが存在するかどうかわかります。暗号化されていない高優先度ノードがあり、このノードに機密データが存在する場合は、そのデータが適切に保護されていないことをすぐに把握できます。問題が発生しないうちに、バックアップ戦略を評価し直す必要があります。

同様に、このレポートによって、暗号化されているノード上に機密でないデータがあるかどうかを調べることで、貴重なリソース(時間と費用)を浪費しているだけでなく、バックアップの労力まで無駄にしている事態がないかどうかを把握することができます。

たとえば、機密データがない低優先度ノードのデータが暗号化されたままであることがわかれば、バックアップ戦略を評価し直して、リソースと時間が適切に使用されるようにする必要があります。

また、特定のノード上のデータがすべて暗号化されているかどうかをチェックして、適切なセキュリティおよびリソースの使用が実践されているかどうかを確認できます。

たとえば、社内の部門 A の機密データが存在するのと同じノード上に、部門 B の機密でないデータが存在するとします。このレポートから、特定のノード上のデータは、すべてが暗号化されているわけではないことがすぐにわかります。バックアップステータスを調査して、部門 A のデータが暗号化されているか、部門 B のデータが暗号化されていないかを判定でき、必要に応じてバックアップ戦略を再評価できます。

詳細情報:

[ノード暗号化ステータスレポート](#)

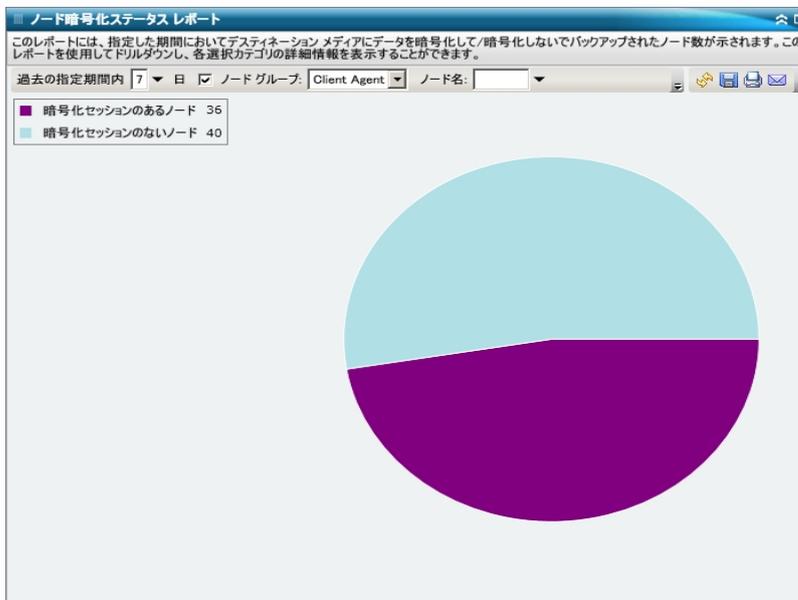
[ノード暗号化ステータスレポート - レポート ビュー](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード暗号化ステータスレポート - レポート ビュー

ノード暗号化ステータスレポートは円グラフ形式で表示され、指定期間内における、暗号化セッションのあるバックアップ済みノードの数(およびパーセント)および暗号化セッションのないバックアップ済みノードの数を表します。この表示内容は、さらに層カテゴリ(高優先度、中優先度、および低優先度)でフィルタできます。このレポートには、過去 # 日間、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

- 暗号化セッションのあるノードの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションを1つ以上含むノードです。
- 暗号化セッションのないノードの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションをまったく含まないノードです。



詳細情報:

[ノード暗号化ステータスレポート](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

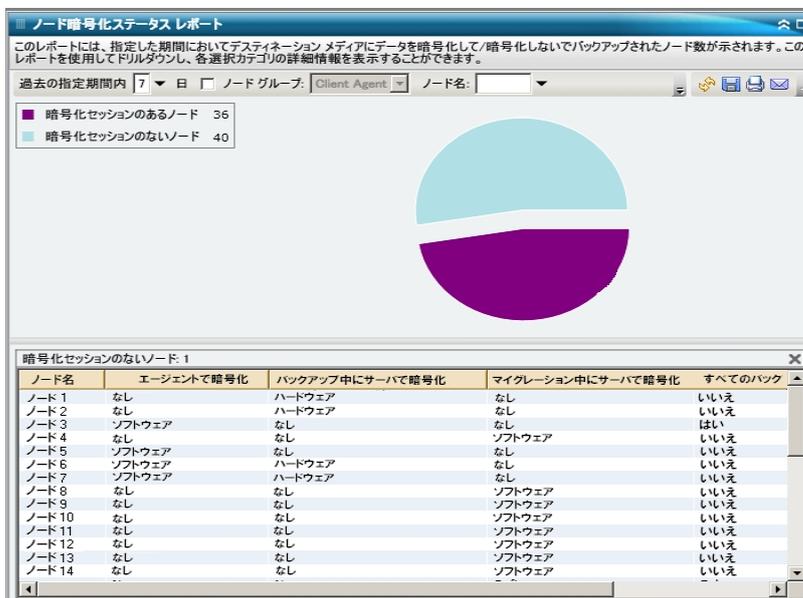
ノード暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート

ノード暗号化ステータスレポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。2つのカテゴリのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのノードが詳細な一覧で表示されます。このドリルダウンレポートには、ノード名と共に、各カテゴリに関連した暗号化関連情報が表示されます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

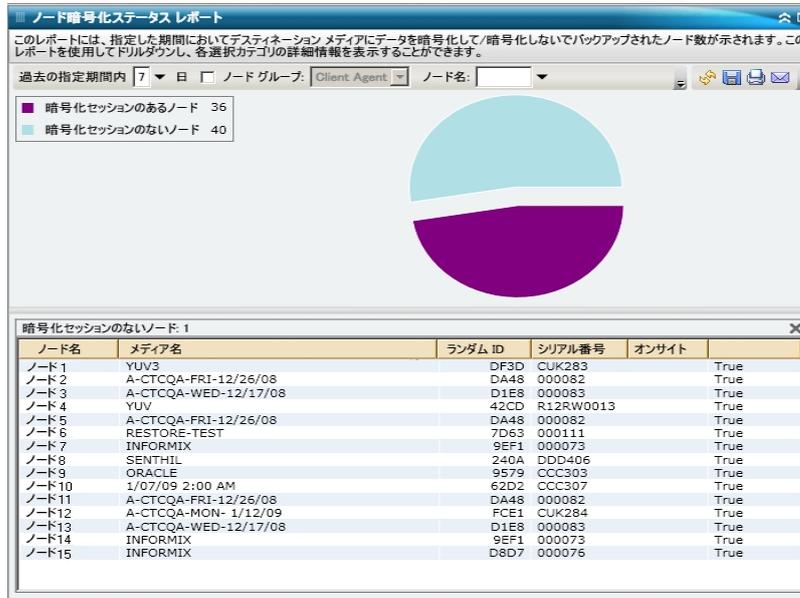
- [暗号化セッションのあるノード]カテゴリをドリルダウンした場合、対応する表には、暗号化の種類(ハードウェア、ソフトウェア、なし)、および暗号化を行った場所(エージェントで、バックアップ中にサーバで、またはマイグレーション中にサーバで)も表示されます。また、このレポートには、すべてのバックアップセッションが暗号化されたかどうか、および暗号化パスワードが Arcserve Backup データベース内に記録、格納されているかどうかが表示されます。

注：データ暗号化の種類の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。



- [暗号化セッションのないノード]カテゴリをドリルダウンした場合には、対応する表には、テープ名と共に、テープのランダム ID、およびテープがオンサイトにあ

るかどうかが表示されます。



詳細情報:

[ノード暗号化ステータスレポート](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[ノード暗号化ステータスレポート - レポートビュー](#)

ノード復旧ポイント レポート

ノード復旧ポイント レポートには、指定した期間の各ノードの復旧ポイントが一覧表示されます。ノード復旧ポイントとは、ノードのバックアップが [成功] した時点、または [未完了] になったポイントです。このレポートでは、適切な復旧ポイントを、ジョブステータスではなくノードステータスによって判断します。このレポートは、すべてのノードに対して指定した復旧ポイントの数に基づいてフィルタ(次より大きい、または次より小さい) できます。

詳細情報:

[ノード復旧ポイント レポート - レポートの利点](#)

[ノード復旧ポイント レポート - レポート ビュー](#)

[ノード復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード復旧ポイント レポート - レポートの利点

ノード復旧ポイント レポートは、どのノードが復旧に対して適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。あるノードの復旧ポイントの数に問題がある場合、パターンを調べて、バックアップ復旧ポイントが足りない、または多すぎる原因を特定できます。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

通常、特定のノードに高優先度のデータが含まれている場合は、必要な場合にすばやく完全な復旧ができるだけの復旧ポイントがあるかどうかを確認する必要があります。

たとえば、高優先度データを含むノードを適切に保護するには、5つの復旧ポイントが必要となります。このレポートによって、特定の高優先度ノードに2つしか復旧ポイントがないことがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップスケジュールを変更して、適切な復旧保護を確保する必要があります。また、ノードごとにデータを復旧できる最新時刻を特定して、DR オプションによって各ノードの復旧が可能かどうかを判断することができます。

同じように、あるノードに低優先度のデータが含まれている場合には、不要なバックアップポイントが含まれすぎていないことを確認する必要があります。

たとえば、通常、低優先度データを含むノードを適切に保護するには、2つの復旧ポイントが必要となります。このレポートによって、特定の低優先度ノードに5つ復旧ポイントがあることがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップスケジュールを変更して、貴重なリソースと時間を浪費しないようにする必要があります。

復旧ポイントが適切であること、およびデータの復旧が保証されていることを確認するために、このレポートをメディア検証レポートと共に検証することをお勧めします。

詳細情報:

[ノード復旧ポイント レポート](#)

[ノード復旧ポイント レポート - レポート ビュー](#)

[ノード復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード復旧ポイント レポート - レポート ビュー

ノード復旧ポイント レポートは表形式で表示され、指定した期間内の利用可能な復旧ポイントが、指定した数より多いまたは少ないノードをすべて一覧表示します。レポートの一覧には、ノード名と共に、対応する復旧ポイントの数、最新の復旧ポイントの時刻、保護された復旧の種類(フルまたは部分)、および惨事復旧(DR)が可能かどうかが表示されます。このレポートには、過去 # 日間、復旧ポイント数、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

惨事復旧が可能かどうかは、Arcserve Backup Disaster Recovery Option がプライマリサーバにインストールされ、ライセンスが取得されているかどうか、またそうである場合には、バックアップ時にこのオプションを使用するよう設定されているかどうかに基づきます。特定のノードが Arcserve Backup Disaster Recovery Option によって適切に保護されているかどうかを判定するには、「[ノード惨事復旧ステータスレポート](#)」を使用してください。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

ノード名	復旧ポイント数	最新の復旧ポイント	フル/部分的保護	Disaster Recovery 使用可能
ノード 1	2	12/25/2008 12:32:28 AM	フル	はい
ノード 2	4	1/8/2009 5:37:16 AM	フル	いいえ
ノード 3	2	1/9/2009 1:10:32 AM	部分的	いいえ
ノード 4	2	12/29/2008 4:18:00 AM	部分的	いいえ
ノード 5	3	12/22/2008 1:03:30 AM	部分的	いいえ
ノード 6	3	12/29/2008 12:53:26 AM	部分的	いいえ
ノード 7	1	1/13/2009 3:09:04 AM	フル	はい
ノード 8	4	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード 9	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード 10	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード 11	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード 12	1	1/9/2009 10:59:02 AM	フル	いいえ
ノード 13	1	12/17/2008 12:30:58 PM	フル	はい
ノード 14	4	1/9/2009 10:01:10 PM	部分的	いいえ
ノード 15	1	1/13/2009 12:01:42 AM	部分的	いいえ
ノード 16	1	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	いいえ
ノード 17	3	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 18	1	12/30/2008 9:42:36 AM	フル	はい
ノード 19	1	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 20	1	12/30/2008 9:42:36 AM	フル	はい
ノード 21	2	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 22	2	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 23	1	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 24	1	12/30/2008 9:42:36 AM	フル	はい
ノード 25	2	1/2/2009 9:40:16 AM	フル	はい
ノード 26	4	12/18/2008 1:34:54 PM	部分的	いいえ
ノード 27	3	12/18/2008 1:34:54 PM	部分的	いいえ
ノード 28	3	12/29/2008 12:53:26 AM	部分的	いいえ
ノード 29	1	1/12/2009 7:07:52 PM	部分的	いいえ
ノード 30	3	1/8/2009 5:37:16 AM	部分的	いいえ

詳細情報:

[ノード復旧ポイント レポート](#)

[ノード復旧ポイント レポート - レポートの利点](#)

[ノード復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート

ノード復旧ポイント レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。一覧表示されたノードのいずれかをクリックすると、過去の指定期間におけるそのノードの利用可能な復旧ポイントの詳細が一覧で表示されます。さらに、表示された復旧ポイントのいずれかをクリックして、その復旧ポイントに対応するすべてのセッションの詳細を追加で表示することができます。

注： 復旧ポイントは、正常に実行されたノードのバックアップジョブの最新の開始時刻に基づいて決定されます。

注： 特定のノードの場合、ノード復旧ポイント レポートに惨事復旧が利用できないと表示されているのに、ノード惨事復旧ステータスレポートに惨事復旧が利用可能であると表示される場合があります。これは、情報がレポートされた方法の違いによります。ノード復旧ポイント レポートでは、前回の復旧ポイントに関連するDR情報が表示されますが、ノード惨事復旧ステータスレポートでは、指定された期間内に使用可能なDRセッションが少なくとも1つある場合に情報が表示されます。

ノード名	復旧ポイント数	最新の復旧ポイント	フル/部分的保護	Disaster Recovery 使用
ノード1	2	12/25/2008 12:32:28 AM	フル	はい
ノード2	4	1/8/2009 5:37:16 AM	フル	いいえ
ノード3	2	1/9/2009 11:01:32 AM	部分的	いいえ
ノード4	2	12/29/2008 4:18:00 AM	部分的	いいえ
ノード5	3	12/22/2008 1:03:30 AM	部分的	いいえ
ノード6	3	12/29/2008 12:53:26 AM	部分的	いいえ
ノード7	1	1/13/2009 3:09:04 AM	フル	はい
ノード8	4	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード9	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード10	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード11	3	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	はい
ノード12	1	1/9/2009 10:59:02 AM	フル	いいえ
ノード13	1	12/17/2008 12:30:58 PM	フル	はい
ノード14	4	1/9/2009 10:01:10 PM	部分的	いいえ
ノード15	1	1/13/2009 12:01:42 AM	部分的	いいえ
ノード16	1	1/9/2009 10:01:10 PM	フル	いいえ

復旧ポイント	ルートパス	ステータス	ディスク容量 (KB)	実行時刻	セッション番号
12/25/2008 12:32:28 AM	C:	未完了	2920432	12/25/2008 12:33:42 AM	4
12/24/2008 12:32:20 AM	システム状態	完了	551210	12/25/2008 12:39:34 AM	5

詳細情報：

[ノード復旧ポイント レポート](#)

[ノード復旧ポイント レポート - レポートの利点](#)

[ノード復旧ポイント レポート - レポートビュー](#)

ノード サマリレポート

ノード サマリレポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、バックアップされるすべての Windows ノードのサマリを一覧表示します。このレポートによって、環境内にあるノードの全体像がわかります。

詳細情報:

[ノード サマリレポート - レポートの利点](#)

[ノード サマリレポート - レポート ビュー](#)

ノード サマリレポート - レポートの利点

ノード サマリレポートによって、環境内にあるノードの全体像がわかります。このデータから、バックアップ ジョブに対してどのノードが最も効率が良い、どのノードに問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、あるノードのスループット値が低いことがわかった場合、このレポートで遅いノードの動作パターンを特定することができます。最も速いスループット値を基準として使用し、そのノードのパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅いノードと速いノードを比較して、実際に問題があるかどうか、または両方の値が似ているかどうかを特定することができます。遅いノードはパフォーマンスが悪いわけではない可能性があります。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるノードを特定し、同じノードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ノード サマリレポート](#)

[ノード サマリレポート - レポート ビュー](#)

ノード サマリレポート - レポート ビュー

ノード サマリレポートには、ノード名、物理 CPU、CPU 速度、ディスク、論理ボリューム、メモリサイズ、NIC カード、および OS が表形式で一覧表示されます。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



このレポートには、ご使用のバックアップ環境内の (サポートされた Windows オペレーティング システムを実行している) 全ノードに関する概要情報が示されます。

ノード グループ: Client Agent | ノード名: | ノード層: すべての層

ノード名	CPU 総数	CPU 速度 (MHz)	ディスク	論理ボリューム	メモリ サイズ (MB)	NIC カード
ノード1	1	1694	1	1	1024	1 Microsoft(R) \
ノード2	1	2656	1	2	1024	1 Microsoft(R) \
ノード3	1	2666	1	1	1024	1 Microsoft® W
ノード4	1	2133	1	1	4096	3 Microsoft® W
ノード5	1	1593	1	1	2048	2 Microsoft(R) \
ノード6	2	2392	1	3	1024	3 Microsoft(R) \
ノード7	1	2657	1	2	1024	1 Microsoft(R) \
ノード8	1	2259	1	1	512	1 Microsoft(R) \
ノード9	1	1396	4	4	2048	2 Microsoft(R) \
ノード10	1	1396	4	1	2048	2 Microsoft(R) \
ノード11	1	2126	1	1	1024	1 Microsoft(R) \
ノード12	1	2127	1	1	512	1 Microsoft(R) \
ノード13	1	2258	1	1	1024	1 Microsoft(R) \
ノード14	1	996	1	1	512	1 Microsoft(R) \
ノード15	1	2793	1	3	1024	1 Microsoft(R) \
ノード16	1	2660	2	2	511	1 Microsoft(R) \
ノード17	1	2660	1	1	511	1 Microsoft(R) \
ノード18	1	2660	1	1	511	1 Microsoft(R) \
ノード19	1	1994	1	1	511	1 Microsoft(R) \
ノード20	1	2660	1	1	2022	1 Microsoft® W
ノード21	1	1995	1	1	510	1 Microsoft® W
ノード22	2	2392	1	1	2048	1 Microsoft(R) \
ノード23	1	1396	1	2	2048	1 Microsoft(R) \
ノード24	1	2328	2	2	8192	2 Microsoft(R) \
ノード25	1	1995	1	1	511	1 Microsoft(R) \
ノード26	1	1995	7	3	1022	1 Microsoft® W
ノード27	2	2793	1	1	2048	1 Microsoft(R) \
ノード28	1	2793	6	2	2048	1 Microsoft(R) \
ノード29	1	997	1	1	2048	2 Microsoft® W
ノード30	1	1793	1	1	1024	2 Microsoft® W
ノード31	1	2133	1	2	4096	1 Microsoft® W
ノード32	1	1995	2	2	1536	1 Microsoft Win
ノード33	1	1995	1	1	511	1 Microsoft(R) \
ノード34	1	1995	1	1	510	1 Microsoft® W
ノード35	1	1995	1	1	510	1 Microsoft® W

詳細情報:

[ノード サマリレポート](#)

[ノード サマリレポート - レポートの利点](#)

ノード層レポート

ノード層レポートには、各優先度層のノード数が表示されます。ノード層は、3つのカテゴリ(高優先度、中優先度、および低優先度)に設定されます。デフォルトでは、高優先度層にはすべての Arcserve Backup サーバ(プライマリおよびメンバ)、および Arcserve Backup アプリケーション エージェント(Oracle、Microsoft Exchange、Microsoft SQL Server、Microsoft Sharepoint など) がインストールされたすべてのノードが含まれるように自動的に設定されます。また、低優先度層には上記以外のすべてのノード(ファイルシステム エージェントを含む)が含まれるように自動的に設定されます(デフォルトでは、中優先度層にはノードが含まれず、ユーザによるカスタマイズが可能です)。

各層に対するノード割り当ては、[ノード層の設定]ダイアログ ボックスを使用して、個別のニーズにあわせて再構成またはカスタマイズできます。[ノード層の設定]ダイアログ ボックスは、Arcserve Backup サーバ管理またはバックアップ マネージャからアクセスできます。

注: ノード層の設定の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

詳細情報:

[ノード層レポート - レポートの利点](#)

[ノード層レポート - レポート ビュー](#)

[ノード層レポート - ドリルダウン レポート](#)

ノード層レポート - レポートの利点

ノード層レポートを使用して、各優先度層にどのノードが含まれているかをすばやく特定でき、すべてのノードが適切に保護されているかどうかを確認するのに役立ちます。

たとえば、特定のノードに高優先度データがあることがわかっていて、このレポートからそのノードが低優先度層カテゴリに含まれていることが判明した場合は、Arcserve Backup サーバ管理または Arcserve Backup マネージャを使用してこのノードを高優先度層カテゴリに割り当て直す必要があります。

詳細情報:

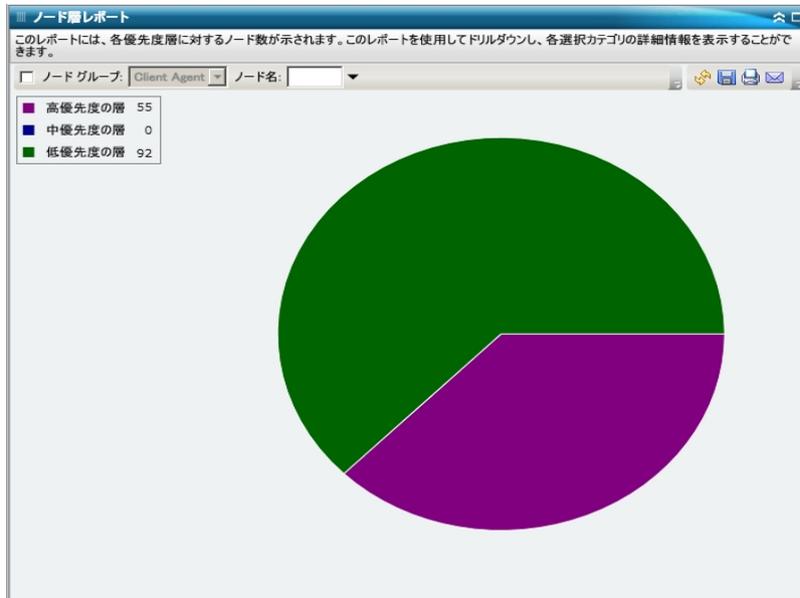
[ノード層レポート](#)

[ノード層レポート - レポートビュー](#)

[ノード層レポート - ドリルダウンレポート](#)

ノード層レポート - レポート ビュー

ノード層レポートは円グラフ形式で表示され、各優先度層のノード数を表します。このレポートには、ノードグループとノード名の各フィルタが含まれます。



詳細情報:

[ノード層レポート](#)

[ノード層レポート - レポートの利点](#)

[ノード層レポート - ドリルダウンレポート](#)

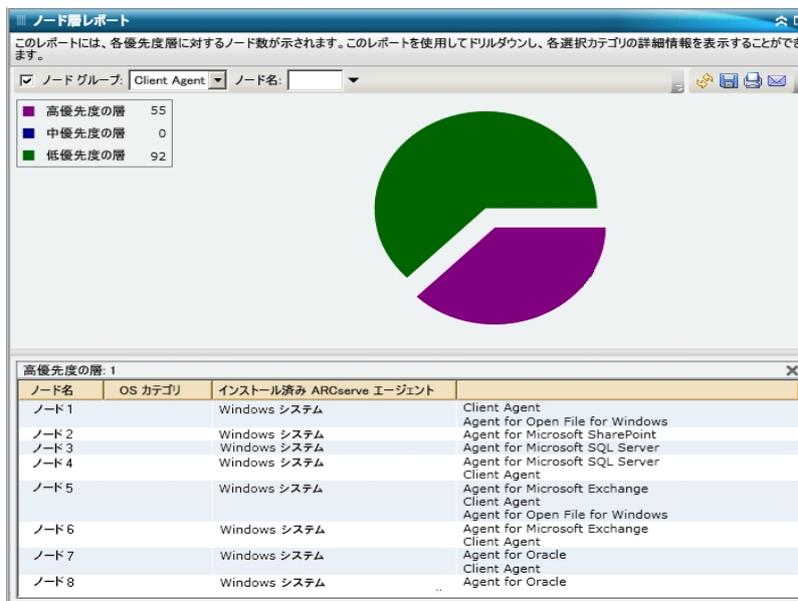
ノード層レポート - ドリルダウンレポート

ノード層レポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。円グラフをクリックしてドリルダウンし、特定の層のノードの一覧を表形式で表示できます。この表には、ノード名、OS、カテゴリ、およびインストールされている Arcserve エージェントの各列が含まれます。

[OS カテゴリ] 列には、バックアップ マネージャのソース ツリーに表示されているサポートされたノード カテゴリのみが含まれます。この列に表示される OS カテゴリは、NAS サーバ、Mac OS X システム、UNIX/Linux システム、Windows システム、Arcserve Replication シナリオ、VMware VCB システム、および Microsoft Hyper-V システムです。

インストールされている Arcserve エージェントの列には、ノードにインストールされているすべての Arcserve Backup エージェントが含まれます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



詳細情報:

[ノード層レポート](#)

[ノード層レポート - レポートの利点](#)

[ノード層レポート - レポートビュー](#)

最近のバックアップに失敗したノード レポート

最近のバックアップに失敗したノード レポートでは、指定した期間内で前回または最新のバックアップに失敗したノードが一覧表示されます。このレポートによって、データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性のある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。一覧にノードが表示されず、バックアップがすべて成功している状態が理想です。

詳細情報:

[最近のバックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - レポート ビュー](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - ドリルダウンレポート](#)

最近のバックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点

最近のバックアップに失敗したノード レポートは、バックアップのスケジュールが設定されているノードのうち、どのノードが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。あるノードの最近のバックアップの失敗に問題がある場合、パターンを調べて、最新のバックアップに失敗した日付が、データ保護が危険にさらされていることを意味するかどうかを判断できます。

たとえば、バックアップジョブのスケジュールが、日単位の増分バックアップ、週単位のフルバックアップ、および月単位のフルバックアップに設定されているノードがあり、このレポートから、最新の週単位および月単位のフルバックアップジョブが失敗していることがわかれば、最近成功したバックアップがないためにデータが適切に保護されていないことを意味しています。ただし、最新の失敗が日単位のバックアップに発生していて、前回のバックアップの成功以降に日があまり経過していない場合は、日単位のデータ保護は欠けていますが、先週のフルバックアップが利用できるため、その時点までのデータを復旧できる可能性があります。

必要に応じて、ドリルダウンしてアクティビティログを表示し、ページをスクロールして、各ノードおよび各ジョブに関する情報をさらに参照することができます。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[最近のバックアップに失敗したノード レポート](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - レポート ビュー](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - ドリルダウンレポート](#)

最近のバックアップに失敗したノード - レポート ビュー

最近のバックアップに失敗したノード レポートは表形式で表示され、指定した期間内で最近のバックアップに失敗したノードが一覧表示されます。レポートには、ノード名と共に、最新の失敗したバックアップの時刻、ノードのスループット(速度)、指定した期間内の失敗回数、前回の成功したバックアップ以降の日数、および関連するジョブ情報(名前、ID およびステータス)が表示されます。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

また、このレポートには、関連するすべてのメークアップ ジョブのステータスも表示されます。メークアップ ジョブ ステータスは、[作成されました]、[作成されませんでした]、[アクティブ]、[完了]のいずれかです。

- **作成されました** - メークアップ ジョブが作成され、ジョブ キュー内でレディ状態ですが、まだ実行されていません。
- **作成されませんでした** - 最初のバックアップ ジョブが失敗した後、メークアップ ジョブは作成されていません。失敗した場合にメークアップ ジョブを作成するようジョブが正しく設定されていることを確認する必要があります。
- **アクティブ** - メークアップ ジョブが作成され、実行中です。メークアップ ジョブのステータスは、まだ不明です。

- 終了 - 最初のバックアップジョブが失敗した後に、メークアップジョブが作成され、実行が完了しています。

このレポートには、指定した期間において最新のバックアップ ステータスが失敗であるノードが示されます。このレポートを使用してドリルダウンし、各選択ノードの詳細情報を表示することができます。

ノード名	故障時刻	失敗回数	前回成功したバックアップ以降の日数	ジョブ名	ジョブ ID	メークアップ ジョブ ステータス
ノード 1	1/8/2009 5:37:	4	成功したバックアップがありません	Job 01	1827	作成されました
ノード 2	1/12/2009 12:53:	7		Job 02	2753	作成されました
ノード 3	1/7/2009 1:16:	6		Job 03	1677	作成されました
ノード 4	1/13/2009 4:34:	20		Job 04	2969	作成されました
ノード 5	1/13/2009 4:34:	3		Job 05	2969	作成されました
ノード 6	1/9/2009 10:01:	1		Job 06	2379	作成されました
ノード 7	1/9/2009 10:01:	4		Job 07	2379	作成されました
ノード 8	1/12/2009 5:33:	4		Job 08	1385	完了
ノード 9	1/12/2009 5:33:	7		Job 09	1385	完了
ノード 10	1/12/2009 5:33:	8		Job 10	1385	完了
ノード 11	1/12/2009 5:33:	5		Job 11	1385	完了
ノード 12	1/12/2009 5:33:	2		Job 12	1385	完了
ノード 13	1/12/2009 5:33:	7		Job 13	1385	完了
ノード 14	1/12/2009 5:33:	5	成功したバックアップがありません	Job 14	1385	完了
ノード 15	1/12/2009 5:33:	13		Job 15	1385	完了
ノード 16	1/12/2009 5:33:	6		Job 16	1385	完了

詳細情報:

[最近のバックアップに失敗したノード レポート](#)

[最近のバックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - ドリルダウンレポート](#)

最近のバックアップに失敗したノード - ドリルダウンレポート

最近のバックアップに失敗したノードでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。一覧表示されたノードのどれかをクリックすると、選択したノード対するすべてのジョブが詳細な一覧で表示されます。重要度のレベルによって、表示された情報をフィルタできます。このドリルダウンレポートには、失敗したノードの情報(バックアップサーバ、エージェントホスト、ジョブIDおよびセッション番号)および失敗に関する状況(失敗した時刻と対応するメッセージ)が表示されます。

注: Dashboard では、ログメッセージを1ページに100個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ]ボタンをクリックします。

注: このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

ノード名	故障時刻	失敗回数	前回成功したバックアップ日	ジョブ名	ジョブID	メッセージ
ノード1	1/8/2009 5:37:16 AM	4	成功したバックアップがあり	ジョブ01	1827	作成されま
ノード2	1/2/2009 12:53:32 AM	7		ジョブ02	2753	作成されま
ノード3	1/7/2009 1:16:10 PM	6		ジョブ03	1677	作成されま
ノード4	1/13/2009 4:34:06 AM	20		ジョブ04	2969	作成されま
ノード5	1/13/2009 4:34:06 AM	3		ジョブ05	2969	作成されま
ノード6	1/9/2009 10:01:10 PM	1		ジョブ06	2379	作成されま
ノード7	1/9/2009 10:01:10 PM	4		ジョブ07	2379	作成されま
ノード8	1/12/2009 5:33:52 PM	4		ジョブ08	1385	完了
ノード9	1/12/2009 5:33:52 PM	7		ジョブ09	1385	完了
ノード10	1/12/2009 5:33:52 PM	8		ジョブ10	1385	完了
ノード11	1/12/2009 5:33:52 PM	5		ジョブ11	1385	完了
ノード12	1/12/2009 5:33:52 PM	2		ジョブ12	1385	完了
ノード13	1/12/2009 5:33:52 PM	7		ジョブ13	1385	完了
ノード14	1/12/2009 5:33:52 PM	5	成功したバックアップがあり	ジョブ14	1385	完了
ノード15	1/12/2009 5:33:52 PM	13		ジョブ15	1385	完了
ノード16	1/12/2009 5:33:52 PM	6		ジョブ16	1385	完了

重大度	時刻	メッセージ
エラー	1/8/2009 6:12:15 AM	AE9971 Get the Backup Component Farm\SharedServices1 Information Failed. Ple
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft
警告	1/8/2009 5:57:38 AM	AW0004 <100-362-2K8X64> Failed to open file <C:\Program Files (x86)\Microsoft

詳細情報:

[最近のバックアップに失敗したノード レポート](#)

[最近のバックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点](#)

[最近のバックアップに失敗したノード - レポート ビュー](#)

OS レポート

OS レポートは SRM タイプのレポートで、Arcserve Backup ドメイン内のすべての Windows ノードでサポートされている OS 情報が表示されます。このレポートをフィルタして、指定した OS 情報でノードを分類して表示することができます。

詳細情報:

[OS レポート - レポートの利点](#)

[OS レポート - レポート ビュー](#)

OS レポート - レポートの利点

OS レポートは、OS に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、バックアップ ジョブに対してどの OS が最も効率が良いか、どの OS に問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、このレポートをバックアップ スループットの最も速い/遅い上位ノード レポートに関連付けて、ノードの OS に適用された前回のサービス パックにより、スループットが遅くなる可能性を識別することができます。また、このレポートを使用して、環境内のノードで実行されている OS のバージョンとサービス パックのレベルを確認することができます。その後、環境内のノードの OS に最新のパッチやアップグレードを適用する際にこの情報が活用できます。また、このレポートを使用して、OS のインストール ディレクトリおよびローカライズされたバックアップ環境で OS の言語に関する情報を取得することもできます。

問題が潜在している OS を特定し、同じ OS が実行されているノードに頻繁に問題が発生するかどうかを判定するために動作 パターンは常に調べておいてください。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[OS レポート](#)

[OS レポート - レポート ビュー](#)

OS レポート - レポート ビュー

OS レポートには、各ノードのノード名、関連する OS、OS バージョン、OS 言語、サービスパックのバージョン、システム ディレクトリ、システム デバイス、および OS メーカーが表形式で一覧表示されます。このレポートには、OS 名、SP バージョン (サービスパック)、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

The screenshot shows a window titled "OS レポート" (OS Report). Below the title bar, there is a description: "このレポートには、ご使用のバックアップ環境内の (サポートされた Windows オペレーティング システムを実行している) 全ノードに対するオペレーティング システム情報が示されます。" (This report shows operating system information for all nodes in your backup environment (supported Windows operating systems are running)). Below this, there are filter controls: "OS 名: [すべて] SP バージョン: [すべて] ノード グループ: [Client Agent] ノード名: []". The main area contains a table with the following columns: "ノード名" (Node Name), "OS", "OS バージョン" (OS Version), "OS 言語" (OS Language), and "サービス パックのバージョン" (Service Pack Version). The table lists 35 nodes with their respective OS details.

ノード名	OS	OS バージョン	OS 言語	サービス パックのバージョン
ノード1	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード2	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード3	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterpris	6.0.6001	English	1.0
ノード4	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterpris	6.0.6001	English	1.0
ノード5	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Stand	5.2.3790	English	2.0
ノード6	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	1.0
ノード7	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	1.0
ノード8	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	1.0
ノード9	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード10	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード11	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード12	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	1.0
ノード13	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード14	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	1.0
ノード15	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	2.0
ノード16	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード17	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード18	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード19	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Stand	5.2.3790	English	2.0
ノード20	Microsoft® Windows Server® 2008 Datacent	6.0.6001	English	1.0
ノード21	Microsoft® Windows Server® 2008 Datacent	6.0.6001	English	1.0
ノード22	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード23	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード24	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード25	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード26	Microsoft® Windows Server® 2008 Datacent	6.0.6001	English	1.0
ノード27	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterp	5.2.3790	English	1.0
ノード28	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	1.0
ノード29	Microsoft® Windows Server® 2008 for Itaniu	6.0.6001	English	1.0
ノード30	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterpris	6.0.6001	English	1.0
ノード31	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterpris	6.0.6001	English	1.0
ノード32	Microsoft Windows 2000 Server	5.0.2195	English	4.0
ノード33	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Enterp	5.2.3790	English	2.0
ノード34	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterpris	6.0.6001	English	1.0
ノード35	Microsoft® Windows Server® 2008 Standarc	6.0.6001	English	1.0

詳細情報:

[OS レポート](#)

[OS レポート - レポートの利点](#)

RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント)レポート

RPO レポートは棒グラフ形式で表示され、各日、各場所のバックアップノード数を表します。このレポートを使用して、任意の日のノードバックアップの場所を分析し、必要になった場合の最適の復旧手段を判断することができます。

RPO レポートでは、ノードのバックアップが、レプリケート、ディスク、クラウド、オンサイトテープ、オフサイトテープの5つに分類されます。棒グラフをクリックすると、対応するカテゴリ内の選択したノードで利用できる復旧ポイントが表示されます。

レプリケート

Arcserve Replication によってレプリケートされたノード、および Arcserve Backup によって Arcserve Replication シナリオとしてバックアップされたノード。レプリケートされたノードは、通常、数分で復旧できます。

ディスク

ディスク(FSD、VTL、デデュプリケーション デバイスを含む)にバックアップされたノード。ディスクバックアップは、通常、復旧に数時間かかります。

クラウド

クラウドにバックアップされたノード。クラウドバックアップは、通常、復旧に1日かかります。

オンサイト:

オンサイトのテープにバックアップされたノード。オンサイトテープバックアップは、通常、復旧に1日かかります。

オフサイト:

オフサイトのテープにバックアップされたノード。オフサイトテープバックアップは、通常、復旧に数日かかります。

詳細情報:

[RPO レポート - レポートの利点](#)

[RPO レポート - レポート ビュー](#)

[RPO レポート - ドリルダウン レポート](#)

RPO レポート - レポートの利点

RPO レポートはバックアップデータの場所レポートに似ていますが、さらなる利点として、指定した日の復旧ポイントの数とバックアップデータの場所が表示されません。このレポートは、復旧戦略の速度と効果を計画したり、(必要に応じて)実証したりするのに役立ちます。

通常、このレポートを使用して、データ復旧の速さや取得できる復旧ポイント(バックアップ)の数を把握できます。

たとえば、社内で、部門 A が重要なデータや高優先度のデータをバックアップしており、場合によっては数分でこのデータを復旧する必要があるとします。また、部門 B が重要でないデータを A とは別にバックアップしており、場合によっては 1 日以内でこのデータを復旧する必要があるとします。このようなニーズに基づくなら、部門 A のデータはレプリケートして、すぐに復旧できるようにしておく必要があり、一方部門 B のデータは日単位でバックアップを行い、オンサイトテープに保存しておけば、復旧要件を満たすことができます。

こうして、このレポートを使用し、保存されたデータの復旧ポイントの数と場所を参照して、このような各種ニーズを満たしているかを判定することができます。また、各部門に対して、個々の要件がどのように満たされているかを実証したり、必要に応じて各種要件を満たすようにバックアップ戦略を変更する(保存データの高速復旧を実現するため、取得する復旧ポイント/バックアップの量を変更する、またはバックアップ方法を変更する)ことができます。

詳細情報:

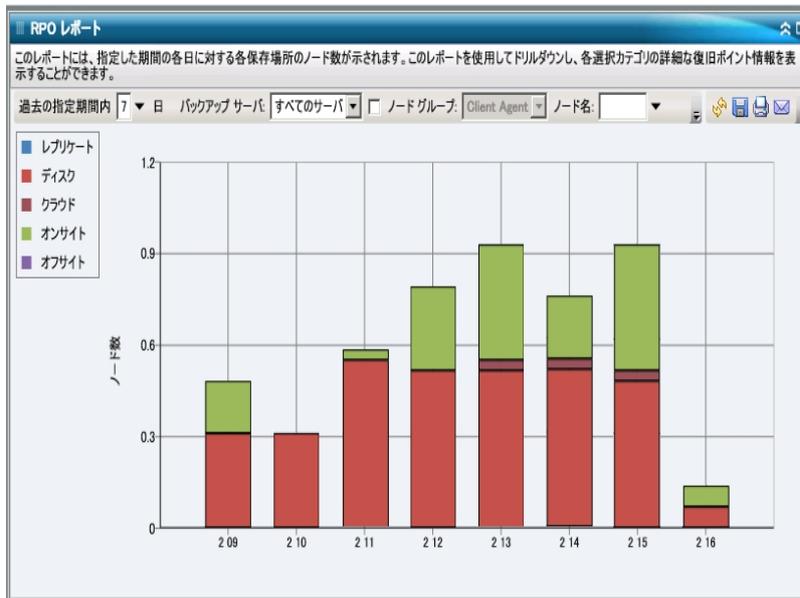
[RPO \(Recovery Point Objective、目標復旧ポイント\)レポート](#)

[RPO レポート - レポート ビュー](#)

[RPO レポート - ドリルダウンレポート](#)

RPO レポート - レポート ビュー

RPO レポートは棒グラフの形式で表示され、指定した期間に各復旧ポイントの場所にバックアップされたノードの数を表示します。棒グラフは、期間内の各日に、指定したサーバにバックアップされたノードの詳細なレベルのビューを提供します。棒グラフに表示されたステータスカテゴリは、各復旧場所(レプリケート、ディスク、クラウド、オンサイト、オフサイト)にバックアップされたノードの数を日単位で示します。このレポートには、過去 # 日間、バックアップサーバ、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。



詳細情報:

[RPO \(Recovery Point Objective、目標復旧ポイント\) レポート](#)

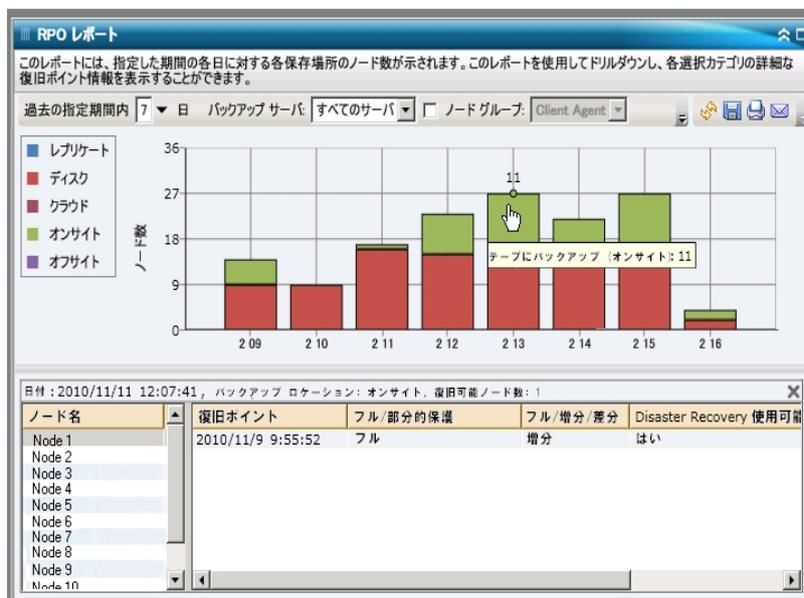
[RPO レポート - レポートの利点](#)

[RPO レポート - ドリルダウン レポート](#)

RPO レポート - ドリルダウン レポート

RPO レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。棒グラフのカテゴリのいずれかをクリックすると、選択された日に、対応する復旧場所にバックアップされたすべてのノードの詳細なリストが表示されます。このドリルダウンレポートには、ノード名と共に、対応する最新の復旧ポイント(バックアップ時間)、復旧ポイントの数、保護された復旧の種類(フルまたは部分)、使用されたバックアップ方式(フル、増分、または差分)、惨事復旧(DR)が可能かどうか、および復旧可能エンティティ名(復旧ポイントのルートセッションパス)が表示されます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。



詳細情報:

[RPO \(Recovery Point Objective、目標復旧ポイント\) レポート](#)

[RPO レポート - レポートの利点](#)

[RPO レポート - レポート ビュー](#)

SCSI/ファイバカード レポート

SCSI/ファイバカード レポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、環境内のすべての Windows ノードの SCSI (Small Computer System Interface) カードおよびファイバカードの情報を、メーカー別に分類して表示します。

詳細情報:

[SCSI/ファイバカード レポート - レポートの利点](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - レポート ビュー](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - ドリルダウンレポート](#)

SCSI/ファイバカード レポート - レポートの利点

SCSI/ファイバカード レポートは、SCSI カードまたはファイバカードに基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、バックアップジョブに対してどの SCSI カードやファイバカードが最も効率が高く、どの SCSI カードやファイバカードに問題の可能性があるかを分析して特定することができます。

たとえば、このレポートによって、ある SCSI カードやファイバカード ノードのスループット値が低いことがわかった場合に、原因を特定するために調査できます。遅い SCSI カードやファイバカードまたは同じメーカー製の SCSI カードやファイバカードの動作パターンは常に調べておいてください。最も速いスループット値を基準として使用し、その SCSI カードやファイバカードのパフォーマンスが高い理由を分析することもできます。遅い SCSI カードやファイバカードと速い SCSI カードやファイバカードを比較して、SCSI カードやファイバカード自体に問題があるのかどうか、両方の値が似ているかどうかを判定することができます。遅い SCSI カードやファイバカードのパフォーマンスが悪いわけではない可能性があります。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のある SCSI カードやファイバカードを特定し、同じ SCSI カードやファイバカードが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[SCSI/ファイバカード レポート](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - レポート ビュー](#)

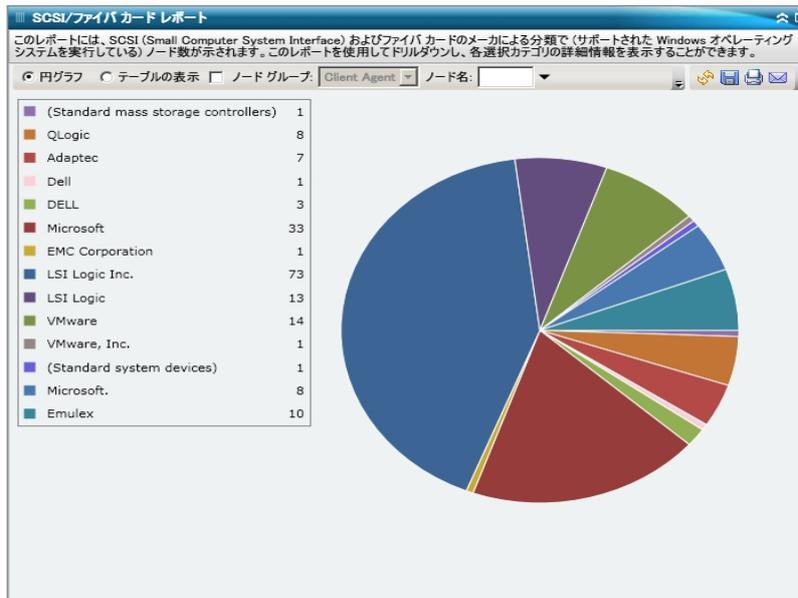
[SCSI/ファイバカード レポート - ドリルダウンレポート](#)

SCSI/ファイバカード レポート - レポート ビュー

SCSI/ファイバカード レポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。このレポートには、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフには、すべての既知のノードの SCSI カードおよびファイバカードの情報が表示されます。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、SCSI/ファイバカード レポートには、すべてのカテゴリについて、詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、詳細、メーカー、ドライババージョンなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報:

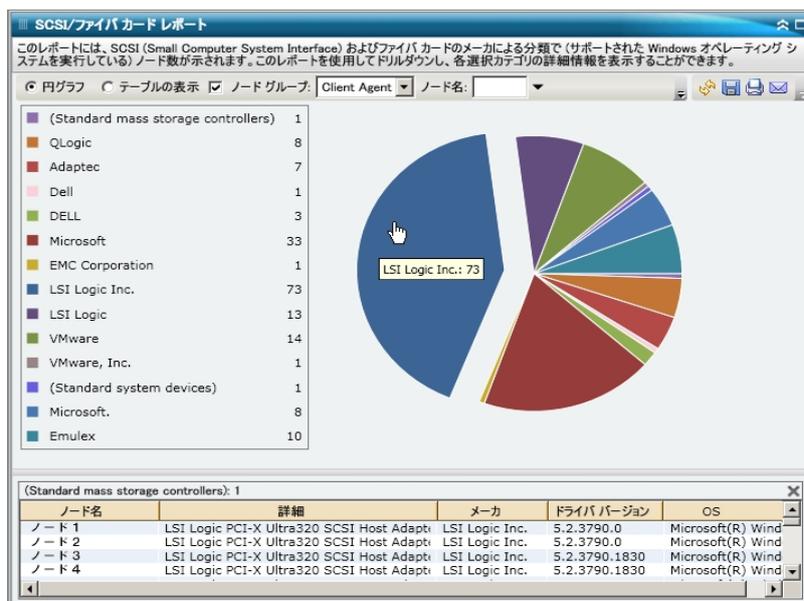
[SCSI/ファイバカード レポート](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - レポートの利点](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - ドリルダウンレポート](#)

SCSI/ファイバカード レポート - ドリルダウン レポート

SCSI/ファイバカード レポートでは、円グラフビューをさらに展開してより詳細な情報を表示することができます。サマリ情報のレポートで、列をクリックして、特定の SCSI カードやファイバカードに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。



詳細情報:

[SCSI/ファイバカード レポート](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - レポートの利点](#)

[SCSI/ファイバカード レポート - レポート ビュー](#)

SRM PKI 使用率レポート

サーバの効率と信頼性を保証するには、常にパフォーマンスをモニタして潜在的な問題を識別し、ボトルネック状況を迅速に解消する必要があります。

Dashboard には、CPU、ディスクパフォーマンス、メモリ、ネットワークの4種類のSRM 使用率レポートが用意されています。これらの使用率レポートを組み合わせると、Arcserve Backup によって保護されているサーバから、指定した期間にわたるさまざまな種類のデータを収集できます。収集されたこのデータは、サーバのパフォーマンスを分析し、問題領域を分離する上で役立ちます。

これらの使用率レポートに基づいてシステム管理モニタリングを実行し、使用率の最も高いサーバと最も低いサーバを特定できます。使用率の高いサーバに対しては、ハードウェアをアップグレードすることによって、非効率なハードウェアによって発生するボトルネック状況を解消できます。使用率の低いサーバに対しては、サーバの統合または仮想化によってハードウェアの使用率を最大限に高めることができます。さらに、バックアップの問題を抱えている場合は、使用率レポートを参照して、問題がこれらのシステム関連領域に関連しているかどうかを調べることができます。

これらの使用率レポートでは、指定したアラートしきい値レベルの割合を超過した場合に、アラート通知を送信するように設定できます。これらのアラートのPKI (performance key indicator) しきい値設定は、Arcserve Backup セントラルエージェント管理の [SRM PKI の環境設定] ダイアログボックスで行います。これらのアラートでは、さまざまな通信手段を利用でき、Arcserve Backup Alert マネージャで送信先の人員を指定できます。アラート設定の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

注: アラート通知が送信されなかった場合、失敗したアラートはエージェントの「AgPkiAlt.log」ファイルに含まれますが、その通知の送信は再試行されません。AgPkiAlt.log ファイルは次のディレクトリにあります: X:\Program Files\CA\SharedComponents\Arcserve Backup\UniAgent\Log

詳細情報:

[SRM PKI 使用率レポート - レポートの利点](#)

[CPU 使用率レポート](#)

[ディスク パフォーマンスレポート](#)

[メモリ使用率レポート](#)

[ネットワーク使用率レポート](#)

SRM PKI 使用率レポート - レポートの利点

使用率レポートは SRM レポートで、互いに組み合わせて使用することによって、Arcserve Backup で保護されているサーバからさまざまな種類のデータを収集できます。これらのレポートを使用すると、サーバのパフォーマンスを分析し、問題領域を分離できます。

CPU 使用率レポート

CPU 使用率レポートには、Arcserve Backup によって保護されているサーバの指定した期間中の CPU 使用率が表示されます。このレポートを使用すると、CPU の使用率をモニタし、過負荷状態の頻発を防ぐことができます。CPU 使用率が高すぎると、サーバの応答時間が非常に遅くなるか、反応しなくなる場合があります。この場合、負荷の分散(バランシング)を検討する必要があります。CPU 使用率が低すぎる場合、サーバの統合または仮想化によってハードウェアの使用率を最大限に高めることを検討する必要があります。

ディスクパフォーマンスレポート

ディスクパフォーマンスレポートには、Arcserve Backup が保護するサーバの指定期間内のディスクスループットが表示されます。このレポートを使用すると、ディスクのスループットをモニタし、ディスクの能力を最大限に高めることができます。ディスクスループットがディスク能力よりはるかに低い場合、そのディスクの能力が不必要に高いと考えられるので、ニーズと一致させるためにより効率の良いディスクへのダウングレードを検討する必要があります。ディスクスループットがディスクの最大処理能力に近い場合、ニーズと一致させるためにディスクのアップグレードを検討する必要があります。通常、高速なディスクほどパフォーマンスは高くなります。

メモリ使用率レポート

メモリ使用率レポートには、Arcserve Backup によって保護されているサーバの指定した期間中のメモリ使用率が表示されます。使用率は、メモリ容量のどれくらいが使用されているかを表します。使用率が高くなるほど、サーバのパフォーマンスは低くなります。メモリ使用率が頻繁に高くなりすぎる場合、原因となっているプロセスを特定する必要があります。このレポートを使用すると、アプリケーションまたはサーバのアップグレードがいつ必要かを決定できます。

ネットワーク使用率レポート

ネットワーク使用率レポートには、Arcserve Backup によって保護されているサーバの指定した期間中の NIC 帯域幅の使用率が表示されます。使用率は、ネットワークインターフェース(NIC)のどれくらいが使用されているかを表します。使用率が高くなるほど、ネットワークのパフォーマンスは低くなります。ネットワーク使用率が頻繁に高くなりすぎる場合、原因となっているプロセスを特定して問題を解決する必要があります。

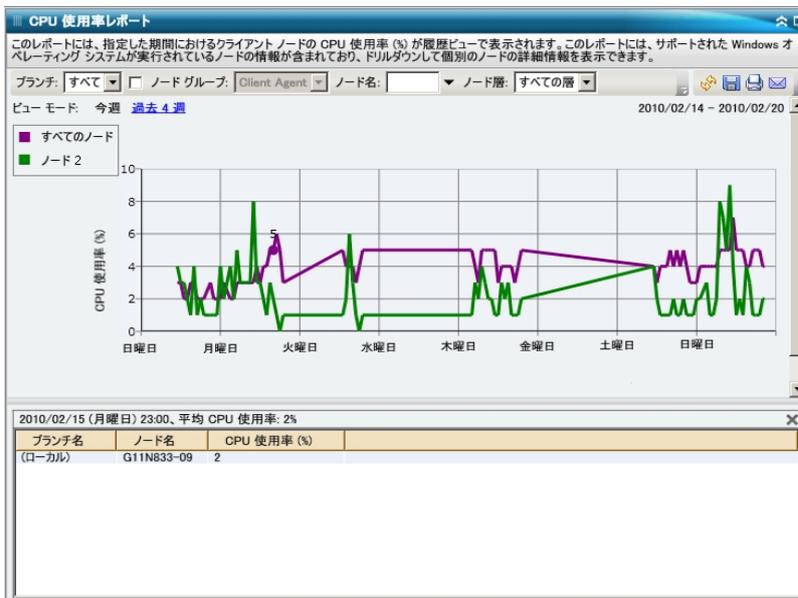
また、特定のネットワーク容量に基づいて、バックアップ中のネットワーク使用率が高すぎる場合、NIC カードをアップグレードして高いスループット要件に対応する必要があります。ネットワーク使用率が低すぎる場合、サーバの統合または仮想化によってハードウェアの使用率を最大限に高めることを検討する必要があります。

詳細情報:[CPU 使用率レポート](#)[ディスク パフォーマンスレポート](#)[メモリ使用率レポート](#)[ネットワーク使用率レポート](#)

CPU 使用率レポート

CPU 使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバの CPU 使用率の履歴が示されます(サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行しているノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード(今週または過去 4 週) を指定できます。今週モードは、過去 7 日間のデータを表示します。また、過去 4 週モードは、過去 4 週間のデータを表示します。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。また、ノード名、ノードグループ、またはノード層レベルによってデータをフィルタできます。

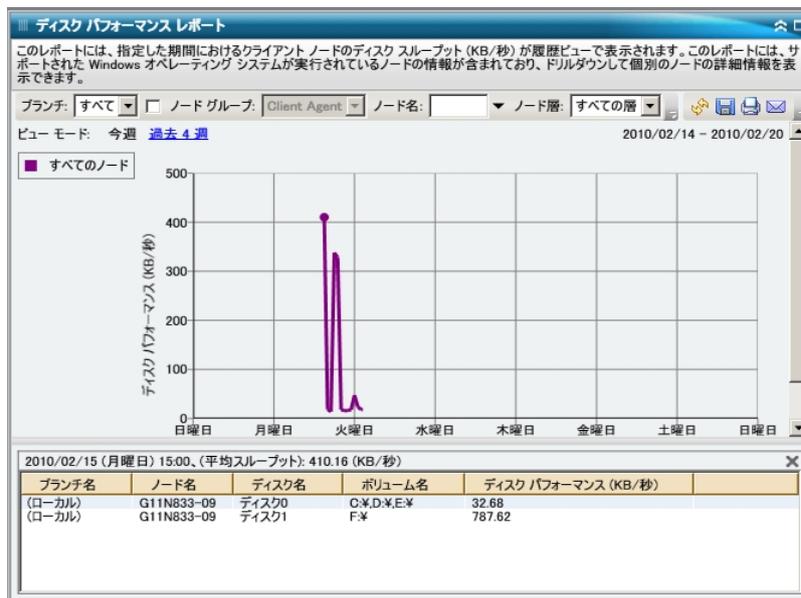
CPU 使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。このドリルダウンレポートには、Arcserve Backup によって保護されているノード名に加えて、各ノードの対応する CPU 使用率が示されます。また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。



ディスク パフォーマンス レポート

ディスク パフォーマンス レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバのディスクスループット(速度 KB/秒)の履歴が示されます(サポートされている Windows オペレーティング システムを実行しているノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード(今週または過去 4 週)を指定できます。今週モードは、過去 7 日間のデータを表示します。また、過去 4 週モードは、過去 4 週間のデータを表示します。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。また、ノード名、ノード グループ、またはノード層レベルによってデータをフィルタできます。

ディスク パフォーマンス レポートは、展開して詳細な情報を表示できます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。このドリルダウン レポートには、Arcserve Backup によって保護されているノード名に加えて、対応するディスク名、ボリューム名、スループットが示されます。また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。

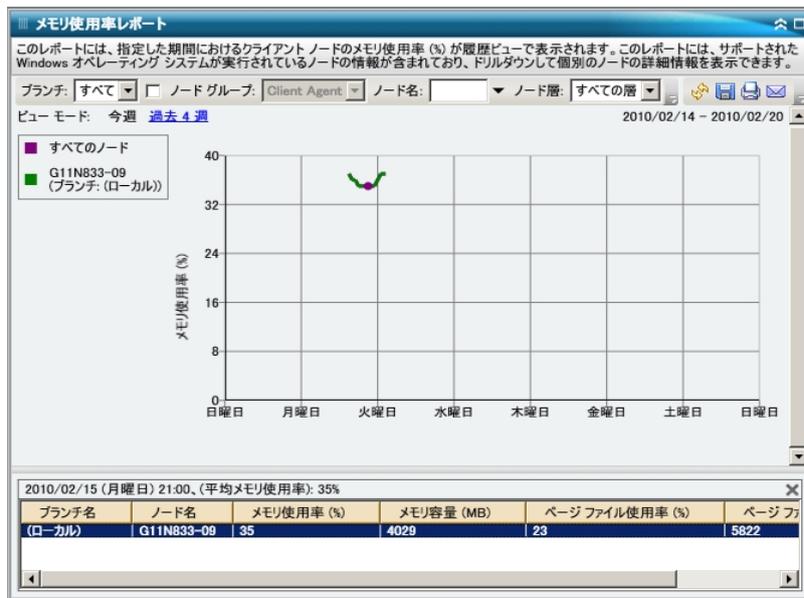


メモリ使用率レポート

メモリ使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバのメモリ使用率の履歴が示されます(サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行しているノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード(今週または過去 4 週)を指定できます。今週モードは、過去 7 日間のデータを表示します。また、過去 4 週モードは、過去 4 週間のデータを表示します。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。また、ノード名、ノードグループ、またはノード層レベルによってデータをフィルタできます。

メモリ使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。このドリルダウンレポートには、Arcserve Backup によって保護されているノード名に加えて、各ノードの対応するメモリ使用率、メモリ容量、ページファイル使用率、およびページファイル容量が示されます。また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。

注: ページファイルは、データセグメントを一時的に保存するために使用されるハードディスクドライブの予約済み部分です。すべてのアプリケーションが要求しているメモリを確保できない場合、このデータが物理メモリからスワップされ、アプリケーションのために物理メモリの一部が解放されます。ページファイルは、スワップファイルとも呼ばれます。



詳細情報:

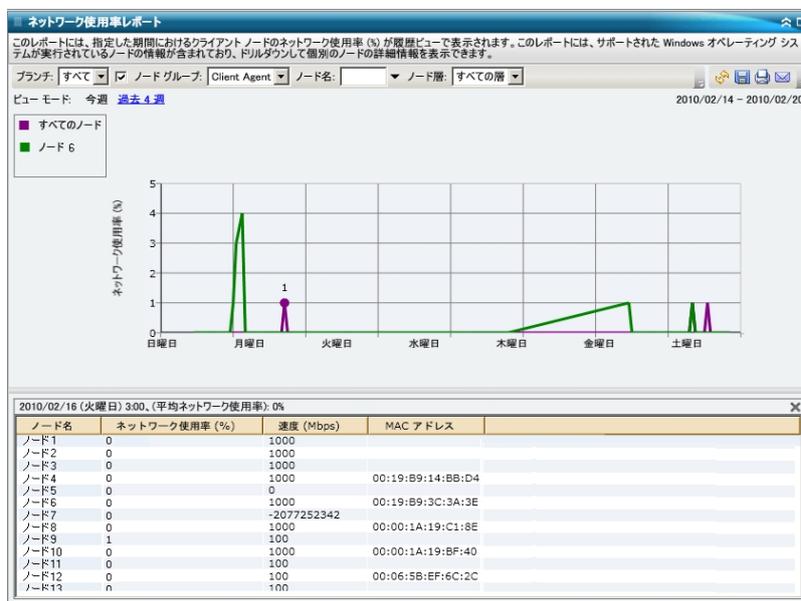
[SRM PKI 使用率レポート - レポートの利点](#)

ネットワーク使用率レポート

ネットワーク使用率レポートは、グラフ形式で表示され、指定された期間におけるモニタ対象サーバのネットワーク(NIC)使用率の履歴が示されます(サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行しているノードのみ)。このレポートを使用すると、表示された期間のビューモード(今週または過去 4 週)を指定できます。今週モードは、過去 7 日間のデータを表示します。また、過去 4 週モードは、過去 4 週間のデータを表示します。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。また、ノード名、ノードグループ、またはノード層レベルによってデータをフィルタできます。

ネットワーク使用率レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その特定期間の詳細を表示できます。このドリルダウンレポートには、Arcserve Backup によって保護されているノード名に加えて、各ノードの対応するネットワーク使用率、帯域幅速度(MB/秒)、および MAC アドレスが示されます。また、個々のノード名をクリックすると、そのノードの線グラフが全体の線グラフ上に重ねて表示されます。

注: MAC (メディアアクセス制御) アドレスは、製造元によって割り当てられ、識別用にネットワークアダプタまたはネットワークインターフェースカード(NIC)と関連付けられるハードウェア固有の値です。



詳細情報:

[SRM PKI 使用率レポート - レポートの利点](#)

テープ暗号化ステータスレポート

テープ暗号化ステータスレポートには、指定した期間において、暗号化されたバックアップセッションがあるテープおよびないテープの数が表示されます。データの暗号化は、コンプライアンス遵守だけでなく、データのセキュリティ維持にとっても重要です。多くの企業で、バックアップテープが惨事復旧に備えてオフサイトの場所へ移送されます。セキュリティ確保された施設を離れると、データは公にさらされ、紛失や盗難の可能性が生じるため、移送にはセキュリティリスクが付きものです。バックアップテープを暗号化すれば、データはどこにあっても保護されます。

このレポートによって、機密データが適切に保護されているかどうかを判定することができ、バックアップに関して問題の可能性のある領域をすばやく特定して対処するための手段となります。

詳細情報:

[テープ暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - レポートビュー](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

テープ暗号化ステータスレポート - レポートの利点

テープ暗号化ステータスレポートは、どのテープが適切に保護されているか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。データの暗号化は、セキュリティ維持の面でも、企業のコンプライアンス遵守の面でも非常に重要です。

このレポートによって、暗号化されていないテープに機密データが存在して、セキュリティリスクにさらされていることがないかどうかをすばやく調べることができます。

たとえば、暗号化データがどのテープに含まれ、どのテープに含まれていないかをすばやく参照できます。また、このレポートによって、これらの暗号化テープおよび非暗号化テープの場所（オンサイトまたはオフサイト）も確認できます。暗号化されていないテープがあり、このテープに機密データが存在し、オフサイトの場所にそのデータがあることがわかった場合は、データが適切に保護されていないことがただちに把握できます。問題が発生しないうちに、バックアップ戦略を評価し直す必要があります。

同様に、このレポートによって、機密でないデータが暗号化されているかどうかを調べることで、貴重なリソース（時間と費用）を浪費しているだけでなく、バックアップの労力まで無駄にしている事態がないかどうかを把握することができます。

たとえば、機密データが含まれていないテープのデータが暗号化されたままであることがわかれば、バックアップ戦略を評価し直して、リソースと時間が適切に使用されるようにする必要があります。

詳細情報：

[テープ暗号化ステータスレポート](#)

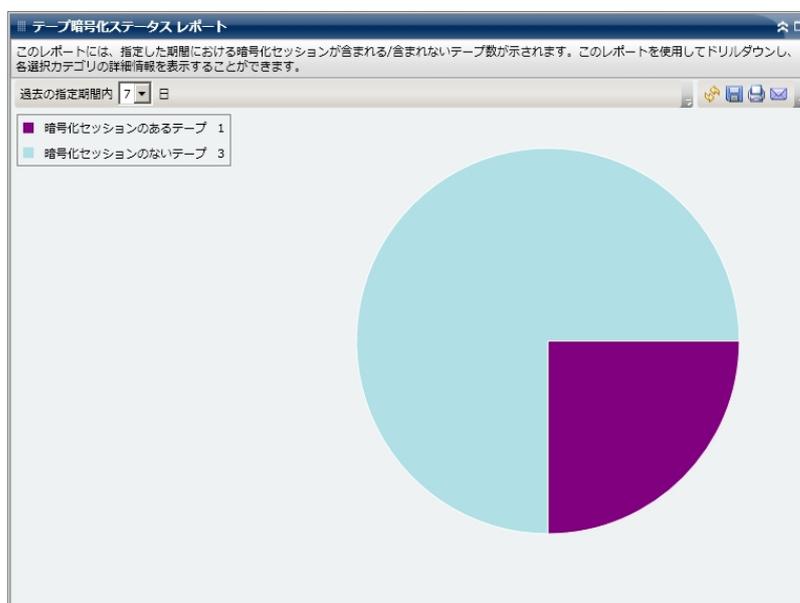
[テープ暗号化ステータスレポート - レポートビュー](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

テープ暗号化ステータスレポート - レポート ビュー

テープ暗号化ステータスレポートは円グラフ形式で表示され、暗号化セッションのあるバックアップ済みテープの数(およびパーセント) および暗号化セッションのないバックアップ済みテープの数を表します。このレポートには、過去 # 日間のフィルタが含まれます。

- 暗号化セッションのあるテープの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションを1つ以上含むテープです。
- 暗号化セッションのないテープの定義は、指定した期間内で暗号化バックアップセッションをまったく含まないテープです。



詳細情報:

[テープ暗号化ステータスレポート](#)

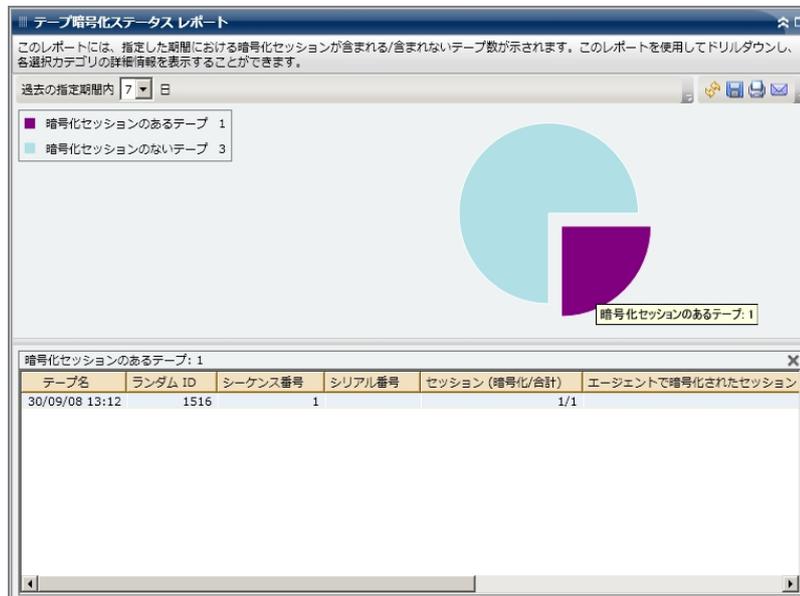
[テープ暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

テープ暗号化ステータスレポート - ドリルダウンレポート

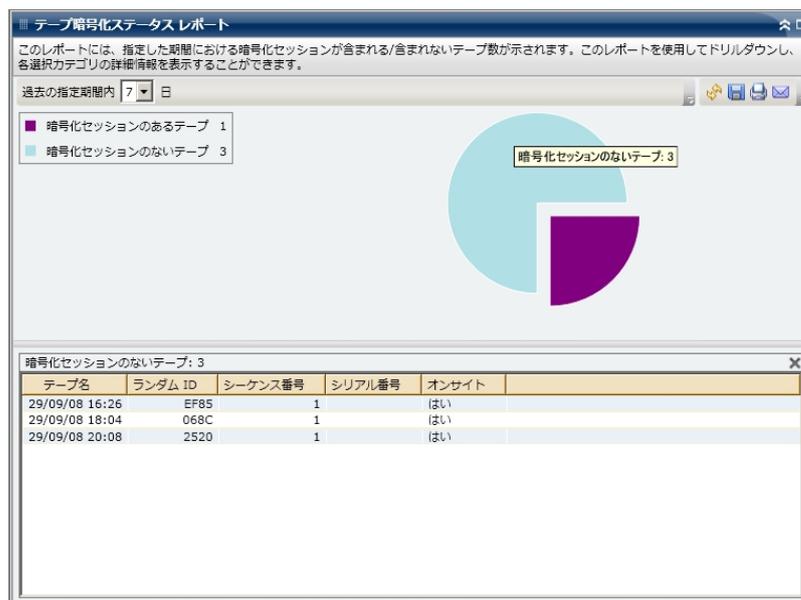
テープ暗号化ステータスレポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。2つのカテゴリのどちらかをクリックすると、過去の指定期間内のそのカテゴリに関連したすべてのテープが詳細な一覧で表示されます。このドリルダウンレポートには、テープ名と共に、各カテゴリに関連した暗号化関連情報が表示されます。

- [暗号化セッションのあるテープ]カテゴリでドリルダウンすると、このレポートには各テープのセッション数が表示されます。セッション数は、連続する4つのカテゴリで構成されます。
 - セッション(複合化/合計) - テープの暗号化済みセッションのカウントおよびセッション総数。
 - エージェントで暗号化されたセッション - テープのエージェント側で暗号化されたセッションのカウント。
 - サーバで暗号化されたセッション(SW/HW) - Arcserve Backup サーバで暗号化されたセッションのカウント(ソフトウェアの暗号化およびハードウェアの暗号化を使用)。
 - パスワードのみ - テープ上のセッション情報は、セッションパスワードによって保護されています。



- [暗号化セッションのないテープ]カテゴリでドリルダウンすると、対応する表に、

対応するテープの情報が表示されます。



詳細情報:

[テープ暗号化ステータスレポート](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - レポートの利点](#)

[テープ暗号化ステータスレポート - レポートビュー](#)

バックアップに失敗したノード レポート

バックアップに失敗したノード レポートは、過去の指定日数の間に、バックアップジョブ(フル、増分、差分)が失敗したノードを上位から指定した数だけリストします。

詳細情報:

[バックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点](#)

[バックアップに失敗したノード レポート - レポート ビュー](#)

[バックアップに失敗したノード レポート - ドリルダウンレポート](#)

バックアップに失敗したノード レポート - レポートの利点

このレポートを使用して、最も失敗回数の多いノードに焦点を当て、失敗の原因の特定を試みることができます。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

たとえば、失敗の回数だけに注目すると、それは問題の領域を示すものとしては誤りである可能性があります。あるノードの失敗が3回で成功が30回だった場合(失敗率は10%)、失敗は2回だけでも成功が3回しかなかった(失敗率は40%)ノードよりも問題は小さいかもしれないからです。

さらに、最後に成功したバックアップからの日数は、それが最近の失敗のパターンを示している場合には、問題の領域を示すものである可能性があります。

たとえば、あるノードの失敗が10回でも最後に成功したバックアップが1日前である場合、失敗は5回でも最後に成功したバックアップは7日前であるノードよりも問題は小さいかもしれません。

注: 「なし」がこのフィールドに表示された場合、このデータは適用されないことを示し、指定した期間にこのノードのバックアップが成功していないことを意味します。

詳細情報:

[バックアップに失敗したノード レポート](#)

[バックアップに失敗したノード レポート - レポート ビュー](#)

[バックアップに失敗したノード レポート - ドリルダウンレポート](#)

バックアップに失敗したノード レポート - レポート ビュー

バックアップに失敗したノード レポートは表形式で表示され、バックアップの失敗回数が最も多いノードをリストします。このレポートには、過去 # 日間、失敗した上位ノード、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: デフォルトでは、Arcserve Backup はアクティビティ ログの情報を 14 日間保存します。Arcserve Backup Dashboard に 14 日間以上のアクティビティ ログの情報を表示させる場合、[古いアクティビティ ログ廃棄間隔] オプションを変更して、ログの保存期間を増加する必要があります。アクティビティ ログ設定の変更の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

ノード名	失敗回数	成功回数	前回成功したバックアップ以降の日数
ノード 1	33	92	0
ノード 2	20	27	1
ノード 3	13	1	14
ノード 4	12	14	1
ノード 5	12	0	成功したバックアップがありません

バックアップに失敗したノード レポート - ドリルダウン レポート

バックアップに失敗したノード レポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。任意のノードをクリックして、そのノードに関連するすべてのログメッセージの詳細なリストを表示することができます。表示されるメッセージの重要度(エラーと警告、エラー、警告、情報、すべて)を指定してリストをフィルタすることもできます。

注: Dashboard では、ログメッセージを 1 ページに 100 個まで表示します。それ以上のメッセージを表示する場合は、[次のページ] ボタンをクリックします。

注: このドリルダウンレポートから、一覧表示されているエラーまたは警告メッセージをクリックして関連するトラブルシューティングのヘルプトピックを対応する理由および修正アクションと共に表示することができます。

バックアップに失敗した上位ノードレポート

このレポートには、指定した期間においてバックアップ ジョブの失敗が多い上位ノードが表示されます。このレポートを使用してドリルダウンし、各選択ノードの詳細情報を表示することができます。

過去の指定期間内 [7] 日 上位: [5] ノードグループ: Client Agent ノード名: []

ノード名	失敗回数	成功回数	前回成功したバックアップ以降の日数
ノード 1	33	92	0
ノード 2	20	27	1
ノード 3	13	1	14
ノード 4	12	14	1
ノード 5	12	0	成功したバックアップがありません

ノード 1

重大度フィルタ : エラーと警告 1 / 1

重大度	時刻	メッセージ	バックアップ サーバ	エージェント ホスト	ジョブ ID	セッション
エラー	1/13/2009 4:52:33 AM	E3712 セッションを閉じられ	Server 1	Host 1	2970	
エラー	1/13/2009 4:50:06 AM	E3719 メディアに書き込め	Server 1	Host 1	2970	
エラー	1/12/2009 4:04:54 PM	E3712 セッションを閉じられ	Server 2	Host 1	2952	
警告	1/12/2009 4:37:29 AM	W12612 The number of	Server 1	Host 1	2800	
エラー	1/12/2009 1:12:30 AM	E3712 セッションを閉じられ	Server 1		2758	
警告	1/12/2009 1:07:58 AM	W3825 Unable to find t	Server 1		2758	
警告	1/11/2009 4:36:42 AM	W12612 The number of	Server 2	Host 1	2617	
エラー	1/11/2009 1:12:25 AM	E3719 メディアに書き込め	Server 1		2587	
警告	1/11/2009 1:07:54 AM	W3825 Unable to find t	Server 1		2587	
エラー	1/10/2009 1:57:45 PM	E3719 メディアに書き込め	Server 2		2405	
エラー	1/10/2009 1:51:46 PM	E3712 セッションを閉じられ	Server 2		2405	
エラー	1/10/2009 1:21:47 PM	E3705 Unable to format	Server 2		2405	

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポートは、過去の指定日数の間で、バックアップスループットの値が最も速い/遅いノードを上位から指定した数だけリストします。各ノードに対し、スループットは過去の指定日数の間で、そのノードに対するすべてのバックアップジョブ(フル、増分、差分)ごとの、バックアップされたデータの合計と所要時間の割合(MB/分)として計算されます。

詳細情報:

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートの利点](#)

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートビュー](#)

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートの利点

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポートは、どのノードのバックアップジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。一般的にこのレポートから、スループットの最も遅いノードに注目し、その原因を特定することを試みます。原因はネットワークの問題や、遅いドライブ、実行中のバックアップジョブのタイプであるかもしれません。遅いノードの中で動作のパターンを探します。

最も速いスループット値を基準として使用して、そのノードがうまく実行している理由を分析することもできます。遅いノードと速いノードを比較して、実際に問題があるのかどうか、または両方の値が似ているかどうかを特定することができます。遅いノードはパフォーマンスが悪いわけではない可能性があります。問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

たとえば、最も遅いノード(最も低いスループット値)だけに注目すると、それは問題の領域を示すものとしては誤りである可能性があります。移動されるデータの量や実行されるバックアップのタイプの分析も必要だからです。

詳細情報:

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート](#)

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートビュー](#)

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートビュー

バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポートは表形式で表示され、最も速いまたは最も遅いスループット値 (MB/分) を持つノードをリストします。このレポートには、過去 # 日間、最も速い/遅い上位ノード、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

ノード名	スループット (MB/分)	合計 (MB)	総時間 (分)
ノード 1	0.0904	160.7754	1777.70
ノード 2	10.7686	10.7686	1.00
ノード 3	18.7591	3389.7764	180.70
ノード 4	25.4661	289.4648	11.37
ノード 5	32.9966	584.0391	17.70

詳細情報:

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート](#)

[バックアップスループットの最も速い/遅い上位ノードレポート - レポートの利点](#)

未変更ファイル数の多い上位ノードレポート

未変更ファイル数の多い上位ノードレポートはSRMレポートの1つで、未変更ファイルの数またはサイズが最大のノードを指定された数だけ一覧表示します。

詳細情報:

[未変更ファイル数の多い上位ノードレポート - レポートの利点](#)

[未変更ファイル数の多い上位ノードレポート - レポートビュー](#)

未変更ファイル数の多い上位ノードレポート - レポートの利点

未変更ファイル数の多い上位ノードレポートは、選択した期間内で未変更ファイルの数またはサイズが最大のノードを分析および調査する場合に役立ちます。このレポートを使用すると、何をアーカイブし、何をアーカイブしないかを簡単に決定できます。通常、このレポートに基づいて、指定期間中に最大の数またはサイズを持つノードに注目し、アーカイブできるファイルの数とデータの量を特定して、ディスクスペースを解放できます。

詳細情報:

[未変更ファイル数の多い上位ノードレポート - レポートビュー](#)

未変更ファイル数の多い上位ノード レポート - レポートビュー

未変更ファイル数の多い上位ノード レポートは表形式で表示され、未変更ファイル数が最大のノードを一覧表示します。このレポートをフィルタして、最大未変更ファイル数または最大未変更ファイルサイズ合計 (デフォルト) のいずれかを表示できます。このレポートには、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

このレポートは、以下の2つの主要部分から構成されています。

- レポートの上部には、照会処理から除外する(パターンに一致する)ファイルを指定するための除外パターンフィルタが表示されます。これらのパターンフィルタの詳細は、[セントラルエージェント管理]ウィンドウで指定します。セントラルエージェント管理の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。また、期間を選択してレポート表示をフィルタすることもできます。選択できる定義済み期間は、1か月、3か月、6か月、1年、または3年です。
- レポートの下部には、指定したフィルタに一致する上位ノードのリストが表示されます。この情報には、ノード名、ボリューム、未変更ファイル数、未変更ファイル合計サイズ、未変更ファイルの期間、前回のフルバックアップ日時などが含まれます。

ノード名	ボリューム	未変更ファイル数	未変更ファイル サイズ合計 (KB)	未変更ファイルの期間 (日)	前回のフル バックアップ日時 (
ノード1	C	3	237499	365	2009/11/20
ノード2	C	366	118227	365	2009/11/20
ノード3	C	50	3055	365	2009/11/20
ノード4	C	0	0	365	2009/11/20

詳細情報:

[未変更ファイル数の多い上位ノード レポート - レポートの利点](#)

アーカイブ サイズ合計レポート

アーカイブ サイズ合計レポートには、ドメイン内で Arcserve Backup のアーカイブ対象となるデータの合計サイズが表示されます。このレポートは、アーカイブ環境の容量管理およびリソース計画に役立ちます。

詳細情報:

[アーカイブ サイズ合計レポート - レポートの利点](#)

[アーカイブ サイズ合計レポート - レポート ビュー](#)

アーカイブ サイズ合計レポート - レポートの利点

アーカイブ サイズ合計レポートでは、ドメイン内にあるすべてのノードのデータ容量要件を分析でき、予算計画や実践計画などで、データのアーカイブに必要な容量を確保するために使用できます。このレポートには、アーカイブ対象データの合計サイズが表示されます。このサイズは、ノード自体の合計容量ではなく、各ノードの正常終了したすべてのアーカイブのサイズに基づいています。

たとえば、あるノードの合計容量が 500 GB で、そのノードのイメージが 400 GB である場合、このレポートに表示されるデータの合計サイズは 400 GB となります。アーカイブ スケジュールは、最大 400 GB という数値に基づいて設定する必要があります。

このレポートは、アーカイブ リソースの管理に役立ちます。アーカイブをスケジュールどおりに実行するための十分な時間があるか、または、アーカイブ データの保存に必要なだけの十分なテープやディスク容量があるか、などを判定できます。

また、このレポートを使用して、アーカイブするマシンのデータ サイズを確認できます。この場合は、ウィンドウ要件とデバイス能力の範囲内に収まるように、ノードのアーカイブ スケジュールを計画または調整できます。

アーカイブ サイズ合計レポート - レポート ビュー

アーカイブ サイズ合計レポートでは、ノード名、アーカイブ サイズ、および正常終了した最新のアーカイブ日時が表形式で表示されます。表示されるサイズ合計値は、表示されているすべてのノードのサイズ合計値です。このレポートには、過去 # 日間、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

ノード名	アーカイブ サイズ (GB)	前回の成功したアーカイブ時刻
Node 1	0.00	2010/11/5 1:19:40
Node 2	0.01	2010/11/5 4:39:04

保護サイズ合計レポート

「保護サイズ合計レポート」は、バックアップドメイン内で Arcserve Backup の保護対象となるデータの合計サイズが表示されます。このレポートは、バックアップ環境の容量管理およびリソース計画に役立ちます。

詳細情報:

[保護サイズ合計レポート - レポートの利点](#)

[保護サイズ合計レポート - レポートビュー](#)

保護サイズ合計レポート - レポートの利点

保護サイズ合計レポートでは、バックアップドメイン内にあるすべてのノードのデータ容量要件を分析でき、予算計画や実践計画などで、データ保護に必要な容量を確保するために使用できます。このレポートでは、保護対象データの合計サイズが表示されます。このサイズは、ノード自体の合計容量ではなく、各ノードの正常終了した最新のフルバックアップサイズに基づいています。

たとえば、あるノードの合計容量が500GBで、そのノードのバックアップイメージが400GBである場合、このレポートに表示される保護データの合計サイズは400GBとなります。バックアップスケジュールは、400GBという数値に基づいて設定する必要があります。

このレポートは、バックアップリソースの管理に役立ちます。バックアップをスケジュールどおりに実行するための十分な時間があるか、または、バックアップデータの保存に必要なだけの十分なテープやディスク容量があるか、などを判定できます。

たとえば、特定のノードで10TBのデータを含むノードがバックアップされ、バックアップウィンドウが、現在毎日10時間に制限されていることがこのレポートで判明したとします。その場合、1時間あたり1TBのデータをバックアップできる十分なリソースがあるかどうかを素早く判断し、必要に応じてバックアップレートまたはバックアップウィンドウを増加するという措置を取ることができます。

また、このレポートを使用して、保護するマシンのデータサイズを確認できます。この場合は、バックアップウィンドウ要件とデバイス能力の範囲内に収まるように、ノードのバックアップスケジュールを計画または調整できます。

保護サイズ合計レポート - レポート ビュー

保護サイズ合計レポートでは、ノード名、バックアップ サイズ、および正常終了した最新のバックアップ日時が表形式で表示されます。表示されるサイズ合計値は、表示されているすべてのノードのサイズ合計値です。このレポートには、バックアップの種類、ノード グループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注: ノード名を選択してマウス ボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップ ウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

ノード名	バックアップ サイズ (GB)	前回の成功したフル バックアップ時刻
ノード1	4	2009/9/8 3:59:30 PM
ノード2	1	2009/10/12 10:23:56 PM

仮想マシン復旧ポイント レポート

仮想マシン復旧ポイント レポートには、VCB(VMware Consolidated Backup) テクノロジまたは Microsoft Hyper-V を使用してバックアップした各仮想マシン(VM) で利用可能な復旧ポイントの詳細が一覧表示されます。

詳細情報:

[仮想マシン復旧ポイント レポート - レポートの利点](#)

[仮想マシン復旧ポイント レポート - レポート ビュー](#)

[仮想マシン復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想マシン復旧ポイント レポート - レポートの利点

仮想マシン復旧ポイントレポートは保護されたVM データ環境の効果を分析し判定するのに役立ちます。このレポートから、VM バックアップ インフラストラクチャ全体のスナップショット ビューを取得し、データが適切に保護されているかどうかを判断することができます。このレポートには、指定した日の復旧ポイントの数とバックアップ データの場所が表示され、仮想マシンの復旧戦略の速度と効果を計画したり、(必要に応じて) 実証したりするのに役立ちます。

通常、特定のVM に高優先度のデータが含まれている場合は、必要な場合にすばやく完全な復旧ができるだけの復旧ポイントがあるかどうかを確認する必要があります。

たとえば、高優先度データを含むVM を適切に保護するには、5 つの復旧ポイントが必要となります。このレポートによって、特定の高優先度 VM に2 つしか復旧ポイントがないことがわかった場合、原因を調査し、必要に応じてバックアップ スケジュールを変更して、適切な復旧保護を確保する必要があります。また、最新の復旧ポイントを特定し、VM ごとにデータを復旧できる最新時刻を特定して、各ノードの復旧が raw レベル復旧、ファイルレベル復旧、またはその両方で可能かどうかを判断することができます。

詳細情報:

[仮想マシン復旧ポイントレポート](#)

[仮想マシン復旧ポイントレポート - レポート ビュー](#)

[仮想マシン復旧ポイントレポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想マシン復旧ポイント レポート - レポート ビュー

仮想マシン復旧ポイント レポートには、選択されたノードの詳細情報の一覧が表形式で表示されます。このレポートには、過去 # 日間、仮想マシンの種類、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

注：このレポートには、少なくとも 1 回バックアップが正常に行われた仮想マシンのみが表示されます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、「[ノード情報](#)」を参照してください。

ノード名	ホスト	マシン名	VMware vCenter Server	VMware プロキシ	VMware システム	OS	復旧の種類
Node 1		RMDMQAHYPV1	N/A	N/A	Microsoft Hyper-V	Window	Raw/File
Node 2	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Unix/Lin	RAW
Node 3	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 4	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 5	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 6	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	Raw/File
Node 7	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 8	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 9	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 10	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 11	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 12	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 13	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 14	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 15	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	Raw/File
Node 16	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	Raw/File
Node 17	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 18	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 19	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 20	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 21	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 22	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 23	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	File
Node 24	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 25	172.24.112.07	172.24.112.07	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 26	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	Raw/File
Node 27	172.24.101.649	172.24.101.649	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 28	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW
Node 29	172.24.092.548	172.24.092.548	172.24.073.175	100-LL-DELL07	VMware VCB	Window	RAW

詳細情報:

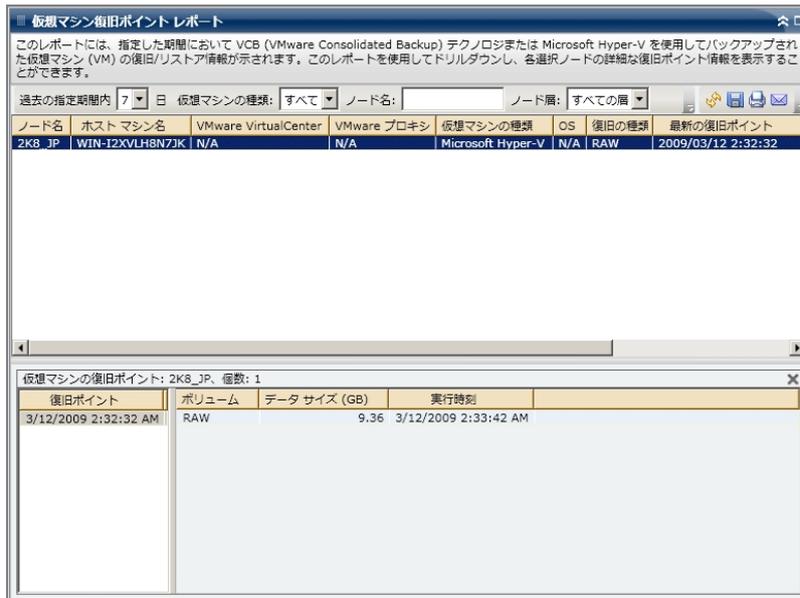
[仮想マシン復旧ポイント レポート](#)

[仮想マシン復旧ポイント レポート - レポートの利点](#)

[仮想マシン復旧ポイント レポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想マシン復旧ポイントレポート - ドリルダウンレポート

仮想マシン復旧ポイントレポートでは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。サマリ情報レポートで、列をクリックして、特定の復旧ポイントに重点を置いた詳細なレポートへとドリルダウンすることができます。



ドリルダウンレポートビューは、復旧ポイントとボリュームの2つの表で構成されます。

復旧ポイント テーブル

復旧ポイント テーブルには、選択した仮想マシンで利用可能な復旧ポイントが表示され、復旧ポイントの日付/時刻が一覧表示されます。

ボリューム テーブル

ボリューム テーブルには、選択した復旧ポイントに含まれているバックアップされたボリュームがすべて表示されます。

詳細情報:

[仮想マシン復旧ポイントレポート](#)

[仮想マシン復旧ポイントレポート - レポートの利点](#)

[仮想マシン復旧ポイントレポート - レポートビュー](#)

仮想化 - 最新バックアップステータスレポート

仮想化 - 最新バックアップステータスレポートには、VCB(VMware Consolidated Backup) テクノロジまたは Microsoft Hyper-V を使用してバックアップした各仮想マシン(VM)の最新のバックアップステータスが一覧表示されます。

詳細情報:

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポートの利点](#)

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポートビュー](#)

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想化 - 最新バックアップステータスレポートの利点

仮想化最新バックアップステータスレポートは、どのVMのバックアップジョブが他よりも効率的であるか、問題の可能性のある領域はどこかを分析し特定するのに役立ちます。

たとえば、通常、このレポートを使用して、VMの最新のバックアップステータスをチェックすることができます。前日からのバックアップステータスがすべて緑(成功)の場合、正常にバックアップされたことがわかります。しかし、バックアップステータスが赤(失敗)の場合、このVMのノードバックアップステータスレポートのドリルダウンレポートにあるアクティビティログと結果を相互に比較して、問題の領域を特定し、遅延なく修正することができます。また、成功したVMバックアップの場合には、各VMで利用可能な復旧の種類(raw、ファイル、またはその両方)を特定できます。

常に動作のパターンを探して問題の可能性のあるジョブを特定し、同じジョブが頻繁に失敗しているかどうかを判断します。問題のバックアップジョブの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート](#)

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート ビュー](#)

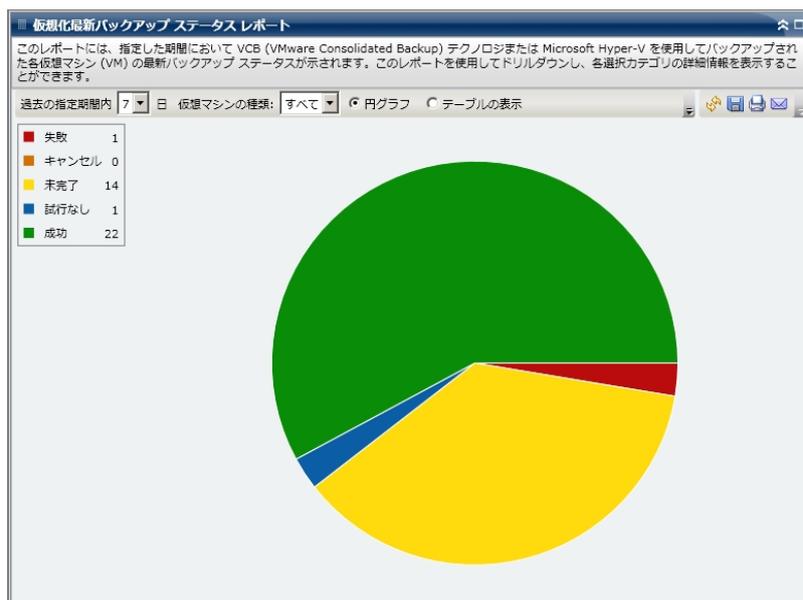
[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想化 - 最新バックアップステータスレポート ビュー

仮想化 - 最新バックアップステータスレポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。このレポートには、過去 # 日間、仮想マシンの種類、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフには、仮想マシンの最新のバックアップステータスが表示されます。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、仮想化 - 最新バックアップステータスレポートには、すべてのバックアップステータスカテゴリの詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、ホストマシン名、VMware vCenter Server、VMware プロキシ、仮想マシンなどが含まれます。

注: ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報:

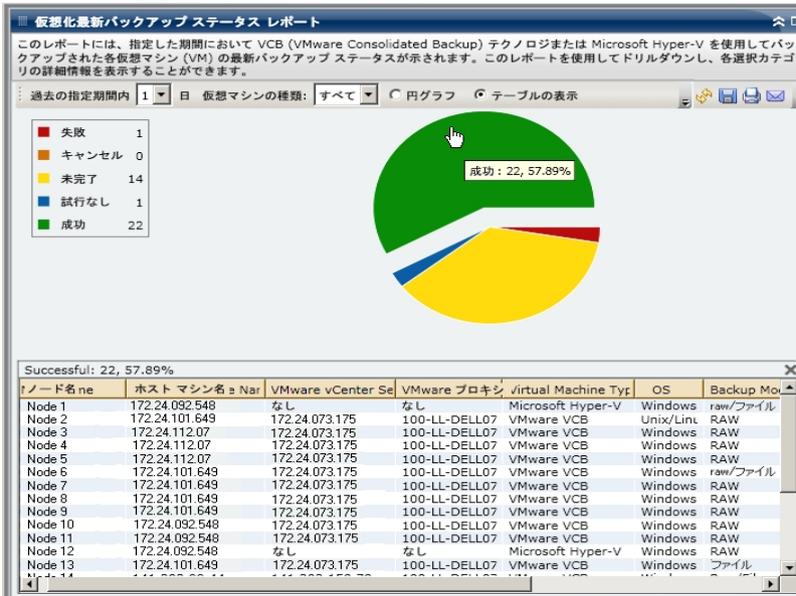
[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート](#)

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポートの利点](#)

[仮想化 - 最新バックアップステータスレポート - ドリルダウンレポート](#)

仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポート - ドリルダウンレポート

仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポートの円グラフビューを展開して、[表の表示] と同じ詳細情報を含むドリルダウンレポートを表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポート](#)

[仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポートの利点](#)

[仮想化 - 最新バックアップ ステータスレポート ビュー](#)

ボリュームレポート

ボリュームレポートは SRM タイプのレポートの 1 つで、環境内のすべての Windows ノードのボリューム情報を表示します。このレポートでは、使用されているボリューム容量 (パーセント) によってノードが分類されます。割り当て領域の容量はディスクレポートに表示されます。

詳細情報:

[ボリュームレポート - レポートの利点](#)

[ボリュームレポート - レポート ビュー](#)

[ボリュームレポート - ドリルダウンレポート](#)

ボリュームレポート - レポートの利点

ボリュームレポートは、利用できる空き容量に基づいてマシンをすばやく分類するのに役立ちます。この全体像から、どのノードに空き容量がほとんどなく、問題を生じる可能性があるかを分析して特定することができます。このレポートによって、空き容量がなくなる危険のあるノードや全容量が使用されているノードも特定できます。さらに、デフラグの必要なボリュームがあるノードを特定することもできます。

このレポートをディスクレポートと共に使用すれば、割り当て容量を使用容量と比較しながら分析することができます。

たとえば、このレポートによって、あるボリュームに空き容量がほとんどないことがわかった場合は、ディスクレポートをチェックして、割り当て領域と使用されている領域の容量を比較する必要があります。割り当て領域が少なく、使用領域が多い場合は、割り当てられていない領域の原因を調査し、可能であれば、利用できる領域を有効活用するためにボリュームを新規作成する必要があります。

問題のノードの特定を試みる場合、このレポートのすべてのフィールドの結果を分析することが重要です。

詳細情報:

[ボリュームレポート](#)

[ボリュームレポート - レポート ビュー](#)

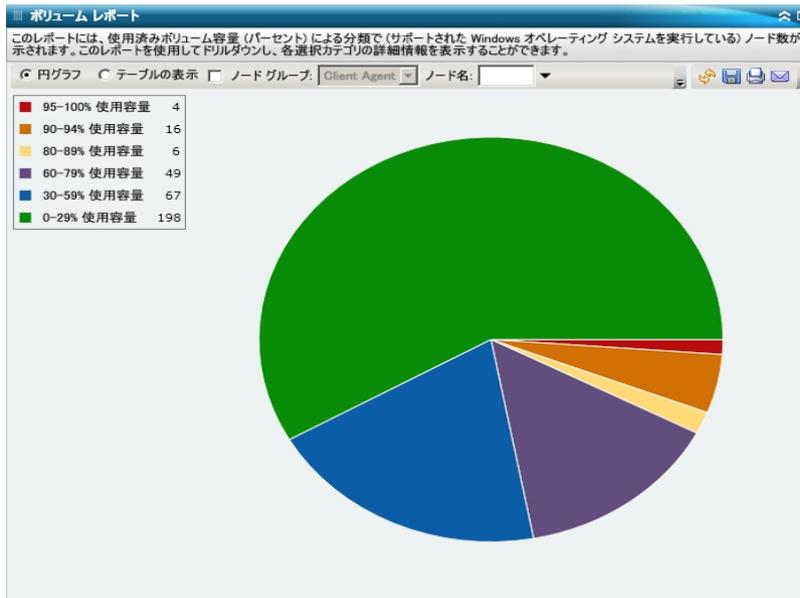
[ボリュームレポート - ドリルダウンレポート](#)

ボリュームレポート - レポート ビュー

ボリュームレポートは、円グラフ形式または表形式で表示されます。このレポートには、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。

円グラフ

円グラフには、事前に定義したパーセントカテゴリで使われるボリューム容量が表示されます。



テーブルの表示

[表の表示] を選択すると、ボリュームレポートには、すべてのカテゴリの詳しい情報が表形式で表示されます。この表には、ノード名、OS、マウントポイント、クラスタサイズ、ボリュームサイズ、空き容量、空き容量 (%)、ボリュームの種類、ディスク名、圧縮済み、ファイルシステムの種類、総フラグメンテーションなどが含まれます。

注：総フラグメンテーションデータについては、Windows XP システムがサポートされていないため、この列に N/A と表示されます。また、一部の FAT32 ボリュームではフラグメンテーションデータが提供されない場合があります、この場合もこの列に N/A と表示されます。

注：ノード名を選択してマウスボタンを右クリックすると、選択したノードに関連するノード情報がポップアップウィンドウで表示されます。詳細については、[「ノード情報」](#)を参照してください。

詳細情報：

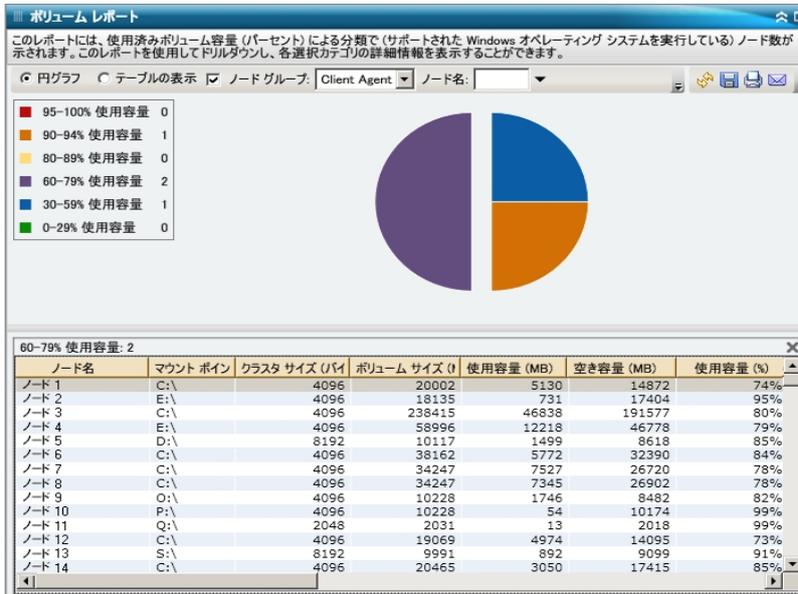
[ボリュームレポート](#)

[ボリュームレポート - レポートの利点](#)

[ボリュームレポート - ドリルダウンレポート](#)

ボリュームレポート - ドリルダウンレポート

ボリュームレポートを展開して、[表の表示]と同じ詳細情報を含むドリルダウンレポートを表示できます。ただし、ドリルダウンレポートに表示されるデータは、選択したカテゴリによってフィルタされます。



詳細情報:

[ボリュームレポート](#)

[ボリュームレポート - レポートの利点](#)

[ボリュームレポート - レポートビュー](#)

ボリュームトレンド レポート

ボリュームトレンド レポートは SRM レポートの 1 つで、各ボリュームの使用データ サイズを履歴ビューに表示し、それらのボリュームの増加トレンドを予測します。このレポートに基づいて、将来必要なボリュームを予想し、準備することができます。このレポートには、サポートされている Windows オペレーティングシステムを実行するノードの情報が表示されます。ノードごとにドリルダウンして詳細情報を表示することができます。

詳細情報:

[ボリュームトレンド レポート - レポートの利点](#)

[ボリュームトレンド レポート - レポート ビュー](#)

ボリュームトレンド レポート - レポートの利点

ボリュームトレンド レポートは、各ボリュームの現在 (および過去) の使用データ サイズを分析するのに役立ちます。さらにこのレポートは、予想増加トレンドに基づいて将来のボリューム サイズのニーズを見極める上でも役立ちます。この情報を使用することで、将来のボリュームスペース要件を予測し、それに応じた措置を実行して、適切な保護レベルを確保できます。

詳細情報:

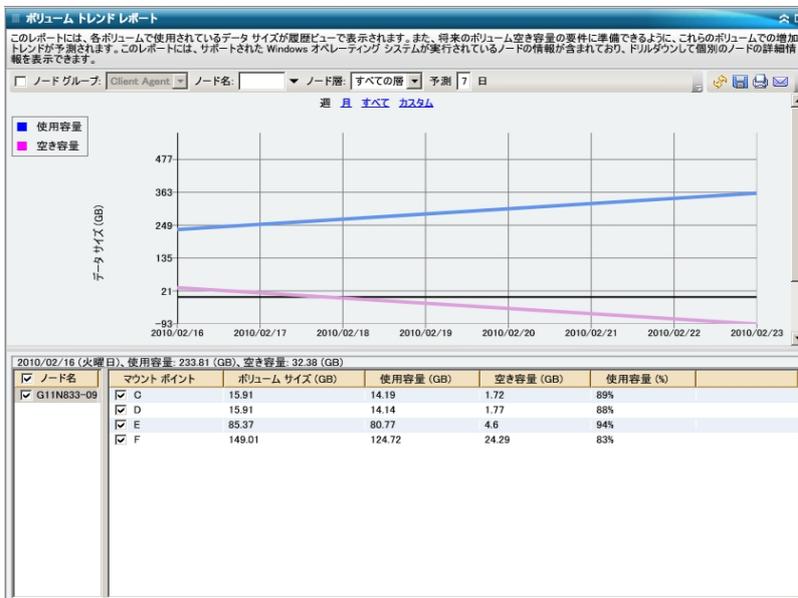
[ボリュームトレンド レポート - レポート ビュー](#)

ボリュームトレンド レポート - レポート ビュー

ボリュームトレンド レポートは、各ボリュームの使用済みスペースと空きスペース容量 (GB)、および将来の期間の予測トレンドをグラフ形式で表示します。このレポートでは、表示される期間の表示モード (週、月、年、すべて、指定期間) を指定できます。グラフの下部にあるスクロールバーを使用すると、表示されている期間を調節できます。また、データ線上の特定のサンプルポイントをクリックしてそのサンプルポイントの詳細を表示することもできます。このレポートには、ノードグループ、ノード名、ノード層の各フィルタが含まれます。さらに、個々のボリュームおよび予測期間でデータをフィルタできます。

このレポートを使用すると、各ボリュームの容量に関する予測トレンドを素早く確認して、将来のニーズを計画できます。各ボリュームカテゴリ (使用容量および空き容量) のデータは固有の線と色で表示され、そのボリュームカテゴリの予測データは明るい色で表示されます。

ボリュームトレンド レポートは、さらに展開してより詳細な情報を表示することができます。線グラフのサンプルポイントをクリックすると、その期間の詳細を表示できます。このドリルダウンレポートには、ノード名に加えて、関連するマウントポイント、ボリュームサイズ、使用容量、空き容量、および使用容量 (%) が表示されます。さらに、複数のボリュームを組み合わせ、それらの累積サイズのトレンドを表示することもできます。



詳細情報:

[ボリュームトレンド レポート - レポートの利点](#)

第7章: Dashboard のトラブルシューティング

問題が検出されると、Dashboard にはその問題を識別して迅速に解決するのに役立つポップアップメッセージが表示されます。

このセクションでは、以下の Dashboard の一般的な問題と、その原因および解決策について説明します。

電子メール通知が送信されない	286
Dashboard にデータが表示されない	287
以前の Arcserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない	288
コマンド ラインを使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない	290
Dashboard の起動時に空の画面が表示される	291
Dashboard の起動時に未処理例外の警告が表示される	292
SRM データプローブが発生していない	293
SRM データプローブのパフォーマンスに問題がある	294
SRM プロブの画面に「サービスの準備ができていません」というメッセージが表示される	295

電子メール通知が送信されない

スケジュールされた電子メール通知が送信されていない場合、以下のトラブルシューティングの手順に従います。

1. Arcserve Backup サービスが実行されていることを確認し、必要に応じて再起動します。Arcserve Backup サービスの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。
2. 適切な Dashboard 電子メール通知の設定が適用されていることを確認します。詳細については、「[電子メールレポートの設定](#)」を参照してください。
3. 電子メールスケジュールのログメッセージを確認します。
 - a. グローバルオプション ツールバーの [電子メールのスケジュール] アイコンをクリックし、スケジュール マネージャのダイアログ ボックスを開きます。
 - b. このダイアログ ボックスで [ログメッセージ] ボタンをクリックして [ログメッセージ] ウィンドウを開き、スケジュールの実行に関するログメッセージを確認します。
 - ログにより、電子メール サーバがアクセス可能でないことが示されている場合は、マシンに ping を実行して接続の確立を試行します。それでもマシンにアクセスできない場合は、オンラインでテクニカル サポートを得るために Arcserve [サポート](#) までご連絡ください。
 - 電子メールの設定が正しくないことをログが示している場合は、適切な Alert マネージャ通知設定が適用されていることを確認します。Alert マネージャの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

Dashboard にデータが表示されない

Arcserve Backup Dashboard にデータが表示されない場合、以下のトラブルシューティングの手順に従います。

注: Dashboard では、r16.5 以降の Arcserve Backup エージェントがインストールされているノードに関してのみモニタおよびレポートが可能です。

1. Dashboard に対するデータが収集されていることを確認します。
 - SRM タイプのレポートの場合、各ノードを参照して展開し、データを収集するために SRM プローブを実行します。

[SRM プローピング]ダイアログ ボックスを開いて [今すぐプローブ実行] ボタンをクリックし、手動で SRM プローブを開始できます。または、次の自動プローブが開始される午後 2 時まで待ちます。
 - バックアップ環境タイプのレポートの場合、Arcserve Backup r18 エージェントのバックアップを実行します。
2. Arcserve Backup サービスが実行されていることを確認し、必要に応じて再起動します。Arcserve Backup サービスの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。
3. レポートを更新します。
4. 問題が解決しない場合は、Arcserve.CommunicationFoundation.WindowsServices.exe ファイルにアクセスし、対応する CACF.svclog 情報を拡張します。

この環境設定ファイルは、以下のディレクトリにあります。

X:\Program Files\Arcserve\Arcserve Backup

- a. 環境設定ファイルで以下の文字列を確認します。

```
source name="CA.Arcserve.CommunicationFoundation.Trace"
```
- b. 値を "Information" (デフォルト値) から "Verbose" に変更し、より詳細の情報が出力ファイルに含まれるようにします。これは Arcserve による問題のトラブルシューティングに役立ちます。
- c. Arcserve Backup サービスを再起動します。
- d. Dashboard レポートを更新します。
- e. 以下のディレクトリにある CACF.svclog ファイルを確認します。

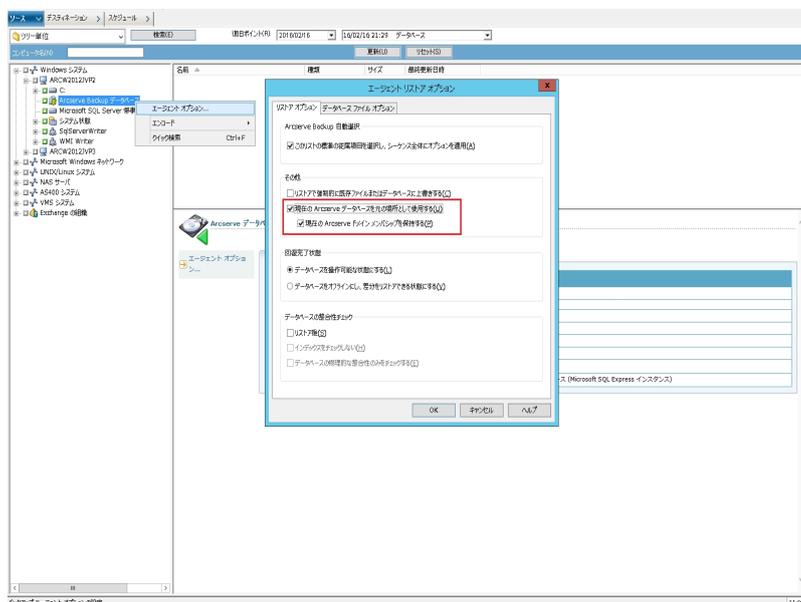
```
X:\Program Files\CA\ARCServe Backup\LOG
```
- f. CACF.svclog ファイルを Arcserve テクニカルサポートに調査のために送信します。

オンラインのテクニカルサポートが必要な場合、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号を確認するには、Arcserve [サポート](#)にお問い合わせください。

以前の Arcserve Backup データベースをリストアした後、Dashboard にデータが表示されない

以前の Arcserve Backup データベースをリストアした後、Arcserve Backup Dashboard にデータが表示されない場合、以下のトラブルシューティング手順を実行します。

1. Arcserve Backup データベースをリストアしていない場合は、この問題を避けるために以下のように [現在の Arcserve ドメイン メンバシップを残しておく] オプションを指定していることを確認してください。
 - a. リストア マネージャから、リストアする Arcserve Backup データベースを選択します。
 - b. 右クリックして、ポップアップメニューから [エージェント オプション] を選択します。
[エージェント リストア オプション] ダイアログ ボックスが開きます。
 - c. 右クリックして、ポップアップメニューから [エージェント オプション] を選択します。
 - d. [リストア オプション] タブで、[現在の Arcserve データベースを元の場所として使用する] を選択し、さらに関連する [現在の Arcserve ドメイン メンバシップを残しておく] オプションを選択します。



2. Arcserve Backup データベースをすでにリストアしている場合 (および [現在の Arcserve ドメイン メンバシップを残しておく] オプションが選択されていない場合)、以下のようにサーバ環境設定 ウィザードを使って、Arcserve Backup データベース認証情報を入力する必要があります。

- a. 新しいプライマリサーバ上の Arcserve Backup マネージャを閉じます。
- b. サーバ環境設定ウィザードを起動し、[データベースの選択]オプションを選択します。
- c. [SQL データベースシステム アカウント]画面が表示されるまで、表示される画面に必要な情報を入力します。「DB の上書き」を警告するメッセージが表示される場合は、[OK]をクリックします。
- d. 以前のデータを残すには、既存の "ARCSERVE_DB" インスタンスを上書きします。]のチェックマークをオフにし、[次へ]をクリックします。
- e. [サーバ環境設定ウィザード]が更新を完了したら、[完了]をクリックします。
- f. サーバ環境設定ウィザードを閉じ、Arcserve Backup マネージャを開いて Dashboard を起動します。

コマンド ラインを使ってバックアップしたノードのデータが Dashboard に表示されない

コマンド ライン(`ca_backup`) を使ってバックアップしたノードのデータが Arcserve Backup Dashboard に表示されない場合、以下のトラブルシューティング手順を実行します。

1. Windows システム オブジェクトを右クリックし、ポップアップメニューから [マシン/オブジェクトの追加] を選択してバックアップ マネージャ GUI に同じノードを追加します。
2. 管理者、またはそれと同等のユーザの認証情報を指定して、ソース ディレクトリ ツリーでノードを展開します。

これで、Dashboard レポートにノードのデータが表示されるようになります。

Dashboard の起動時に空の画面が表示される

この問題が発生した場合、Arcserve Backup のインストール後にマシンを再起動していない可能性があります。Dashboard に空の画面が表示された場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. マシンを再起動します。
2. 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

Dashboard の起動時に未処理例外の警告が表示される

この問題が発生した場合、Arcserve Backup のインストール後にマシンを再起動していない可能性があります。Dashboard に警告画面が表示された場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。



1. マシンを再起動します。
2. 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

SRM データプローブが発生していない

SRM データプローブが発生していない場合、以下のトラブルシューティングの手順に従います。

1. [SRM プロビング] ダイアログ ボックスを開き、[今すぐプローブ実行] ボタンをクリックして SRM プロブを手動で開始します。
2. レポートを更新します。
3. AgIfProb.exe.log ファイルで詳細を確認します。AgIfProb.exe.log ファイルは、以下のディレクトリにあります。

X:\Program Files\CA\ARCServe Backup\LOG

4. AgIfProb.exe.log で以下の状況を確認します。
 - a. ノードが良好なノード名として表示されているかどうかを確認します。これは、Arcserve Backup がこのノードの存在を認識しているかどうかを示します。
 - b. Arcserve Backup が、ノードにアクセスするためのユーザ ログイン認証情報をデータベースに持っているかどうかを確認します。

このノードに関するユーザ情報がデータベースに存在しないことがログによって示された場合、バックアップ マネージャにアクセスし、ノード名を参照および展開して、適切なセキュリティ認証情報(ユーザ名とパスワード)を提供します。
 - c. Arcserve Backup がノードに接続できなかったかどうかを確認します。ノードへの接続に失敗したことをログが示していた場合、ノードに ping を実行して接続の確立を試行します。これにより、ノード上のクライアント エージェントが動作しているかどうかを確認します。
5. 問題が解決しない場合は、AgIfProb.exe.log ファイルを Arcserve テクニカル サポートに調査のために送信してください。

オンラインのテクニカルサポートが必要な場合、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号を確認するには、Arcserve [サポート](#)にお問い合わせください。

SRM データプローブのパフォーマンスに問題がある

SRM プローブのパフォーマンスにおいて、時間がかかり過ぎているまたは過剰なシステムリソースが使われているなどの問題がある場合は、同時接続(並列スレッド) の数を設定して、このパフォーマンスを改善します。SRM データ収集プロセスのパフォーマンスを変更するには、新しいレジストリキーを追加して、該当する並列スレッドの値をニーズにあわせて変更します。

SRM プローブスレッド数をレジストリエディタで設定する方法

1. レジストリエディタを開きます。
2. レジストリエディタのツリーで、以下のノードまで展開します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCServe
Backup\Base\Task\Common
3. 新規キーを追加し(まだ存在していない場合)、「SRMReportTime」と名前を付けます。
4. 新しいDWORD 値を追加して「ThreadCount」という名前を付けます。
5. Thread Count オプションをダブルクリックして [DWORD 値の編集] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで DWORD 設定を変更します。

Arcserve Backup では、新規キーを追加しない限り、デフォルトでこの SRM データ収集の値が 16 スレッドに設定されています。設定可能な最小値は 1 (1 つのスレッドを使用して SRM データを収集) 、最大値は 32 です。32 より大きい数値を入力した場合は無視され、最大値である 32 並列スレッドが適用されます。

- 並列スレッドの数を増やした場合、SRM プローブにかかる全体の時間は短縮されますが、システムリソースに対する影響は大きくなります。
 - 並列スレッドの数を減らした場合、バックアップサーバに対する影響は軽減されますが、SRM プローブにかかる全体の時間は長くなります。
6. SRM プローブのスレッド数 (Thread Count) オプションの設定が完了したら、レジストリエディタを閉じて Arcserve Backup サーバ上でデータベースエンジンサービスを再起動します。

SRM プローブの画面に「サービスの準備ができていません」というメッセージが表示される

この問題は、SRM プローブ ユーティリティが SRM 関連情報をノードから収集できないために発生します。問題の原因となっているノードを特定するには、AgIfProb.exe.log ファイルで詳細を確認します。AgIfProb.exe.log ファイルは、以下のディレクトリにあります。

X:\Program Files\CA\ARCServe Backup\LOG

ログファイルで、「Receive xml size tli header failed, error number=183」というエントリがノードに記録されている場合は、以下の手順に従ってトラブルシューティングを実行してください。

1. データベースエンジン サービスを再起動して SRM プローブを再度実行します。
2. 問題が解決しない場合は、Arcserve [サポート](#) にアクセスして、オンラインのテクニカルサポートを得るか、またはサポートの所在地、主な受付時間、電話番号をご確認ください。

第8章: Global Dashboard のトラブルシューティング

問題が検出されると、その問題の確認および解決に役立つメッセージが Global Dashboard によって生成されます。これらのメッセージは Global Dashboard アクティビティ ログに含まれています。

Global Dashboard アクティビティ ログには 2 つの種類があります。セントラルプライマリサーバアクティビティ ログには、セントラルサイトでのデータ受信時に発生したエラーが表示されます。ブランチプライマリサーバアクティビティ ログには、ブランチサイトでのデータ送信時に発生したエラーが表示されます。

- セントラルプライマリサーバアクティビティ ログを表示するには、セントラルマネージャにアクセスし、[ログメッセージ]をクリックして、対応するセントラルサイトのメッセージを表示します。
- ブランチプライマリサーバアクティビティ ログを表示するには、ブランチマネージャにアクセスし、[さらに表示]をクリックして [アラートおよびエラーメッセージ] ウィンドウを開き、対応するブランチサイトのメッセージを表示します。

また、対処しようとする方法が正しくない場合、Global Dashboard は通常、問題の特定や迅速な解決に役立つポップアップメッセージを表示します。

このセクションでは、以下の Global Dashboard の一般的な問題と、その原因および解決策について説明します。

「システムのメモリ不足例外」というエラーが発生した	298
「ブランチサイトのデータベーススキーマが壊れています」というエラーが発生した	299
「セントラルプライマリサーバはビジーです」というエラーが発生した	300
フルデータ同期中の一般エラー	301
「データ同期サービスの開始に失敗しました。」エラーが発生しました。	302
「ブランチ名はすでに存在しています」というエラーが発生した	303
「サービス通信失敗」が発生した	304
「セントラルサイト接続失敗」が発生した	305
ASDB 接続失敗	306
十分なディスク空き容量がないために同期が失敗する	307

「システムのメモリ不足例外」というエラーが発生した

[ブランチ マネージャ] UI で、ログ内に次のメッセージが表示される:

System.OutOfMemoryException

原因

増分データ同期中に、ブランチ サイトからセントラル サイトに大量の同期用レコードが送信された。ブランチ プライマリ サーバ上のシステムメモリが不足している場合に、このエラーが発生する可能性があります。

アクション

- セントラル サイトで、Arcserve Backup のホーム ディレクトリにアクセスし、GlobalDashboard フォルダ内の CentralConfig.xml ファイルを開きます。
- 「<MaxTransactEveryTime>800</MaxTransactEveryTime>」パラメータを見つけ、トランザクションの値を 800 (デフォルト) から、低い値 (400 など) に減らします。
- 変更を保存し、セントラル サイトで Arcserve Central Remoting Server サービスを再起動します。

「ブランチサイトのデータベーススキーマが壊れています」というエラーが発生した

「ブランチ マネージャ」UI で、以下のメッセージが表示される。

このブランチ プライマリ サーバ用のデータベーススキーマは壊れているため、フルデータ同期を実行する必要があります。今すぐフルデータ同期を実行しますか？」

原因

ブランチ サイト上で Arcserve Backup データベースを初期化、リストア、または変更した。

アクション

- 「はい」をクリックして、フルデータ同期を実行し、セントラルプライマリサーバの詳細を指定します。
- 問題が解決されない場合は、ブランチ サイトから Global Dashboard を一度アンインストールして、再インストールしてください。

「セントラルプライマリサーバはビジーです」というエラーが発生した

ブランチサイトからセントラルサイトへのフルデータ同期の際に、以下の警告メッセージが表示される。

「セントラルプライマリサーバはビジーです。再度登録を試行する場合は [再試行]、インストール処理をキャンセルする場合は [キャンセル] をクリックしてください」

原因

セントラルプライマリサーバは、現在、このブランチサイトからの接続を受け入れられません。これが発生する原因として、以下の状況が考えられます。

- セントラルプライマリサーバ上のリソース(CPU、メモリなど)が不十分である。
- セントラルマネージャで最大同時接続数パラメータに指定した値が小さすぎる。
- セントラルサイトのSQL Serverでデッドロック状態が発生している。

アクション

- 数分間待ってから、[再試行] をクリックします。
- 問題が解決されない場合は、セントラルサイトで最大同時接続数の値を大きいものに変更してから、ブランチサイトの警告メッセージで [再試行] をクリックしてください。最大同時接続の設定の詳細については、「[セントラルマネージャについて](#)」を参照してください。

フルデータ同期中の一般エラー

ブランチサイトからセントラルサイトへのフルデータ同期の際に、以下のエラーメッセージが表示されます。

「一般エラーです。セントラル管理者にお問い合わせください」

原因

フルデータ同期の処理時に、セントラルサイトで SQL Server サービスが実行されていない。

アクション

セントラルサイトで SQL Server サービスおよびすべての Arcserve Backup サービスが実行されていることを確認してから、再度ブランチサイトからフルデータ同期の実行を試みてください。

「データ同期サービスの開始に失敗しました。」エラーが発生しました。

[ブランチ マネージャ] UI で、以下の警告メッセージが表示される。

「データ同期サービスの開始に失敗しました。」

原因

ブランチ サイトに対応するセントラルプライマリサーバより新しいバージョンの Arcserve Backup が存在するか、セントラルプライマリサーバがオンラインではありません。

アクション

- セントラルプライマリサーバがオンラインであることを確認します。
- 「Arcserve Dashboard Sync Service」のステータスが「無効」になっていないことを確認します。「無効」になっている場合、ブランチ サイト上でステータスを「自動」に変更し、フルデータ同期を実行します。
- セントラルプライマリサーバの Arcserve Backup のバージョンがブランチ プライマリサーバと同じか、ブランチ プライマリサーバより新しいことを確認します。
- 問題が解決されない場合は、ブランチ サイトから Global Dashboard を一度アンインストールして、再インストールしてください。

「ブランチ名はすでに存在しています」というエラーが発生した

ブランチ サイトからセントラル サイトへのフル データ同期の際に、以下の警告メッセージが表示される。

「ブランチ名 [ブランチ名>]は、すでにセントラルプライマリサーバに存在します。代替りのブランチ名として[<ブランチ名>_1]を使用することができます。この新しいブランチ名で続行してもよろしいですか?」

原因

- 誤って重複するブランチ サイト名を割り当てた。
- ブランチ サイトから Global Dashboard の再インストールを実行した後、古いセントラルサイトにフルデータ同期を試みた。

アクション

- 重複するブランチ サイト名の代わりに別の名前を割り当てます。
- セントラルサイトで [セントラル マネージャ] UI を開き、以前に登録された重複するブランチ サイト名を削除します。ブランチ名の削除の詳細については、「[セントラル マネージャについて](#)」を参照してください。
- ブランチ サイトで、警告メッセージの [いいえ] をクリックし、[ブランチ マネージャ] UI の [同期] ボタンをクリックして、フルデータ同期を手動で再度開始します。詳細については、「[手動によるデータの同期](#)」を参照してください。

「サービス通信失敗」が発生した

Global Dashboard を起動すると、以下のエラーメッセージが表示される。

「Arcserve Backup サーバとの通信は確立できましたが、Arcserve Communication Foundation (Global) サービスとの通信ができません。Arcserve Communication Foundation (Global) サービスが起動しており、実行中であることを確認してください」

原因

- セントラルサイトで Arcserve Communication Foundation (Global) サービスが実行されていない
- セントラルサイトで SQL Server サービスが実行されていない。
- リモートの Arcserve Backup マネージャを介してセントラルプライマリサーバに接続しようとしていて、ネットワーク接続に問題が発生している。

アクション

- すべてのサービスが実行されていることを確認します。
- セントラルプライマリサーバとリモートの Arcserve Backup マネージャ間に有効なネットワーク接続があることを確認します。

「セントラルサイト接続失敗」が発生した

データ同期の試行中に、以下のメッセージが表示される。

「接続されたパーティが一定の時間が経過しても正しく応答しなかったため接続試行が失敗したか、接続されたホストが応答に失敗したため確立された接続にエラーが発生しました」

原因

セントラルサイトからのネットワーク接続が切断されている。

アクション

- セントラルサイトのネットワーク接続が正しいことを確認します。切断されたネットワーク接続が検出され修復されると、Global Dashboard は自動的に復旧を試み、ただちに増分データ同期を実行します。
- 問題が解決しない場合は、セントラルサイト管理者にネットワーク問題を解決するよう通知してください。

ASDB 接続失敗

レポートを開こうとすると、以下のエラーメッセージが表示されるが、SQL サービスは実行中で、Arcserve Backup データベース(ASDB) もオンラインである。

「ASDB データベースに接続できません。SQL SERVICE が実行中であり、ASDB データベースがオンラインであることを確認してください」

原因

Microsoft SQL Server がキャッシュされたクエリプランを再利用しようとしているが、クエリプランが不適切である。

アクション

セントラルデータベースマシン上で、SQL Server Management Studio を開いて、以下のコマンドを実行します。

```
dbcc freeproccache
```

十分なディスク空き容量がないために同期が失敗する

Windows プラットフォームで有効

現象

セントラルプライマリサーバのブランチプライマリサーバとの同期処理が失敗します。Arcserve Backup には、ブランチ環境設定ファイルが破損しており、ブランチプライマリサーバを再インストールするというメッセージが表示されます。

解決策

セントラルプライマリサーバに十分なディスク空き容量がない場合、セントラルプライマリサーバのブランチプライマリサーバとの同期処理が失敗します。ディスク空き容量が不足すると、Arcserve Backup では、セントラルプライマリサーバおよびブランチプライマリサーバの環境設定ファイルを保存できなくなります。

この問題を解決するには、セントラルプライマリサーバ上のディスク領域を解放してから、サーバ環境設定ウィザードを使用して Dashboard を設定します。解決方法は以下のとおりです。

1. Arcserve Backup セントラルプライマリサーバにログインし、以下の環境設定ファイルを削除します。
\$ARCSERVE_HOME\GlobalDashboard\Config.xml
2. Windows サーバ マネージャ (Windows Server 2008) を開きます。
以下のサービスを停止します。
Arcserve Dashboard Sync Service
3. セントラルプライマリサーバから不要なファイルを削除して、ディスク領域を解放します。
4. [スタート]- [すべてのプログラム]- [Arcserve]- [Arcserve Backup]をクリックして Arcserve Backup サーバ環境設定ウィザードを起動し、[サーバ環境設定ウィザード]をクリックします。
[オプションの選択]ダイアログボックスで、[Global Dashboard の設定]をクリックし、[次へ]をクリックします。
注: サーバ環境設定ウィザードを起動できない場合は、[スタート]- [すべてのプログラム]- [Arcserve]- [Arcserve Backup]をクリックしてブランチ マネージャを開き、[ブランチ マネージャ]をクリックします。
[設定するプライマリサーバの種類を選択]ダイアログボックスが開きます。
5. [セントラルプライマリサーバとして設定する]をクリックし、[次へ]をクリックします。
プロンプトに従い、必要なフィールドを入力して環境設定を完了します。

6. (オプション) 設定が完了したら、Windows サーバ マネージャ(Windows Server 2008) を開き、Arcserve Dashboard 同期 サービスが実行されていることを確認します。

これで、セントラルプライマリサーバのブランチプライマリサーバとの同期が正常に実行できるようになります。

第9章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ブランチプライマリサーバ	310
ブランチビュー	310
セントラルプライマリサーバ	310
Dashboard	310
Dashboard グループ	310
データ同期	310
Global Dashboard	310
グローバルビュー	310
ノード層	311
SRM プローブ	311

ブランチプライマリサーバ

ダッシュボード関連情報を、指定のセントラルプライマリサーバに対して同期および転送するサーバです。

ブランチビュー

ローカルサーバのダッシュボード関連情報のみが表示され、ほかのブランチサイトの詳細やグローバルダッシュボードオプションは表示されません。

セントラルプライマリサーバ

関連付けられているブランチプライマリサーバから受信した同期済みの Dashboard 関連情報を保存するための中心的なインターフェースです。

Dashboard

バックアップ インフラストラクチャおよびストレージ リソース管理 (SRM) 環境のスナップショット概要を提供するユーザ インターフェース ツールです。

Dashboard グループ

1 つ以上の Dashboard レポートをまとめたものです。

データ同期

ブランチサイトのデータベースからセントラルサイトのデータベースにダッシュボード関連情報を送信する処理で、これにより、登録済みの各ブランチデータベースと同じ情報がセントラルデータベースに格納(およびレポート)されます。

Global Dashboard

メイン オフィスおよびリモート オフィスにある複数の Arcserve Backup プライマリサーバのダッシュボード情報を、一元化された場所から 1 つのスナップショット概要として提供するユーザ インターフェース ツールです。

グローバルビュー

ローカルサーバ、および任意またはすべてのブランチサイトのダッシュボード関連情報が表示されます。

ノード層

モニタされているノードについて表示された情報をフィルタするための優先度レベルカテゴリ(高、中、低)を指定します。

SRM プローブ

データ収集ユーティリティで、起動すると、ストレージ環境内のすべてのマシンにプローブまたは通信して、SRM 形式のレポート用の SRM 関係のデータを収集します。

